

国道 438 号道路改良工事・県道富熊宇多津線道路改良工事・  
城山川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

## 川津六反地遺跡 川津昭和遺跡

2014. 3

香 川 県 教 育 委 員 会

国道 438 号道路改良工事・県道富熊宇多津線道路改良工事・  
城山川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

# 川津六反地遺跡 川津昭和遺跡

2014. 3

香 川 県 教 育 委 員 会



Ⅳ区 集中1・2全景北から



Ⅳ区 サヌカイト集積遺構南から



Ⅳ区 東壁土層断面



SD309 出土土器集合 (1)



SD309 出土土器集合 (2)



SD309 出土土器集合 (3)



SR202 出土土器



SP401 出土土器



I～III区 出土石核



SD213 出土土器集合



SR101 出土土器集合



49

SR101 出土土器



246

SD210 出土土器



SD227・SD228 出土土器集合(1)



SD227・SD228 出土土器集合(2)

# 序文

川津六反地遺跡と川津昭和遺跡は坂出市川津町に所在する、縄文時代から近世までの遺跡です。

発掘調査は国道438号道路改良工事、県道富熊宇多津線道路改良工事、城山川河川改修事業に伴い、香川県教育委員会からの委託により、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成9年から、平成12年度までの期間で実施しました。

注目される調査成果としては、縄文時代の石器製作跡や、弥生時代の灌漑水路から出土した多量の弥生土器、中世後半の集落跡などの資料があげられます。特に縄文時代の石器製作跡は調査事例が少なく、当時の石器生産技術を明らかにするうえで貴重な調査成果になりました。

発掘調査の成果をまとめる整理作業は、香川県埋蔵文化財センターが平成24年度から開始し、平成25年度には発掘調査報告書を刊行することになりました。

川津六反地遺跡と川津昭和遺跡の調査成果が、本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの長い期間、香川県土木部及び関係諸機、地元関係者方々に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年3月19日

香川県埋蔵文化財センター  
所長 真鍋 昌宏

## 例言

1. 本報告書は、国道438号道路改良工事、県道富熊宇多津線道路改良工事、城山川改修事業に伴う埋蔵文化財調査事業で、発掘調査を行った、坂出市川津町に所在する川津六反地遺跡（かわつろくたんちいせき）と川津昭和遺跡（かわつしょうわいせき）の調査成果を収録した。
2. 発掘調査は、香川県土木部から依頼を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課（現在 生涯学習・文化財課）が調査主体となり、現地調査は平成9～12年度に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが担当した。整理作業は平成24・25年度に香川県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査の担当は以下のとおりである。

平成9年度	中西昇・多田佳弘・中村文枝
平成10年度	乗松真也・川井國博・中村文枝
平成11年度	池田道雄・川井國博・秋山亮
平成12年度	蔵本晋司・増井泰弘・豊岡多恵・秋山亮
4. 調査にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略）。  
香川県土木部、香川県坂出土木事務所（現在 中讃土木事務所）、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
6. 本書の整理作業、執筆及び編集は西村尋文が担当した。
7. 本報告書で用いる方位の北は、旧国土座標系第IV系（日本測地系）の北であり、標高は東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
8. 本書で用いている遺構記号は次のとおりである。  
SB：掘立柱建物跡 SA：横列跡 SP：柱穴跡 SK：土坑 SD：溝状遺構 SX：不整形遺構 SR：自然河川跡
9. 報告遺構名は、以下の方法で再整理を行った。  
発掘調査時の遺構名は「調査区」単位で、遺構の種類ごとに「01」からはじまる通し番号を付した。
10. 挿図の一部に国土交通省国土地理院作成の1/25,000地形図を使用した。
11. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修「新版標準土色帖1997年度版」による。
12. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関に分析と写真撮影を委託した。  
火山灰分析、放射性炭素、プラント・オパール分析……株）古環境研究所・株式会社パレオ・ラボ  
花粉分析……パリオ・サーヴェ株式会社  
サヌカイト産地同定……有限会社 遺物材料研究所  
遺物写真撮影……岡村印刷工業株式会社



# 本文目次

## 第Ⅰ章 調査の経緯と経過

- 第1節 発掘調査に至る経緯・経過…………… 1
- 第2節 整理作業の経過…………… 3

## 第Ⅱ章 調査の方法

- 第1節 発掘調査の方法…………… 5
- 第2節 整理作業の方法…………… 5

## 第Ⅲ章 地理的・歴史的環境

- 第1節 地理的環境…………… 7
- 第2節 歴史的環境…………… 7

## 第Ⅳ章 川津六反地遺跡の調査

- 第1節 川津六反地遺跡の概要…………… 12
- 第2節 基本層位…………… 13
- 第3節 I区の調査…………… 14
- 第4節 II区の調査…………… 27
- 第5節 III区の調査…………… 108
- 第6節 IV区の調査…………… 131

## 第Ⅴ章 川津昭和遺跡の調査

- 第1節 川津昭和遺跡の概要…………… 174
- 第2節 基本層位…………… 174
- 第3節 遺構・遺物…………… 174

## 第Ⅵ章 自然化学分析

- 第1節 平成12年度自然科学分析…………… 191
- 第2節 平成24年度自然科学分析…………… 206

## 第Ⅶ章 まとめ

- 第1節 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の歴史の変遷…………… 241
- 第2節 川津六反地遺跡の剥片生産技術…………… 247

# 挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第58図	SD212断面、出土遺物	63
第2図	調査区割図及び調査区周辺旧地形、桑里地割復元図	8	第59図	SD213平面図	65
第3図	周辺遺跡分布図	9	第60図	SD213～SD215・217・218・220断面図	65
第4図	基本層位柱状図	14	第61図	SD213出土遺物	66
第5図	I区遺構配置図	16	第62図	SD214・215・217・218出土遺物	67
第6図	SR101 第1・第2トレンチ土層断面図	17	第63図	SD221・223・224・242断面、出土遺物	67
第7図	SR101 第3・第4トレンチ土層断面図	18	第64図	SX203平・断面図	70
第8図	SR101 第2トレンチ土層溜まり遺物出土状況図	18	第65図	SX213平・断面、出土遺物	70
第9図	SR101 出土遺物(1)	19	第66図	SX218・SX219断面、出土遺物	71
第10図	SR101 出土遺物(2)	20	第67図	SX218出土遺物	72
第11図	SR101 出土遺物(3)	21	第68図	II-1区柱穴出土遺物(1)	74
第12図	SR101 出土遺物(4)	22	第69図	II-1区柱穴出土遺物(2)	75
第13図	SR101 出土遺物(5)	23	第70図	II-1区柱穴出土遺物(3)	76
第14図	SR101 出土遺物(6)	24	第71図	II-1区包含層出土遺物(1)	77
第15図	II-1区遺構配置図	26	第72図	II-1区包含層出土遺物(2)	78
第16図	SR201平・断面、出土遺物	28	第73図	II-1区包含層出土遺物(3)	79
第17図	SB202平・断面図	29	第74図	II-2区遺構配置図	81
第18図	SB203平・断面、出土遺物	29	第75図	SB217・218・SA202平・断面、出土遺物	82
第19図	SB204・205平・断面、出土遺物	30	第76図	SB219平・断面、出土遺物	83
第20図	SB206平・断面、出土遺物	32	第77図	SK209平・断面、出土遺物	84
第21図	SB207平・断面、出土遺物	32	第78図	SK210・SX221平・断面、出土遺物	85
第22図	SB208平・断面図	33	第79図	SD225・226断面、出土遺物	86
第23図	SB209平・断面図	33	第80図	SD227・228平・断面図	87
第24図	SB209出土遺物	34	第81図	SD227出土遺物(1)	88
第25図	SB210平・断面図	35	第82図	SD227出土遺物(2)	89
第26図	SB211・SD219・SX214・215平・断面、出土遺物	36	第83図	SD227出土遺物(3)	90
第27図	SB212平・断面図	37	第84図	SD228出土遺物	90
第28図	SB213平・断面、出土遺物	38	第85図	SD229～235・SR201平・断面図	92
第29図	SB214平・断面、出土遺物	38	第86図	SD230出土遺物	94
第30図	SB215平・断面、出土遺物	39	第87図	SD231出土遺物(1)	95
第31図	SB216平・断面、出土遺物	40	第88図	SD231出土遺物(2)	96
第32図	SA201平・断面、出土遺物	40	第89図	SD231・233・235出土遺物	97
第33図	SK201平・断面、出土遺物	42	第90図	SD234出土遺物	99
第34図	SK202平・断面、出土遺物	43	第91図	SD236・237・239・241断面、出土遺物	100
第35図	SK203平・断面、出土遺物	43	第92図	SR201出土遺物(1)	103
第36図	SK204平・断面、出土遺物	44	第93図	SR201出土遺物(2)	104
第37図	SK205平・断面図	44	第94図	SR202・203土層断面図	105
第38図	SK206平・断面、出土遺物	45	第95図	SR202出土遺物	106
第39図	SK207平・断面、出土遺物	46	第96図	II-2区柱穴・包含層出土遺物	107
第40図	SK208平・断面図	46	第97図	III-1・2・3・4区遺構配置図	110
第41図	SD201断面、出土遺物	47	第98図	SD301・302・303断面、出土遺物	111
第42図	SD202断面、出土遺物	47	第99図	SD304・305断面、出土遺物	112
第43図	SD203断面、出土遺物	49	第100図	SD305断面、出土遺物(1)	113
第44図	SD204断面、出土遺物(1)	49	第101図	SD305出土遺物(2)	114
第45図	SD204出土遺物(2)	50	第102図	SD306～308断面、出土遺物	115
第46図	SD205断面、出土遺物(1)	51	第103図	SD309土層出土分布図	117
第47図	SD205出土遺物(2)	52	第104図	SD309断面、出土遺物(1)	118
第48図	SD205出土遺物(3)	53	第105図	SD309出土遺物(2)	119
第49図	SD206・208断面、出土遺物	53	第106図	SD309出土遺物(3)	120
第50図	SD209断面、出土遺物(1)	55	第107図	SD309出土遺物(4)	121
第51図	SD209出土遺物(2)	56	第108図	SD309出土遺物(5)	122
第52図	SD209出土遺物(3)	57	第109図	SD310～312断面図	122
第53図	SD209出土遺物(4)	58	第110図	南壁土層断面図	124
第54図	SD210・SX205～212平・断面、出土遺物(1)	59	第111図	東壁土層断面図	125
第55図	SD210出土遺物(2)	60	第112図	SK301・SD313平・断面、出土遺物	126
第56図	SD210出土遺物(3)	61	第113図	SD314～316断面、出土遺物	128
第57図	SD211断面、出土遺物	62	第114図	SD315出土遺物	129

第115図	SD317～319・SX301断面図	129	第142図	集中2出土遺物(10)	163
第116図	包含層出土遺物	130	第143図	集中3・4出土遺物	165
第117図	Ⅱ区遺構配置図	134	第144図	ササカイト集積遺構平・断面図	166
第118図	Ⅱ区東壁・南壁土層断面図	136	第145図	ササカイト集積遺構出土遺物(1)	167
第119図	SK401～406平・断面、出土遺物	137	第146図	ササカイト集積遺構出土遺物(2)	168
第120図	SK407平・断面、出土遺物	138	第147図	ササカイト集積遺構出土遺物(3)	169
第121図	SD401～403断面図	139	第148図	ササカイト集積遺構出土遺物(4)	170
第122図	SD404～407断面、出土遺物	140	第149図	集中地区周辺出土遺物	171
第123図	SX401平・断面図	141	第150図	柱穴・包含層出土遺物	172
第124図	集中1～4・ササカイト集積遺構、遺物分布図	144	第151図	川津昭和道跡遺構配置図	176
第125図	集中1出土遺物分布図	146	第152図	東壁・南壁土層断面図	178
第126図	集中1接合関係分布図	146	第153図	SE501～503平・断面図	179
第127図	集中2出土遺物分布図	147	第154図	SE501～503出土遺物	180
第128図	集中2接合関係分布図	148	第155図	SK502・503平・断面、出土遺物	181
第129図	集中3出土遺物分布図	149	第156図	SK504～506平・断面、出土遺物	182
第130図	集中3接合関係分布図	149	第157図	SK507～509平・断面、出土遺物	183
第131図	集中4出土遺物分布図	150	第158図	SD501断面図	186
第132図	集中1出土遺物	152	第159図	SD501出土遺物(1)	187
第133図	集中2出土遺物(1)	154	第160図	SD501出土遺物(2)	188
第134図	集中2出土遺物(2)	155	第161図	SD501出土遺物(3)	189
第135図	集中2出土遺物(3)	156	第162図	SD502断面、出土遺物	189
第136図	集中2出土遺物(4)	157	第163図	川津六反地遺跡遺構変遷Ⅱ区	242
第137図	集中2出土遺物(5)	158	第164図	川津六反地遺跡遺構変遷Ⅲ区・Ⅳ区	243
第138図	集中2出土遺物(6)	159	第165図	遺構別 出土割片の長・幅値比較	249
第139図	集中2出土遺物(7)	160	第166図	ササカイト集積遺構出土割片の長・幅値	250
第140図	集中2出土遺物(8)	161	第167図	石器集中ブロック・ササカイト集積出土石核	251
第141図	集中2出土遺物(9)	162			

## 表目次

第1表	年度別発掘調査担当一覧	2	第13表	川津六反地遺跡集中3割片・碎片等石器 観察表(1)～(6)	
第2表	平成9・10年度組織表	2	第14表	川津六反地遺跡集中4割片・碎片等石器観察表(1)(2)	
第3表	平成11・12年度組織表	3	第15表	川津六反地遺跡ササカイト集積割片・碎片等石器 観察表	
第4表	平成24・25年度組織表	4	第16表	川津六反地遺跡集中地区周辺割片・碎片等石器 観察表(1)(2)	
第5表	ササカイト産地同定分析結果一覧	150	第17表	川津六反地遺跡出土瓦観察表	
第6表	遺構・器種・石材別一覧	151	第18表	川津六反地遺跡出土金属器観察表	
第7表	遺構別 割片の石材・打面等一覧	248	第19表	川津昭和道跡出土石器観察表	
第8表	川津六反地遺跡出土石器観察表(1)～(13)		第20表	川津昭和道跡出土石器観察表	
第9表	川津六反地遺跡出土石器観察表(1)～(9)		第21表	川津昭和道跡出土瓦観察表	
第10表	川津六反地遺跡集中1～4等出土石器 観察表(1)～(9)		第22表	検出時・報告時遺構名 新旧対照表	
第11表	川津六反地遺跡集中1割片・碎片等石器 観察表(1)～(9)				
第12表	川津六反地遺跡集中2割片・碎片等石器 観察表(1)～(15)				

## 付図目次

川津六反地遺跡全体図

## 図版目次

巻頭図版1	川津六反地遺跡
	Ⅱ区 集中1・2全景北から
	Ⅱ区 ササカイト集積遺構南から
	Ⅱ区 東壁土層断面

巻頭図版2	川津六反地遺跡
	SD309 出土土器集合(1)
	SD309 出土土器集合(2)

巻頭図版3 川津六反地遺跡

SD309 出土土器集合(3)  
SR202 出土土器  
SP401 出土土器  
I～III区 出土石核  
SD213 出土土器集合

巻頭図版4 川津六反地遺跡

SR101 出土土器集合  
SR101 出土土器  
SD210 出土土器  
SD227・SD228 出土土器集合(1)  
SD227・SD228 出土土器集合(2)

図版1 川津六反地遺跡

I区調査区全景西から  
II-1区 西端部全景西から  
II-1区 西半部全景西から  
II-1区 西半部全景北・東から  
II-2区 西半部全景南から  
II-2区 北端部全景東から  
II-2区 北端部全景北から  
III-1区 全景南から

図版2 川津六反地遺跡

II-2区 全景東から  
II-3区 南半部全景北から  
II-4区 南半部全景北西から  
II-4区 北半部全景北西から  
IV区 南半部全景南東から  
I区 第2トレンチ全景東から  
I区 第2トレンチ土器溜まり検出状況西から  
I区 第2トレンチ土器溜まり検出状況東から

図版3 川津六反地遺跡

II-1区 SE203 全景南から  
II-1区 SE204・205 全景南から  
II-1区 SE211 全景北東から  
II-1区 SE215 全景北西から  
II-1区 SK201 全景西から  
II-1区 SK202 全景南東から  
II-1区 SK206 土層断面南東から  
II-1区 SD201 全景南から

図版4 川津六反地遺跡

II-1区 SD202 全景南東から  
II-1区 SD203・204 全景  
II-1区 SD205 西半部全景東から  
II-1区 SD204・205 合流部北西から  
II-1区 SD204・SD205 合流部 東から  
II-1区 SD209 全景南東から  
II-1区 SD210 北半部全景南東から

図版5 川津六反地遺跡

II-1区 SD210 土層断面北から  
II-1区 SD212・213 全景東から  
II-1区 SD212・213・214 全景北西から  
II-1区 SD212・213・214 全景南東から  
II-1区 SD213 全景南東から  
II-1区 SD213 土層断面南東から  
II-1区 SD215 土層断面南東から  
II-1区 SD217・221 全景北東から

図版6 川津六反地遺跡

II-1区 SD223 全景南東から  
II-1区 SX218 土層断面北東から  
II-1区 SX219 土層断面北西から

II-2区 SK210 遺物出土状況北から  
II-2区 SK210 遺物出土状況アップ北東から  
II-2区 SD237 全景西から  
II-2区 SD227 遺物出土状況北から  
II-2区 SD227 遺物出土状況南東から

図版7 川津六反地遺跡

II-2区 SD227 遺物出土状況アップ南東から(1)  
II-2区 SD227 遺物出土状況アップ南東から(2)  
II-2区 SD230・232・234 全景北から  
II-2区 SD231 全景南東から  
II-2区 SD233・234 全景北から  
III-1区 SD301 全景北東から  
III-1区 SD301・302 土層断面南から

図版8 川津六反地遺跡

III-3区 SD305 全景北から  
III-3区 SD305 土層断面北から  
III-3区 SD306 全景南から  
III-3区 SD306 土層断面南から  
III-3区 SD307・308 全景北から  
III-3区 SD309 全景南西から  
III-3区 SD309 遺物出土状況北から

図版9 川津六反地遺跡

III-3区 SD309 遺物出土状況アップ北から(1)  
III-3区 SD309 遺物出土状況アップ北から(2)  
III-4区 東壁土層断面南から  
III-4区 SD313 全景南から  
III-4区 SD314・315・318 全景北から  
III-4区 SD315・316 全景北から  
III-4区 SD319・SX301 全景南から  
IV区 SD401・403 全景北から

図版10 川津六反地遺跡

IV区 集中1～4 全景  
IV区 集中1～4 全景南東から  
IV区 集中1・2 全景北から  
IV区 集中1 遺物出土状況北東から  
IV区 集中2 遺物出土状況北西から  
IV区 集中2 遺物出土状況  
IV区 集中2 遺物出土状況

図版11 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡

IV区 サスカイト集積遺構東から  
IV区 サスカイト集積遺構北西から  
IV区 石織出土状況  
IV区 ポイントフレイク出土状況  
川津昭和遺跡 南半部全景北西から  
川津昭和遺跡 北半部全景北西から

図版12 川津昭和遺跡

東壁土層断面南から  
東壁土層サンプル採集地点  
SE501 検出状況南から  
SE502 土層断面(1)南東から  
SE502 土層断面(2)南東から  
SK508 遺物出土状況南東から  
SD505 全景北から  
SD506 北端全景北から

図版13～図版23 川津六反地遺跡

出土遺物

図版24 川津昭和遺跡

出土遺物

## 第1章 調査の経緯と経過

### 第1節 発掘調査に至る経緯・経過

川津六反地遺跡及び川津昭和遺跡は、坂出市川津町に所在する。当地では香川県土木部河川砂防課により城山川河川改修工事及び、県土木部道路建設課により県道富熊宇多津線道路改良、国道438号拡幅等の複数の工事が計画されていた。これらの工事の照会を受けた県教育委員会文化行政課（現在の生涯学習・文化財課）は、遺跡の有無を確認するため、平成8年度から用地の条件が整った区域より適宜試掘調査を実施した。その結果、対象地の全てではないが、事前の発掘調査が必要な範囲が確定し、平成9年度から財団法人香川県埋蔵文化財センターが本発掘調査を実施することになった。

平成9年度は遺跡の南端にあたる城山川河川改修工事及び県道富熊宇多津線道路改良工事に係わる調査を実施した。対象地は全面農地で、平成9年10月から平成10年2月までの5ヶ月間で実施した。対象地の内訳は河川改修部分で668㎡、県道部分で2,198㎡を測る。城山川の河川区域では微高地上の集落から廃棄された多量の中世後半～近世の土器や、旧石器を含むサスカイト製の石器類が多数出土した。また、県道部分では弥生時代の溝状遺構や中世～近世の集落跡を確認した。

平成10年度は遺跡の中央部分にあたる国道438号の拡幅に伴う調査を実施した。対象地は宅地間の狭地で、対象面積は1,034㎡を測る。調査は平成11年2月から3月までの2ヶ月間で実施した。この調査では、弥生時代後期後半頃の灌漑水路と考えられる溝状遺構から弥生土器が多量に出土し貴重な資料になった。また、中世の条里地割に伴う坪界溝等を検出した。

平成11年度は県道富熊宇多津線と国道438号の交差点区域と、国道438号拡幅部の一部を実施した。交差点区域は平成9年度調査区から続く中世の集落域にあたる。また、この地域は条里地割の東西方向



第1図 遺跡位置図

の坪界と南北方向坪界の地割が交差する地点にあたり、条里地割方向に合致した数条の中世の溝状遺構や、これらの溝に切られる状態で、弥生時代後期後半頃の溝状遺構や自然河川を検出した。なお、条里地割方向に合致した溝跡の中には、集落から廃棄された多量の土器が出土した溝跡もある。

平成12年度は国道438号に係わる調査で、川津六反地遺跡の北端の調査区と、川津昭和遺跡の調査を実施した。対象地は農協やガソリンスタンド等の用地で、それらの主な構造物を撤去した後の平成12年9月から平成13年1月までの5ヶ月間で調査を行なった。なお、平成12年度の調査を終えることにより、本事業に伴う川津六反地遺跡と川津昭和遺跡の発掘調査は全て終了したことになる。

川津六反地遺跡では弥生時代以降の遺構面下から、当初予想されていなかった縄文時代の石器製作跡と考えられる4箇所の石器集中ブロックと、大型の剥片や石核を集積したササカイト集積遺構を検出した。石器集中ブロックからは約1,600点のササカイト製の石器類が出土した。出土したのはササカイト製の破片や剥片が主体を占めるが、石核・石鏃・刮器等も少数含まれる。また、出土した石器間で接合資料が18点抽出することができた。縄文時代の石器集中ブロックの資料は県下では限られており、従来不明瞭であった縄文時代の石器製作技術を復元するうえで貴重な資料になった。

川津昭和遺跡では、弥生時代中期～後期後半の幹線水路と考えられる溝状遺構や近世以降の井戸・土坑等を検出した。

第1表 年度別発掘調査担当一覧

年度	調査担当	調査区	面積 (㎡)	期間	事業
平成9年度	中西昇・多田佳弘・中村文枝	川津六反地遺跡Ⅰ・Ⅱ-1区	2,866	H 9.10 - H 10.2 (5ヶ月)	国道宮柵字多津線、 岡山川改修
平成10年度	兼松真也・川井國博・中村文枝	川津六反地遺跡Ⅰ-1区	1,034	H 11.2 - H 11.3 (2ヶ月)	国道438号
平成11年度	池田道雄・川井國博・秋山亮	川津六反地遺跡Ⅱ-2・Ⅲ-2区	1,450	H 11.12 - H 12.3 (4ヶ月)	国道宮柵字多津線、 国道438号
平成12年度	蔵本晋司・増井泰弘・鹿岡多忠・秋山亮	川津六反地遺跡Ⅳ-4・Ⅳ区、 川津昭和遺跡	3,025	H 12.9 - H 13.1 (5ヶ月)	国道438号
計			8,375	16ヶ月	

第2表 平成9・10年度組織表

香川県教育委員会事務局文化行政課		平成9年度調査体制		平成10年度調査体制	
総括	課長 課長補佐	菅原直弘 北原和利	菅原直弘 課長補佐	小原克己 北原和利	小原克己 北原和利
総務	係長 主査 主査 主事	山崎隆 星加宏明 (5.31) 松村忠史 (6.1) 打越和美	山崎隆 副主幹兼係長 係長 主査	西村隆史 中村慎信 三宅陽子 主査	西村隆史 中村慎信 三宅陽子 主査
埋蔵文化財	副主幹 文化財専門員 技師	渡部明夫 木下晴一 塩崎誠司	副主幹 係長 主任技師	渡部明夫 西村博文 塩崎誠司	渡部明夫 西村博文 塩崎誠司
財団法人香川県埋蔵文化財センター					
総括	所長 次長 副主幹兼係長	大森忠彦 小野善範 田中秀文 (6.1～)	所長 次長 副主幹兼係長	菅原直弘 小野善範 田中秀文	菅原直弘 小野善範 田中秀文
総務	係長 主任主事 主任文化財専門員 主任文化財専門員 文化財専門員	藤好史郎 (5.31) 西川大 藤好史郎 中西昇 多田佳弘	主査 主任主事 主任文化財専門員 文化財専門員 技師	新一郎 (6.1～) 西川大 (～5.31) 藤好史郎 川井國博	新一郎 (6.1～) 西川大 (～5.31) 藤好史郎 川井國博
調査	調査技術員	中村文枝	調査技術員	兼松真也 中村文枝	兼松真也 中村文枝

第3表 平成11・12年度組織表

香川県教育委員会事務局文化行政課					
平成11年度調査体制			平成12年度調査体制		
総括	課長 課長補佐	小原克己 小国史郎	課長 課長補佐	小原克己 小国史郎	
総務	係長 主査 主査	中村慎信 三宅陽子 松村崇史	係長 主査 主事	中村慎信 三宅陽子 亀田幸一	
埋蔵文化財	副主幹 係長 文化財専門員 主任技師	廣瀬常雄 西村尊文 森格也 塩崎誠司	副主幹 係長 文化財専門員 文化財専門員	廣瀬常雄 西岡達哉 森格也 宮崎哲治	
財団法人香川埋蔵文化財調査センター					
総括	所長	菅原良弘	所長	菅原良弘（～1031） 小原克己（11.1～）	
総務	次長 副主幹 係長 主査 主査 主任主事	川原裕章 田中秀文 新一郎 長尾寿江子 山本和代 細川信哉	文化行政課長兼務 次長 副主幹 係長 主査 主査	川原裕章 大西誠治 新一郎 長尾寿江子 山本和代 高木康晴	
調査	主任文化財専門員 文化財専門員 文化財専門員 文化財専門員 調査技術員	藤好史郎 西岡達哉 池田通雄 川井國博 秋山亮	主任文化財専門員 文化財専門員 文化財専門員 文化財専門員 調査技術員	藤好史郎 西村尊文 藏本晋司 増井泰弘 豊岡多恵 秋山亮	

## 第2節 整理作業の経過

本遺跡の整理作業は平成24年10月から、平成25年7月までの10ヶ月の期間で実施した。

平成24年度はまず、遺構から出土した土器の接合と実測遺物の抽出作業を先行し、その後、縄文時代の石器集中ブロックやササカイト集積遺構から出土した石器類の分類・計測・接合作業等を行なった。石器集中ブロック等から出土した資料は碎片や剥片までを含めると約1,600点を数え、整理作業初期の段階では比較的重要視された作業であった。これらの作業の結果、抽出された実測遺物は985点を数えることになった。実測作業は平成25年1月から開始した。まず、土器の実測から開始し年度末には土器実測を終えることができた。遺構図面の整理は遺物の整理と並行し順次進めた。まず、原因のチェックと、図面のスキミングを行ない、原因をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図を作成した。遺構の整理については、整理担当が発掘担当者と異なるため、個別の遺構の状況を把握する際には苦慮する場合もあった。

平成25年度は4月から石器の実測を開始し5月には概ね終了した。次に遺物トレース作業と遺物写真撮影を行ない、その後、遺構挿図と遺物図面を統合し報告書の編集作業に着手した。また、編集作業が進み、報告遺構名や遺物番号が決定した後に遺物の収納作業を行なった。

各種分析委託業務については、整理作業の開始時期が平成24年度の下半期で、平成24年度内に実施する必要があり、平成24年度末に成果物が納品できるように発注を急いだ。分析対象としては、縄文時代の石器製作跡を検出したこともあり、当時の環境や年代を測るため、土壌分析・C14分析や出土したササカイトの原産地を探るためにササカイトの原産地同定分析等を行なった。

なお、本整理作業の報告遺物は点数が多く、整理期間との関係で効率化を計る必要が出てきた。そのため、平成24年度の年度末には遺物トレースの一部を民間業者に委託することになった。また、出土

遺物の写真撮影に際しては、基本的には直営で実施したが、難易度の高い遺物については平成 25 年度に民間業者に委託した。

平成 24・25 年度の整理作業に係わる調査体制は以下のとおりである。

第 4 表 平成 24・25 年度組織表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化行政課		平成 24 年度調査体制		平成 25 年度調査体制	
総括	課長 副課長(総括)	炭井宏秋 木虎淳	課長 副課長	増田宏 木虎淳	
総務・生涯学習グループ	副主幹 主任主事	松下由美子 白川弘二	副主幹 主任主事	松下由美子 白川弘二	
文化財グループ	課長補佐 主任文化財専門員 文化財専門員	西岡達哉 森下英治 松本和彦	課長補佐 主任文化財専門員 文化財専門員	丸山千晶 片桐孝浩 山下平重 松本和彦	
香川県埋蔵文化財センター					
総括	所長	藤好史郎	所長	真鍋昌宏	
総務課	次長兼総務課長 副主幹 主任 主任 主任	丸鍋正彦 林文夫 宮武ふみ代 中川美江 高木秀哉	次長兼総務課長 主任 主任 主任 主任	前田和也 梶野英二 宮武ふみ代 中川美江 高木秀哉	
資料普及課	課長 主任文化財専門員 嘱託整理作業員	森裕也 西村尋文 山地眞理子 藤本原美恵子 甲斐美智子 香西栄理 佐々木博子 竹内悦子 栗岡愛 原節子	課長 主任文化財専門員 嘱託整理作業員	森裕也 西村尋文 山地眞理子 藤本原美恵子 中野優美 佐々木博子 西本智子 田中沙千子 原節子 香川和子	

(参考文献)

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成 9 年度「川津六反地遺跡」『原道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成 10 年度「川津六反地遺跡」『財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成 11 年度「川津六反地遺跡」『原道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成 12 年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」『原道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』



## 第Ⅱ章 調査の方法

### 第1節 発掘調査の方法

発掘調査に際しては、調査区内に残土の仮置き場を設ける必要があった。調査区内で仮置き場を確保するには、調査地区と仮置き場を交互に入れ替えて調査を進める必要があった。そのため、調査区は細分されることになった。

機械掘削は土木業者と契約して行なった。調査事務所や仮設電力及び主な調査用具はリース契約を結び調査に用いた。現場作業員はセンターが直接雇用し、人力掘削等の作業にあたった。

調査の基準点については測量業者に委託して設定した。遺構の全体測量は航空測量業者に委託し1/100と1/50の全体図を作成した。測量の方法としては、対象地は民家が隣接しており、ヘリコプターによる航空測量では地元から苦情がくる可能性が高かった。そのため、影響の少ない気球やラジコンヘリによる航空測量で実施することになった。なお、現場の個別写真撮影や遺物の出土状況・土層断面図等の個別の記録作業については、適宜担当職員が分担して実施した。

川津六反地遺跡のⅣ区で検出した縄文時代の石器集中ブロック等については、約1,600点の剥片や石器類の原位置を記録する必要があった。しかし、石器類の数が多く記録の誤差が生じる可能性が出てきた。そのため、調査区全体に1.0mのグリッドを設定し、そのグリッド単位で作業を進めることにし、出土状況の記録方法としては光波測量機を用いてその出土地点の記録を行なった。なお、Ⅳ区では先述した縄文時代の石器集中ブロックを検出したこともあり、当時の環境や年代を推定するため、花粉分析・火山灰分析・C14分析等を予定して土壌を採集し、その一部を平成12年度の下半期に分析委託を実施した。

### 第2節 整理作業の方法

#### 1. 調査区名の変更

川津六反地遺跡の調査区は発掘調査が多年度に及び調査区が細分され、同じ調査区名が各年度に存在する。そのため、最南端の調査区より以下のように報告時の調査区名に変更した。

I区(報告時)→平成9年度I区(調査時)・II-1区(報告時)→平成9年度II・III区(調査時)・II-2区(報告時)→平成11年度II区(調査時)・III-1区(報告時)→平成10年度II区(調査時)・III-2区(報告時)→平成11年度I区(調査時)・III-3区(報告時)→平成10年度I区(調査時)・III-4区(報告時)→平成12年度I区(調査時)・IV区(報告時)→平成12年度II区(調査時)

#### 2. 遺構名の整理

川津六反地遺跡の発掘調査は多年度に及び調査区が細分され、遺構名は各年度で調査区単位に01番から付されていた為、報告の都合上再整理を必要とした。遺構名を付す方法としては調査区の名称を残した通し番号を付けるのが混乱を防ぐ得策と考え、番号の先頭に調査区番号を付した三桁の遺構名を付けることにした。

例) 検出遺構名：I区のSD01→報告遺構名：SD101

### 3. 遺構図・写真の整理

遺構図面及び写真の整理は遺物の整理と並行し順次進めた。まず、原図のチェックと、図面のスキニングを行ない、原図をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図を作成した。また、掘立柱建物については、柱穴の組み合わせ等を含めて再整理を行ない、新たに建物跡を抽出したものもある。

### 4. 遺物の整理

遺物実測については、出土遺物の中で図化可能な遺物については極力図化した。なお、本整理作業の報告遺物は点数が多く、整理期間との関係で効率化を計る必要があり、川津六反地遺跡の遺物トレース作業の一部を民間業者に委託した。

川津六反地遺跡の縄文時代の石器集中ブロックの整理に際しては、石器類の特徴を掴むため、石材の細分、計測値による統計処理等に耐えうるよう属性分析に努めた。石器集中ブロックの中で主体を占めるサヌカイト製の砕片・剥片の分類については、石材・長幅・重量・打面の状況等の項目で一点毎に観察を行ない、その資料の属性分析を行なった。また、ブロック出土の石器類については、比較的原位置を保っている事が想定されたため、製作技術の復元を図る事を目的とし接合関係の検討を行なった。その結果、18点の接合関係を掴むことができた。

遺物写真撮影については、極力担当者で実施したが、難易度の高い出土遺物については専門業者に撮影を委託した。

### 5. 自然科学分析

川津六反地遺跡では、縄文時代の石器集中ブロックやサヌカイト集積遺構等を検出したこともあり、当時の環境や年代を測るため、花粉分析・火山灰分析・C14分析等を予定して土壌を採集し、その一部を分析委託で外注した。また、ブロックから出土したサヌカイトは肉眼でみえる限り、数種類に分類できる。分類されたサヌカイトは、微妙な材質の違いや、原産地の違いが表れているものと推定された。そのため、数点ではあるがサヌカイトの産地同定の分析を行なった。

#### (参考文献)

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「川津六反地遺跡」[「原道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報」]  
(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成10年度「川津六反地遺跡」[「財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報」]  
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成11年度「川津六反地遺跡」[「原道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報」]  
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」[「原道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報」]

## 第Ⅲ章 地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

香川県の中央に広がる丸亀平野は、東西13km・南北10kmに広がる扇状地性の海岸平野である。この平野には東から大東川・土器川・弘田川などの中小河川が南北に流れ、瀬戸内海に流入している。川津六反地遺跡・川津昭和遺跡は、丸亀平野の北東隅、大東川の下流域の東岸部に位置し、北に角山、南に飯野山、西に大東川、東には城山山塊の西斜面から派生する低丘陵に挟まれた地域に位置する。遺跡周辺の地表面の標高は8.5m前後を測る。

大東川下流域の東西両岸には、流路方向に沿って比高差1m前後の崖面が連続して認められ、河岸段丘地形を呈する。この段丘地形は瀬戸内海東部の平野部で指摘されている古代末頃に形成された「更新世段丘」に相当することが推定されており、川津六反地遺跡・川津昭和遺跡はこの段丘上に所在している。

大東川下流域の川津六反地遺跡周辺は大東川と、城山山塊から流下する城山川が合流する地域にあたり、大東川が西に大きく屈曲している。二つの河川が合流しているため、河川部周辺には氾濫源が広範囲に認められる。当地周辺の歴史地理の研究では木下氏の研究がある。木下氏は大東川東岸部で近年発掘調査が行なわれた、川津一ノ又遺跡・川津二反取遺跡・川津下樋遺跡等の調査成果を踏まえたうえで旧地形を復元した。その結果、先述した段丘と周辺地域で、蛇行する数条の埋没河川を復元した(註1)。

### 第2節 歴史的環境

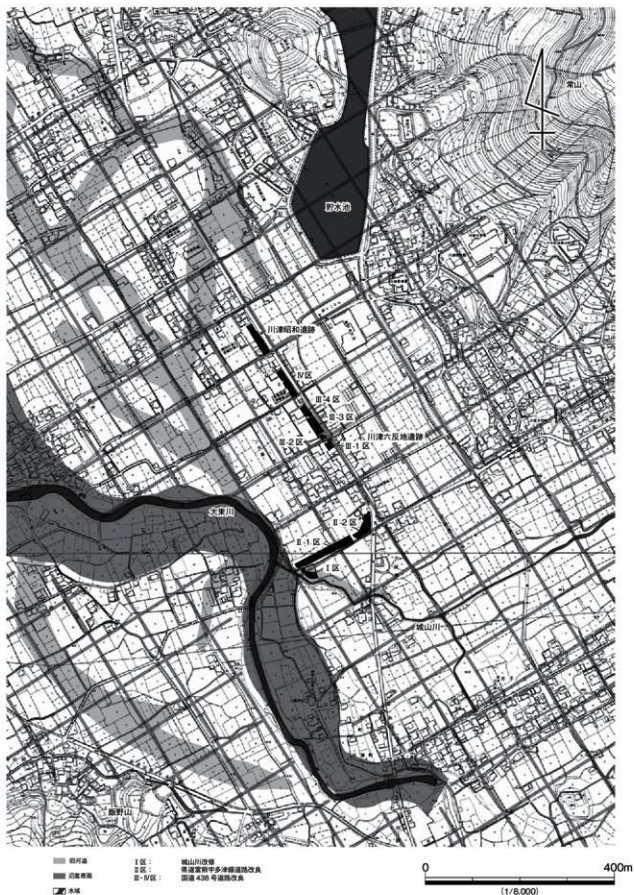
大東川下流域に拡がる坂出市川津町は、近年、瀬戸大橋建設事業や四国横断建設事業に伴う埋蔵文化財調査が数遺跡で実施されており、県下では比較的埋蔵文化財の調査が進んでいる地域である。

旧石器時代では、城山や飯野山の山麓の諸遺跡で資料が増加している。川津一ノ又遺跡の弥生時代の流路からはサヌカイト製の翼状剥片や縦長剥片石核等が出土している。また、飯野山北麓の川津東山田遺跡や東麓の東坂元三ノ池遺跡からは、ナイフ形石器・船底形石器・楔形石器・剥片・横長剥片石核・スポール等の旧石器が出土しているが、いずれも旧石器時代の遺構に伴うものではなく、今後の調査に期待される点が多い。

縄文時代では縄文時代後期・晩期の遺物が、下川津遺跡・川津下樋遺跡・川津一ノ又遺跡・川津川西遺跡等の諸遺跡の自然河川や包含層から少量出土しているが、旧石器時代同様、今後の調査に期待される点が多い。

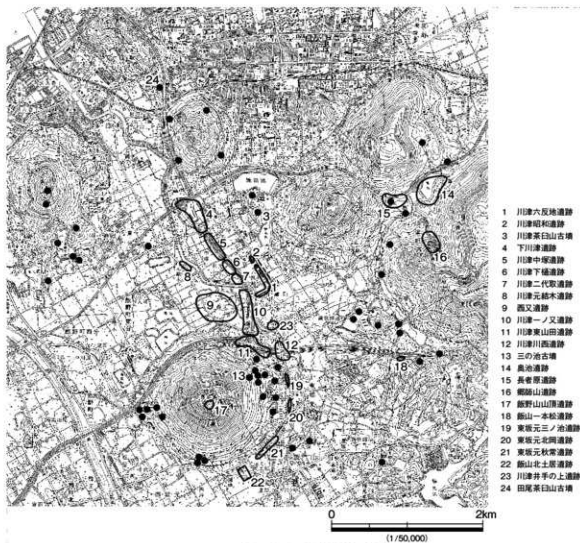
弥生時代時代になると、低地部で遺跡数は増加する。下川津遺跡では、弥生時代前期前葉の住居跡を1棟確認し、隣接する自然河川からは多量の遺物が出土している。また、川津下樋遺跡では、前期の灌漑水路を伴う水田跡を確認した。中期になると低地部では一時集落は途絶えるが、後期後半～終末期になると遺跡数は倍増し、下川津遺跡や川津一ノ又遺跡に代表される拠点となる集落が現れる。

古墳時代前期前半頃までは、弥生時代終末期の集落が継続して営まれ、弥生時代と状況に変化は少ないが、その後集落は途絶える。集落が低地に再開されるのは古墳時代後期後半以降である。周辺に築造される古墳で代表的なものでは、全長76.5mを測る前方後円墳の田尾茶臼山古墳がある。また、小規



(註1：文献を参照して作成)

第2図 調査区割図及び調査区周辺旧地形、条里地割復元図



第3図 周辺遺跡分布図

横前方後円墳では三の池古墳等があげられるが、発掘調査を実施している古墳は少なく今後の調査に期待される。

古墳時代後前半に途絶えた集落は、古墳時代後後半頃より再開される。代表的な集落としては、下川津遺跡・川津一ノ又遺跡等の集落があげられ、これらの集落は先の集落より大規模で、集落の空白期間を考えれば他地域より別集団が移住してきた可能性が高い。

遺跡を広範囲に発掘した下川津遺跡では、竪穴住居跡57棟、掘立柱建物跡90棟を検出した。注目できる点では、集落の中心と考えられる居館跡が数地点で確認できた点である。居館跡は一般の住居と異なり、大型の掘立柱建物数棟が企画的に配置された状態で検出した。また、周辺より有力家族層の持物である、主頭太刀が出土した居館跡も確認され、おそらく、この階層が中心となって川津地域の開発に直接関わったものと考えられる(註2)。

開発が及んでいない地域に、古墳時代後期～飛鳥時代頃、新たに集落が開始される事例は県下でも数多く確認できる現象で、これらの集落は在地の有力な家族層の主導による、新たな農地開発を意図した集落の可能性が考えられており(註3)、川津地域もその一例である。

坂出市川津地域は古代の行政区画では鞆足郡川津郷にあたる。8世紀の下川津遺跡では、官衙とも考えられる建物群や物資を集積した大型の倉を確認した。先の建物群は方形の広い敷地内に数棟の大型建物を規格的に配置しており、他地域の官衙施設に類似する。出土遺物では畿内でみられる赤彩土師器が多量に出土しており、この遺跡や周辺でつくられた土器が畿内へ運ばれたことが考えられる。下川津遺跡はその立地や大型の倉、出土した赤彩土師器などから、他地域へ運ぶ物資を集積した遺跡と考えられ、隣接する大東川沿いに港が所在していた可能性が高い。また、官衙的な建物群は、港の運営に係わる公的施設の可能性がある。

文献によると8世紀中ごろの川津郷は、平城京にある東大寺の「封戸」に編入される。川津郷が東大寺の封戸に編入されたことは、畿内や国府との強いつながりを示し、下川津遺跡の官衙的な施設も、封戸から徴収した税の輸送に係っていた可能性が高い。

また、大東川下流域河岸の段丘上には、丸亀平野のほぼ全域でみられる北から30°前後西に振る条里地割が広範囲に確認できる。本遺跡を含む周辺地域にも広範囲に認められ、この条里地割がいつ頃形成されたかは従来から問題視されていたが、丸亀平野を対象にした最近の研究では概ね7世紀末～8世紀初頭頃が上限と考えられている(註4)。

中世の坂出市川津地域は古代より更に遺跡数は増大し、大多数の遺跡で遺構・遺物が出土している。代表的な遺跡では、下川津遺跡・川津中塚遺跡・川津元結木遺跡・川津二代取遺跡・川津ノ又遺跡・川津川西遺跡等があげられる。

集落がこの時期急速に発展する背景には二つの要因が考えられる。一つは大東川流域の自然堆積が進み、従来、川又は湿地であった土地が中世頃には平坦な地形に変わり、その上面にまで集落や農地を広げることが可能になった地理的な要因である。事実、ほとんどの遺跡で河川や湿地であった区域が埋まり、その上面に集落域が拡大している現象が各遺跡の発掘調査により明らかになっている。

二つめには、大東川の水運を利用した交易が盛んになり、そのルート上の集落が発展した経済的な要因である。大東川の河口に位置する宇多津は、室町時代になると讃岐の守護職である細川氏の守護所が置かれ、讃岐を代表する港湾都市として栄えた。当時の兵庫津(現在の神戸港)の通関記録である『兵庫北関入船納帳』によれば宇多津は県外まで含めた広範囲の積荷を集積したり、他の港と兵庫津を中継したりする貿易港で、かなり繁栄していた事が推定されている。その宇多津につながる大東川は、川の上流域と宇多津の港を結ぶ川舟の交通路として、重要な役割を果たしていたものと考えられる。

(註)

- (1) 木下 晴一 2012 「微地形分類の視点と方法—坂出市川津町西部を例に—」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅴ』香川県埋蔵文化財センター
- (2) 西村 尊文 「第4節 下川津遺跡における6～8世紀の集落構造と動向」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州西国連絡橋公団
- (3) 広瀬 和雄 1986 「中世の胎動」『岩波講座日本考古学6—変化と画期—』岩波書店
- (4) 森下 英治 1997 「丸亀平野条里地割の考古学的検討」『財団法人香川県埋蔵文化財センター—紀要Ⅴ』財団法人香川県埋蔵文化財センター

(参考文献)

- 高橋 学 1995 「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」『古代の環境と考古学』古今書院  
高橋 学 1995 「古代の地形環境と土地開発—土地利用—」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第7集』  
金田 章裕 1988 「第6章 第3節讃岐の条里遺構」『香川県史1』原始・古史 香川県  
大久保 徹也 1990 「下川津遺跡といわゆる条里地割について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ—下川津遺跡—』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州西国連絡橋公団

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団 1990 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財報告第一  
下川津遺跡―』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1994 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘  
調査報告 第14冊―川津中塚遺跡―』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1996 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘  
調査報告 第16冊―川津二代取遺跡―』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1996 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘  
調査報告 第21冊―川津下樋遺跡―』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1997 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調  
査報告 第26冊―川津一ノ又遺跡Ⅰ―』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1998 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調  
査報告 第30冊―川津一ノ又遺跡Ⅱ―』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1999 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調  
査報告 第33冊―川津川西遺跡・飯山一本松遺跡―』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 2001 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調  
査報告 第38冊―川津東山田Ⅰ区―』
- 香川県教育委員会 2008 『国道438号道路改築事業(飯山工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊―東坂元三ノ池遺跡―』

## 第Ⅳ章 川津六反地遺跡の調査

### 第1節 川津六反地遺跡の概要

川津六反地遺跡は、大東川下流域の坂出市川津町に所在する、縄文時代・弥生時代・古代・中世以降の遺跡である。調査は平成9年度から12年度にかけて実施した。整理作業では南へ北へ向けて整理作業を進め、調査区は南へ北へかけて新たにⅠ区～Ⅳ区に再区分した。以下、南辺部のⅠ区から順に概要を報告する。(第2図)

Ⅰ区は調査区の南西端部に位置する平成9年度調査時のⅠ区にあたり、城山川改修事業に伴う調査区である。この調査区は大東川の東岸と城山川の合流部でも城山川の北岸部に隣接しており、同河川の旧流路及びその肩口が所在していることが推定されていた。そのため、河川の状況を把握することを意図し、対象地内に4本のトレンチを設定した。その結果、中世後半頃から近世頃に埋没した城山川の旧河川跡を確認した。注目される点では、河川がある程度埋没した中世後半段階で、微高地上の集落からの廃棄遺物と考えられる多量の土器を廃棄している土器溜まりを検出した事である。土器溜まりからは特に土師器の足釜が多数出土しており注目できる。また、本遺跡の東方には城山や金山といったサスカイトの産地が近いためか、旧石器時代から弥生時代頃までの石器類が多数出土した。

Ⅱ区はⅠ区の東側に位置する調査区で、平成9年度調査のⅡ・Ⅲ区及び平成11年度調査のⅡ区に相当する、国道438号から西へ分岐する県道富熊宇多津線の道路改良工事に伴う調査区である。

Ⅱ区は段丘上に設定した東西方向の延長約190mの調査区で、調査区西半部の平成9年度調査Ⅱ・Ⅲ区を「Ⅱ-1区」に、東半部の平成11年度調査Ⅱ区を「Ⅱ-2区」に区分した。Ⅱ-1区からは、弥生時代の溝状遺構や、中世～近世の集落域を検出した。中世～近世の集落では複数の掘立柱建物跡と多数の柱穴群、及び条里地割の方向に合致する溝状遺構等を検出した。Ⅱ-2区では、おそらく城山川の上流域から分岐したと考えられる小規模な流路を調査区東端部で検出した。河川の周辺は湿地状を呈しているが、河川埋没後には中世の複数の溝跡や建物跡と多数の柱穴跡等を検出した。確認した溝状遺構の一部は条里地割の方向に合致しており、埋土からは周囲の集落域から廃棄物として投棄された多量の中世土器が出土した溝跡もある。

Ⅲ区はⅡ区の東端から北へ約140m離れた地点に位置する、南北方向の延長約120mの調査区である。この調査区は国道438号道路改良工事に伴う事業で調査を実施した。調査は対象地内の宅地や事業地の移転の問題から、一度に短期間で調査を実施することが不可能であった。そのため、平成10年度から12年度までの3ヶ年間で、小区画単位で調査を実施することになり、調査区も細分されることになった。

Ⅲ区は平成10年度調査Ⅰ・Ⅱ区、平成11年度Ⅰ区、平成12年度調査Ⅰ区を含み、南から平成10年度Ⅱ区を「Ⅲ-1区」、平成11年度Ⅰ区を「Ⅲ-2区」、平成10年度Ⅰ区を「Ⅲ-3区」、平成12年度Ⅰ区を「Ⅲ-4区」に再区分し報告することにした。

Ⅲ区からは弥生時代後期後半頃の溝跡、古代前半の灌漑水路、条里地割に坪塚に概ね合致する中世の溝状遺構等を確認した。弥生時代後期後半頃の溝跡はⅢ-3・4区の北半部で検出した。Ⅲ-4区の溝跡は小規模な溝跡であるが、Ⅲ-3区の水路は大型の溝状遺構で、当時の灌漑水路と考えられる。この溝跡からは多量の弥生土器が出土しており、調査区外の隣接地に集落の居住域が展開することを示唆するものである。古代前半の溝跡はⅢ-3区の南半部で2条検出した。二つの溝跡は約1.5m隔てて、南



北方向に並走しており、方向や時期的な点で類似するため、関連する溝状遺構と考えられる。次に中世の条里地割の溝跡であるが、Ⅲ-1・3区の東辺で条里地割の坪塚の可能性が高い中世の溝跡を確認した。また、Ⅲ-2区は、南北方向と東西方向の条里地割の交点部分にあたる地点であり、東西方向の条里地割線に合致した灌漑水路と考えられる中世の大型水路を検出した。これらの溝跡は本遺跡周辺の条里地割の形成時期を考えるうえで重要な遺構になる。

Ⅳ区はⅢ区の北端から北へ約25m離れた地点に位置する、南北方向の延長約70mの調査区で、本遺跡の北端部に位置し、平成12年度調査のⅡ区にあたる調査区である。なお、この調査区は国道438号道路改良工事に伴う調査でもある。調査は対象地内の農協やガソリンスタンドの移転が完了した、平成12年度から調査を実施することになった。

Ⅳ区からは弥生時代以降の遺構面下からは、当初予想していなかった縄文時代の石器製作跡と考えられる4箇所の石器集中ブロックと、大型の剥片や石核を集積したサヌカイト集積遺構を検出した。また、遺構面上からは、弥生時代前期のピットや中期後半の土坑や溝状遺構を検出した。

石器集中ブロック等からは約1,600点のサヌカイト製の石器類が出土した。主となるのはサヌカイト製の破片や剥片であるが、少数の石鏃・削器・石核等も含まれる。また、接合資料も18点抽出することができた。これらの石器製作跡の資料は県下では限られており、従来不明瞭であった縄文時代の石器製作技術を復元するうえで貴重な資料になった。

## 第2節 基本層位

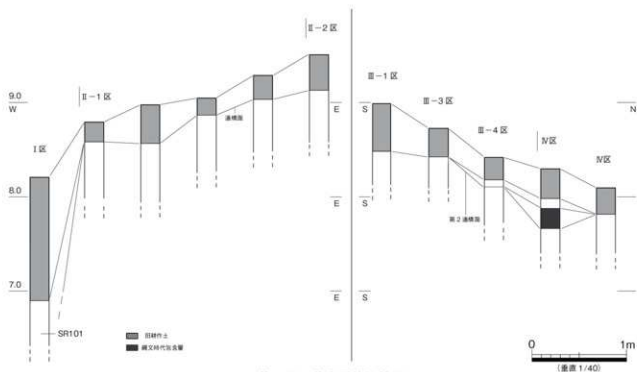
大東川下流域の段丘上に所在する、本遺跡の調査対象地の旧状は農地ないしは宅地や事業地であった。本遺跡の遺構面から上位には、現在の耕作土や中・近世頃の耕作に伴う土層が、平均0.4m程の層厚で存在し、上層の堆積層を除去すれば遺構面に至る。遺構面は丸亀平野で一般的な黄褐色の粘質土ないしシルト層をベースにして、その上で弥生時代以降の遺構が検出されるのが一般的であるが、Ⅱ区東端部やⅣ区では小規模な流路や、縄文時代の包含層を検出した地域があり、部分的に異なる地点がある。また、Ⅲ-4区～Ⅳ区にかけての地域では比高差0.1mほどだが、2面の遺構面と、遺構面の下には縄文時代の石器集中ブロックやサヌカイトの集積遺構を含む包含層を確認した。

### Ⅰ・Ⅱ区の基本層位(第4図)

Ⅰ区は城山川の氾濫源で、現地表は8.2mを測る。地表から約2.2m掘り下げたが、砂層が続き明瞭な河床面を確認することには至っていない。Ⅱ区は大東川東岸の段丘上に位置しており、Ⅰ区とは0.5mの比高差がある。地形は比較的安定しているが、Ⅱ区東端では小規模な流路を検出している。地表の標高は西端で約8.8m、東端で約9.5mを測る。遺構面は約0.3～0.7m下で検出した。遺構面上は西端で約8.6m、東端で約9.1mを測り、地表面同様に、大東川方向に向けて傾斜していることが解る。

### Ⅲ・Ⅳ区の基本層位(第4図)

Ⅲ・Ⅳ区はⅡ区同様段丘上に位置しており比較的安定している。Ⅲ区南端は地表の標高約8.8m、北端は8.6mを測り、僅かに北に向けて傾斜している。地表面から約0.2～0.4m下で遺構面に至る。Ⅲ区南端の遺構面は約8.6mを測り、北端では約8.2mを測り、地表面同様北に向けて傾斜している。また、



第4図 基本層位柱状図

先述したようにⅢ-4区からⅣ区にかけての地域では比高差0.1m程だが、遺構面を2面確認した。Ⅳ区は地表の標高は約8.3m、地表面から0.4～0.5m下で遺構面に至る。遺構面は南端で約7.9m、北端で約7.8mを測り比較的平坦である。Ⅲ・Ⅳ区を概観すれば、概ね北方向に傾斜していることが解る。

Ⅳ区南半部の弥生時代以降の遺構面のベースとなる堆積層からは、縄文時代の石器製作跡と考えられる、4箇所の石器集中ブロックとササカイト集積遺構を検出した。この包含層はⅢ-4区北部を最高所とする微高地北斜面に堆積した包含層で、標高7.5～7.9mにかけて堆積し、緩やかに北に傾斜する。包含層の下位には黄色粘土層が厚く堆積し、同層中には石器類は含まれないが、両層は酷似しており、近接した時期の堆積が推定される。なお、この黄色粘土層は、大東川下流域の平野部で一般的にみられる弥生時代以降のベース層である。

### 第3節 I区の調査

#### 1. はじめに

I区は大東川の東岸と城山川の合流部のなかでも城山川の北岸部に隣接しており、同河川の旧流路及びその肩口が所在していることが推定されたため、その構造と内容を把握することを意図し、対象となる範囲内に4本のトレンチを設定した。その結果、城山川の旧流路の一部を確認した。

#### 2. 遺構・遺物

##### SR101(第6～8図)

4本のトレンチから城山川の旧流路と考えられる埋没河川を検出した。4本のトレンチのうち、第4トレンチでは旧城山川の北岸部と考えられる河川の肩部を確認したが、他の3本のトレンチでは、地表

下2.0m前後まで掘り下げたが、川床面までには至っていない。そのため、河川の概要については不明瞭な点が多い。

河川の堆積状況を大まかに分ければ、地表下1.0m前後のレベル(TP7.0m)で、上位層と下位層に大別できる。掘削最深部から地表下1.0m前後までの下位層では、シルト・細砂・粗砂等といった河川堆積層が確認できる。そのレベルから地表面までの上位層は、整地による整地層や旧耕作土が認められることから、中世以降の水田開発により地上されたものと考えられる。

先述したように第4トレンチの南半部では河川の北岸にあたる肩口を確認したが、小範囲で掘削深度も浅いため、河川方向などを結論づけるには決め手に欠くが、検出状況から推定してI区の北端部から東西向きに流れていたものと考えられる。

第1・2・4トレンチのSR101からは、Ⅱ・Ⅲ区で確認した中世後半～近世を中心にした集落からの廃棄物として、同時期の多量の土器が出土した。また、混入遺物としてサヌカイト製の石器・剥片・石核等が多数出土した。

第2トレンチ北端部の地表下1.2～1.3mに堆積する西壁15層付近からは14世紀前半の足釜を中心にした土器溜まりを検出した。土器溜まりは1群～10群に分けて取り上げた。土器溜まりには少なくとも6個体以上の足釜、2個体以上の鍋が含まれている。また、第1トレンチの地表下1.2mの東壁13層のあたりからは、17世紀後半～18世紀前半の肥前系陶磁器片が出土しており、おそらく、この時期以降の土地開発により上位層の主要な部分は形成されたものと考えられる。

#### SR101 出土土器 (第9～12図)

先述したようにSR101からは中世後半～近世を中心にした多量の土器や、サヌカイト製の剥片・石核・石器類等が出土した。これらの遺物のうち、下位層出土のものに限り代表的なものを各トレンチ単位に報告する。

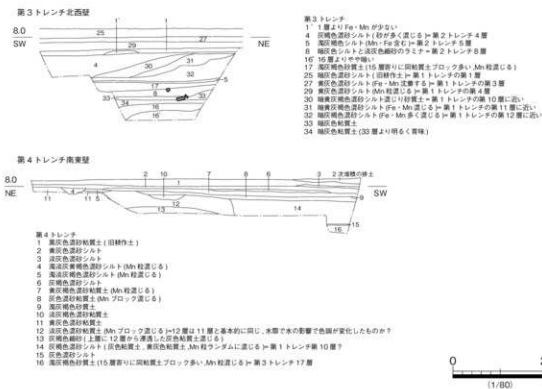
1～29は第1トレンチから出土した土器等である。1・2・3・4は土師器小皿及び杯、7・8は陶器皿・碗、5・6は青磁碗の口縁部片である。9・10・11は染付皿・碗である。これらの染付片はSR101の最終埋没時期を示す遺物になる。12～14は土師器と須恵器の摺鉢である。15は土師器鍋、16・17・18は足釜の体部上半部、19・20・21は足釜の脚部片である。22は須恵器壺の口縁部、23は陶器甕の口縁部、24は須恵器甕の口縁部片である。25・26は鍛冶炉の羽口片である。外面には溶解した金属が付着し、内面は被熱により赤色化している。27・28・29は平瓦片である。27は布目と格子タタキを残している。

30～59は第2トレンチから出土した土器等である。先述したように第2トレンチ北端部の西壁15層からは、足釜を中心にした14世紀前半頃の土器溜まりを検出している。30・31・39・40・41・44・45・47・48・49・50・53・54・55・59等の小皿・杯・摺鉢・大型鍋や足釜・甕等の土器である。土器溜まりは先述したように1群～10群に分けて取り上げた。個々のグループの内訳については、挿図中の一覧または観察表に記載しているので参照して頂きたい。

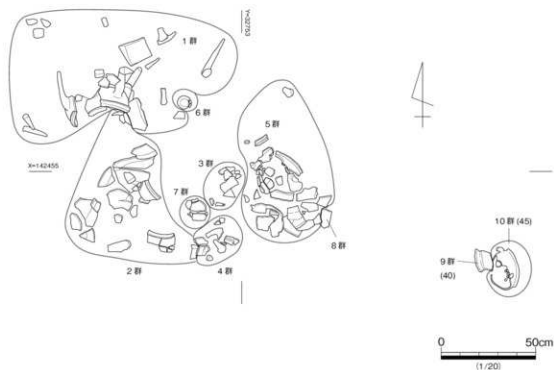
40～44は大型の土師器鍋で、この中で40・41・44は先述した土器溜まりに含まれる鍋である。45～55は土師器足釜で、この中で45・47・48・49・50・53・54・55は先述した土器溜まりに含まれる足釜である。これらの遺物は比較的残りが良く、河川堆積が概ね終了した段階で一括投棄された遺物と考えられる。56は須恵器壺の口縁部片、57は須恵器甕、58は大型甕の底部片である。59は布目と格子タタキを残している平瓦片である。



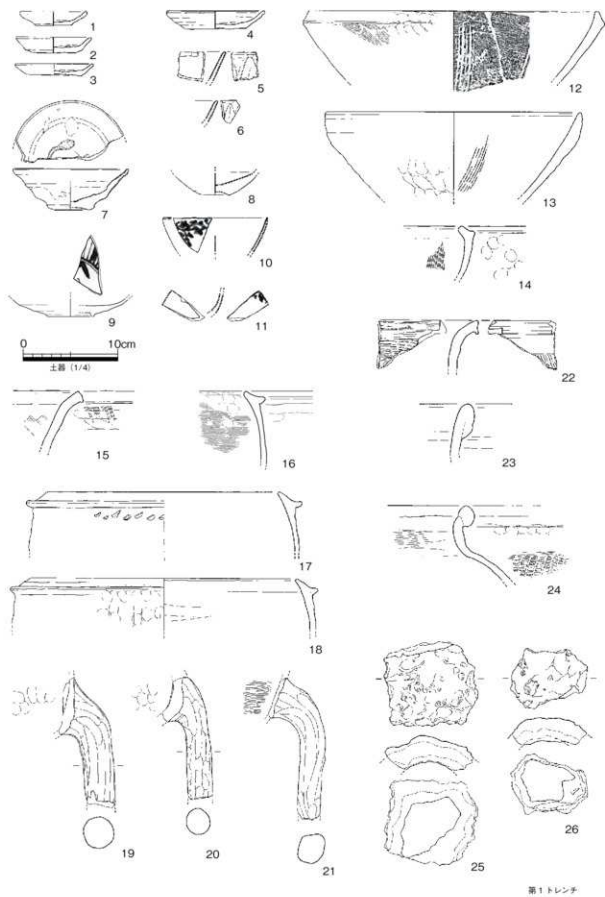




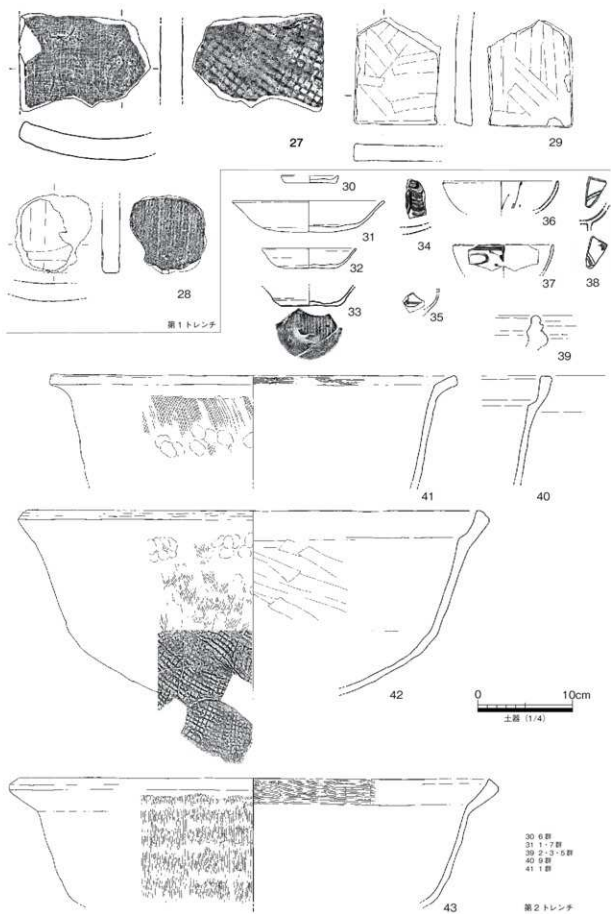
第7図 SR101 第3・第4トレンチ土層断面図



第8図 SR101 第2トレンチ土器溜まり遺物出土状況図

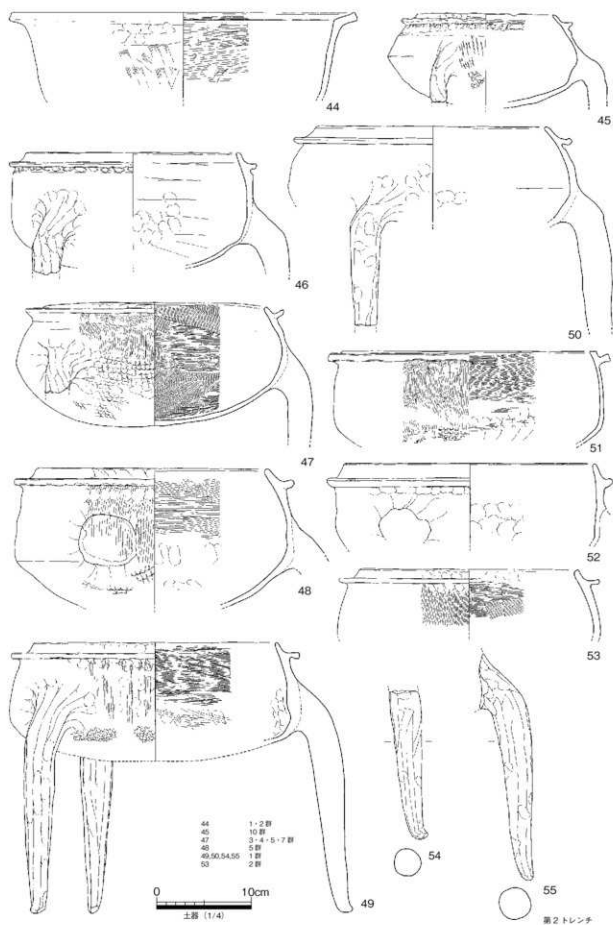


第9図 SR101 出土遺物 (1)

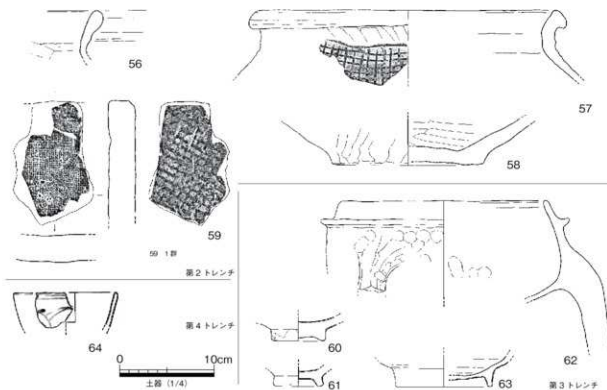


第10図 SR101 出土遺物(2)





第11図 SR101出土遺物(3)



第12図 SR101 出土遺物(4)

60～63は第3トレンチから出土した土器である。60・61は磁器碗の底部で、63は磁器瓶の底部である。62は土師器足釜である。64は第4トレンチから出土した陶器碗である。

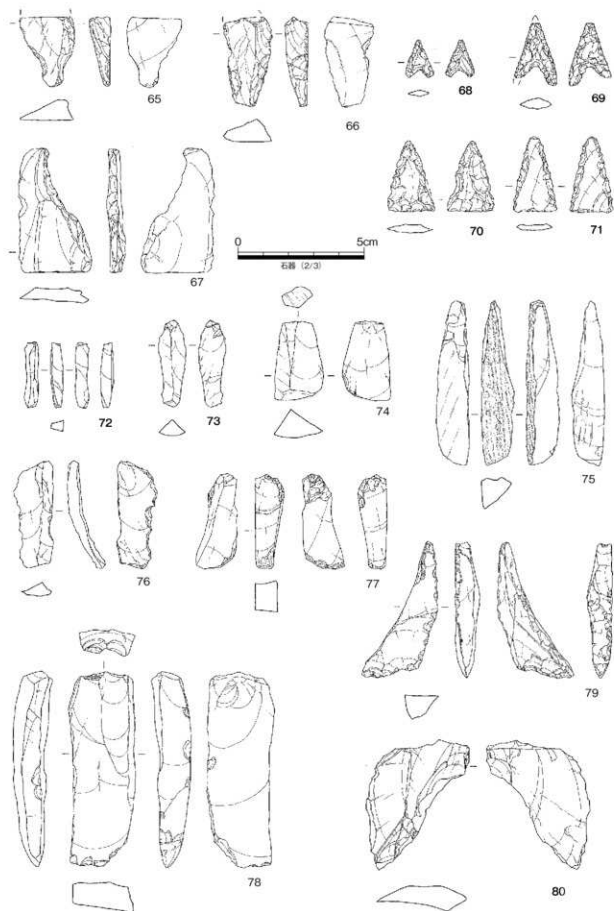
#### SR101 出土石器類 (第13・14図)

65～82はSR101から出土したサヌカイト製の石器類である。65～67は先端部ないし基部を欠くナイフ形石器である。横長状の剥片を素材として、側面には腹面からブランティングを施している。67は背面にポジティブな底面を残しており、翼状剥片を素材としている可能性がある。68～71は石鏃で、68・69は凹基式、70・71は平基式の石鏃である。

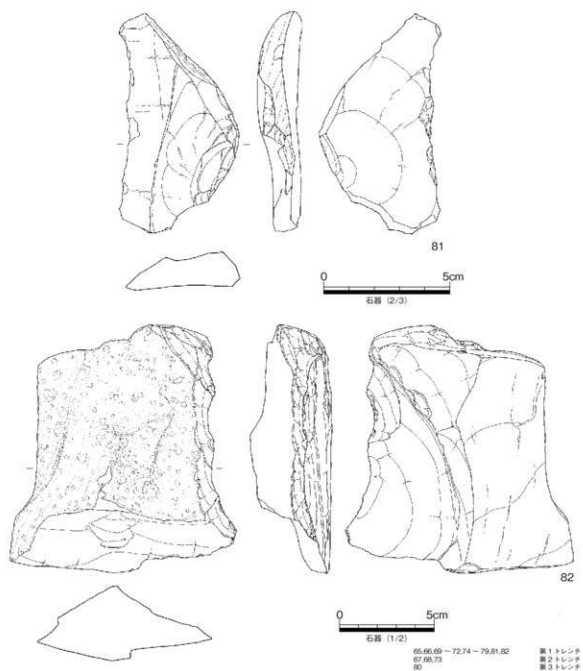
72～78は縦長剥片に係わる資料である。72・73・74・76は縦長状の剥片で、旧石器に含まれる可能性がある剥片類である。75・77・78は石核調整剥片である。75は側面に礫面を残すことから、もとの石核は幅広の板状の形状を呈し、小口面には礫面を残しており、その小口面を作業面としている石核であることが分かる。礫面を残すこの剥片は、石核から剥片を剥ぎ取る極初期の剥片にあたるため、作業面を形成する調整剥片と考えられる。77・78には石核側面を明瞭に残しており、石核調整剥片と考えられる。78には明瞭な打面調整を残している。これらの縦長剥片の資料から石核の形状を推定すれば、板状の縦長剥片石核が考えられる。79は石核調整剥片に二次加工を加えた剥片である。

80・81は横長剥片である。両者とも背面にはポジティブな底面と打面調整が認められることから、旧石器に近い要素を備えているのではあるが、風化の進行状況等から縄文時代以降の剥片の可能性が高い。

82は大型の横長剥片石核である。背面には礫面と側縁部には打面調整痕、腹面はポジティブな素材



第13図 SR101出土遺物(5)



第 14 図 SR101 出土遺物 (6)

の分割面と、ネガティブな剥片剥離痕が認められる。剥片剥離痕は一方からの打撃によるもので、二面以上の剥離痕が認められる。かなり大型の剥片を剥離しており、最も大型のものでは、長さ 6.0cm・幅 11cm を測る剥片剥離痕が認められる。この石核も、旧石器に近い要素を備えているが、風化の進行状況等から縄文時代以降の可能性が高い。



第15图 II-1区遺構配置图

## 第4節 II区の調査

### 1. はじめに

II区はI区の東側に位置する段丘上に設定した東西方向の延長約190mの調査区である。整理の都合上、調査区西半部の平成9年度調査II・III区を「II-1区」に、東半部の平成11年度調査II区を「II-2区」に区分した。

II-1区からは、弥生時代の溝状遺構や、中世～近世の集落域を検出した。中世～近世の集落域では掘立柱建物跡と多数の柱穴群、及び条里地割の方向に合致する溝状遺構等を確認した。II-2区では、おそらく、城山川の上流域から分岐したと考えられる小規模な埋没河川を調査区の東端部で検出した。河川の周辺は湿地状を呈し河川埋没後には、中世後半の複数の溝状遺構や建物跡と多数の柱穴跡を検出した。検出した溝状遺構は条里方向に合致しており、埋土からは周囲の集落域から廃棄物として投棄された多量の中世土器が出土した。

### 2. II-1区

#### (1) 掘立柱建物跡・棚列

##### SB201(第16図)

II-1区西端部で検出した梁間1間、桁行3間の南北棟の掘立柱建物である。この建物はSD201・202・205等の遺構と重複し、SB201はこれらの遺構を切り込んでいる。前後関係としては、SB201はSD201・202・205より後出する。

1間(3.0m)×3間(6.7m)、面積20.1㎡、主軸方位N180°Wを測る。柱間は梁間3.0m、桁行2.2m～2.3mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.3m、深さ0.5～0.6mを測る。8基の柱穴中南西隅の1柱穴で柱痕と根石を確認した。

柱穴から土師器小皿・鉢、陶器皿片等が極少量出土した。83はSP07から出土した陶器の皿口縁部、84はSP05から出土した土師器の鉢口縁部である。細片のため判断できないが播鉢ないし捏鉢であろう。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB201は近世の建物跡と考えられる。

##### SB202(第17図)

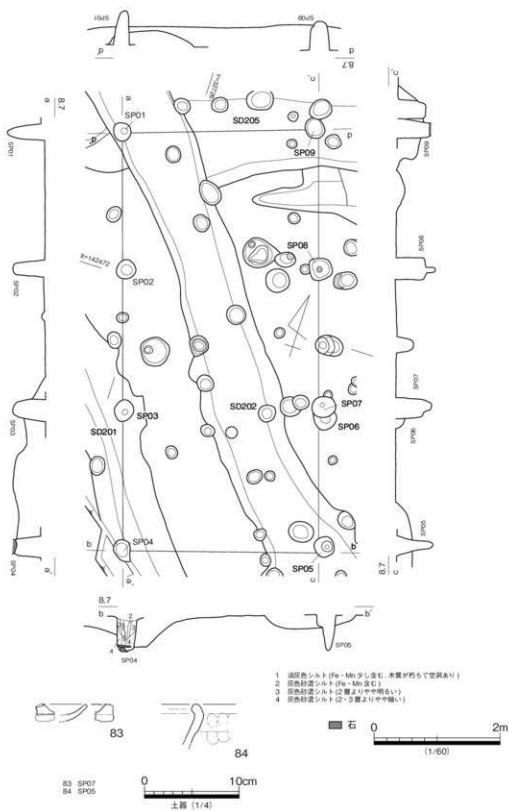
II-1区西端部の南壁際で検出した東西棟の掘立柱建物である。南半部は調査区から外れるため、北半部の約1/2を検出した。梁間1間以上、桁行3間の建物であるが、東梁間の中間の1柱穴を欠いている。なお、この建物は整理作業の過程で確認した建物である。

1間(2.0m)以上×3間(4.2m)、面積8.4㎡以上、主軸方位N70.0°E(N20.0°W)を測る。柱間は梁間1.1m、桁行1.1～1.4mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形を呈し、径0.25～0.3m、深さ0.3～0.45mを測る。なお、図面に記載されていないが、北側柱列の東端の隅柱から根石を検出した。

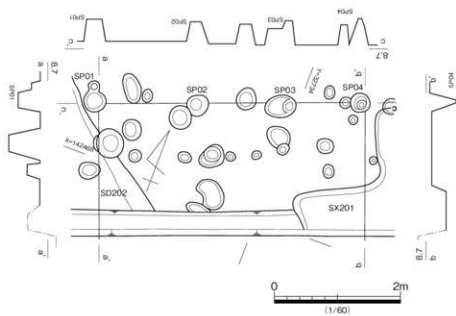
柱穴からは土師器小皿・足釜、焼土片等が少量出土した。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB202は中世の建物跡と考えられる。

##### SB203(第18図)

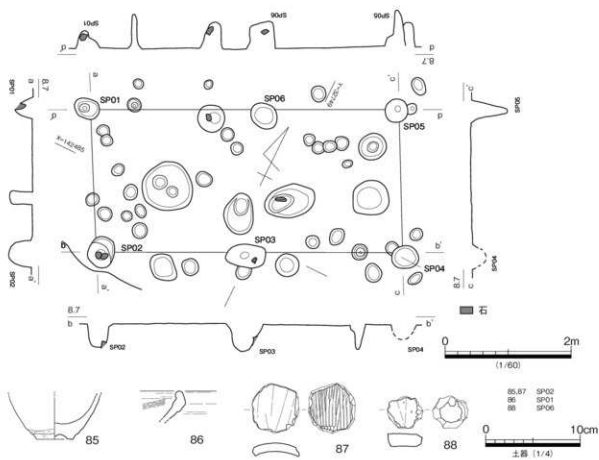
II-1区中央で検出した東西棟の掘立柱建物である。1間(2.3m)×2間(5.0m)、面積11.5㎡、主軸方



第 16 図 SB201 平・断面、出土遺物

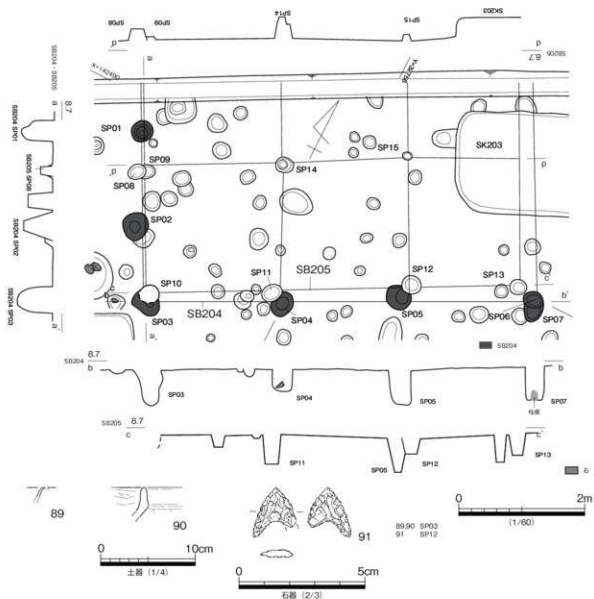


第17図 SB202平・断面図



第18図 SB203平・断面、出土遺物





第19図 SB204・205平・断面、出土遺物

位 N65° E(N25° W) を測る。柱間は梁間 2.3m、桁行 2.2m ~ 2.3m を測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径 0.4m ~ 0.5m、深さ 0.3m ~ 0.5m を測る。なお、全ての柱穴から根石を検出した。

柱穴からは陶器碗、土師器鉢、円盤状土製品等が少量出土した。85・87は SP02、86は SP01、88は SP06 から出土した遺物である。85は口縁部を欠く陶器碗、86は土師器鉢の口縁部である。細片のため判断できないが、鉢ないし捏鉢であろう。87・88は土師器と陶器を転用した円盤状土製品である。出土遺物や検出状況から SB203 は近世の建物と考えられる。

#### SB204(第19図)

Ⅱ-1区西半部の北壁際に検出した東西棟の掘立柱建物である。この建物は SB205 と重複しており、前後関係としては SB205 が後出する。北半部は調査区から外れるため、南半部の約 2/3 を検出した。

梁間2間以上、桁行3間の建物であるが、東辺部がSK203により切り込まれているため、東辺の梁間の柱穴を欠いている。

2間(2.6m)以上×3間(6.1m)、面積15.9㎡以上、主軸方位N27.5°Wを測る。柱間は梁間1.2～1.5m、桁行1.9～2.0mを測る。

柱穴掘方は円形ないしは不整形を呈し、径0.3～0.5m、深さ0.3～0.55mを測る。なお、図面中に記載していないが、南側柱列の4柱穴全から根石を検出した。

柱穴SP03からは磁器片、土師器片等が極少量出土している。89は磁器碗の口縁部片、90は土師器鉢の口縁部片である。SP03はSB205の柱穴と重複しており、89・90の遺物がいずれの建物に属するのかが問題を残すが、SB205がSB204より後出していることを考慮すれば、両者はSB205に属する可能性が高い。出土遺物や検出状況からSB204は近世の建物跡と考えられる。

#### SB205(第19図)

Ⅱ-1区西半部の北壁際に検出した東西棟の総柱建物と考えられる。この建物はSB204と重複しており、前後関係としてはSB204が先行しSB205が後出する。北半部は調査区から外れるため、南半部の約2/3を検出した。梁間1間以上、桁行3間の建物であるが、東辺部がSK203により切り込まれているため、東梁間の柱穴を欠く。なお、この建物は整理作業の過程で確認した建物である。

1間(2.6m)以上×3間(6.1m)、面積15.9㎡以上、主軸方位N28.0°Wを測る。柱間は梁間2.0m、桁行1.7～2.2mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形を呈し、径0.2～0.3m、深さ0.2～0.5mを測る。

柱穴SP03からは磁器・土師器片、SP14から染付片等が極少量出土している。89は磁器碗の口縁部片、90は土師器鉢の口縁部片である。91はSP12から出土したサヌカイト製の凹基式の石碾で、混入品であろう。

SP03はSB205の柱穴と重複しており、89・90の遺物がいずれの建物に属するのかが問題を残すが、SB205がSB204より後出していることを考慮すれば、両者はSB205に属する可能性が高い。出土遺物や検出状況からSB205は近世の建物跡と考えられる。

#### SB206(第20図)

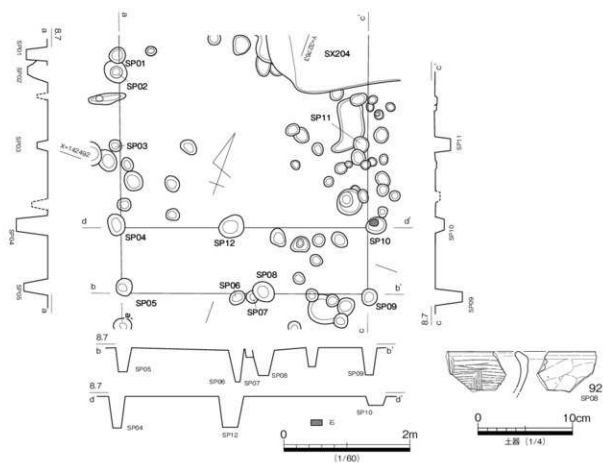
Ⅱ-1区中央部の北壁際に検出した南北棟の掘立柱建物である。身舎は梁間2間、桁行2間で南面に廂をもつ構造である。北側柱列の東端部はSX204により切り込まれており、北東端部の隅柱を欠く。なお、この建物は整理作業の過程で確認した建物である。

2間(2.5m)×2間(3.9m)、面積9.75㎡、主軸方位N22.0°Wを測る。柱間は梁間1.2～1.3m、桁行1.6～2.0mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形を呈し、径0.25～0.35m、深さ0.15～0.4mを測る。なお、SP10からは根石を検出した。

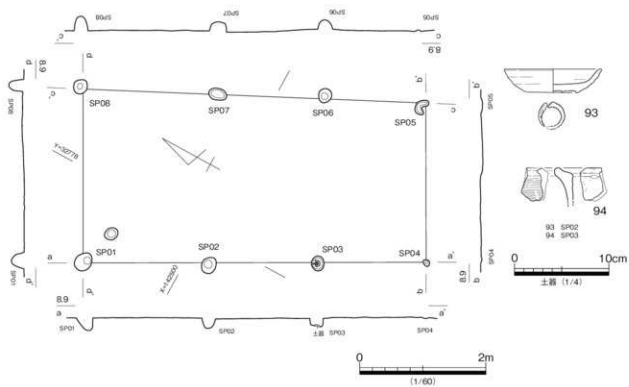
柱穴からは土師器細片が極少量出土した。92はSP08から出土した土師器摺鉢の口縁部片である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB206は中世後半の建物跡の可能性が高い。

#### SB207(第21図)

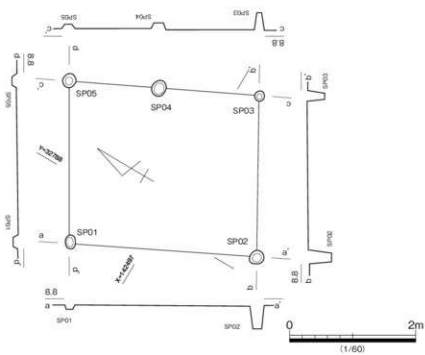
Ⅱ-1区中央で検出した南北棟の掘立柱建物で、削平を受け残りが悪い建物である。1間(2.5～2.8m)×3間(5.5m)、面積14.6㎡、主軸方位N26.0°Wを測る。柱間は梁間2.5～2.8m、桁行1.7m～2.0m



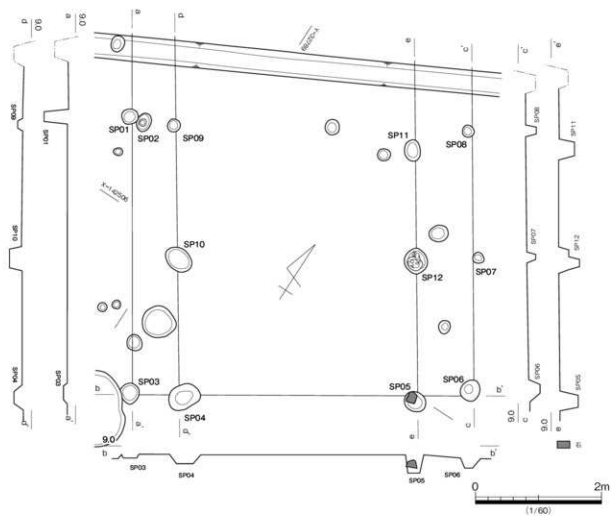
第20図 SB206平・断面、出土遺物



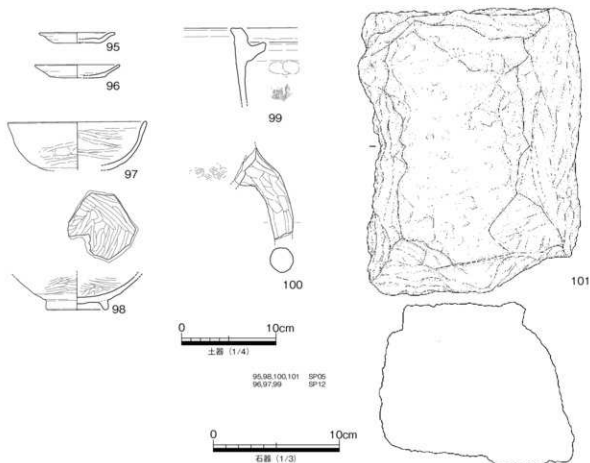
第21図 SB207平・断面、出土遺物



第22図 SB208平・断面図



第23図 SB209平・断面図



第24図 SB209出土遺物

を測る。柱穴掘方は円形ないし不整形を呈し、径0.1m～0.25m、深さ0.05m～0.25mを測る。

柱穴からは土師器足釜、陶器皿片等が極少量出土した。93はSP02から出土した陶器皿、94はSP03から出土した土師器足釜の口縁部片である。出土遺物や検出状況からSB207は近世の建物と考えられる。

#### SB208(第22図)

Ⅱ-1区中央で検出した小型で南北棟の掘立柱建物である。梁間1間、桁行2間の建物であるが、西側柱列の中間の1柱穴を欠く。

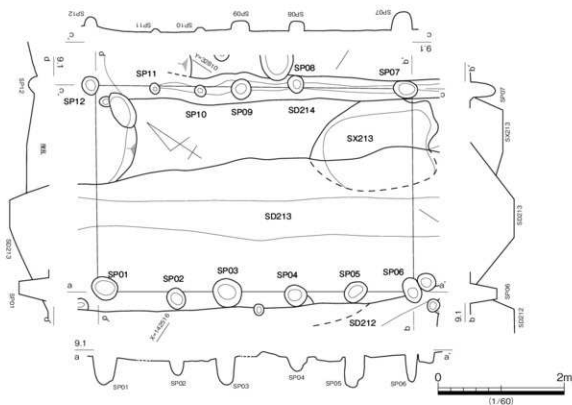
1間(2.5m)×2間(3.1m)、面積7.75㎡、主軸方位N27.0°Wを測る。柱間は梁間2.5m、桁行1.4～1.7mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.2m、深さ0.1～0.3mを測る。

柱穴からは中世の土師器細片が極少量出土した。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB208は近世の建物跡の可能性が高い。

#### SB209(第23・24図)

Ⅱ-1区中央部のSD210の西側に位置し、東西に廂をもつ南北棟の梁間1間、桁行2間以上の掘立柱建物である。北半部は調査区から外れるため、南半部の約2/3を検出した。

1間(3.8m)×2間(4.4m)以上、面積16.7㎡、主軸方位N34.0°Wを測る。柱間は梁間3.8m、桁行1.8～2.2m



第25図 SB210平・断面図

を測る。柱穴掘方は円形ないし不整形を呈し、径約0.2～0.45m、深さ0.2～0.4mを測る。

柱穴からは12世紀前半頃の土師器小皿・鉢・足釜、黒色土器椀とサヌカイト剥片等が出土した。特に南東隅のSP12・05からは小皿・足釜、黒色土器椀片等がまとまって出土した。95・98・100はSP05から出土した土師器小皿、黒色土器椀、土師器足釜片で、96・97・99はSP12から出土した土師器小皿、黒色土器椀、土師器羽釜の口縁部片である。101はSP05の下位から出土した、直方体状に整形された根石である。出土遺物や検出状況からSB209は12世紀前半以降の建物跡と考えられる。

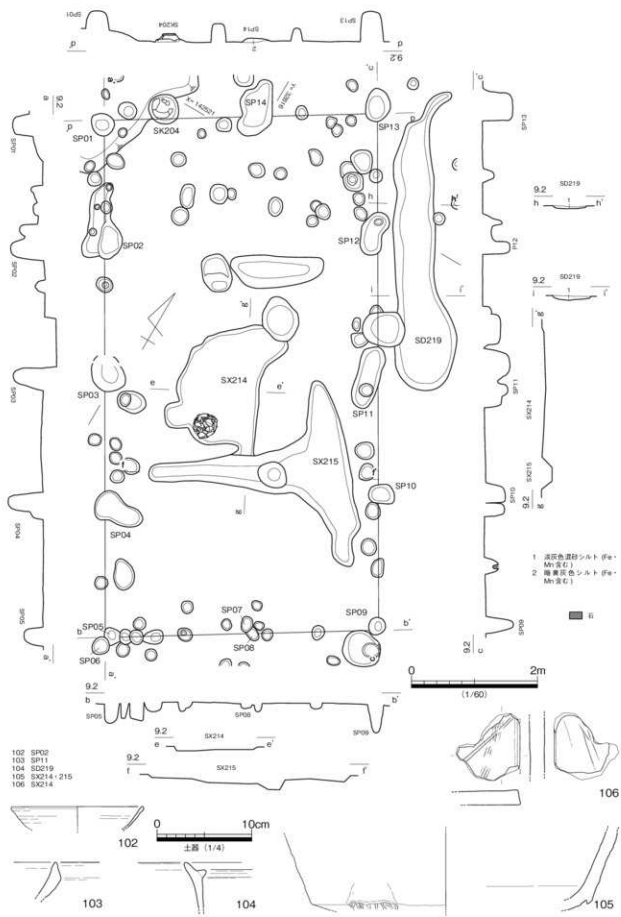
#### SB210(第25図)

Ⅱ-1区東半部に位置し、SD213・214と重複する南北棟の掘立柱建物である。西側柱列はSD213の上面、東側柱列はSD214の底面で検出していることから、SB210はSD213より後出し、SD214より先行する。なお、この建物は整理作業の過程で確認した建物である。

梁間1間、桁行5間の建物であるが、梁間の間隔が開きすぎることから、調査時に梁間中間の柱穴を見逃している可能性が高い。また、東側柱列では南半部の柱穴を欠くこともあるが、柱間はかなり不揃いである。

1間(3.3m)×5間(5.2m)、面積17.2㎡、主軸方位N34.0°Wを測る。柱間は梁間3.3m、桁行0.7～1.7mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形を呈し、径0.15～0.45m、深さ0.05～0.45mを測る。

柱穴からは中世土師器片、サヌカイトの剥片や石核等が少量出土した。出土遺物や検出状況からSB210は12世紀後半以降の中世後半頃の建物跡と考えられる。



第26図 SB211・SD219・SX214・215平・断面、出土遺物

SB211・SD219・SX214・215(第26図)

Ⅱ-1区東半部に位置し、SD213・214の東側で検出した南北棟の梁間2間、桁行4間の建物である。床面内に中世の浅い落ち込み状の遺構であるSX214・215と重複しているが、切り合わないので新旧関係は掴めない。東側柱列の東側には柱筋に合わせてSD219が隣接し、位置関係や検出状況からSD219はSB211の雨落ち溝と考えられる。

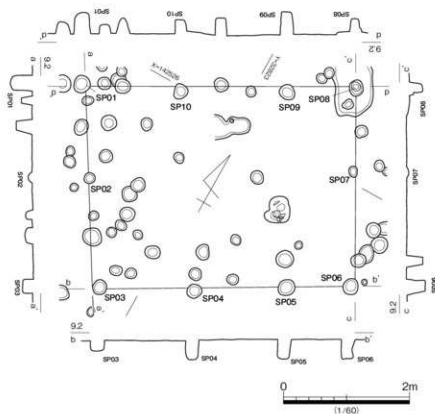
2間(4.4m)×4間(8.4m)、面積37.0㎡、主軸方位N295°Wを測る。柱間は梁間2.0m～2.3m、桁行1.6～2.2mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整楕円形を呈し、径0.2～0.9m、深さ0.1～0.45mを測る。柱穴の中でSP12・SP02・SP04等は不整形な楕円形状の柱穴であり、これらの柱穴は抜き取り穴と考えられる。

柱穴からは中世土師器杯・捏鉢、瓦片、サヌカイト片等が少量出土した。102は土師器杯、103は土師器鉢の口縁部片、104は土師器足釜の口縁部片である。出土遺物や検出状況からSB211は12世紀後半以降の中世後半頃の建物の可能性が高い。

SD219はSB211の東側柱列の東側に隣接して検出した、SB211の雨落ち溝と考えられる不整形な小溝である。削平を受けたものと考えられ残りが悪い。

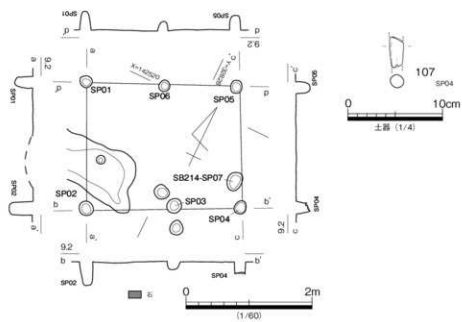
検出長約4.8m、幅約0.6～1.0m、深さ約0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で、埋土からは土師器甕・足釜、須恵器、備前甕等が少量出土した。

SX214・215はSB211の床面で検出した、不整形な落ち込み状の遺構である。削平を受けたものが残りが悪い。SX214の南半部には埋甕として用いられた、105の土師器火鉢の下半部が出土した。

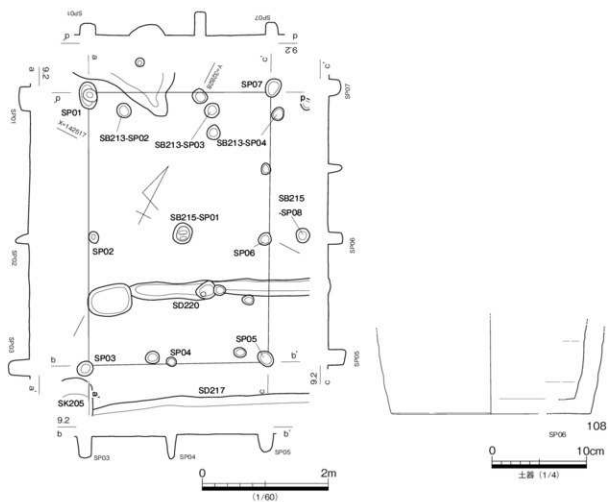


第27図 SB212平・断面図

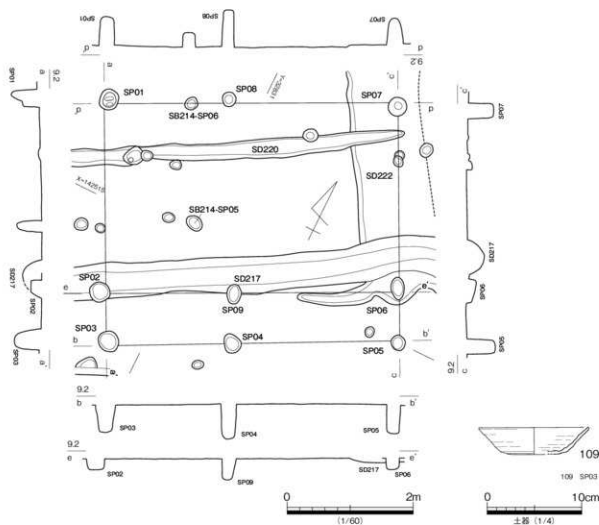




第28図 SB213平・断面、出土遺物



第29図 SB214平・断面、出土遺物



第30図 SB215平・断面、出土遺物

#### SB212(第27図)

Ⅱ-1区東半部の北壁近くに位置し、SB211の東側で検出した小型で東西棟の梁間2間、桁行3間の掘立柱建物である。

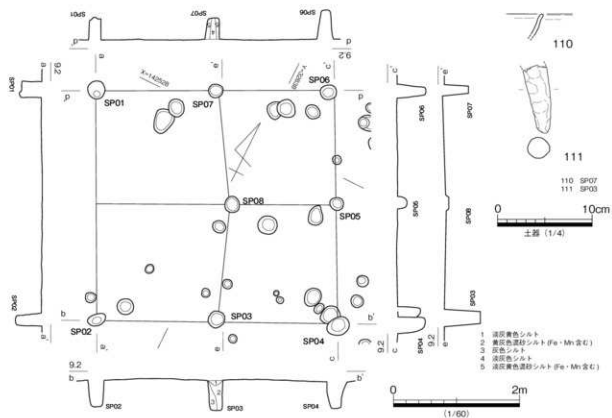
2間(3.2m)×3間(4.2m)、面積7.0㎡、主軸方位N60.0°E(N30.0°W)を測る。柱間は梁間1.3～1.9m、桁行1.0～1.5mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.2m、深さ0.15～0.35mを測る。

柱穴からは中世土師器の小皿・鍋片等が少量出土した。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB212は中世の建物の可能性が高い。

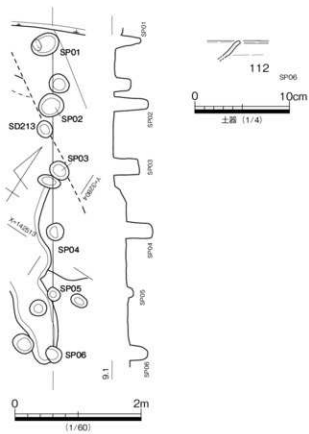
#### SB213(第28図)

Ⅱ-1区東半部中央付近に位置する小型で東西棟の梁間1間、桁行2間の掘立柱建物である。この建物はSB214の北辺と重複するが、柱穴が切り合わないので新旧関係は不明である。

1間(2.0m)×2間(2.45m)、面積4.9㎡、主軸方位N67.0°E(N23.0°W)を測る。柱間は梁間1.9～2.0m、桁行1.2～1.4mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.2m、深さ0.15～0.35mを測る。なお、SP04の底部には根石を検出した。



第31図 SB216平・断面、出土遺物



第32図 SA201平・断面、出土遺物

柱穴からは中世土師器足釜片等が極少量出土した。107はSP04から出土した土師器足釜の脚部片である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB213は中世の建物であろう。

#### SB214(第29図)

Ⅱ-1区東半部南寄に位置する南北棟の梁間2間、桁行2間の掘立柱建物である。北辺梁間の中間の柱穴を欠く。この建物はSB213の南辺と重複するが、柱穴が切り合わないので新旧関係は不明である。

2間(2.9m)×2間(4.3m)、面積12.5㎡、主軸方位N27.0°Wを測る。柱間は梁間1.3m～1.5m、桁行2.0～2.3mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.2～0.4m、深さ0.2～0.3mを測る。

柱穴からは中世土師器の細片や陶器壺片等が少量出土した。108はSP06から出土した備前焼壺の底部である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB214は中世の建物であろう。

#### SB215(第30図)

Ⅱ-1区東半部南壁際に位置する東西棟で南面廂をもつ梁間1間、桁行2間の掘立柱建物である。この建物はSB214やSD217と重複している。SB214とは柱穴が切り合わないので新旧関係は不明である。

1間(3.0m)×2間(4.7m)、面積14.1㎡、主軸方位N63.0°E(N27.0°W)を測る。柱間は梁間3.0m、桁行2.0～2.6mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.25～0.3m、深さ0.2～0.55mを測る。

柱穴からは土師器小皿・杯、サヌカイトの剥片等が出土した。109はSP03から出土した土師器杯である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB215は中世前半以降の建物跡であろう。

#### SB216(第31図)

Ⅱ-1区東半部のSD223の東側で検出した東西棟の総柱建物である。梁間2間、桁行2間の建物であるが、西梁間の1柱穴を欠く。

2間(3.7m)×2間(3.8m)、面積14.0㎡、主軸方位N64.0°E(N26.0°W)を測る。柱間は梁間3.7m、桁行1.6～2.0mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径0.15～0.25m、深さ0.1～0.6mを測る。

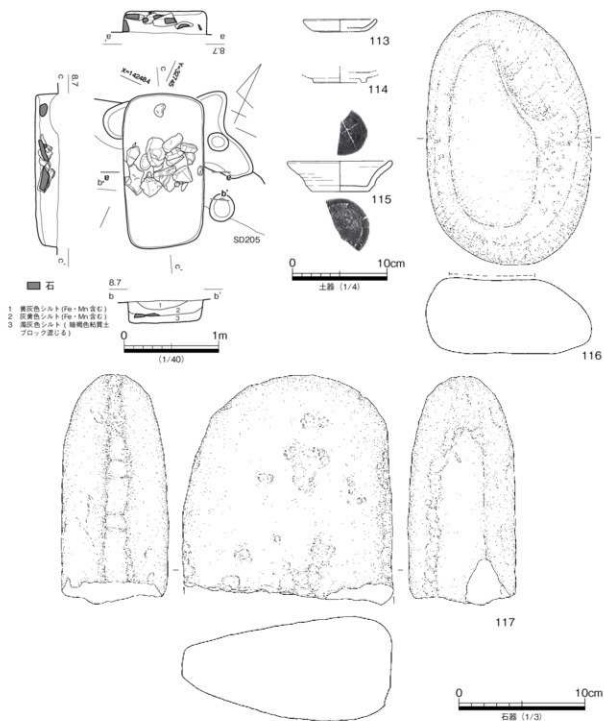
柱穴からは土師器杯・足釜、青磁片等が少量出土した。110は柱穴SP07から出土した土師器杯口縁部片である。111は土師器足釜の脚部片である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SB216は中世の建物跡であろう。

#### SA201(第32図)

Ⅱ-1区東半部に位置しSD212と重複する、南北方向の5間の横列である。北壁際に検出したため、北端部の様相は不確かであり、横列が北に延長する可能性もある。SD212との新旧関係は、構構の切り合いから、SD212が先行しSA201が後出する。

延長5.0m以上、柱間は約1.0m、主軸方位N34.0°Wを測る。柱穴掘方は円形ないしは不整形円形を呈し、径0.15～0.35m、深さ0.1～0.5mを測る。

柱穴からは土師器杯片、サヌカイトの剥片等が少量出土した。112はSP06から出土した土師器杯片である。



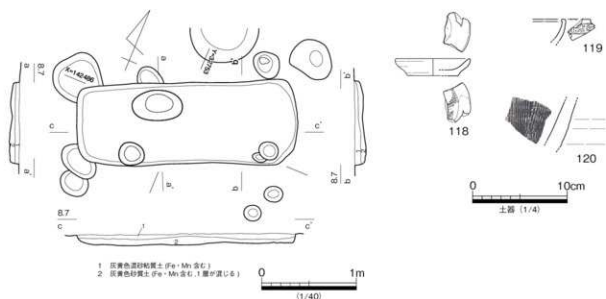
第33図 SK201 平・断面、出土遺物

(2) 土坑跡

SK201(第33図)

Ⅱ-1区西半部の北壁よりで、SD205を切り込んでいる土坑である。東にはSB203が隣接している。平面は南北方向に向いた隅丸長方形形状を呈し、底面は平坦で断面は側面が垂直気味の逆台形状を呈している。

長径約1.6m、短径約0.9m、深さ約0.25mを測る。埋土は上層が黄灰色・灰色のシルト、下層が濁灰



第34図 SK202 平・断面、出土遺物

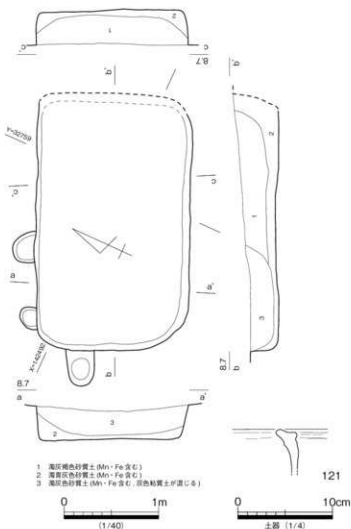
色のシルトからなる。中央部では埋土の中位から下位にかけて20～30cm大の礫を集積した状態で検出したが、意図的な石組みとは考えられない。集積の石材は花崗岩・安山岩・砂岩・サヌカイト等で、円礫・角礫が混在している。

埋土からは土師器・陶器・磁器等が少量出土した。113は土師器小皿で、114は白磁碗、115は陶器鉢である。116・117は集積の中に含まれる砂岩製の石皿と磨石である。出土遺物や検出状況からこの土坑は近世中頃の時期が考えられる。

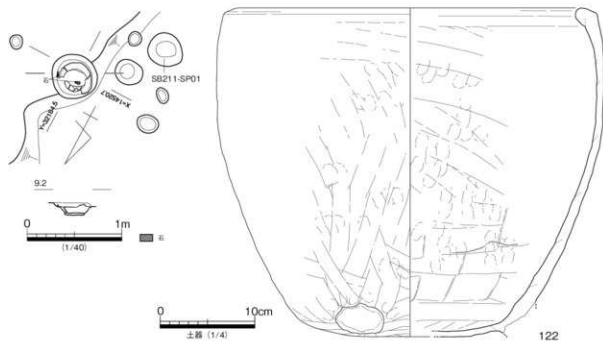
**SK202(第34図)**

Ⅱ-1区西半部、北壁よりで検出した土坑である。北にはSB203・204・205、南にはSD205が隣接する。平面は東西方向に向けた不整形な長方形形状、断面は浅い隅丸逆台形状を呈する。

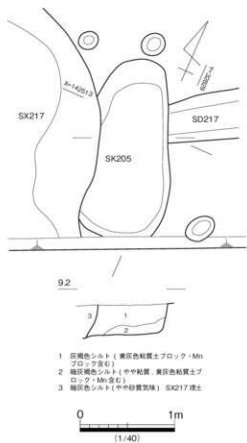
長径約2.35m、短径約0.9m、深さ約0.1mを測る。埋土は灰黄色の粘質土と砂質土を呈する。



第35図 SK203 平・断面、出土遺物



第36図 SK204 平・断面、出土遺物



第37図 SK205 平・断面図

埋土からは土師器・瓦質土器・陶器等が少量出土した。118は土師器小皿である。119は瓦質土器鉢の口縁部片で、外面には雷紋を施している。120は陶器摺鉢の体部下半部片である。出土遺物や検出状況からこの土坑は近世の遺構であろう。

#### SK203(第35図)

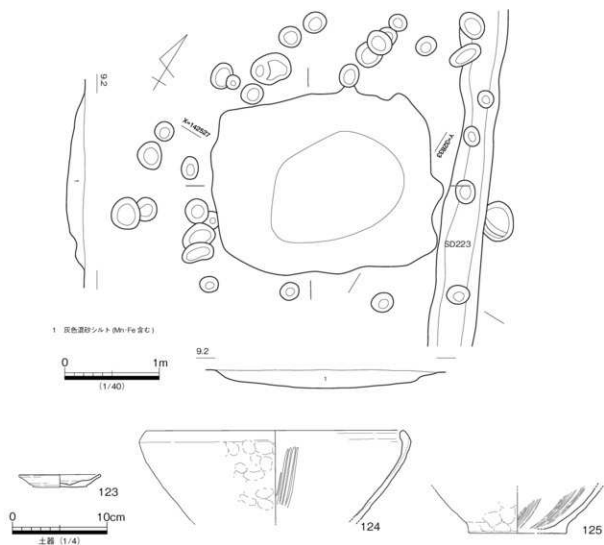
Ⅱ-1区中央部、北壁よりで検出した土坑である。平面は東西方向に向いた不整形な長方形、底面は平坦で、断面は掘方側面が垂直気味の逆台形状を呈する。

長径約2.55m、短径約1.6m、深さ約0.4mを測る。埋土は3層に分かれ、土師器・備前焼等が少量出土した。121は土師器足釜の口縁部片である。出土遺物が少なく時期判断は難しいが、SK203は中世頃の土坑であろう。

#### SK204(第36図)

Ⅱ-1区中央の北よりで検出した、SB211の柱列に隣接する土坑である。掘方からは大型の土師質火鉢のほぼ一固体分が出土した。出土状況から大型火鉢を埋納している埋壘状の土坑である。

平面は円形状、断面は浅い逆台形状を呈する。径約



第38図 SK206 平・断面、出土遺物

0.55m、深さ約0.15mを測る。埋土からは大型の土師質の火鉢、焼土塊等が出土した。122は土師質の大型火鉢である。ほぼ完形に近いが、底部の支脚を欠く。出土遺物からSK204は中世後半頃の土坑であろう。

#### SK205(第37図)

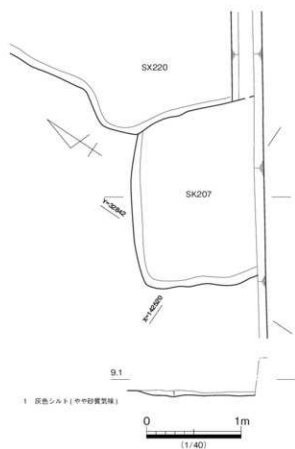
Ⅱ-1区東半部で検出した土坑である。西辺部はSX217により切り込まれている。平面は不整形な楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。

長径約1.9m、短径約0.75m以上、深さ約0.3mを測る。埋土は2層に分かれ上層は灰褐色シルト、下層は暗灰褐色のシルトである。埋土からは弥生土器、中世土師器、須恵器等が少量出土した。

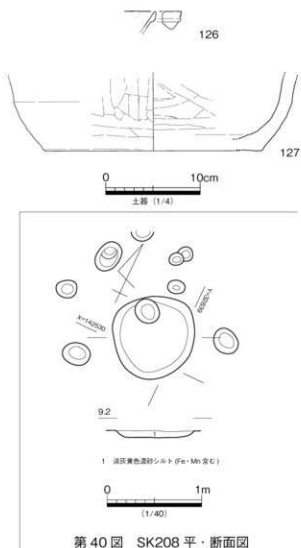
#### SK206(第38図)

Ⅱ-1区東半部、北壁より検出した比較的大型の土坑である。平面は凹凸のある不整形な長方形形状を、断面は幅広い皿状を呈している。





第39図 SK207 平・断面、出土遺物



第40図 SK208 平・断面図

長径約2.3m、短径約1.8m、深さ約0.2mを測る。埋土は灰色系のシルトで、土師器小皿・播鉢・足釜、備前焼片や焼土塊等が出土した。123は土師器小皿である。124・125は土師器播鉢の上半部と底部で、同一固体の可能性ある。出土遺物からSK206は14～15世紀頃の土坑と考えられる。

#### SK207(第39図)

Ⅱ-1区南東端部で検出した土坑である。南半部は対象地から外れるため、北半部の約1/2を検出した。なお、東半部はSX220に切り込まれているため残りが悪い。平面は不整形な方形形状、断面は浅い皿状を呈している。

長径1.9m以上、短径1.4m以上深さ約0.05mを測る。埋土は単層で灰色シルトを呈する。埋土からは白磁碗、備前焼壺等が少量出土した。126は白磁碗の口縁部片である。127は備前焼壺の底部である。

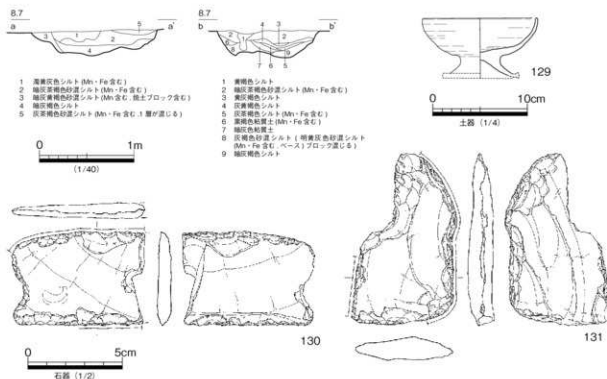
#### SK208(第40図)

Ⅱ-1区東端部で検出した土坑である。平面は円形状、断面は浅い皿状を呈している。

径約0.9m、深さ約0.07mを測る。埋土は単層である。埋土からは土師器小皿等が少量出土した。



第 41 図 SD201 断面、出土遺物



第 42 図 SD202 断面、出土遺物

### (3) 溝状遺構

#### SD201(第 41 図)

II-1 区西端部で検出した、北西方向へ直線状に延びる溝状遺構である。南北両端部は対象地の外へ延びる。東には約 1.0m 離れて、SD202 が同方向に配されている。なお、この溝跡は SB201 に切り込まれており、前後関係としては SD201 は SB201 より先行する。

検出長 11.0m、幅 0.8～1.2m、深さ約 0.5m、方位は N40.5° W を測る。断面の形状は不整形で幅広い U 字状を呈する。埋土は 10 数層に細分できる。堆積状況から少なくとも 1 回以上の改修作業がなされたものと考えられる。

埋土からは弥生土器の細片が数点出土した。128 は弥生時代中期頃の壺の底部で、この土器が SD201 の時期を示す可能性もあるが、資料が少なく判断は難しい。

#### SD202(第42図)

Ⅱ-1区西端部で検出した、北西方向へ直線状に延びる溝状遺構である。南北両端部は対象地外へ延びる。西には約1.0m離れて、SD201が同方向に延びる。また、北端部ではSD205を切り込んでいる。

検出長11.0m、幅1.1～1.4m、深さ約0.3m、方位はN40.0°Wを測る。断面の形状は改修によるものか底面に凹凸が認められ場所によって形状が異なる。埋土は約9層に細分できるが、概ね灰色系のシルトが主体を占め、堆積状況や断面の形状から少なくとも3回程度の改修がなされたものと考えられる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器、サヌカイト製の石庖丁・削器等が少数出土した。129は7世紀前半の須恵器高杯でこの高杯がSD202の埋没時期を示しているものと考えられる。130・131はサヌカイト製の石器で、混入品であろう。131は横長剥片を素材にした削器である。外周の稜線のツブレ痕が顕著に認められることなどから、おそらく打製石庖丁を転用したものであろう。130は打製石庖丁片である。表裏両面伴に素材面を大きく残し、素材が横長状の剥片であることが解る。

#### SD203(第43図)

Ⅱ-1区西端部で検出した、北西方向へ直線気味に延びる溝状遺構である。西には、主軸の向きは幾分異なるが、SD201・202が同方向に配されている。南北両端部は対象地の外へ延びており、北半部ではSD205、南半部ではSD204に切り込まれていることから、前後関係としてはSD203は、SD205・SD204より先行する。

検出長11.0m、幅0.8～1.3m、深さ約0.3m、方位はN61.0°W(N29.0°E)を測る。断面はハの字状に開いたU字状を呈している。埋土は灰色系シルトを呈し、弥生土器・須恵器、サヌカイト製の石鏃等が少数出土したが、出土した須恵器の数は少なく混入の可能性が高い。

133は弥生時代前期末～中期初頭頃の甕である。132は7世紀前半の須恵器杯片で混入品の可能性がある。134はサヌカイト製の凹基式の石鏃である。出土遺物が少ないので問題もあるが、SD203は弥生時代前期末～中期初頭頃の可能性がある。

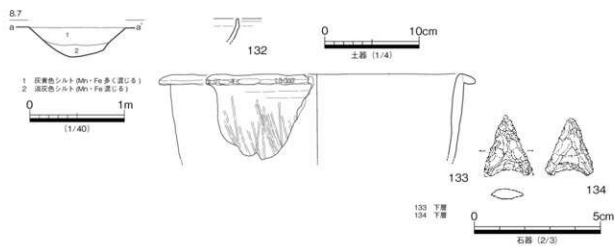
#### SD204(第44・45図)

Ⅱ-1区西端部で検出した、西へ湾曲気味に延びる南北方向の不整形な溝状遺構である。南北両端部は対象地外へ延び、SD203・205、SX201と重複している。SD204と周囲の遺構との関係を整理すれば、SD204はSD203より後出し、SX201より先行する。なお、SD205との関係については、検出状況からは不明瞭である。

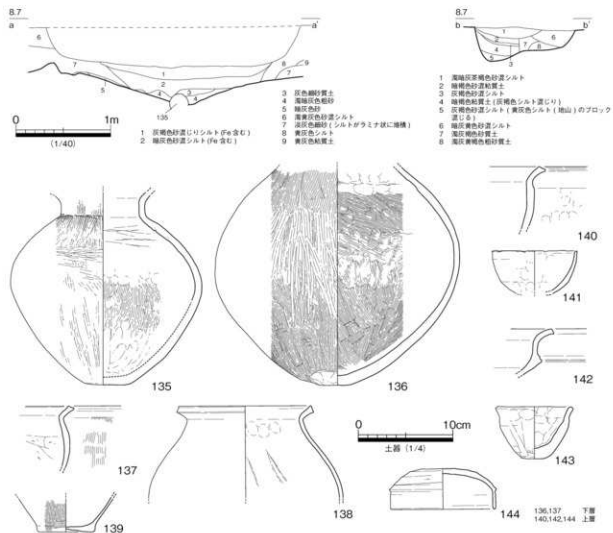
SD204とSD205の合流部は、平面の形状は幅広で、底面は他の箇所比に約0.3m程下がっている。SD205との関係は、調査時において明瞭な切合い関係を掴めてはいないが、検出状況や出土遺物からSD204はSD205を切り込んでいる可能性がある。

検出長12.0m、幅1.0～2.5m、深さ0.4～0.8mを測る。断面の形状は改修によるものか底面に凹凸が認められるが、概ね幅広なU字状を呈している。埋土は複数層に分かれ、堆積状況から3度以上の改修が認められる。

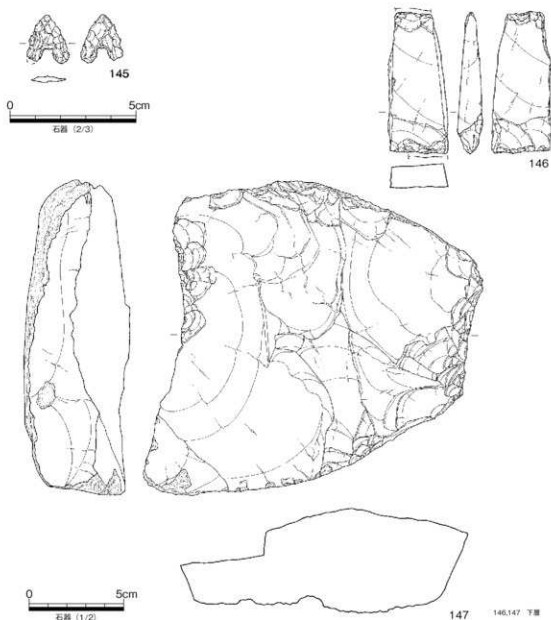
埋土からは弥生土器・須恵器、サヌカイト製石器等が出土した。135～143は弥生時代中期後半・後期後半頃の土器である。135・136は口縁部を欠く、後期後半新相頃の甕である。137・138は後期後半頃の甕上半部である。139は中期後半の甕底部である。140・141は鉢、142は高杯、143はミニチュア



第 43 図 SD203 断面、出土遺物



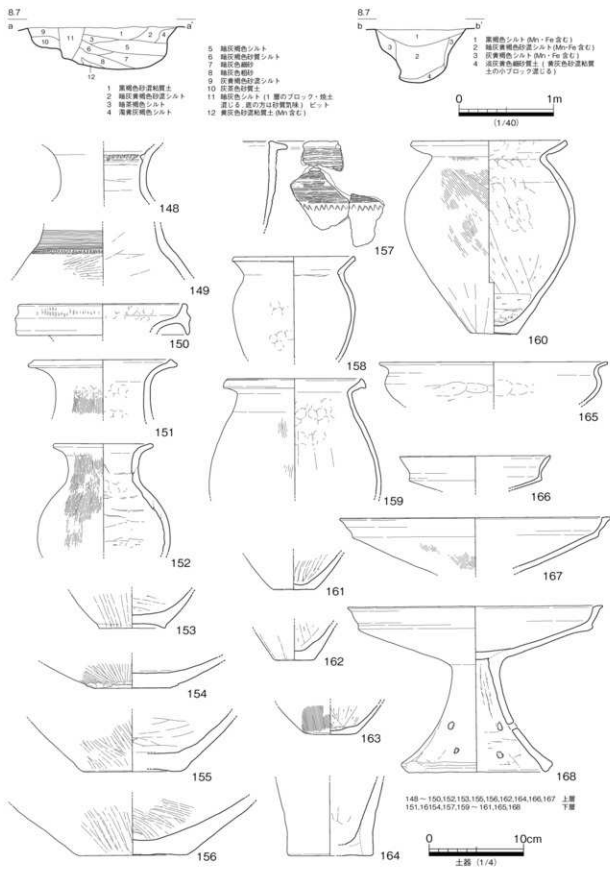
第 44 図 SD204 断面、出土遺物 (1)



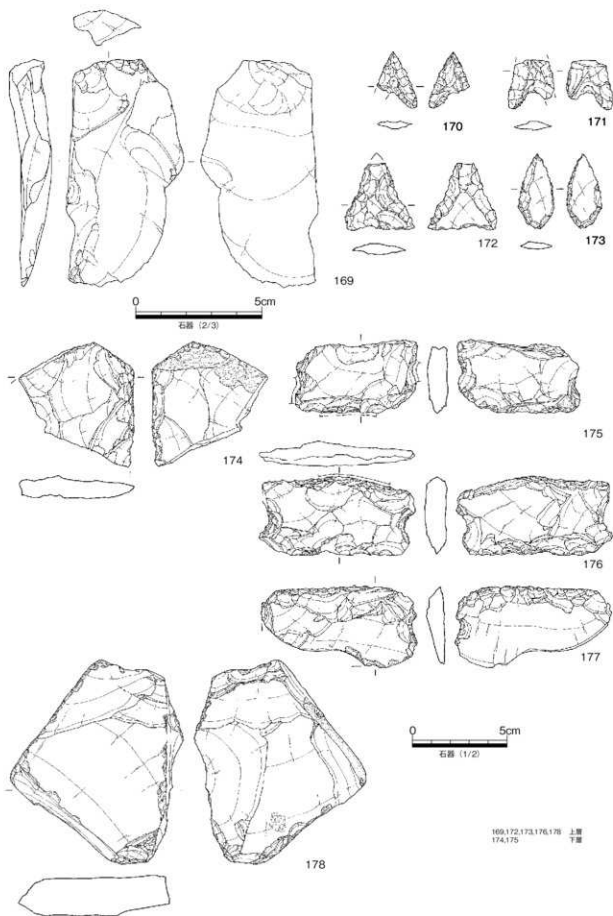
第45図 SD204 出土遺物(2)

土器である。144はTK47併行の須恵器杯蓋である。須恵器の資料は少なく混入品であろう。

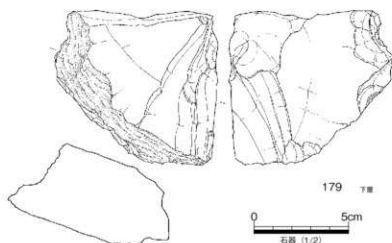
145～147は出土した石器類である。145は凹基式の石核である。146は裁断面をもつ楔形石器で、おそらく、石斧ないし石庖丁の転用品であろう。147は大型の石核である。形状や剥取られた剥片の大きさから推定して、石核素材を剥取ることを目的とした石核と考えられる。背面は素材の礫面を顕著に残し、腹面を作業面としている。側面には背面側からの打撃により平坦打面を形成し、最終段階の剥片剥離はこの打面からなされているが、他方向からの剥片剥離痕も顕著に認められる。作業面に残る剥片剥離痕は複数認められるが、最大のもでは、長さ8.5cm・幅15.0cmを測り、かなり大型の目的剥片を剥離したことが推定される。以上の諸点から147は、時代は異なるが、瀬戸内技法の盤状剥片石核のような石核と考えられる。出土遺物からSD204は弥生時代後期後半頃に埋没した溝跡と考えられる。



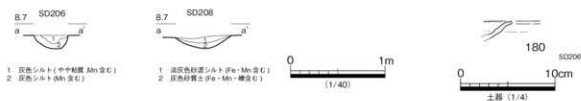
第46図 SD205 断面、出土遺物 (1)



第 47 図 SD205 出土遺物 (2)



第48図 SD205出土遺物(3)



第49図 SD206・208断面、出土遺物

### SD205(第45～48図)

Ⅱ-1区西半部で検出した、調査区の対角線状に東西方向へ縦断して流れる溝状遺構である。東西両端部は対象地外へ延びる。西端部ではSD201・202・203・204と重複している。検出状況や出土遺物から、SD201・202・203・204との前後関係を整理すれば、SD205はSD201・202より先行し、SD203より後出する。なお、SD204との関係については、検出状況からは不明瞭である。

検出長65.0m、幅0.6～1.5m、深さ約0.4～0.8m、方位はN77.0°E(N13.0°W)を測る。断面は地点により異なり、幅広や、幅狭のU字状を呈するところに分かれる。埋土は十数層に細分できる。

埋土からは弥生土器やササカイト製の石器が比較的多量に出土した。出土した弥生土器は、弥生時代前期・中期・後期を含むが主体となるのは後期前半新相頃の土器である。

148は中期前半、149・153は弥生前期後半頃の壺、150・151は後期後半古相頃の壺の口頸部である。150は複合口縁の壺で、外面には擬凹線文を明瞭に残している。154・155・156は壺の底部である。

169～179はササカイト製の石器類である。169は風化がかなり進んでいる不整形な縦長状の剥片である。この剥片は風化の進行状況や形状から縦長剥片石核調整剥片と考えられ、旧石器に属する可能性が高い。打面は平坦打面を呈し、側面には平坦な石核面を残している。170・171・172・173は石鎌である。凹基・凸基・平基等の種類に分かれる。174は比較的大型の刮器片である。175・176・177は小型の打製石庖丁である。177は刃部を大きく欠いて残りが悪いが、表裏両面共に素材面を大きく残し、素材が横長状の剥片であることが解る。178・179は表裏面には平坦な分割面と剥片剥離痕、側面は折面ない



しは礫面を呈し、全体の形状は比較的幅のある板状の素材で、石核の範疇で捉えられる。出土遺物からSD205は弥生時代中期頃に開削された可能性があるが、埋没したのは弥生時代後期前半頃の溝跡と考えられる。

#### SD206(第49図)

Ⅱ-1区西半部で検出した、条里方向に類似する南北方向の直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びており、北半部では東西方向へ分岐する小溝を検出している。東には、SD207・208が同方向に延びる。この溝跡は北半部でSD205を切り込んでおり、前後関係としてはSD205より後出する。

検出長128m、幅約0.3m、深さ約0.15m、方位はN19.0°Wを測る。断面は浅いU字状を呈している。埋土は灰色シルトを呈する。埋土からは土師器、近世の陶器等が少量出土した。180は唐津焼の皿片である。出土遺物からSD206は近世の溝跡であろう。

#### SD208(第49図)

Ⅱ-1区西半部で検出した、条里方向に類似する南北方向の直線溝である。南両端部は対象地外へ延びており、北半部は調査区中央で途切れている。西には同方向に延びるSD206が、約12.0m隔てて位置する。

検出長7.0m、幅約0.55m、深さ約0.1m、方位はN20.0°Wを測る。断面は浅いU字状を呈している。埋土は灰色系のシルトないし砂質土からなる。埋土から遺物は出土していないが、検出状況からSD206等の条里方向に向く近世の溝跡と類似した時期が考えられる。

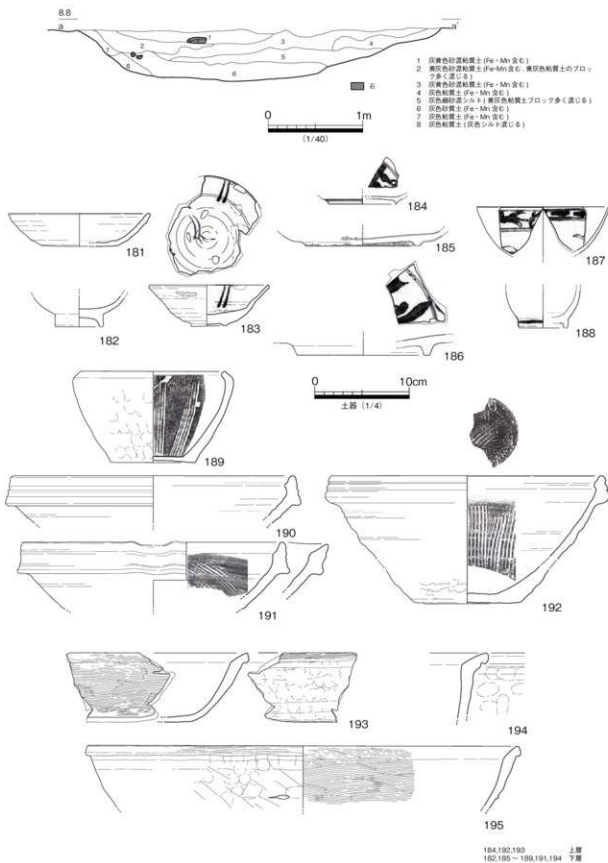
#### SD209(第50～53図)

Ⅱ-1区中央部で検出した、条里方向に類似する南北方向の大型の直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びており、南半部ではSD205を切り込んでいる。なお、この溝跡の西にはSD206・208、東にはSD210・213等の溝跡が、ほぼ同一方向に延びている。

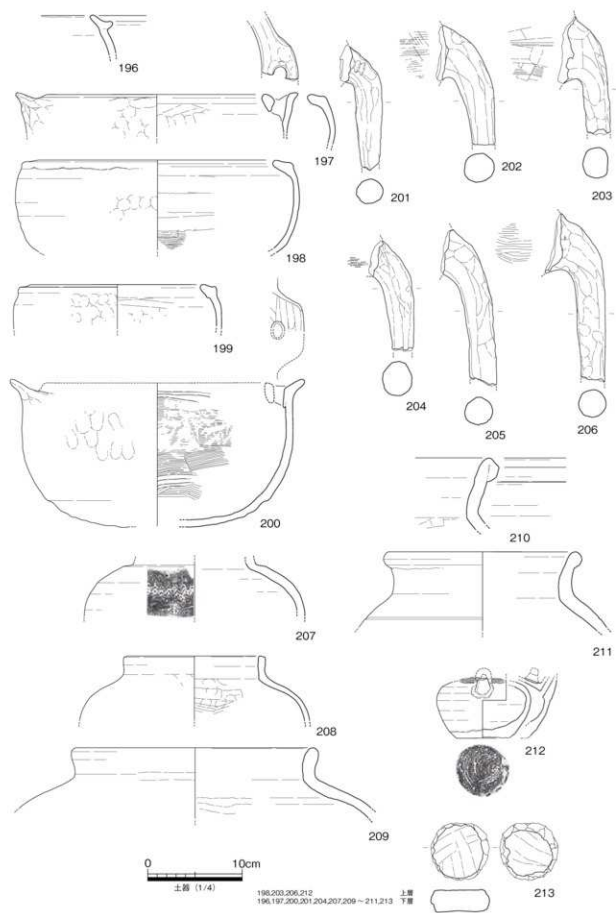
検出長138m、幅約3.8m、深さ約0.55m、方位はN25.0°Wを測る。断面は幅広で浅いU字状を呈している。埋土は数層に分かれるが、主になるのは灰黄色粘質土及び灰色砂質土である。埋土からは土師器杯・摺鉢・足釜・鍋・壺・染付碗・皿、円盤状土製品、平瓦等が多量に出土した。

184・185・186は伊万里系の染付皿底部で、この溝跡の最終埋没時期を示す遺物になる。181は土師器杯、182・183は陶器碗と皿で、183は所謂絵唐津の皿である。187は染付碗である。185・186・187・188は下層から出土しており、SD209の埋没時期を示す遺物になる。189・190・191・192は摺鉢で、189は土師器の摺鉢、190・191・192は陶器の摺鉢である。214は土師器の脚付大型火鉢の底部片である。193・194・195は土師器鍋である。196・197・198・199・200は土師器の足釜体部、201・202・203・204・205・206は足釜脚部である。209は短頸が付く土師器釜の上半部である。212は陶器の土瓶、210・211は須恵器と陶器の壺口縁部、213は須恵質の円盤状土製品である。216は軒丸瓦、217・218丸瓦、219・220・221・222・223・224・225・226・227・228は平瓦で布目や縄目タタキを残すものもある。

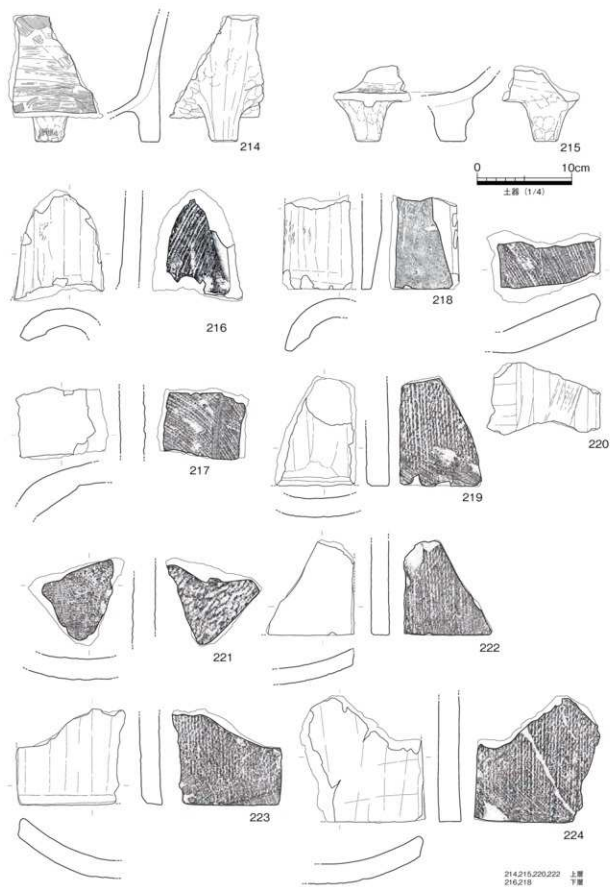
229～231はサヌカイト製の石器類で、周辺のSD205等から混入したものであろう。229は石庵丁片である。230は肉厚な剥片を素材にした石核である。231は形状から推定して石核転用の敲石と考えられる。楕円形状の形状を呈し、多方向からの加撃による剥離痕がほぼ全面に及んでいる。出土遺物から



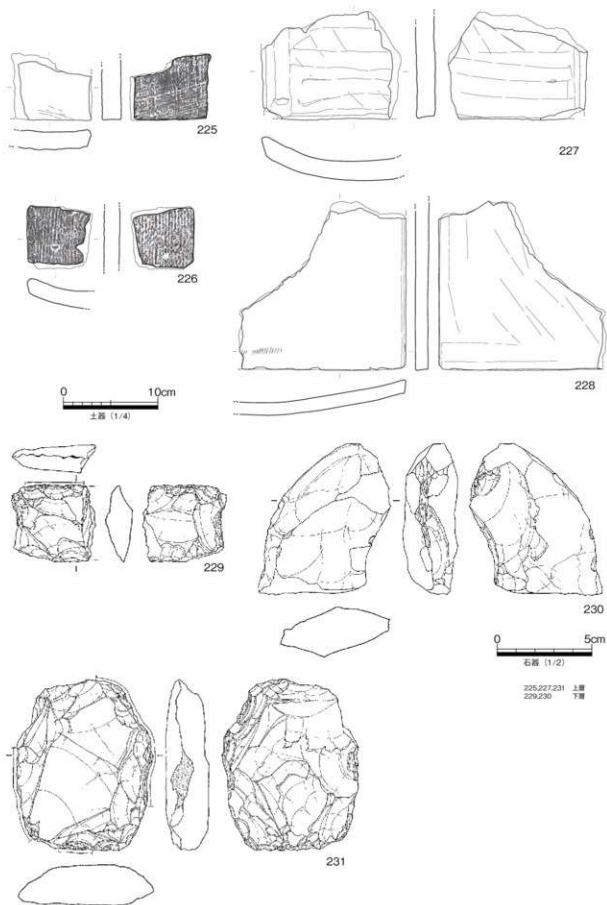
第50図 SD209 断面、出土遺物 (1)



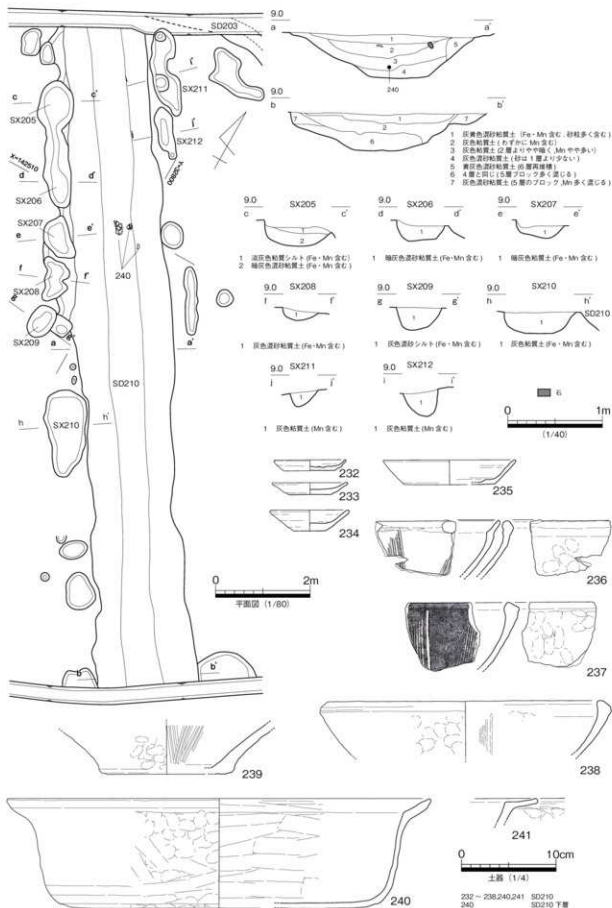
第 51 図 SD209 出土遺物 (2)



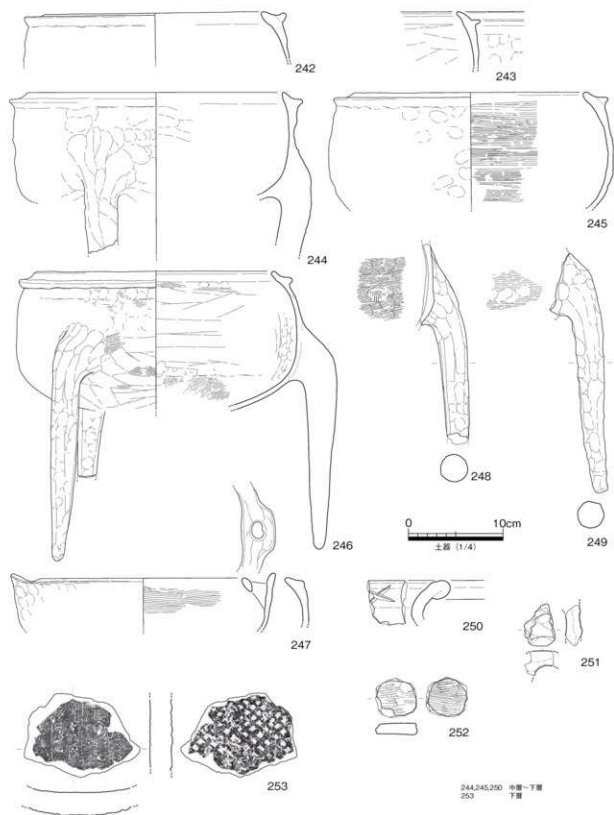
第 52 図 SD209 出土遺物 (3)



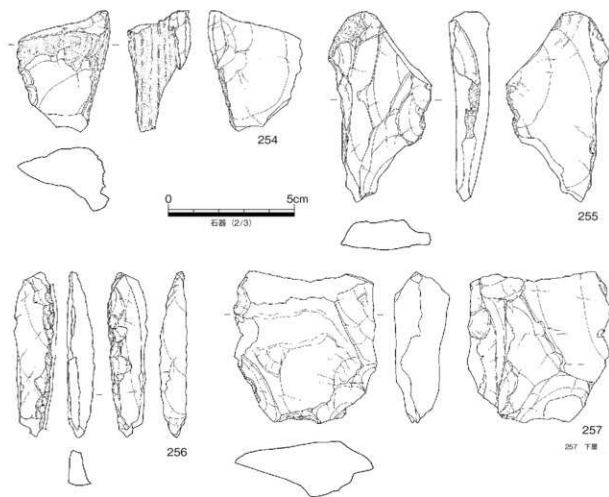
第 53 図 SD209 出土遺物 (4)



第54図 SD210・SX205～212平・断面、出土遺物(1)



第 55 図 SD210 出土遺物 (2)



第56図 SD210出土遺物(3)

この溝跡は近世前半に埋没したものと考えられる。

#### SD210(第54～56図)

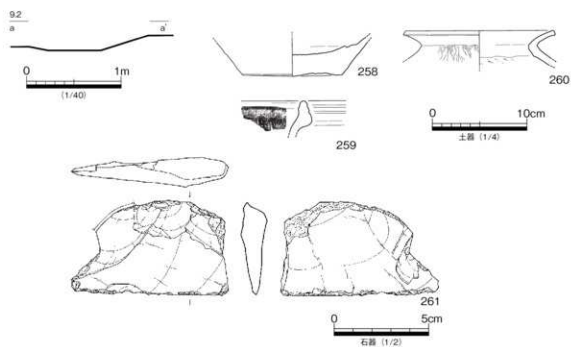
Ⅱ-1区中央部で検出した、条里方向に類似する南北方向の大型の直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びている。この溝跡の西にはSD209、東にはSD213が同方向に延びる。

検出長14.4m、幅約2.0m、深さ約0.4m、方位はN34.0°Wを測る。断面は上部が開いた逆台形状を呈している。埋土は灰色系の粘質土からなる。

埋土からは土師器小皿・杯・摺鉢・足釜・鍋、亀山焼甕、備前焼甕、平瓦、円盤状土製品等が多量に出土した。232・233は土師器小皿である。234・235は土師器杯で13世紀後半頃の土器であろう。236・237・238は土師器摺鉢の上半部で、236は片口の摺鉢である。240・241は土師器鍋、242・243・244・245・246・247・248・249は土師器足釜の資料で、244・246等は比較的残りが良い稀な土器である。252は円盤状土製品である。250は備前焼甕の口縁部片である。内面には窯印か「×」印の線刻を施している。251は羽口の細片である。253は布目と格子タキを残す平瓦片である。

254～257はサヌカイト製の石器類で、周辺の遺構から混入したものであろう。254は板状素材から





第 57 図 SD211 断面、出土遺物

剥出した剥片である。背面には礫面を多く残し、打面は平坦打面を呈する。255 は横長状の剥片である。256 は楔形石器の削片である。257 は交互剥離の横長剥片石核である。この石核は比較的風化が進んでいることから、旧石器に属する可能性がある。出土遺物から SD210 は中世後半の 13 世紀後半以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SD211(第 57 図)

Ⅱ-1 区中央部の SD210 東約 3.0m に位置し、SD210 と並走する南北方向の溝である。削平を受け残りが悪い。検出長約 3.0m、幅約 1.2m、深さ約 0.2m を測る。断面は幅広く浅い皿状を呈している。

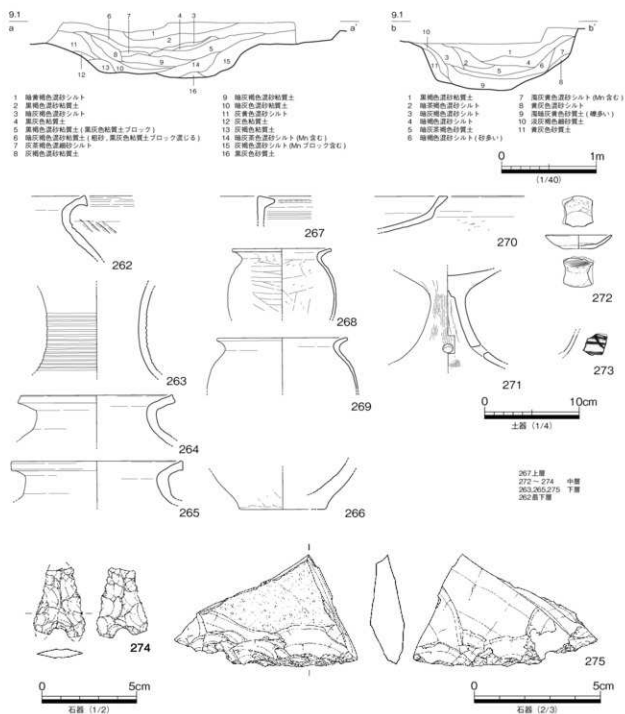
埋土からは弥生土器壺・甕、備前焼播鉢、サヌカイト製石器等が出土した。258・260 は弥生後期前半頃の壺の底部と甕の口縁部片で混入品である。259 は備前焼の摺鉢口縁部片で、SD211 の時期を示す遺物である。261 は横長剥片を素材にした打裂石庖丁である。出土遺物から SD211 は中世に埋没した溝跡と考えられる。

#### SD212(第 58 図)

Ⅱ-1 区中央部で検出した、北西方向へ延びる大型の直線溝である。北端部は対象地外へ延びており、南半部は SD213 により切り込まれている。平面は凹凸が著しく不整形である。

検出長約 16.0m、幅約 2.0～3.0m、深さ約 0.7m、方位は N54.0° W を測る。断面は上部が開いた逆台形状を呈している。埋土は黒褐色系の粘質土や暗灰色系のシルトからなる。堆積状況から 2 回以上の改修がなされた可能性が高い。

埋土からは、弥生時代前期末・中期後半・後期前半等の弥生土器とサヌカイト製の石器類及び数点の土師器小皿、染付椀等が出土した。主体を占めるのは、弥生時代後期後半古相の遺物で、中世後半～近



第58図 SD212断面、出土遺物

世の遺物は混入であろう。

262～271は弥生土器である。262・263は中期後半～後期初頭頃の壺である。267は弥生時代前期末～中期初頭頃の甕口縁部片である。264・265・266・268・269・270・271は弥生時代後期前半の資料である。264・265は壺上半部、268・269は下半部を欠く甕、270・271は高杯である。272・273は土師器小皿と束付椀で混入したものであろう。274は先端部を欠く凹基式の石鏃である。275は肉厚な横長状の剥片を素材にした削器に分類したが、形状から何らかの未製品の可能性もある。出土遺物からSD212

は弥生後期前半頃に埋没した溝跡と考えられる。

#### SD213(第59～61図)

Ⅱ-1区中央部で検出した、条里方向に類似する南北方向の大型直線溝である。西約9.0mの位置には同規模で同方向のSD212が所在する。南北両端部は対象地外へ延びており、南半部ではSD212・215と重複し、前後関係としてはSD213はSD212・215より後出する。

検出長14.0m、幅1.5～2.5m、深さ約0.6m、方位はN37.0°Wを測る。断面は上部が開いた逆台形状を呈している。埋土は数層に分かれ堆積状況から2回以上の改修が考えられる。なお、溝底直上からは和泉型瓦器碗が5個体以上出土した。

埋土からは弥生土器壺・高杯、土師器小皿・杯、瓦器碗、白磁碗、亀山焼甕等が出土した。主体を占めるのは中世前半の遺物で、弥生時代後期前半の遺物が少量出土しているが、SD213と重複しているSD212からの混入遺物であろう。

276・277は弥生後期前半の甕と高杯脚部で、重複しているSD212からの混入品であろう。278・279・280・281・282・283・284は土師器小皿、285・286・287・288・289・290・291は土師器杯、292は須恵器碗である。293・294・295・296・297は12世紀後半頃の和泉型の瓦器碗で、SD213の大まかな埋没時期を示す遺物になる。298は近世の磁器碗であり、混入の可能性が高い。299は須恵器甕の口頸部、300は平坦で厚みのある軟質の土製品で、胎土内に植物繊維痕を明瞭に残している。形状から推定して建物の壁材片と考えられる。

301～303はサヌカイト製の石器で、重複しているSD212からの混入品であろう。301・302は凹基式の石織である。303は敲石である。円盤状を呈し剥離痕が全面におよび、全周するエッジにはツブレ痕が顕著に認められる。出土遺物からSD213は、12世紀後半以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

#### SD214(第60・62図)

Ⅱ-1区中央部のSD213東約1.0mに位置し、SD213と並行して延びる南北方向の小溝で、SD213と類似する時期の溝跡と考えられる。

検出長約10.5m、幅約0.3m、深さ約0.1m、方位はN36.0°Wを測る。断面は浅いU字状を呈している。埋土から弥生土器甕、土師器杯、須恵器甕等が少量出土したが、弥生土器は混入品と考えられる。304は土師器杯、305は須恵器甕の体部片である。出土遺物からSD214は、12世紀後半以降に埋没した溝跡と考えられる。

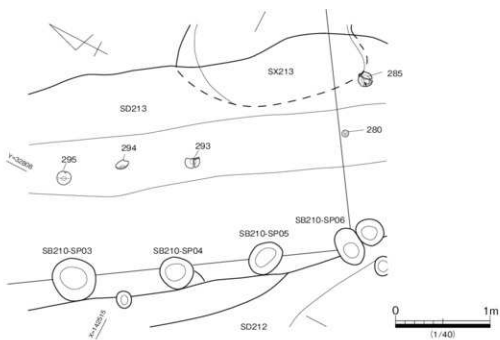
#### SD215(第60・62図)

Ⅱ-1区中央部で検出した、北西方向へ延びる直線溝である。西にはほぼ同時期で同方向に延びるSD212が位置する。南端部は対象地外へ延びており、北半部はSD213により切り込まれている。

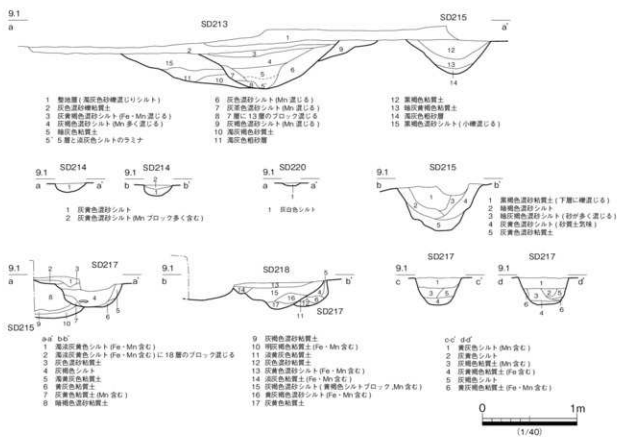
検出長約10.0m、幅0.7～1.3m、深さ約0.4m、方位はN50.0°Wを測る。断面は上部が開いたU字状を呈している。埋土は黒褐色系の粘質土や灰色系のシルトからなる。

埋土からは弥生時代後期後半の弥生土器や、サヌカイト製石器が出土した。306・307は弥生時代後期後半の甕上半部、308・309は甕底部片である。310は弥生時代後期後半の蓋または大型鉢の底部である。

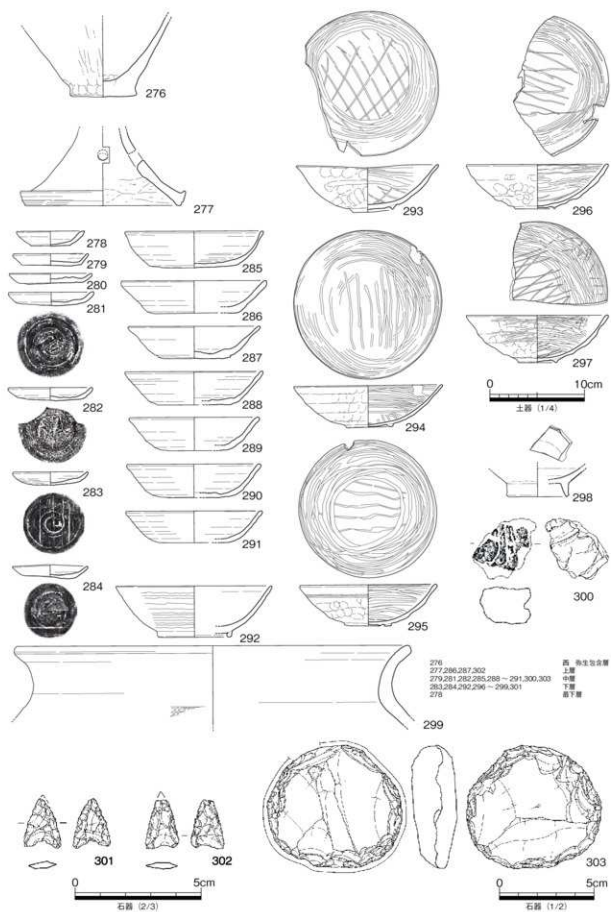
311はサヌカイト製の削器である。素材には比較的大型の剥片を用い、そのエッジに直線状の刃部を



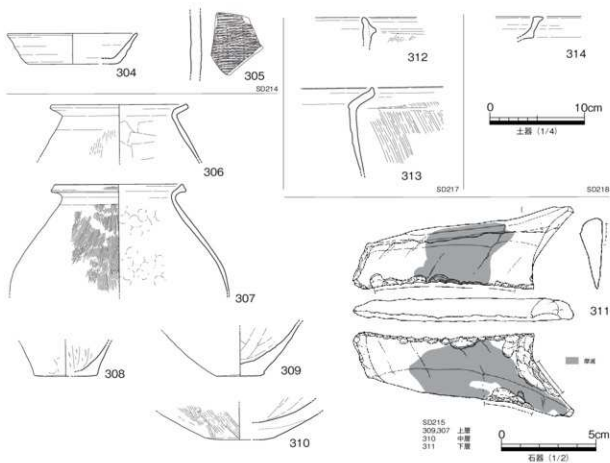
第 59 図 SD213 平面図



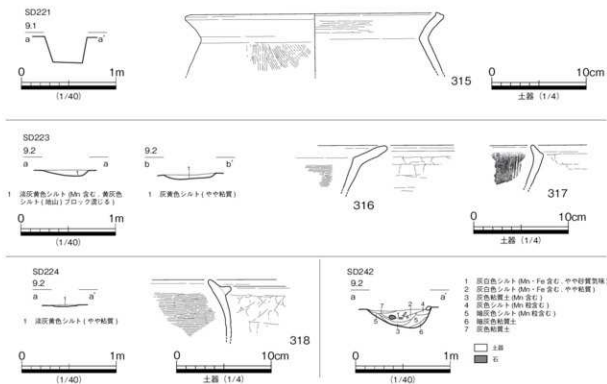
第 60 図 SD213～SD215・217・218・220 断面図



第 61 圖 SD213 出土遺物



第62図 SD214・215・217・218 出土遺物



第63図 SD221・223・224・242 断面、出土遺物

形成している。なお、表・裏面には摩滅痕が顕著に認められる。出土遺物からSD215は、弥生時代後期後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

#### SD217(第60・62図)

Ⅱ-1区東半部の南壁際で検出した溝状遺構である。東西方向へ直線的に延びているが、東端部は南東へ曲がる。中央部ではSD218、SK215、SX216・217等に切り込まれているが、東端部ではSX218を切り込んでいる。なお、この溝跡から北へ約1.8m隔てた箇所にはSD216・220がSD217と並行し東西に配されており、両者は関連する溝跡の可能性が高い。

検出長約21.0m、幅約0.6m、深さ約0.3m、方位はN59.0°E(N31.0°W)を測る。断面は上半部が開くU字状を呈している。埋土は複数層に分かれ、灰黄色系のシルトが主体を占める。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・陶器片等が少量出土したが、検出状況から弥生土器は混入品と考えられる。312は土師器足釜の口縁部片、313は土師器甕である。出土遺物からSD217は中世後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

#### SD218(第60・62図)

Ⅱ-1区東半部の南壁際で検出した溝状遺構である。北に向かって円弧状に配されている。北辺部ではSD217と重複しているが、その前後関係についてはSD218が後出する。

検出長約5.0m、幅約0.9m、深さ約0.3mを測る。断面は浅いV字状を呈している。埋土は複数層に分かれるが、灰褐色系シルトが主体を占める。埋土からは弥生土器が数点出土したが、おそらく混入品であろう。314は弥生時代後期前半の高杯口縁部片である。

#### SD219(第26図)

Ⅱ-1区東半部のSB211の東側柱列に隣接して検出した不整形な小溝である。検出状況からSB211の雨落ち溝と考えられる。

検出長約4.8m、幅約0.6～1.0m、深さ約0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で淡灰色砂混シルトを呈する。埋土からは土師器甕・足釜、須恵器、備前焼片等が少量出土した。

#### SD220(第60図)

Ⅱ-1区東半部のSD217から北へ約1.8m隔てた地点に、SD217と並行し東西方向に配された溝状遺構である。削平を受け残りがかなり悪い。検出状況からSD217と同時期で同性格の溝状遺構と考えられる。

検出長約5.5m、幅約0.3m、深さ約0.05m、方位はN59.0°E(N31.0°W)を測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で灰白色シルトを呈する。

#### SD221(第63図)

Ⅱ-1区東半部の南壁際で検出した溝状遺構である。東西方向へ直線的に延びているが、東端部は僅かに南東方向へ曲がる。

検出長約5.5m、幅約0.5m、深さ約0.3m、方位はN60.0°E(N30.0°W)を測る。埋土からは古代の土師

器細片が極少数出土した。315は土師器甕の上半部である。

#### SD223(第63図)

Ⅱ-1区東端部の水溜状遺構のSX218から北へ派生して延びる小溝である。県下の集落跡の事例や検出状況から推定して、SD223とSX218は中世後半の屋敷地の外周を画する溝跡と、区画溝に付随する水溜状の遺構の可能性が考えられる。なお、SD223の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に類似しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約11.0m、幅約0.5～1.0m、深さ約0.05m、方位はN24.0°Wを測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で灰黄色系のシルトからなる。

埋土からは土師器搦鉢・鍋、備前焼片等が少量出土した。316は土師器鍋の口縁部片で、317は土師器搦鉢口縁部片である。出土遺物からSD223は中世後半に埋没した溝跡と考えられる。

#### SD224(第63図)

Ⅱ-1区東端部のSX218から北へ派生して延びる小溝である。削平を受け残りが悪い。検出状況からSD223同様、SX218の排水路と考えられる。

検出長約2.5m、幅約0.4m、深さ約0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は単層で、灰黄色シルトからなる。埋土からは中世土師器が数点出土した。318は土師器足釜の口縁部片である。

#### SD242(第63図)

Ⅱ-1区東半部で検出した北西方向へ直線的に延びている小溝跡である。SD224の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に類似しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約16.5m、幅約0.5m、深さ約0.2m、方位はN24.0°Wを測る。遺物が出土していないため、詳細な時期判断は不可能であるが、周辺遺構の状況や主軸方位等から、SD242は概ね中世以降の溝跡と考えられる。

#### (4) 不整形遺構

#### SX203(第64図)

Ⅱ-1区西端部の南壁際に位置する。東にはSD206、西にはSD204が隣接する。削平を受けたのか残りが悪く、幅0.2～0.3m程の小溝が途切れ気味ながらも、南にコの字状に開く様な状態で検出した。南半部はSX201・202等により切り込まれているため不明である。

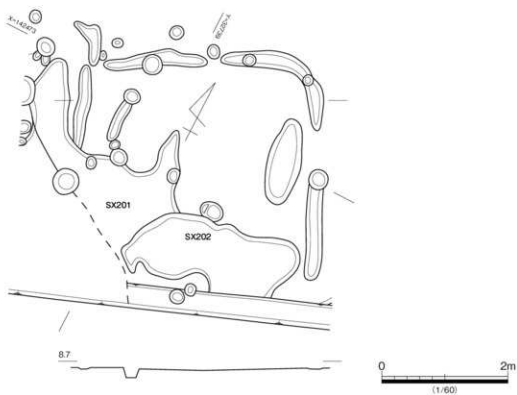
北辺の溝跡は検出長4.0m、幅約0.2m、深さ0.05m、東辺の溝跡は検出長3.6m、幅約0.25m、西辺の溝跡は検出長1.3m、幅約0.2m、深さ0.05を測る。また、方位はN25.0°Wを測る。

形状から方形堅穴住居跡の壁溝とも考えられるが、証明するのは難しい。ただ、この付近には6～7世紀の須恵器を含む、SD202・203・204等の遺構が確認できるため、可能性は否定できない。

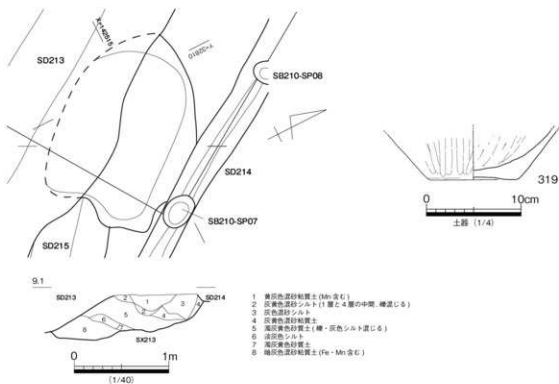
#### SX210(第54図)

Ⅱ-1区中央部SD210の西岸部で検出した不整形な落ち込みである。SD210の兩岸には、SX210をはじめとして、SX205～209・211・212等の不整形な落ち込みが多数確認できる。性格については問

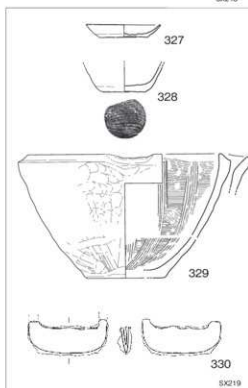
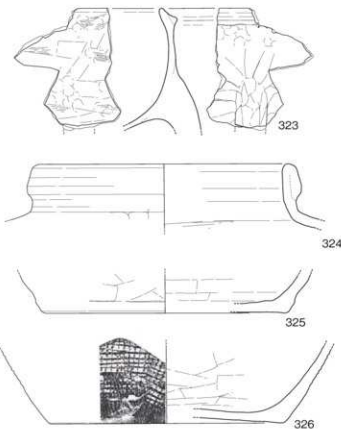
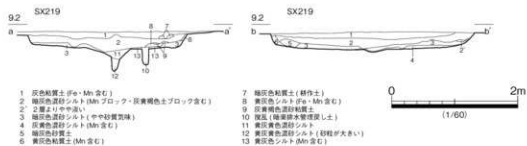
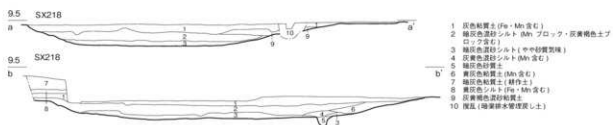




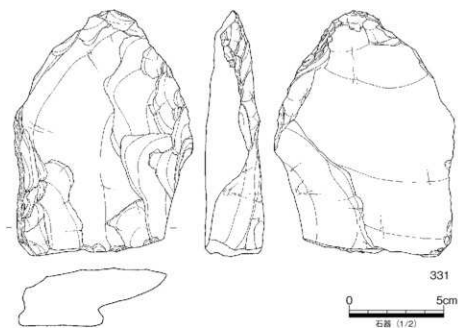
第64図 SX203平・断面図



第65図 SX213平・断面、出土遺物



第 66 図 SX218・SX219 断面、出土遺物



第 67 図 SX218 出土遺物

題を残すが、おそらく SD210 に係わる遺構群と考えられる。

平面形は南北方向に向く不整形な長楕円形状を呈し、長径約 1.85m、短径約 0.8m、深さ約 0.2m を測る。断面は幅広の U 字状を呈し、埋土は灰色粘質土の単層である。埋土からは土師器の杯・碗・播鉢等が少量出土した。239 は土師器播鉢の底部片である。

#### SX213( 第 65 図 )

Ⅱ-1 区中央部の SD213 の東岸で検出した不整形な落ち込みである。西半部は SD213 に切り込まれており、南端部では弥生時代後期の SD215 を切り込んでいる。

平面形は不整形な楕円状を呈し、長径 2.0m、短径 1.4m 以上、深さ約 0.5m を測る。断面凹凸のある不整形な形状を呈する。埋土からは弥生土器壺、土師器小皿片等が出土している。なお、弥生土器は SD215 からの混入の可能性が高い。

319 は弥生時代後期後半頃の壺の底部で、先述したように SD215 からの混入土器であろう。出土遺物から SX213 は中世の遺構と考えられる。

#### SX214・215( 第 26 図 )

Ⅱ-1 区東半部の SB211 の床面の範囲内で検出した不整形な落ち込みである。両遺構とも平面はかなり不整形で浅いため、地山の凹凸を平坦化した整地の痕跡の可能性もある。

SX214 の長径 2.1m 以上、短径 1.3m、深さ 0.05m、SX215 の長径約 3.2m、短径 0.3 ~ 3.0m、深さ 0.05m を測る。SX214・215 の埋土からは、土師器・瓦質土器・瓦片等が少量出土した。

#### SX218( 第 66・67 図 )

Ⅱ-1 区東端部で検出した、不整形な方形の水溜状の遺構である。東側縁の延長に直線溝の

SD223、西辺には幅広い溝状遺構 SD222 等が付設されている。これらの遺構は南北方向 (N24° W) に主軸を揃え企画的に配されていること、周辺に所在する建物や柱穴群の密度などから推定して、屋敷地内を区画する遺構の可能性が高く、SX218 は区画溝 SD223 の南端部に形成された水溜状の遺構と考えられる。

検出長約 6.1m、幅約 5.0m、深さ約 0.4m を測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は灰色系のシルトないし粘質土からなる。

埋土からは土師器小皿・鍋・足釜・摺鉢・甕、青磁椀、陶器甕等と焼土片の塊が多数出土した。320 は土師器小皿、321 は青磁椀の底部、322 は土師器鍋上半部、323 は土師器足釜、326 は土師器甕底部、324・325 は陶器大甕の口縁部と底部片である。

331 は混入したサヌカイト製の交互剥離の横長剥片石核で旧石器の可能性が高い。肉厚な板状の剥片を素材にして片側縁に作業面を形成している。出土遺物から SX218 は、中世後半の 14 世紀前半頃に埋没した遺構と考えられる。

#### SX219(第 66 図)

Ⅱ-1 区東端部で検出した、SX218 の北約 20m に位置する不整形な形状の遺構である。形状から SX218 と同様の水溜状の遺構と考えられる。SX219 と SX218 とは、幅広く浅い SD222 をかいて繋がっており、SX218 とは一連の遺構と考えられる。

長径約 3.5m、短径約 3.0m、深さ約 0.25m を測る。埋土は複数層に分かれるが、灰色系シルトが主体を占める。埋土からは土師器小皿・杯・摺鉢、鋤先等が出土した。

327 は土師器小皿、328 は土師器杯で底部には糸切り痕を残す。329 は土師器の片口摺鉢、330 は鉄製で U 字状の鋤先である。出土遺物から SX219 は、中世後半の 14 世紀前半頃に埋没した遺構と考えられる。

#### (5) 柱穴・包含層出土遺物(第 68～73 図)

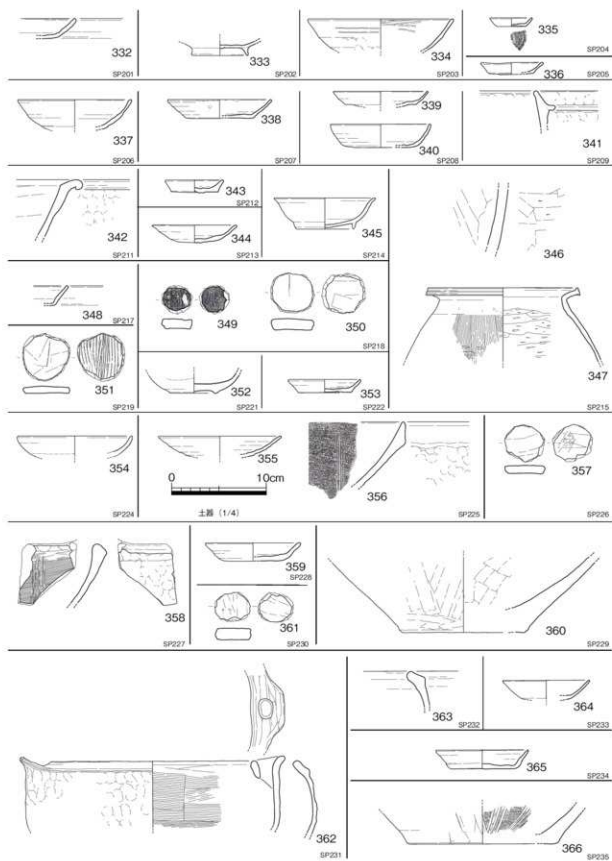
Ⅱ-1 区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

332～404 はその他の柱穴から出土した遺物である。出土した土器の大多数は中世後半の土器であるが、少数の弥生土器や土製品及び石器類が出土している。347 は SP215 から出土した、弥生時代後期初頭の甕の上半部である。口縁端部は上下に肥厚させ、凹線文を施す。内面はヘラケズリが顕著に認められる。360 は SP229 から出土した、弥生時代後期前半の大型壺の底部である。

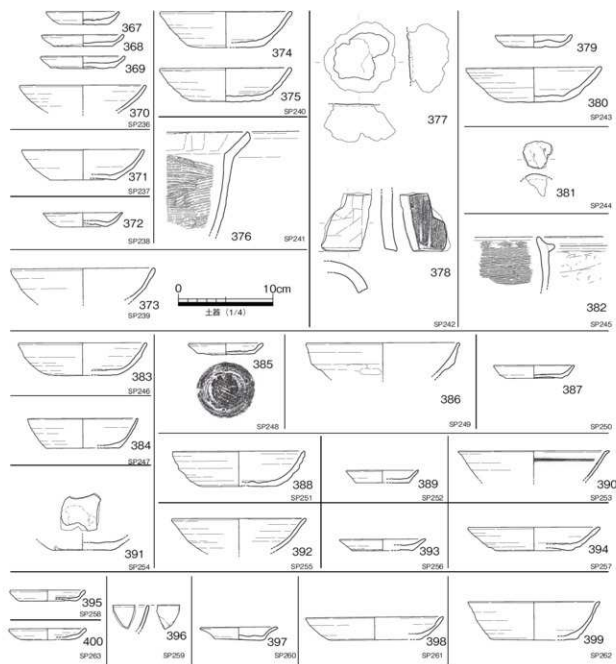
381 は SP244 から出土した鍛冶炉に伴う羽口片である。

401 は SP216 から出土したサヌカイト製の石鏃である。この石鏃は器面調整が進んでいないため未製品の可能性がある。402 は SP210 から出土したサヌカイト製の石錐である。錐部が紡錘状を呈する種な形状をしている。403 は SP220 から出土したサヌカイト製の槍先形石器の未製品に分類したが、石核の範疇で捉えるものかもしれない。大型の剥片を素材とし周囲から調整剥離を加えているが、礫面を残すなど素材の形状を良く残している。404 は大型で円筒状の砥石転用の敲石である。この敲石の上下両端部には焼成痕が認められる。

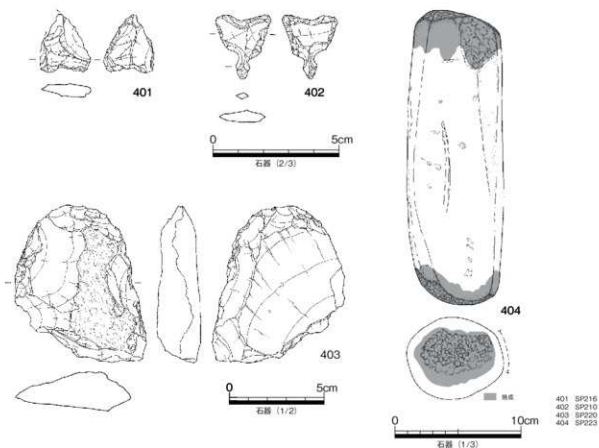
405～439 は包含層出土の遺物の中で代表的な遺物である。包含層に含めた出土遺物は、弥生土器、



第 68 图 II-1 区柱穴出土遗物(1)



第 69 图 II - 1 区柱穴出土物 (2)

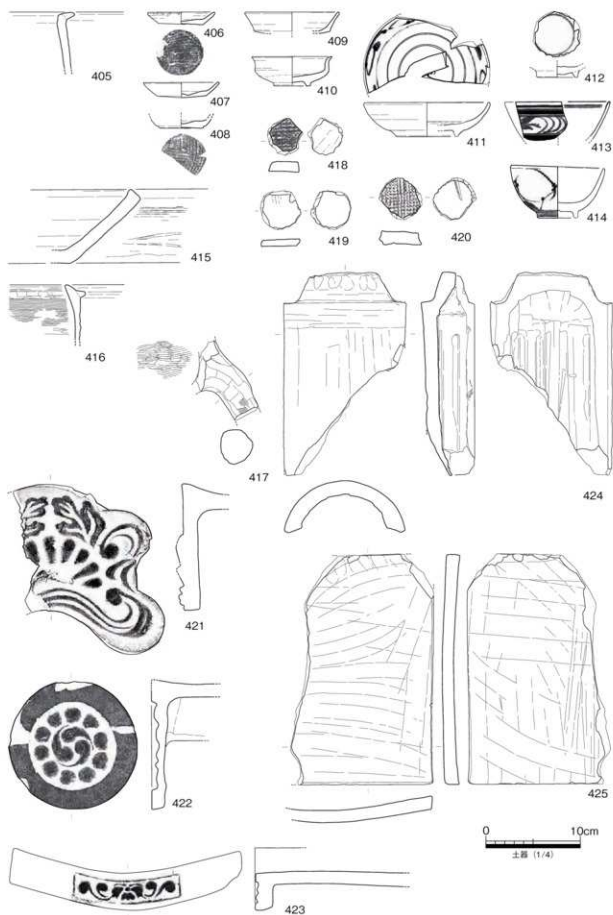


第70図 II-1 区柱穴出土遺物(3)

土師器、陶磁器やサヌカイト製の石器類等の遺物がある。

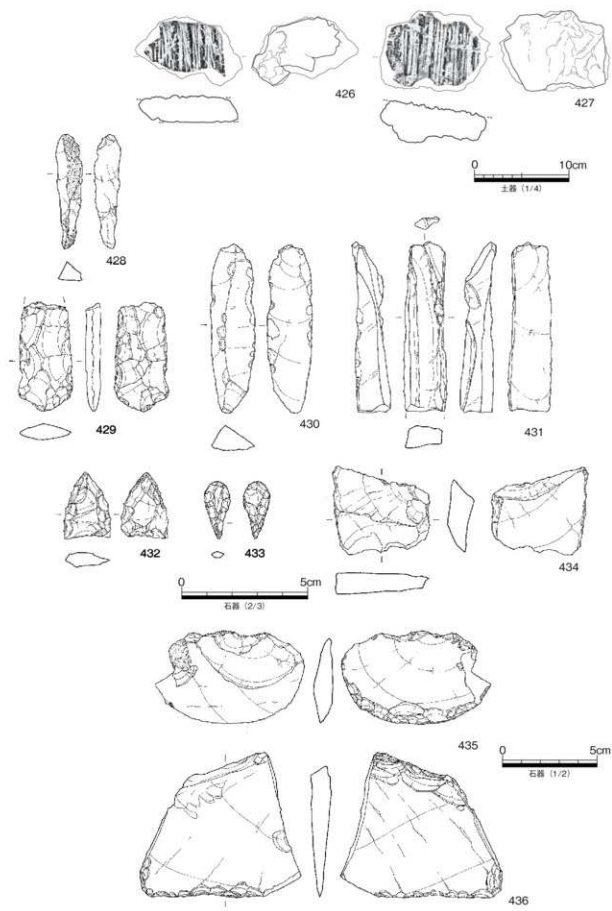
405は弥生前期前半頃の甕上半部片である。406～417は中世後半～近世の土器類である。418～420は円盤状土製品である。421～425は近世の煙焼きの軒丸・軒平等の瓦である。426・427は建物の壁材である。

428～439はサヌカイト製の石器類である。428・430は縦長剥片である。428の背面には礫面を残し、腹面はポジティブな剥離面からなる。429は上半部を欠く有舌尖頭器である。この石器の石材は比較的良質なサヌカイトを使用している。有舌尖頭器は県下でも出土例が少ない貴重な遺物である。431は形状から縦長剥片石核の調整剥片と考えられる。432は石鏃、433は石錐、435・436は削器である。437は截断面をもつ楔形石器である。438は手斧状の敲石である。形状から石核を転用したのと考えられる。439は交互剥離の横長剥片石核に分類したが、風化があまり進んでいないため、旧石器に含めるかどうかは問題である。

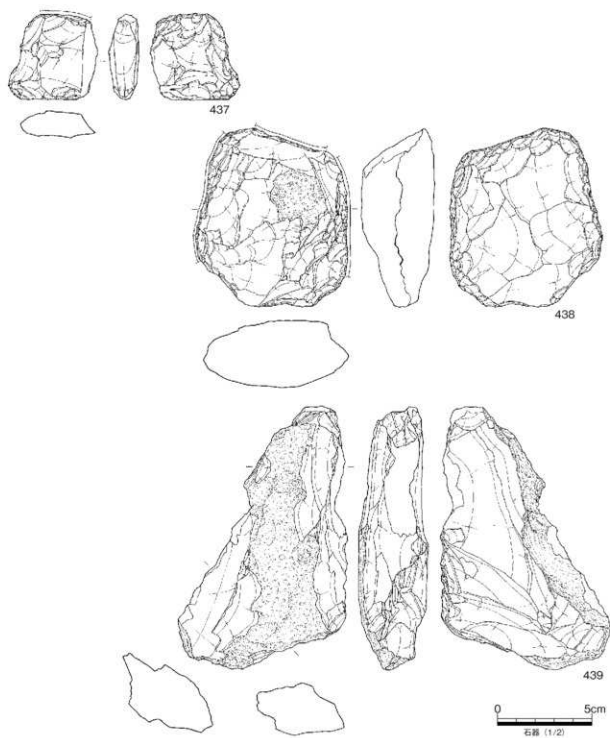


第71图 II-1区包含层出土遗物(1)





第 72 图 II-1 区包含層出土遺物 (2)



第73圖 II-1区包含層出土遺物(3)

### 3. II-2区

#### (1) 掘立柱建物跡

##### SB217(第75図)

II-2区北半部に位置し、北にはSB219、北西にはSB218が隣接する。SB217はSR202の上面で検出しており、SR202が埋没した後に形成された建物である。数基柱穴を欠くが東柱と考えられる柱穴を確認できることから、東西棟の梁間2間、桁行3間の総柱構造の建物と考えられる。

2間(3.3m)×3間(4.6m)、面積15.2㎡、主軸方位N62.0°E(N28.0°W)を測る。柱間は梁間1.6m、桁行1.5～1.6mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径約0.15～0.3m、深さ0.1～0.4mを測る。北西隅のSP01では根石を検出した。

柱穴からは土師器と須恵器の細片やサヌカイトの剥片が数点出土した。SB217からは図化できる遺物は出土していないが、周辺の建物との関係から中世前半頃の建物と考えられる。

##### SB218(第75図)

II-2区北西端部に位置し、東にはSB217が隣接する。この建物はSD239・240・241等と重複しており、前後関係については不明瞭な点があるが、おそらくSB218が後出するものと考えられる。

東西棟の梁間1間、桁行2間以上の建物で、西半部は調査区から外れるため、東半部の約2/3を検出した。

1間(3.2m)×2間(5.0m)以上、面積16.0㎡以上、主軸方位N60.0°E(N30.0°W)を測る。柱間は梁間3.2m、桁行2.0～2.8mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形を呈し、径約0.3～0.8m、深さ0.2～0.4mを測る。南東隅のSP03は、他の柱穴と比べ一回り大きな楕円形状を呈し深い。形状から推定して抜き取り穴の可能性はある。

柱穴からは土師器小皿・杯等が出土した。440・441はSP03から出土した土師器小皿及び杯である。出土遺物からSB218は、13世紀後半頃の建物跡と考えられる。

##### SB219(第76図)

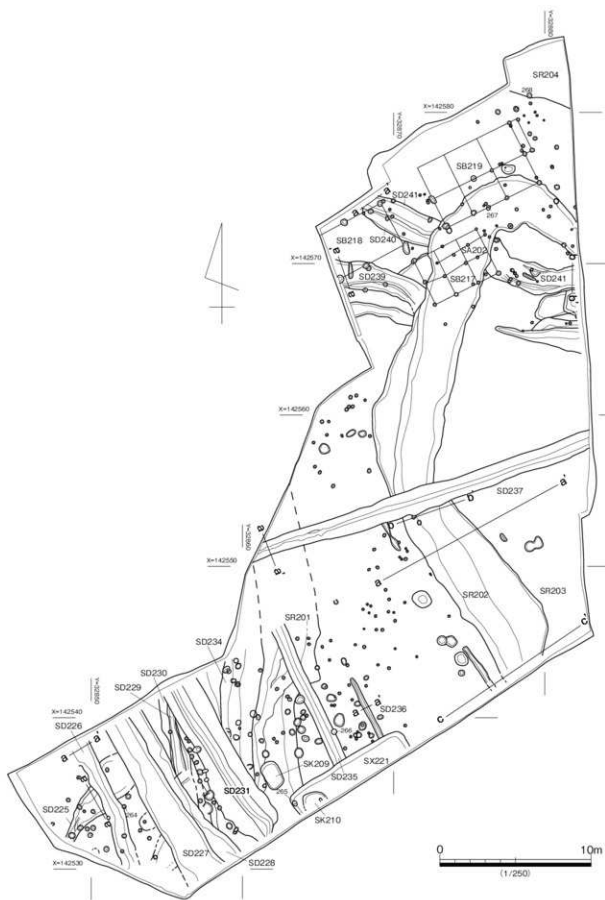
II-2区北端部に位置し、西にはSB218が隣接する。東辺に小さな廂をもつ南北棟の梁間2間、桁行3間の総柱建物である。SB219はSR202の上面で検出しており、SR202が埋没した後に形成された建物である。なお、北側柱列の西半部は攪乱により欠く。

2間(4.4m)×3間(6.8m)、面積29.9㎡、主軸方位N63.0°E(N27.0°W)を測る。柱間は梁間2.1～2.3m、桁行1.9～2.5mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形を呈し、径約0.25～0.45m、深さ0.1～0.4mを測る。

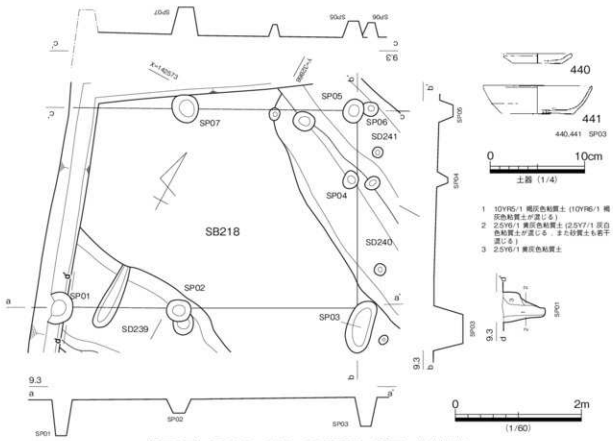
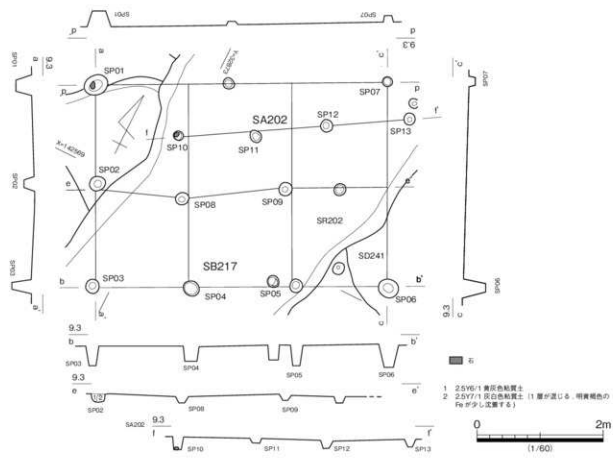
柱穴からは土師器小皿・杯、青磁碗片等が出土した。442・444・448はSP01から出土した土師器小皿と青磁碗口縁部片である。443はSP08、447はSP06から出土した土師器小皿・杯である。445・446はSP05から出土した土師器小皿である。出土遺物からSB219は、13世紀後半頃の建物跡と考えられる。

##### SA202(第75図)

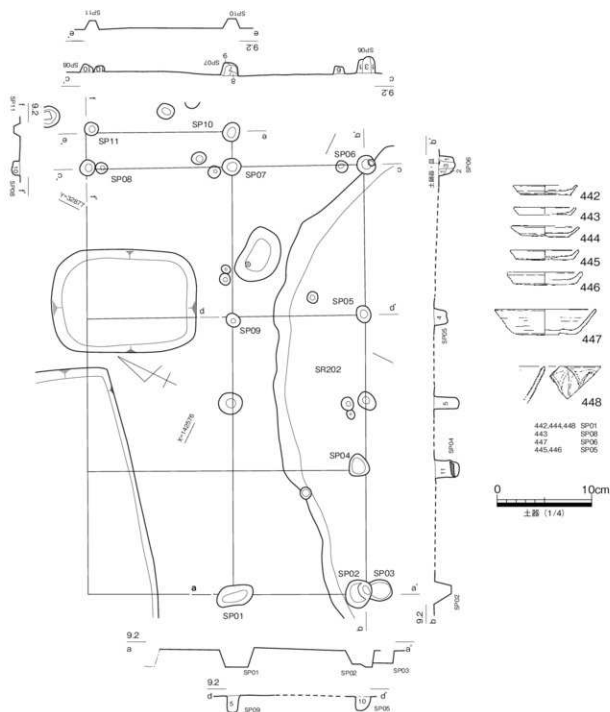
II-2区東半部に位置しSB217と重複する、東西方向にある3間の櫓列である。SA202はSR202の上面で検出しており、SR202が埋没した後に形成された櫓列である。SB217との前後関係については柱



第74図 II-2区遺構配置図



第75図 SB217・218・SA202 平・断面、出土遺物



- 1 2.5Y5-1 黄灰色粘質土 (明褐色のFeが少し沈着する)
- 2 2.5Y6-1 黄灰色粘質土 (1層と2層が混じる)
- 3 2.5Y6-1 黄灰色粘質土
- 4 2.5Y5-1 黄灰色粘質土 (2.5Y7-1 灰白色粘質土がブロック状に混じる。明褐色のFeが少し沈着する)
- 5 3層と混じり (砂質土がやや多い)
- 6 2.5Y7-1 灰白色粘質土 (明褐色のFeが少し沈着する)
- 7 2.5Y6-1 黄灰色粘質土 (2.5Y5-1 黄灰色粘質土が混じる。明褐色のFeが少し沈着する)
- 8 2.5Y6-1 黄灰色粘質土 (7より明るい。2.5Y6-1 黄灰色粘質土が若干混じる。明褐色のFeが少し沈着する)
- 9 2.5Y5-1 黄灰色粘質土 (2.5Y7-1 灰白色粘質土が混じる。明褐色のFeが少し沈着する)
- 10 2.5Y4-1 黄灰色粘質土 (2.5Y7-1 灰白色粘質土が混じる。明褐色のFeが少し沈着する)
- 11 2.5Y5-1 黄灰色粘質土 (砂質土が少し混じる)

0 2m  
(1/60)

第76図 SB219平・断面、出土遺物

穴が切り合わないため不明である。

延長3.6m以上、柱間は約1.1～1.3m、主軸方位はN60.0°E(N30.0°W)を測る。柱穴掘方は円形を呈し、径0.15～0.2m、深さ0.1～0.2mを測る。西端部のSP10からは根石を検出した。柱穴からは中世の土師器の細片が数点出土した。

## (2) 土坑跡

### SK209(第77図)

Ⅱ-2区西南部、SD201の上面で検出した土坑である。削平を受け残りが悪い。平面は南北方向に向く隅丸長方形形状、底面は概ね平坦で、断面は幅広な逆台形状を呈する。

長径約1.90m、短径約1.10m、深さ約0.10m、方位はN28.5°Wを測る。埋土は単層で黄灰色粘質土を呈する。

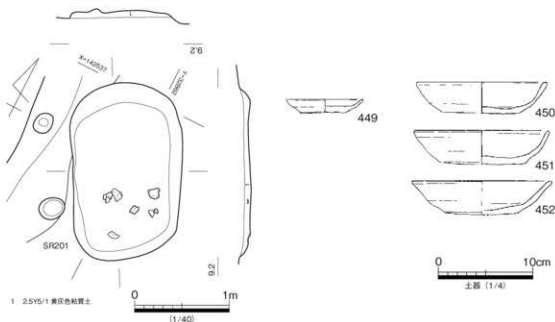
埋土からは中世の土師器小皿・杯が出土した。449は土師器小皿、450・451・452は土師器杯である。出土遺物からSK209は12世紀後半頃の土坑と考えられる。

### SK210(第78図)

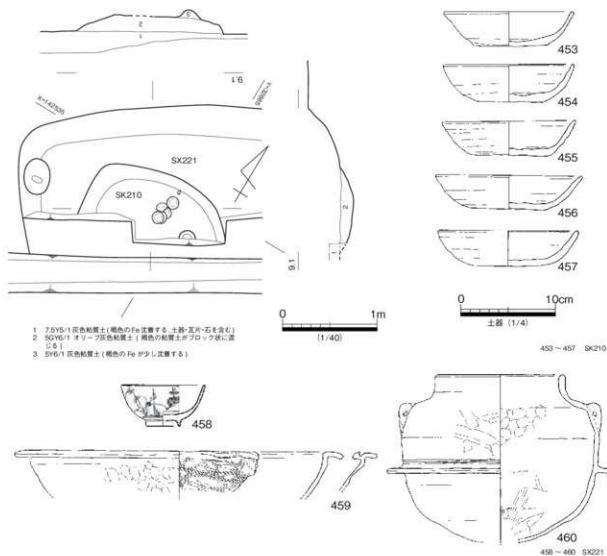
Ⅱ-2区西南部南壁際で検出した土坑である。南半部は対象地外へ延びており、上半部はSX221により切り込まれているため残りが悪いが、失われた掘方の上位部分を推定すれば、比較的深みのある土坑と推定される。

平面は不整円形状、断面は幅広な皿状を呈する。長径約1.6m以上、短径約0.8m以上、深さ0.15m以上を測る。遺構面の高さをもとに失われた掘方の上位部分を推定すれば、おそらく、0.45m程の深さになる。

埋土は単層で、オリブ灰色粘質土を呈する。埋土からは土師器杯がまとめて出土した。453～457は土師器杯である。出土遺物からSK210は12世紀後半頃の土坑と考えられる。



第77図 SK209平・断面、出土遺物



第78図 SK210・SX221 平・断面、出土遺物

458～460は、SK210の上面を切り込んでいる、18世紀頃のSX221から出土した資料で、参考資料として報告しておく。458は染付碗、459は土師器の焙烙、460は土師器の羽釜である。

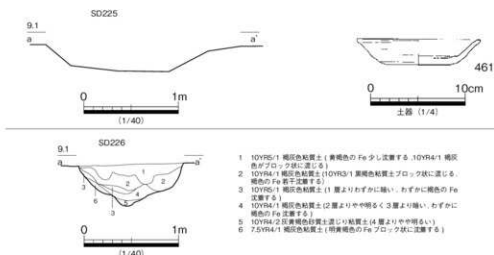
### (3) 溝状遺構

#### SD225(第79図)

Ⅱ-2区南西端部のSD227・228の西側に位置する、北東方向へ延びる不整形な溝状遺構である。北端部はSD227・228に切れ、南端部は調査区外に延びる。また、中央部ではSD226に切り込まれている。全体の形状は南端では幅が狭く北へ行くほど幅広なハの字状の形状をしており、人為的な溝跡と捉えるより自然によるものと考えた方がよい遺構である。

検出長約6.5m、幅0.7～2.7m、深さ約0.2mを測る。埋土からは土師器・須恵器・瓦器の細片が数点出土した。461は土師器杯である。出土遺物からこの溝跡は中世に属するものと考えられる。





第 79 図 SD225・226 断面、出土遺物

#### SD226( 第 79 図 )

Ⅱ-2 区南西端部の SD227・228 の西側に位置する、条里方向に近い北西方向の溝である。北半部は北西方向へ直線気味に延びる。南半部は南東方向へ屈曲し SD227・228 と重複するが、その前後関係は不明瞭である。

検出長約 12.5m 以上、幅約 1.2m、深さ約 0.4m、方位は N21.5° W を測る。断面の形状は幅広の U 字状を呈し複数層に分かれる。

埋土からは土師器の細片が数点出土した。SD226 は出土遺物が少なく不明瞭であるが、概ね中世頃の溝跡と考えられる。

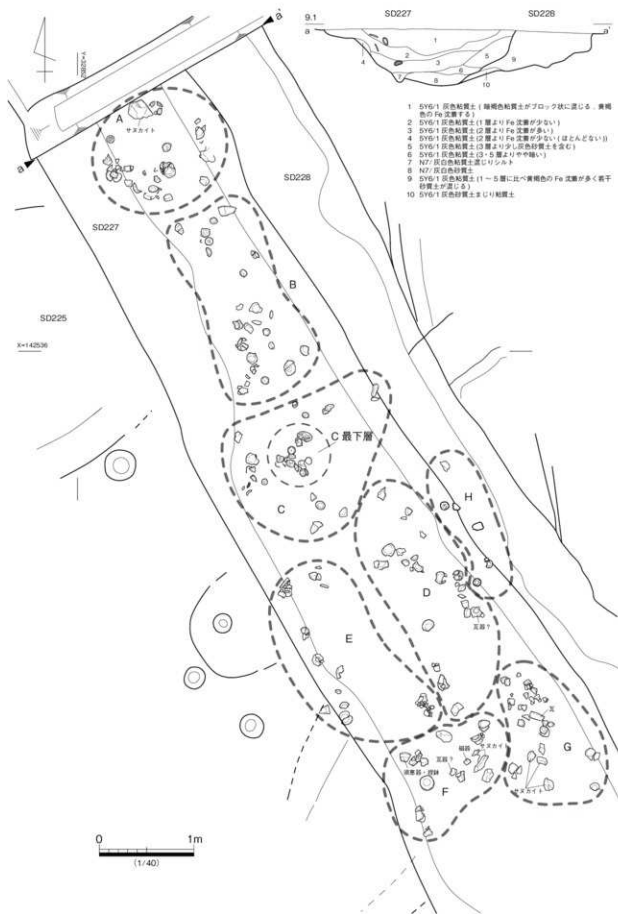
#### SD227( 第 80 ~ 83 図 )

Ⅱ-2 区南西端部で検出した、SD228 を切り込んで北西方向へ延びる直線溝である。SD228 とは埋土、時期ともにさほど差が認められない点から、SD228 が埋没した後に改修した溝跡が SD227 にあたると考えられる。なお、SD227 の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に概ね合致しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

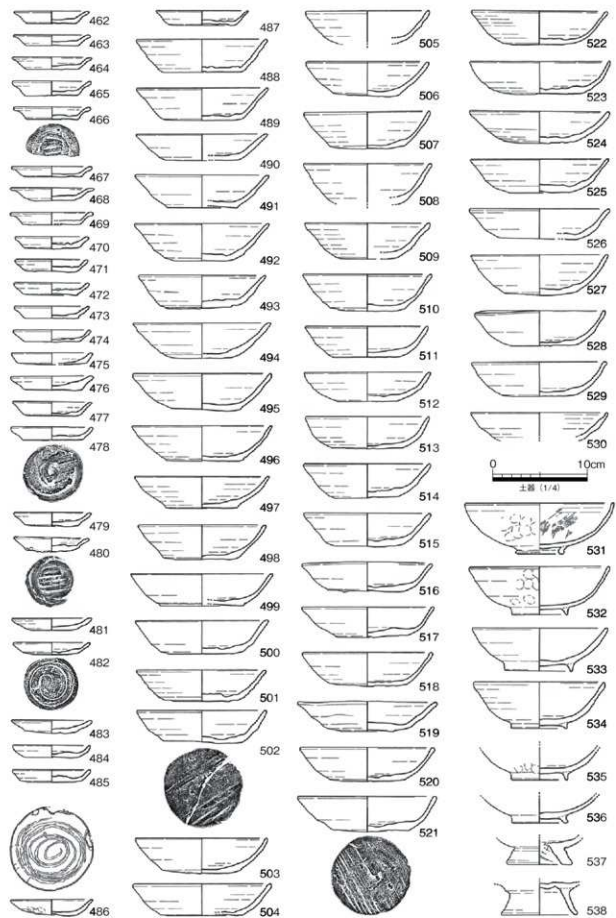
検出長約 11.0m、幅約 2.0m、深さ約 0.6m、方位は N29.0° W を測る。断面の形状は上方に開いた U 字状を呈する。埋土は数層に分かれるが主体を占めるのは灰色粘質土である。

埋土からは周囲の集落域から廃棄されたものと考えられる、12 世紀後半～13 世紀頃の土器が多数に出土した。主要なものでは土師器小皿・杯・碗・足釜・鍋・鉢・播鉢、瓦器碗・小皿、須恵器碗・鉢・壺・甕、青磁碗、瓦等があげられる。

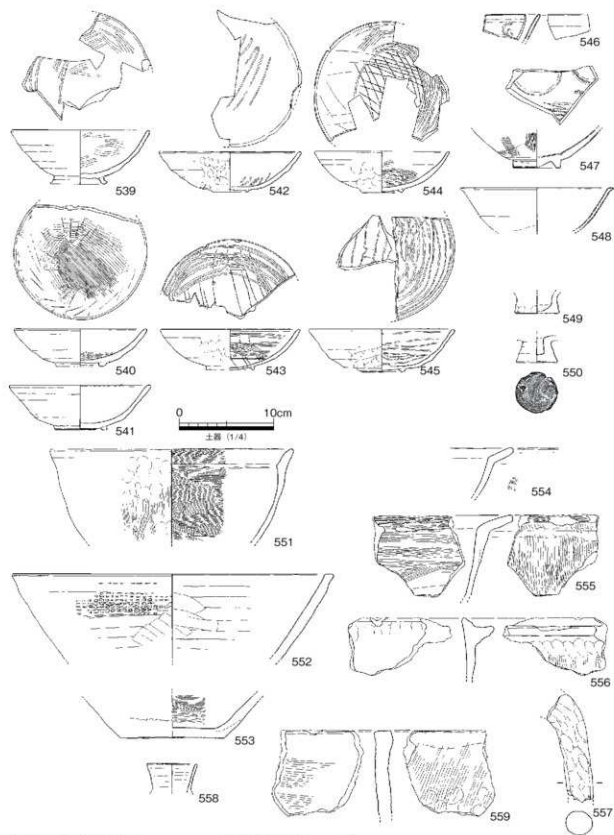
462～485 は土師器小皿である。底面の調整は回転ヘラ切りで施されており、糸切りのものは確認できなかった。口縁部の形状で外反するものと内湾気味に開くタイプ等、数タイプに分けることができる。486 は瓦器小皿である。瓦器の小皿は出土数が少なく希少な遺物である。487～530 は土師器杯である。形状から 2 タイプ以上に分かれる。底部は回転ヘラ切りを施しナデ消している。また、半数以上に板状圧痕を確認できる。531～536 は土師器碗、539～541 は須恵器碗である。542～545 は 12 世紀後半頃の和泉型の瓦器碗で、これらの土器が SD227 の埋没時期を示す資料になる。546～548 は 12 世紀後



第 80 図 SD227・228 平・断面図



第 81 图 SD227 出土遺物 (1)

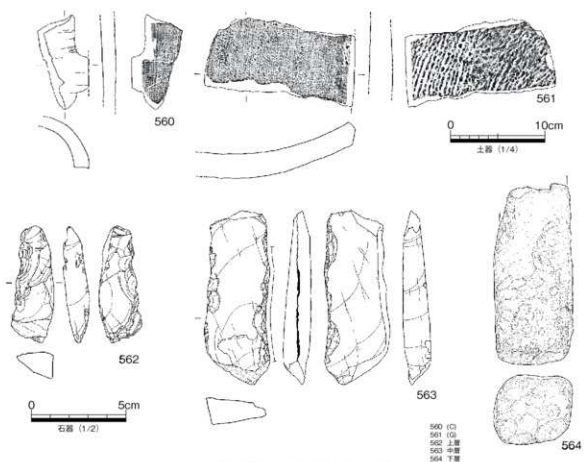


472,482,492,511,514,524,531,554  
503 (A) 中層  
499 (A/B)  
471,484,489,493,551 (B)  
544 (B) 最下層  
539 (B/C) 最下層  
527,542 (B) 中層  
486,502,538 (C)  
494 (C) 下層  
462,547 (C) 最下層

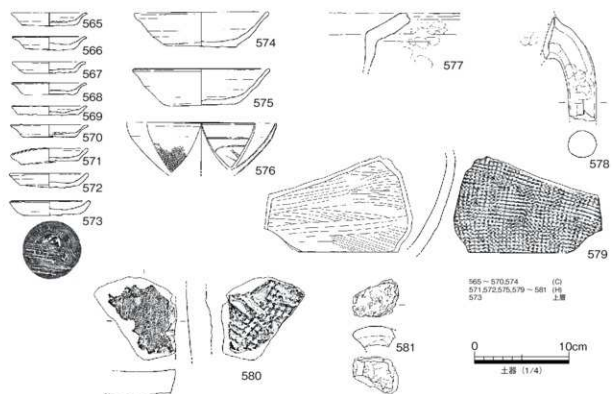
472,496,516,519,521,550  
491 491 (D) 中層  
512 512 (D) 最下層  
502,506,526,540 (E)  
532,533,548,552,559 (F)  
463,510,513,515 (G)  
403,464,466 ~ 468,477,478,480,486,487,497,499,500,506,526,536,537,541,546,553,555 ~ 557 上層  
470,474,476,479,488,498,501,504,505,503,543,558 中層  
469,481,490,508,509,518,528,529,536,545,549 下層  
474,517,523 最下層

(D) 中層  
(D) 最下層  
(F)  
(G)  
上層  
中層  
下層  
最下層

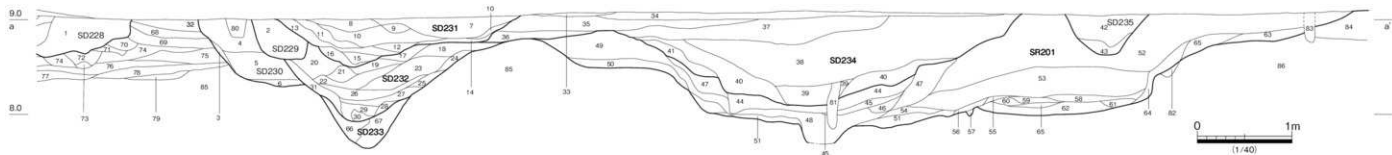
第 82 図 SD227 出土遺物 (2)



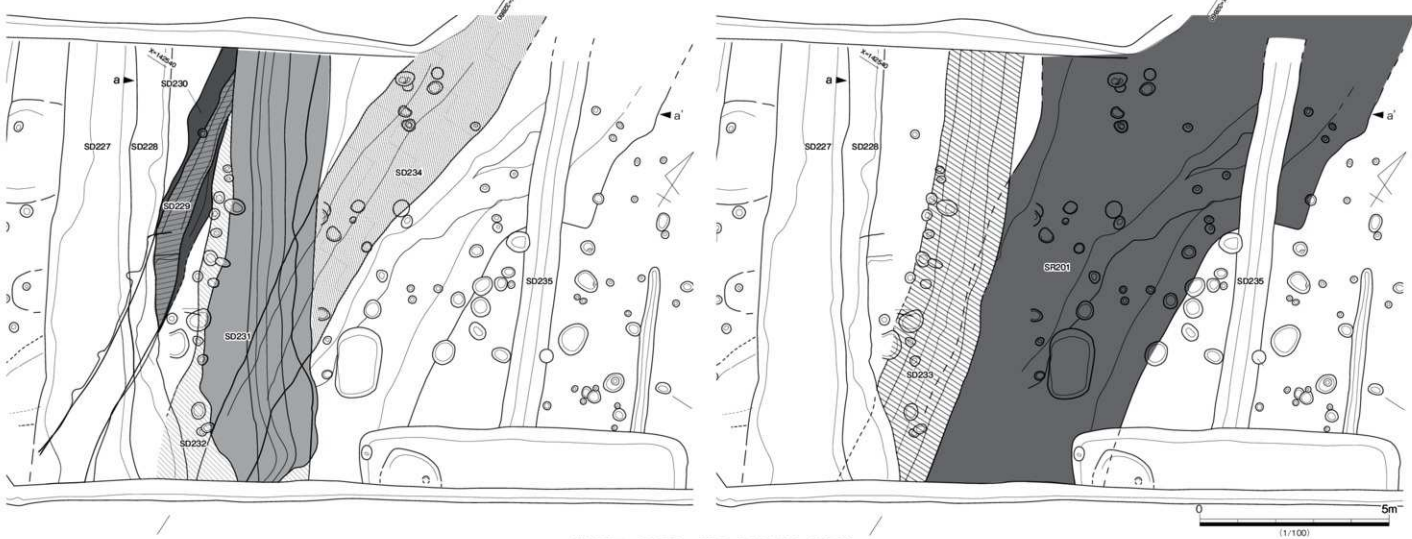
第 83 図 SD227 出土遺物 (3)



第 84 図 SD228 出土遺物



- |  |  |  |   |
|--|--|--|---|
| <p>SD228 1 中砂<br/>5YR7/1 黄褐色粘土(黄褐色のFeが豊富で若干砂質さが感じられる)</p> <p>SD228 2 中砂<br/>7.5YR7/2 黄褐色粘質土</p> <p>SD228 3 中砂<br/>3 10YR6/1 褐色粘質粘土(4と6の砂質さ、褐色のFeが豊富)</p> <p>4 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>5 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>6 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>SD229 7 15 中砂<br/>7 7.5YR7/1 黄褐色粘土(黄褐色のFeが豊富)</p> <p>8 2.5YR7/2 黄褐色粘質土(10層より中層)</p> <p>9 7.5YR7/1 黄褐色粘質土(明瞭な境界が認められる。より黄し)</p> <p>10 2.5Y7/2 黄褐色粘質土(10層より中層)</p> <p>11 2.5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>12 2.5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>13 5YR7/1 黄褐色粘質土(明瞭な境界が認められる。より黄し)</p> <p>14 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>15 2.5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>SD230 16 11 中砂<br/>16 7.5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>17<br/>18 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが豊富)</p> <p>19 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> | <p>20 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>21 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>22 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>23 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>24 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>25 10YR7/1 黄褐色粘質土(明瞭な境界が認められる。より黄し)</p> <p>26 10YR7/1 黄褐色粘質土(明瞭な境界が認められる。より黄し)</p> <p>27 10YR7/1 黄褐色粘質土(明瞭な境界が認められる。より黄し)</p> <p>28 10YR7/1 黄褐色粘質土(明瞭な境界が認められる。より黄し)</p> <p>29 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(27層がブロック状に感じられる。明瞭な境界のFeが多くなる)</p> <p>30 7.5YR6/1 褐色粘質粘土</p> <p>31 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>SD231 32 41 中砂<br/>32 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>33 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>34 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>35 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>36 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>37 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>38 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>39 7.5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>40 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>41 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> | <p>SD232 42 43 中砂<br/>42 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが豊富)</p> <p>43 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが豊富)</p> <p>SR201 44 45 赤砂状<br/>44 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>45 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>46 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>47 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>48 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>49 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>50 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>51 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>52 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>53 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>54 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>55 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>56 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>57 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>58 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>59 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>60 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>61 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>62 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>63 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> | <p>64 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>65 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>SD233 66 67 赤砂状<br/>66 5YR7/1 黄褐色粘質土(明瞭な境界が認められる。より黄し)</p> <p>67 2.5YR7/2 黄褐色粘質土(明瞭な境界が認められる。より黄し)</p> <p>68 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>69 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>70 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>71 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>72 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>73 7.5YR6/1 褐色粘質粘土</p> <p>74 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>75 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>76 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>77 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>78 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>79 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>80 5YR7/1 黄褐色粘質土(褐色のFeが豊富)</p> <p>81 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>82 7.5YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>83 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>84 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>85 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> <p>86 10YR6/1 褐色粘質粘土(褐色のFeが多くなる)</p> |
|--|--|--|---|



第 85 図 SD229 ~ 235・SR201 平・断面図

半頃の貿易陶磁器で、546・547は青磁碗、548は白磁碗である。551～553は鉢の資料で、551は土師器、552は須恵器、553は瓦質の鉢である。554・555は土師器鍋、557は土師器足釜、556は土師器羽釜、549・550は土師器托、560・561は丸瓦と平瓦片である。560には布目痕、561には布目痕と縄目タタキ痕を明瞭に残している。559は土師質の土製品である。器壁は厚みがあり直立気味に立ち上がる。上端部は円形に内湾する。内外面伴に被熱を受け変色しており、状況から鍛冶炉の炉壁材と考えられる。出土遺物からSD227は、12世紀後半頃に開削され13世紀頃に埋没した溝跡と考えられる。

#### SD228(第80・84図)

Ⅱ-2区南西端部で検出した、SD227と切り合い北西方向へ延びる直線溝である。西岸部はSD227により切り込まれており、東岸部だけを残す。南北両端部は対象地外へ延びており、南半部はSD229と重複し、同溝を切り込んでいる。東には約1.5m程隔ててSD231が同方向に延びている。なお、SD228の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に概ね合致しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約11.0m、幅1.2m以上、深さ約0.4m以上、方位はN29.0°Wを測る。断面の形状は北壁面を観察する限り凹凸のある不整形な形状を呈している。埋土は灰色粘質土が主体をしめる。

埋土からは12世紀頃の遺物が出土した。565～573は土師器小皿である。574・575は土師器杯、576は青磁碗、577は土師器鍋、578は土師器足釜、581は鍛冶炉の羽口片である。内外面伴に被熱を受けて変色している。580は布目と格子タタキを残す平瓦片である。

#### SD229(第85図)

Ⅱ-2区南西半部のSD231・232の西側に位置する、南北方向の直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びている。北端部はSD231・232と南半部はSD227・228と重複している。

SD229はSD231・228に切り込まれ、SD230・232を掘り込んでいる。前後関係を整理すれば、SD230→SD232→SD229→SD231の順になる。

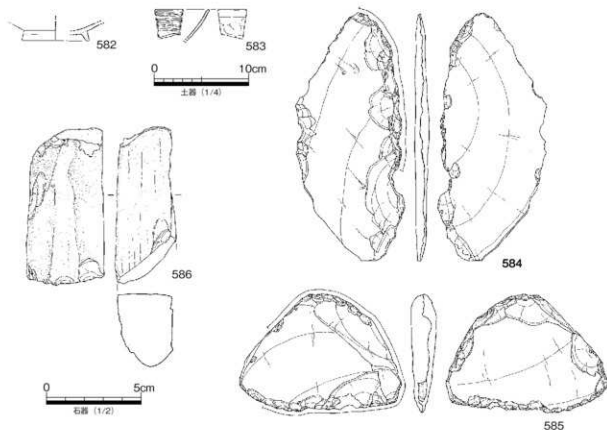
検出長約8.0m以上、幅0.3～0.7m、深さ約0.4m、方位はN9.0°Wを測る。断面の形状は幅広のU字状を呈し黒褐色粘土の単層である。埋土からは弥生土器、土師器、須恵器片等が少量出土した。図化できる遺物がないので、詳細な時期判断の問題を残している。

#### SD230(第85・86図)

Ⅱ-2区南西半部のSD229とはほぼ同方向に配された直線溝である。SD229と重複しSD229に切られている。また、SD229と同様に北端部はSD231・232と南半部はSD227・228と重複しており、SD230はSD232・229に掘り込まれている。前後関係の順番を整理すれば、SD230→SD232→SD229→SD228の順になる。

検出長約8.0m以上、幅1.1～1.5m、深さ約0.7m、方位はN9.0°Wを測る。断面の形状は上に開いた隅丸台形状を呈し、埋土は灰褐色粘土である。

埋土からは土師器碗、瓦器碗片やサヌカイト製石器等が少量出土した。582は土師器碗底部、583は和泉型の瓦器碗体部片である。584・585はサヌカイト製石器で、混入遺物と考えられる。584は削器とも考えられるが、大型横長剥片を素材にした槍先形石器の未製品に分類した。主に素材剥片の片側縁か



第 86 図 SD230 出土遺物

ら調整を開始しているが、対辺にも部分的に調整を開始しており、小型の楕先形石器を意図した未製品と考えられる。585 は横長状の剥片を素材にした削器である。

#### SD231( 第 85・87～89 窟 )

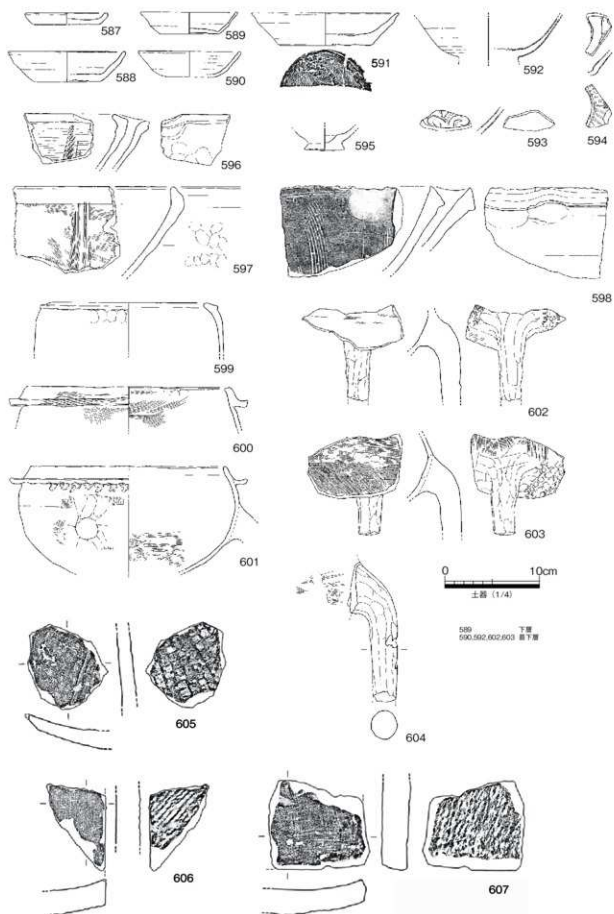
Ⅱ-2 区南西西部の SD227・228 の東側で検出した、北西方向へ延びる直線溝である。南北両端部は対象地外へ延びている。SD232 の上位に位置し、同溝跡を掘り込んでいる。北端部は SD229・230 と、南端部では SR201・SD233 と重複しており、SD231 はこれらの溝状遺構を切り込んでいる。なお、SD231 の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に概ね合致しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

調査時には複数の溝が切り合うものと考え、数条に分けられていたのであるが、整理の段階で遺構の検出状況や切り合い関係、また出土遺物等の再検討を行なった溝跡である。

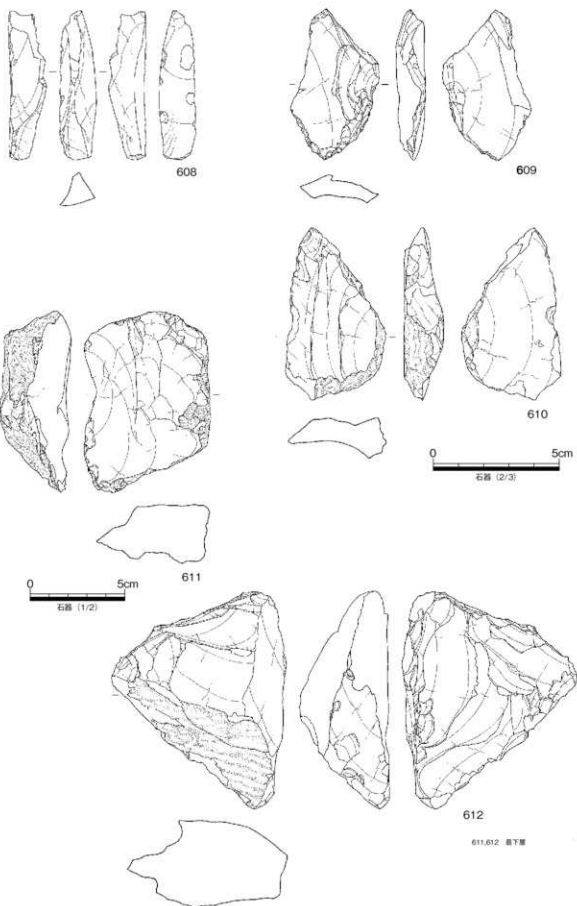
検出長約 11.0m、幅約 3.0m、深さ約 0.5m、方位は N32.0° W を測る。断面の形状は幅広の V 字状を呈し複数層に細かく分かれる。

埋土からは周囲の集落域から廃棄されたものと考えられる 12～13 世紀頃の土器と、サヌカイト製石器類が出土した。587 は土師器小皿、588～591 は土師器杯で 13 世紀中頃の時期が考えられる。588～590 の底部はへら切りであるが、591 の底部には糸切痕を残す。592 は磁器椀、596・597 は土師器摺鉢、598 は陶器の片口摺鉢である。593・594 は青磁椀、599～604 は土師器足釜の体部と脚部片である。605～607 は布目と格子タタキを残す平瓦片である。

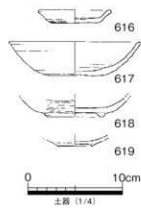
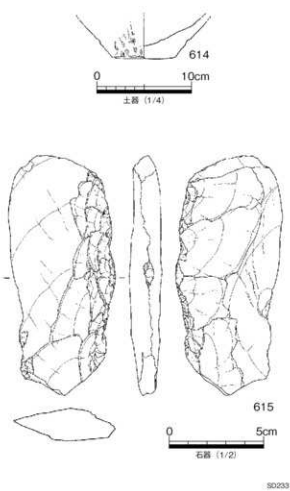
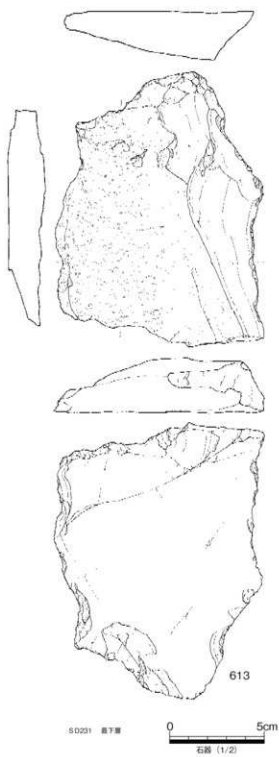




第 87 図 SD231 出土遺物 (1)



第 88 図 SD231 出土遺物 (2)



第 89 図 SD231・233・235 出土遺物

608は縦長剥片石核の調整剥片である。609・610は横長剥片である。いずれも背面には底面とネガティブな剥離痕が認められ、打面は調整打面を呈しており、連続する剥片剥離の過程で発生した剥片と考えられる。611・612・613石核である。611は原石素材の一端に打面調整を施し、横長剥片を剥取っている。612は板状の素材をもとにした石核で、板の広口面にあたる素材の分割面を作業面とし、多方向からの剥片剥離痕が認められる。613は大型の横長剥片石核である。大型の盤状剥片を素材とし、その一端から剥片剥離を行なっている。出土遺物からSD231は、13世紀後半頃に埋没した溝状遺構と考えられる。

#### SD232(第85図)

Ⅱ-2区南西半部のSD227・228の東側で検出した、SD231の下位に存在し、同溝跡と重複している。この溝跡はSD231と規模・方向等で類似しており、SD231の下層相当とも考えられるが、同溝跡とは掘り込み面が異なる点より、別の溝と判断した。なお、SD232の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に概ね合致しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

北端部ではSD229・230と、南端部ではSR201・SD233と重複しており、SD232はSD230・233・SR201を切り込み、SD229・231・234に切り込まれている。

検出長約11.0m、幅約2.5m、深さ約0.8m、方位はN32.0°Wを測る。断面の形状は幅広のV字状を呈し複数層に細かく分かれる。埋土からは中世後半の土器が少量出土した。

#### SD233(第85・89図)

Ⅱ-2区南西半部のSD227・228の東側で検出した。SD233はSD232の下位に存在し同溝跡と重複しているが、先の溝跡と方向等で類似しており、SD232の下層相当とも考えられるが、埋土や出土遺物の違いから別の溝跡と判断した。また、南端部ではSR201と重複し、検出状況からSR201より後出するものと考えられる。

検出長約11.0m、幅20m以上、深さ0.5m以上、方位はN18.5°Wを測る。断面の形状は幅広のV字状を呈し、埋土は灰色・黄色系のシルト等からなる。

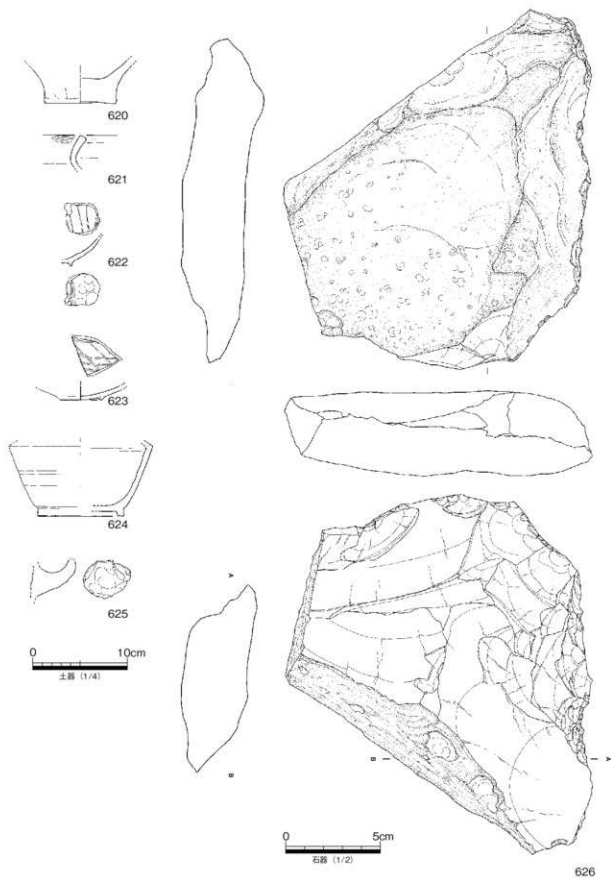
埋土からは弥生土器や石器類が少量出土した。614は弥生時代後期中葉頃の壺底部である。615はサカイト製の二次加工ある剥片である。肉厚な剥片の打面側から交互剥離の手法で調整を加えており、形状から槍先形石器を目的とした未製品の可能性がある。弥生土器が数点出土しているが、数が少なく時期判断には課題を残している。

#### SD234(第85・90図)

Ⅱ-2区南西半部のSD229・230から東へ約2.5m離れた地点に位置し、SD229・230とはほぼ同方向に配された直線状の溝跡である。SD231と重複し、同溝跡に切られている。また、SD234の東側にはSR201が所在するが、この溝跡はSR201を切り込んでいる。

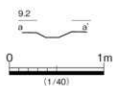
検出長約14.5m、幅1.3～2.6m、深さ約1.0m、方位はN5.0°Wを測る。断面の形状は上に開いた不整形な逆台形状を呈する。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・瓦器等とサカイト製の石器類が少量出土した。620は弥生土器の壺の底部、621は弥生土器甕の口縁部片、624は須恵器長頸壺の体部、625は土師器甕の取っ手部である。622・623は瓦器碗の底部で、おそらく、混入品であろう。626は長径19.1cm×短径16.3cmを



第90図 SD234 出土遺物

SD236

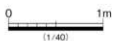


627

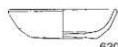
SD237



- 1 10YR5/1 褐色粘質土 (10YR5-2 灰黄色粘質土がブロック状に混じる、褐色の Fe が沈着)
- 2 10YR6/1 褐色粘質土 (1層よりやや中強い)
- 3 1層に混じり 1層よりやや弱い層、(灰黄色粘質土が混じらない、褐色の Fe が少し沈着)
- 4 10YR6/1 褐色粘質土 (上部に Fe が著しく沈着)
- 5 10YR6/1 褐色粘質土



628



630



629



631



632



633



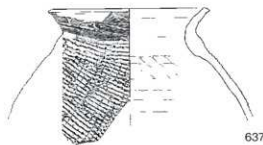
634



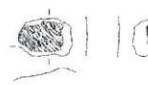
635



636



637



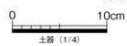
638



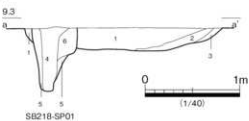
636

628,632 下層 (砂質土)

土層 (1/4)



SD239



- 1 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 (褐色の Fe が多く沈着する)
- 2 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 (褐色の Fe が多く沈着する)
- 3 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 (褐色の Fe が多く沈着する) (1層よりやや強い)
- 4 10YR5/1 褐色粘質土 (1層よりやや弱い)
- 5 2.5Y6/1 黄褐色粘質土 (2.5Y7/1 灰黄色粘質土が混じる、多少粘りも若干混じる)
- 6 2.5Y6/1 黄褐色粘質土 (5層よりやや強い)



SB218-SP01

SD241



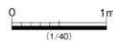
SD240

- 1 5Y6/1 灰色粘質土 (褐色の Fe が沈着する)
- 2 5Y6/1 灰色粘質土 (褐色の Fe が沈着する) (1層よりやや強い)
- 3 10YR5/2 灰黄色粘質土 (1層よりやや強い)
- 4 10YR5/1 褐色粘質土 (1層よりやや強い)
- 5 10YR5/1 褐色粘質土 (1層よりやや強い)
- 6 10YR5/1 褐色粘質土 (黄褐色の Fe が沈着する)



SD241

- 1 2.5Y6/1 黄褐色粘質土 (明褐色の Fe が多く沈着する)
- 2 2.5Y6/1 黄褐色粘質土 (明褐色の Fe が多く沈着する)
- 3 2.5Y6/1 黄褐色粘質土 (少量に粘質土が少し混じる)



第91図 SD236・237・239・241 断面、出土遺物

測る大型の石核である。外皮の残る大型で肉厚な剥片を素材とし、さほど打面調整を行わず、分割面を作業面として多方向からの打撃により剥片剥離を行なっている。形状から石核素材を得るための石核とも考えられる。

#### SD235(第 85・89 図)

Ⅱ-2区南半部中央のSD231の東側に位置する。SR201と重複し上面を切り込む北西方向の直線溝である。北端部は対象地外へ延びており、南端部はSX221に切り込まれている。なお、SD235の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に類似しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約9.5m以上、幅約0.9m、深さ約0.4m、方位はN24.0°Wを測る。断面の形状は上部が開いたU字状を呈し、埋土は褐灰色粘質土からなる。

埋土からは弥生土器、土師器小皿・杯、須恵器碗、瓦器碗等が少量出土した。616は土師器小皿、617は土師器杯である。618は須恵器碗の底部、619は瓦器碗の底部で、高台がかなり退化しており、13世紀後半頃の土器と考えられ、SD235の埋没時期を示す遺物になる。

#### SD236(第 91 図)

Ⅱ-2区南半部中央のSD235の東側に位置する。SD235と同方向の小規模な直線溝である。削平により北端部は調査区中央部で途絶え、南端部はSX221に切り込まれている。なお、SD235の方位は周辺で確認できる条里地割の方向に類似しており、この溝跡は条里地割に影響を受けた溝跡と考えられる。

検出長約4.4m、幅約0.4m、深さ約0.05m、方位はN24.0°Wを測る。断面は皿状を呈し、埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。627は土師器の杯片である。出土遺物よりSD236は中世の溝跡と考えられる。

#### SD237(第 91 図)

ク字形に屈曲する調査区の屈曲部に位置し、東西方向へ延びる直線溝である。SD234の東側に位置し、SD234に切り込まれている。西辺部ではSD233と重複しているが、その切り合いについては不明瞭な点があるが、おそらくSR201が先行しているであろう。

検出長約23.5m、幅約1.2m、深さ約0.5m、方位はN72°E(N18°W)を測る。断面の形状は不整形なV字状を呈し、埋土は褐灰色系の粘質土である。

埋土からは土師器・須恵器・瓦等が出土している。628～631は土師器杯である。632は須恵器碗、633は青磁碗片、634は土師器鍋の口縁部片、635・636は土師器足釜、637は十瓶産の甕の上半部、638は布目と格子タタキを残す平瓦片である。出土遺物からSD237は、13世紀後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

#### SD239(第 91 図)

Ⅱ-2区北端部で検出した北西方向へ延びる溝である。SD241の南に位置し、東端部はSR202に切り込まれている。形状は不整形ながら、SD241と類似しており方向もほぼ同方向であるため、SD239はSD241と性格や時期等で類似するものと考えられる。

検出長約 6.0m、幅 0.7～1.4m、深さ約 0.2m を測る。遺物が出土していないため、詳細な時期等については問題を残す。

#### SD241(第 91 図)

Ⅱ-2区北端部に検出した北西方向へ延びる溝である。中央はSR202により切り込まれており、上面はSB218が切り込んでいる。形状はほぼ直線気味であるが、南東端部では僅かに西へ蛇行する。溝跡の両端部は調査区外へ延びる。

検出長約 15.0m、幅約 2.0m、深さ約 0.3～0.4m を測る。断面の形状は不整形な逆台形状を呈し、埋土は灰色系の粘質土や黄灰色系の粘質土からなる。埋土からは遺物が出土していないため、詳細な時期等については問題を残す。

#### (4) 自然河川

#### SR201(第 85・92・93 図)

Ⅱ-2区南半部中央に位置し、南北方向へ延びる不整形で幅広な流路である。規模的な点から、溝状遺構とみるより小規模な流路と考えられる。北半部については未調査のため、どこまで延びているのかわからないが、検出状況の写真を見る限り、東半部に所在するSR202のあたりまで延びている様である。SR201はSD234の東側に位置し、SD234に切り込まれている。また、西辺部ではSD233と重複しているが、その切り合いについては不明瞭であるが、おそらくSR201が先行しているものと考えられる。

検出長約 11.0m、幅 5.0～7.5m、深さ約 1.3m、方位はN5.0°W を測る。断面の形状は上に開いた不整形な二段掘方の逆台形状を呈する。埋土は数層に分かれるが、概ね上層は黒色粘土、下層は褐色粘質土や砂質土からなる。

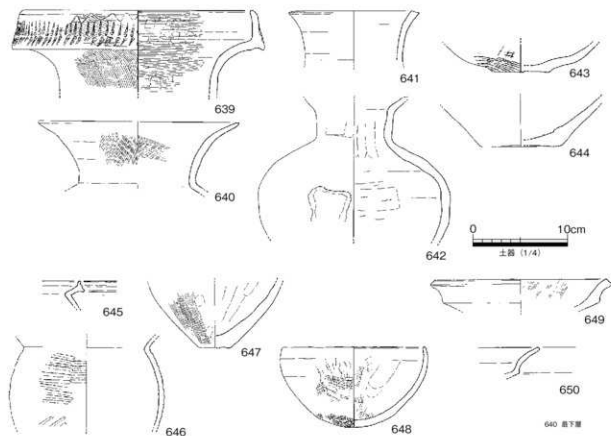
埋土からは弥生時代後期前葉～中葉頃の弥生土器とサヌカイト製石器類等が出土している。639～644は壺の資料である。639は複合口縁の壺口頸部で、口縁部外面には刺突文と波状文を施している。642は口縁部と底部を欠く広口壺で、体部外面には焼成破裂痕を残している。645～647は甕の資料である。645は口縁部に凹線文を施した後期前半の甕、646は体部外面にタタキを施した甕である。649・650は高杯の杯部である。

651は凹基式の石鏃である。652は縦長状の剥片の側縁にリタッチが認められる、調整ある剥片である。653は翼状剥片石核である。瀬戸内技法に係わる資料としては唯一貴重な資料である。654は肉厚で大型の剥片をもちいた石核である。素材剥片の側縁部を交互剥離の手法で剥片剥離を行なっている。655は砂岩製で棒状の敲石である。出土遺物よりSR201は弥生時代後期中葉頃に埋没した自然河川と考えられる。

#### SR202(第 94・95 図)

Ⅱ-2区南東半部の東西に蛇行しながら、概ね南北方向の小規模な流路である。調査時には溝状遺構として捉えられていたが、検出状況から溝跡とみるより小規模な流路と判断した。調査区南半部では僅かに西へ湾曲し北へ延びるが、北端部では南東方向へ屈曲している。北半部ではSD238・239・241等の溝跡を切り込んでいる。また、調査区中央ではSD237が切り込んでいる。





第92図 SR201 出土遺物(1)

検出長約43.0m、幅2.5～4.5m、深さ約0.6mを測る。断面の形状は上に開いた不整形で幅広のU字状を呈する。埋土は上層が灰色粘質土、中層が褐灰色の砂質土、下層が灰黄褐色の砂質土である。

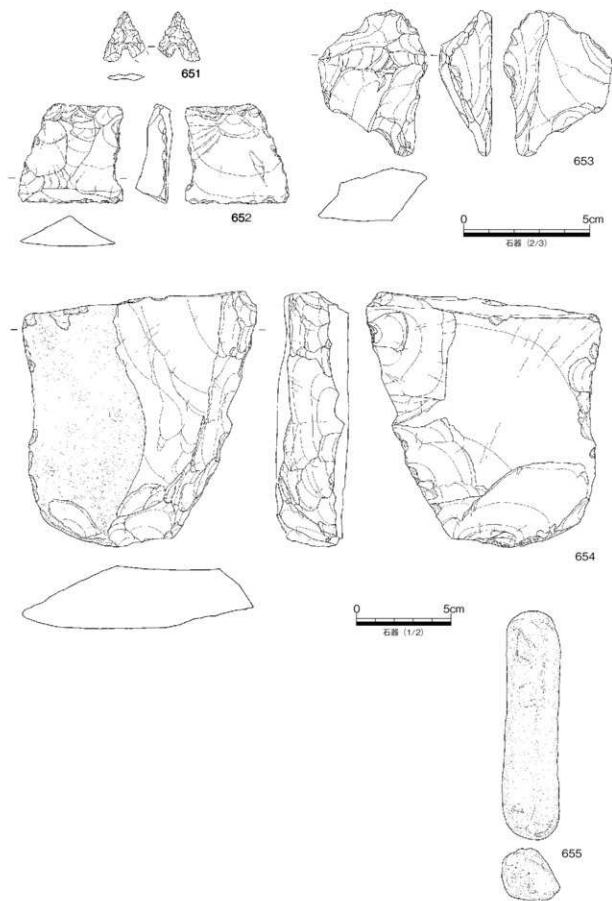
埋土からは縄文土器浅鉢、土師器・須恵器・黒色土器等が少量出土しているが、遺物が少なく時期判断には問題を残す。また、出土した縄文土器は後述するSR202の東側に位置する自然河川SR203から混入した可能性もある。

SR202の堆積層からは、縄文土器・須恵器、サヌカイト製石器類等が出土した。656は縄文時代後期後半の浅鉢である。この土器は本遺跡で唯一の縄文土器である。口縁部と底部の一部を欠くが、残存状態も良好な優品である。体部正面はボール状の形態を呈しているが、口縁上面は楕円形状に歪んでいる。体部外面下位には条痕、上位には磨消縄文、体部内面には条痕を施している。657は須恵器碗の底部、658は須恵器甕の下半部である。

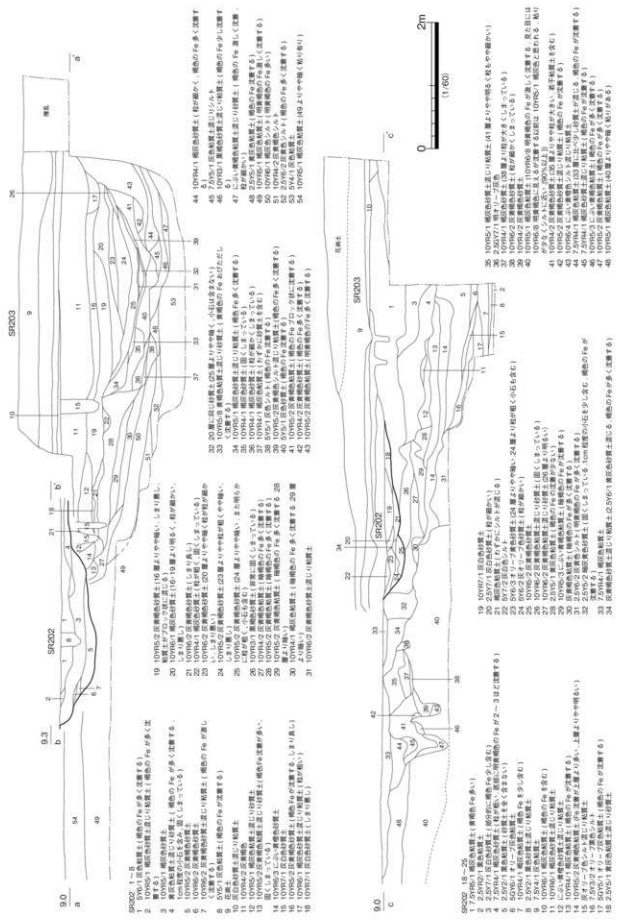
659・660は形状から縦長剥片石核の調整剥片に分類した。661～663は凹基式石鏃である。664は不整形ではあるが、基部調整等から小型の槍先形石器に分類した。

#### SR203(第94図)

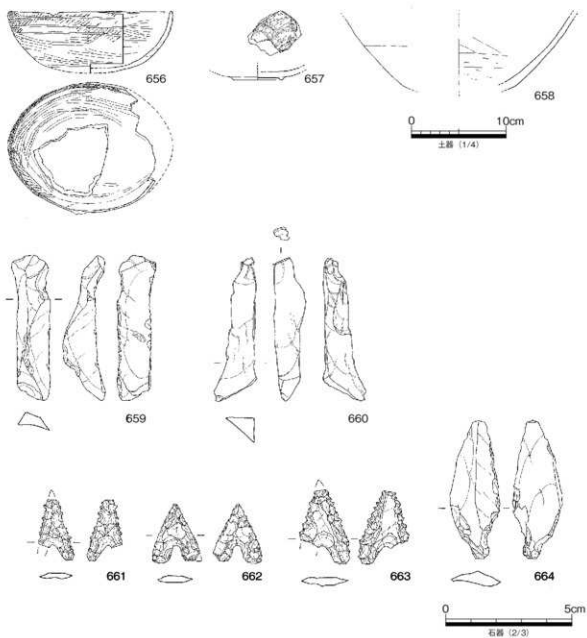
SR202の遺構掘削終了後、遺構面下の堆積状況を抑むため、東西方向の確認トレンチを数条設定した。その結果、SR202の東側に自然河川SR203の西岸を確認した。この河川の西側には弥生時代後期後半古相頃のSR201が北流しており、この調査区で今回検出したSR201・SR202とトレンチで確認した



第 93 図 SR201 出土遺物 (2)



第 94 図 SR202・203 土層断面図



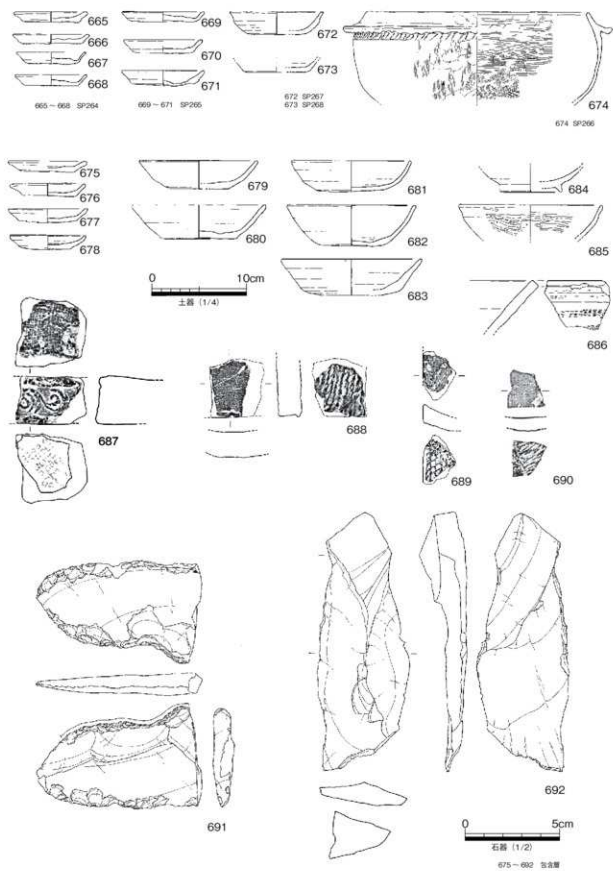
第95図 SR202 出土遺物

SR203は、広い視野でみて本来一つの流路であり、時代を経るに従い微妙に位置が変化したものが、3つの流路として表れているもの考えられる。

(5) 柱穴・包含層出土遺物(第96図)

Ⅱ-2区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

665～674はその他の柱穴から出土した遺物である。出土した土器の大多数は中世後半の土器である。665～668はSP264、669～671はSP265から出土した小皿である。672・673はSP267とSP268から出土した土師器と須恵器の杯である。674はSP266から出土した底部を欠く土師器足釜である。



第96图 II-2区柱穴·包含層出土遺物

675～692は包含層出土の遺物の中で代表的な遺物である。包含層に含めた出土遺物は、土師器・須恵器やサスカイト製の石器類等の遺物がある。675～678は土師器小皿、679～683は土師器杯、684は土師器椀、685は底部を欠く瓦器椀である。686は須恵器鉢の口縁部片である。688～690は瓦の資料である。687は瓦頭に唐草文を施した軒平瓦片で、器面には布目・縄目痕が認められる。687～690は平瓦片で、器面には布目・縄目痕が認められる。691は裁断面が認められることから、削器を転用した楔形石器に分類した。692は形状から、板状の石核から剥出した剥片と考えられる。

## 第5節 III区の調査

### 1. はじめに

III区はII区の東端から北へ約140m離れた地点に位置する、南北方向の延長約120mの調査区である。この調査区は平成10年度調査I・II区、平成11年度I区、平成12年度調査I区に相当し、南から平成10年度II区を「III-1区」、平成11年度I区を「III-2区」、平成10年度I区を「III-3区」、平成12年度I区を「III-4区」に区分し報告することにした。

III区からは弥生時代後期・古代前半・中世の大型溝状遺構を確認した。弥生時代後期の溝跡はIII-3・4区の北半部で検出した。III-4区の溝跡は小規模な溝跡であるが、III-3区の水路は大型の溝状遺構で、当時の灌漑水路と考えられる。溝跡からは弥生土器が多量に出土しており、隣接地に集落の居住域が展開している可能性を示唆するものである。

古代前半の溝跡はIII-3区の南半部で2条検出した。二つの溝跡は約1.5m隔てて、南北方向に並走しており、形状や時期的な点で類似するため、同じ性格の幹線水路と考えられる。

中世の溝跡はIII-1・3区の東辺で、条里地割の坪塚の可能性が高い中世の溝跡を確認した。また、III-2区は、南北方向と東西方向の条里地割の交点部分にあたる地点である。調査では東西方向の条里地割線に合致した灌漑水路と考えられる中世の大型水路を検出した。これらの溝跡は本遺跡周辺の条里地割の形成時期を考えるうえで重要である。

### 2. III-1区

#### SD301・302(第98図)

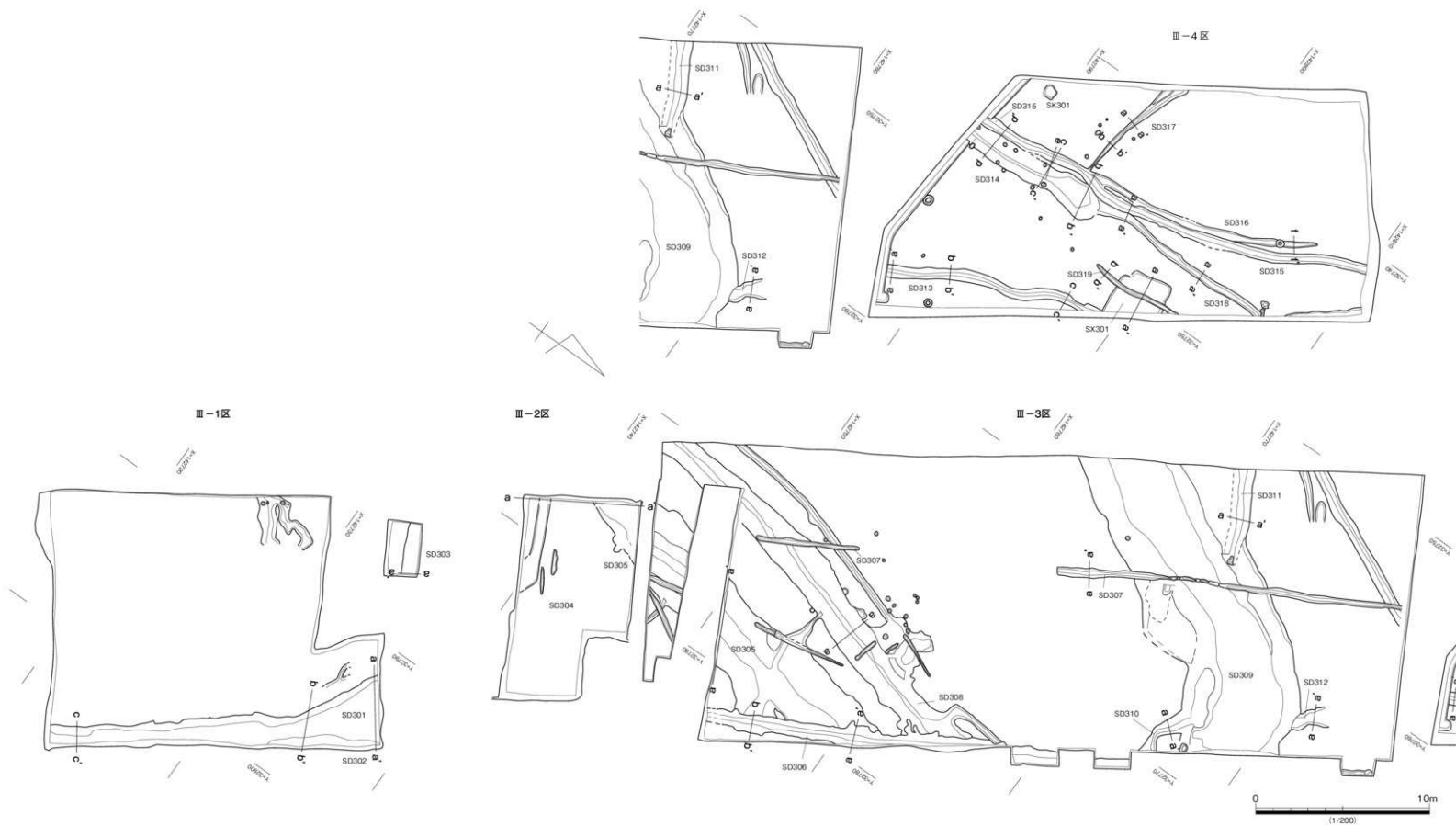
III-1区の東壁際で検出した北西方向に延びる2条の溝跡である。二つの溝跡は同方向に延びて、切り合っている。二つの溝跡の前後関係はSD302が先行しSD301が後出する。なお、この二つの溝跡は南北方向の条里地割の坪塚線に隣接しており、条里地割の坪塚の可能性が高い。

平面は凹凸のある不整形な形状を呈し、北半部は僅かに西へ振り南半部に比べ幅広である。この調査区の北にはIII-2区で確認したSD304が所在しており、幅広な北半部の状況はSD304との合流部の状況が表れているものと考えられる。

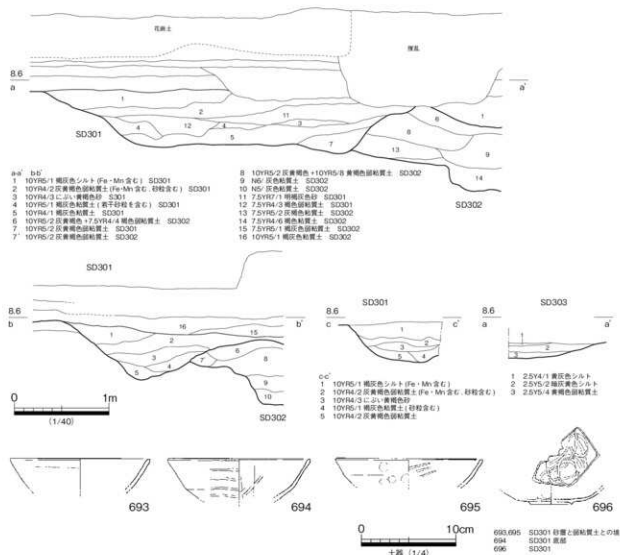
検出長約19.0m、幅は北端部で3.9m以上、南半部で約2.1m、深さ約0.5mを測る。南半部の直線気味な箇所の方はN36.0°Wを測る。

断面は地点により形状が異なり、北半部は幅広は逆台形状を、南半部は上部が開いた浅いU字状ないしV字状を呈している。埋土は複数層に分かれ、主に褐灰色系の粘土ないしシルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器・瓦器等が極少量出土した。693は底部を欠く須恵器椀、694は底部を欠



第97图 III-1·2·3·4区遺構配置図



第 98 図 SD301・302・303 断面、出土遺物

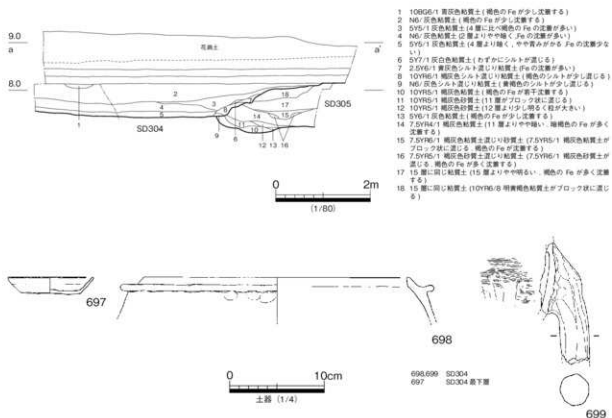
く須恵器碗である。695・696 は和泉型の瓦器碗である。出土遺物から 12 世紀後半以降の溝状遺構と考えられる。

SD302 は整理作業の段階で確認した溝跡のため不明瞭な点が多い。この溝跡は調査区の北東隅で部分的に検出した。東半分は調査区から外れ未確認である。また、西半部の大部分は SD301 に切り込まれているため不明瞭な点が多いが、状況から推定して SD301 の前身の溝跡の可能性が高い。なお、この溝跡の幅は北端部で 1.6m 以上、深さは約 0.7m を測る。

#### SD303 (第 98 図)

平成 10 年のⅡ区の北端部で飛地状に設定した、小範囲の調査区で確認した東西方向に延びる溝跡である。調査区が小範囲のため、東西溝の南岸の一部を確認した。周辺の調査区の状況から推定して、Ⅲ-1 区で確認した、大型東西溝の SD304 の南岸部分にあたる可能性もあるが、SD303 は SD304 と並走する単独の溝状遺構と考えた方が妥当であろう。





第 99 図 SD304・305 断面、出土遺物

検出長約 3.0m、幅約 2.0m 以上、深さ約 0.15m を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は複数層に分かれ、上層は暗灰色シルト、下層は黄褐色粘質土からなる。埋土からは土師器片が極少量出土した。

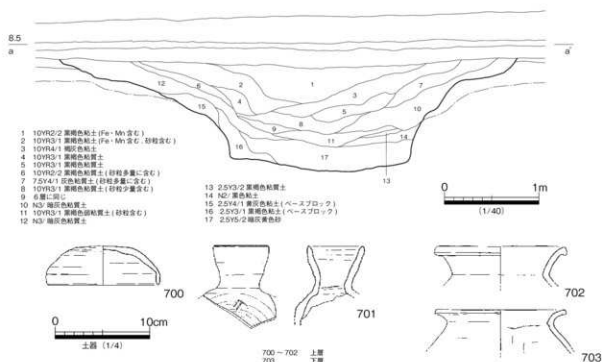
### 3. III-2 区

#### SD304 (第 99 図)

III-2 区のはは全域で確認した、幅広な大型の溝状遺構である。調査区が小規模なため、明瞭な岸の部分を探っていないが、堆積状況や周辺の調査区の状況のみを限りほぼ東西方向に向く灌漑水路と考えられる。堆積状況から北岸は調査区北西隅の SD305 の上位を切り込んでおり、このあたりに北岸が位置するものと考えられる。南岸については途中未掘区域を挟むが、先述した SD303 が南岸の可能性もある。しかし、その地点まで含めると SD304 は幅約 12.0m を超えることになり、SD303 は単独の溝状遺構と考えた方が妥当であろう。そのため、溝幅については調査概報で指摘している様に約 8.0m 程度の規模が考えられる。なお、SD304 の周辺には条里地割の東西方向の坪塚が推定され、SD304 は条里地割の坪塚の溝にあたる可能性が高い。

検出長約 11.0m、幅約 6.0m 以上、深さ約 0.7m を測る。断面の形状は上に開いた不整形で幅広で隅丸逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土は灰色系の粘質土を主に数層に分かれ、比較的水平的に堆積している。そのため、この溝跡は長期間湿地状を呈し、時間をかけてゆっくりと埋没したものと考えられる。

埋土からは土師器・須恵器・青磁片等が少量出土した。697 は土師器杯である。698・699 は足釜の



第 100 図 SD305 断面、出土遺物 (1)

口縁部と脚部である。これらの遺物から SD304 の開削時期を判断するには無理があるが、少なくとも SD304 は 13 世紀後半頃に埋没したものと考えられる。

#### 4. III - 3 区

##### (1) 溝状遺構

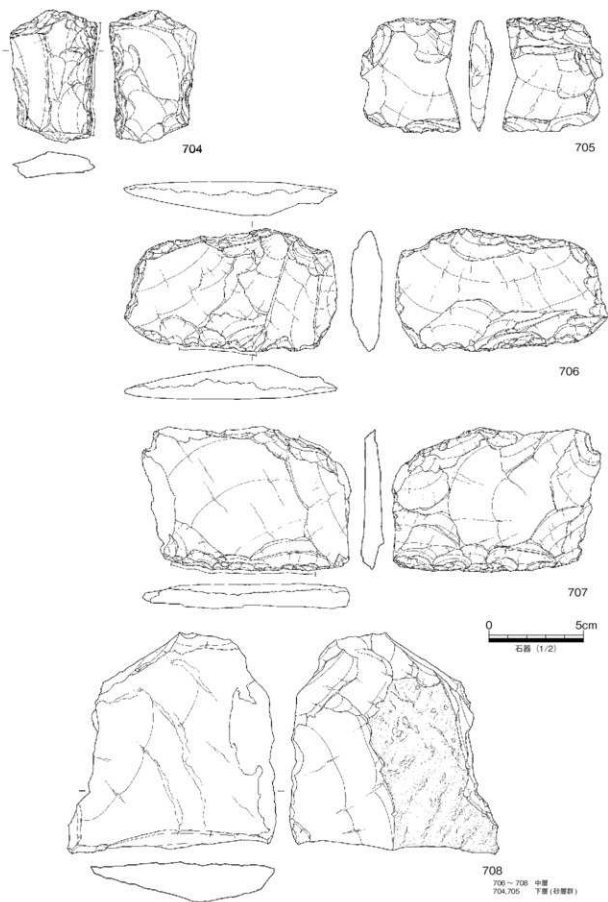
##### SD305( 第 99 ~ 101 図 )

III - 3 区南半部の SD308 の東側で検出した、SD308 と並行して北東方向へ直線気味に延びる比較的大型の溝跡である。南北両端部は対象地外へ延びておりこの溝の延長は III - 2 区においても東岸の一部が確認されている。III - 2 区では SD305 は SD304 と重複しており、断面でみれば限り、SD305 は SD304 に切られている。

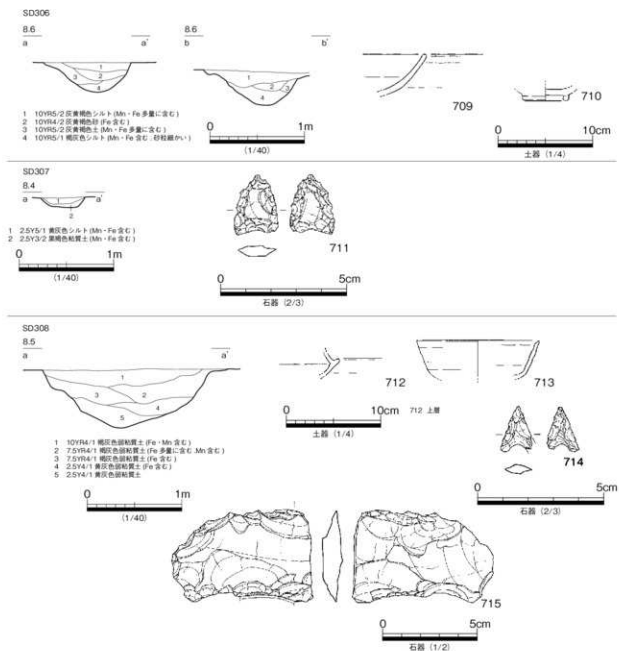
検出長約 15.0m、幅約 3.5m、深さ約 1.05m、方位は N9.5° E を測る。平面は凹凸のある不整形な形状を、断面は上部が開いた幅広い逆台形状を呈している。埋土は黒褐色系ないし褐色系の粘土・粘質土を主にして、複数層に分かれている。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器、サヌカイト製石器等が少量出土した。700・701 は 7 世紀前半の須恵器蓋と須恵器提瓶である。702・703 は弥生時代後期後半の壺と甕の上半部で、おそらく混入資料であろう。700・701 等の資料は、SD305 の埋没時期を示唆する遺物であるが、SD305 は併走する SD308 との関係で判断する必要もある。

704 ~ 708 は出土したサヌカイト製石器類で混入品であろう。704 は楕先形石器の未製品に分類したが、楔形石器の素材とも考えられる。705 は打製石庖丁の未製品、706・707 は打製石庖丁、708 は肉厚な剥片を素材にした石核である。出土遺物より SD305 は、7 世紀前半頃に埋没した溝状遺構と考えられる。



第101図 SD305出土遺物(2)



第102図 SD306～308 断面、出土遺物

### SD306(第102図)

Ⅲ-3区南半部の東壁際で検出した北西方向に延びる直線溝である。隣接するSD305・308を切り込んだ状態で検出した。南北両端部は対象地外へ延びている。

検出長約25.0m、幅約0.95m、深さ約0.35m、方位はN28.0°Wを測る。

平面は凹凸のある不整形な形状を、断面は上部が開いた浅いU字状を呈している。埋土は複数層に分かれ、上層は灰黄色系のシルトないし砂、下層は褐灰色系のシルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦器等が少量出土した。709は底部を欠く須恵器椀で、710は瓦器椀の底部片である。出土遺物からSD306は中世前半の溝跡であろう。

### SD307(第102図)

Ⅲ-3区中央で検出した北西方向に延びる幅の狭い直線溝である。残りが悪く部分的に検出した。

検出長26.0m、幅約0.45m、深さ約0.1m、方位はN29.0°Wを測る。断面は上部が開いた浅いU字状を呈している。埋土は上下2層に分かれ、土師器・須恵器とサヌカイト製石器が極少量出土した。711はサヌカイト製の石鏃である。

### SD308(第102図)

Ⅲ-3区南半部のSD305の西側で検出した、SD305と並行して北東方向へ直線気味に延びる溝跡である。南北両端部は対象地外へ延びている。形状・規模等から、古代の灌漑用の溝状遺構と考えられる。

検出長約23.5m、幅1.5～2.3m、深さ約0.6m、方位はN14.0°Eを測る。断面の形状は浅いU字状を呈している。埋土は複数層に分かれ上層は褐灰色系の粘質土、下層は黄灰色系の粘質土を呈する。

埋土からは土師器・須恵器やサヌカイト製石器等が少量出土した。712は須恵器杯片、713は7世紀後半頃の底部を欠く須恵器杯で、SD308の埋没時期を示唆する遺物になる。714はサヌカイト製の石鏃、715は形状から楔形石器に分類した。出土遺物からSD308は7世紀後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

### SD309(第103～108図)

Ⅲ-3区北半部で検出した、北方へ湾曲気味に延びる比較的大型の溝跡で、農耕に伴う灌漑水路と考えられる。東西両端部は対象地外へ延びている。また、西半部ではSD311、東端部ではSD310の小溝が分岐している。

検出長約17.5m、幅約6.5m、深さ約0.9mを測る。平面は凹凸のある不整形な形状を、断面は二段掘方の幅広い逆台形状を呈している。埋土は複数層に分かれ、上層・中層は黒褐色系の粘土・粘質土、下層は暗灰色系の粘質土・シルト等からなる。

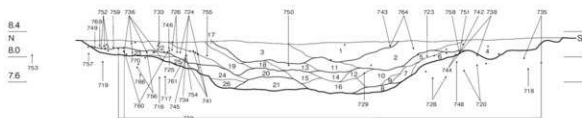
埋土からは弥生時代後期前半～終末期頃の弥生土器、サヌカイト製石器類等が多量に出土した。周囲の集落域から廃棄されたものと考えられる遺物であるが、調査区内には同時代の住居等の遺構がないため、隣接地に集落域が広がっているものと考えられる。

716～732は壺である。これらの土器は形状から、後期前半の土器と後期後半の新相前後の土器とに区分できるため、ある程度の時期幅が推定できる。また、資料中の716・717・720・725・728・729には焼成破裂痕を残す所謂焼成破裂土器で、周辺に所在するであろう集落の居住域で、土器を生産していたことを証明する土器である。716～719・725は広口壺である。716・717は完形に近い良資料である。720は長頸壺の口頸部である。頸部は直線状に延び上半部で反外し口縁部に至る。頸部には数条の沈線を巡らせている。口縁部は平坦に肥厚させ、二条の凹線文が巡る。なお、この土器は焼成破裂の土器であるが、破裂後の燃焼によるためか、接合する破片によってススの付着状態が極端に異なる。721は複合口縁壺の口頸部で、727は細頸壺の頸部である。730～732は大型壺の底部である。球体気味の体部下半に小さな突出した平底が付く。

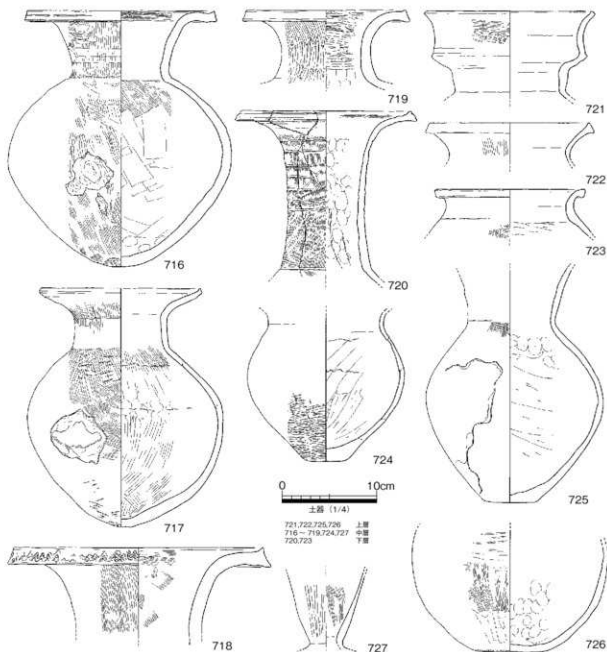
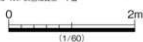
733～747は甕の資料である。体部外面にはタタキ、内面下半部にはヘラ削りを施すものが主である。口縁部の作りでは端部を平坦に仕上げるものと、丸味をもって仕上げる土器に分けることができる。733・734は長胴形の甕である。733は外面ミガキ、内面ヘラ削りを施しており弥生中期後半～後期前半頃の可能性がある。



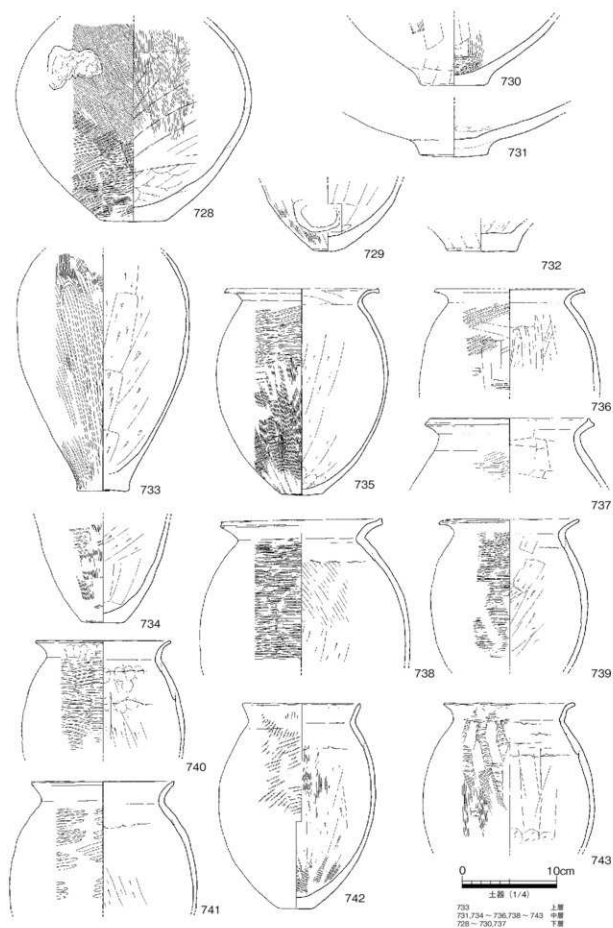
第 103 図 SD309 土器出土分布図



- |                              |                              |                                  |
|------------------------------|------------------------------|----------------------------------|
| 1 10VR2/1 黒褐色粘土 上層           | 10 10VR4/1 褐色シルト(若干砂粒を含む) 下層 | 19 10VR3/1 黒褐色粘質土(砂粒・小礫多量に含む) 中層 |
| 2 10VR3/1 黒褐色粘土(砂粒多量に含む) 中層  | 11 10VR4/1 褐色粘質シルト 中層        | 20 10VR4/2 灰黄褐色シルト 下層            |
| 3 10VR3/1 黒褐色粘質土 上層          | 12 N4/ 灰色シルト(若干砂粒を含む) 下層     | 21 2.5V5/2 褐色黄砂 最下層              |
| 4 2.5V3/1 黒褐色粘土(Mn・Feを含む) 中層 | 13 10VR3/2 黒褐色シルト(砂粒を含む) 中層  | 22 10VR3/1 黒褐色粘質土(Mn・Feを含む) 中層   |
| 5 2.5V3/1 黒褐色粘土 下層           | 14 10VR4/2 灰黄褐色シルト 下層        | 23 2.5V5/2 褐色黄砂粘質土(Mn・Feを含む) 下層  |
| 6 2.5V5/2 褐色黄砂シルト 下層         | 15 10VR4/2 ニコト黄褐色シルト 下層      | 24 10VR4/1 褐色シルト(Mn・Feを含む) 下層    |
| 7 10VR4/1 褐色シルト 下層           | 16 N3/ 褐色粘質土 下層              | 25 2.5V5/1 灰褐色粘質土(Mn・Feを含む) 下層   |
| 8 2.5V5/2 灰褐色粘土 最下層          | 17 10VR2/1 黒褐色粘土(砂粒多量に含む) 中層 | 26 N4/ 灰色粘質土 下層                  |
| 9 N2/ 灰色砂 下層                 | 18 10VR4/1 褐色シルト(砂粒を含む) 中層   |                                  |

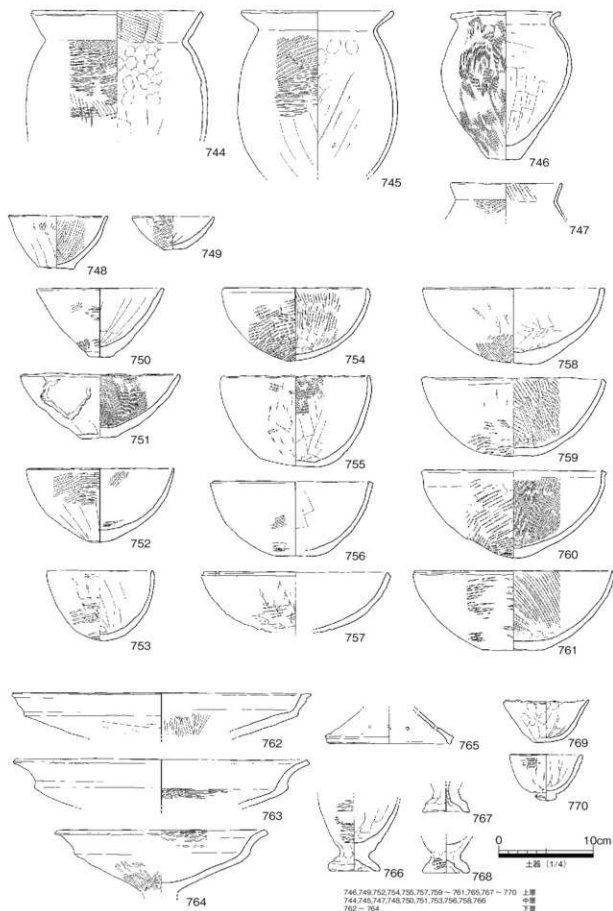


第104図 SD309断面、出土遺物(1)

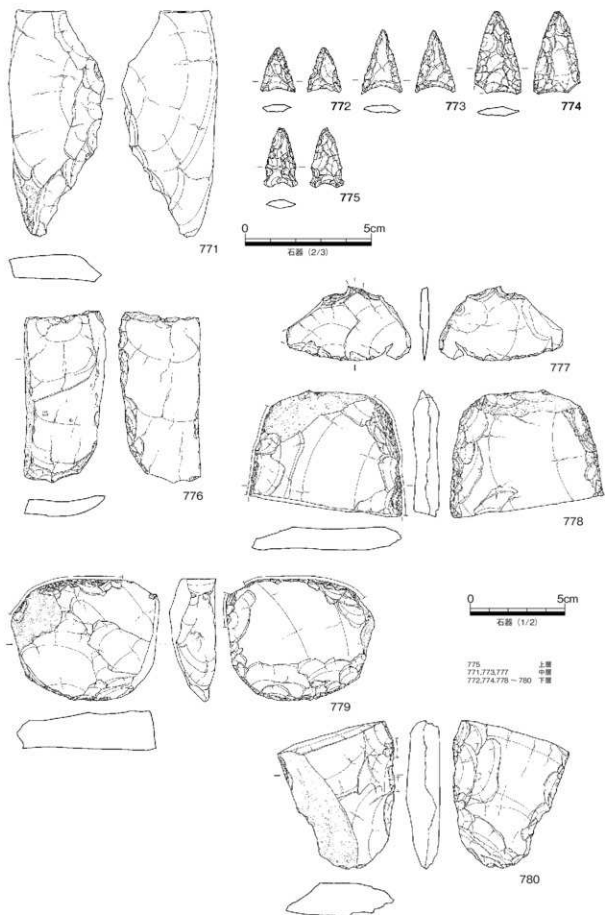


第 105 図 SD309 出土遺物 (2)

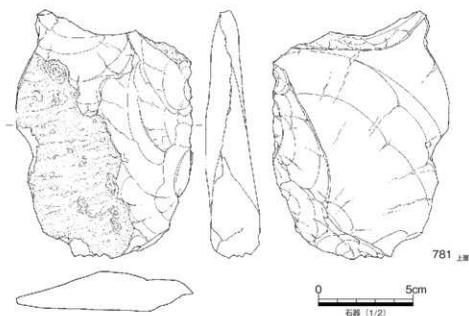




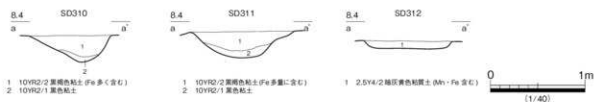
第106図 SD309出土遺物(3)



第 107 図 SD309 出土遺物 (4)



第108図 SD309出土遺物(5)



第109図 SD310～312断面図

748～761は鉢の資料である。鉢を大きさで分ければ、概ね大・中・小の三種類に分けられる。また正面の形状ではV字状や、ボール状のものに分けられる。

762～765は高杯の資料である。762～764は高杯の杯部で、765は高杯脚部である。762は後期前半の高杯で、出土した土器の中では比較的古い部類に入る。

766～768は脚台付製塩土器の下半部である。体部や脚部外面にタタキを残すものがある。形状や調整から、これらの製塩土器は弥生時代後期後半新相頃の土器と考えられる。

771～781はサヌカイト製石器類である。771は横長剥片である。772～775は石鏃、776は縦長状の剥片の側縁に刃部を形成した削器である。777は基部を欠く石匙である。779は楔形石器で、他の石器の転用品であろう。780は石核に分類したが、何らかの未製品の可能性もある。781は肉厚な剥片を素材にした交互剥離の横長剥片石核である。

出土遺物からSD309は、弥生時代後期前半頃に掘削され、最終的に埋没が終わるのは弥生時代終末期頃であろう。

#### SD310(第109図)

Ⅲ-3区北半部で検出したSD309の南岸から東へ分岐する小溝である。東壁近くで確認したため、

極一部を検出した。

検出長 3.5m、幅約 0.85m、深さ約 0.25m を測る。断面は上部が開いた浅い V 字状を呈している。埋土は上下 2 層に分かれ、出土遺物は確認できなかった。

#### SD311(第 109 図)

Ⅲ - 3 区北半部で検出した SD309 の北岸から西へ分岐する小溝である。

検出長 5.5m、幅約 1.1m、深さ約 0.3m を測る。断面は上部が開いた不整形な皿状を呈している。埋土は上下 2 層に分かれ、埋土からは弥生土器の細片が 2 点出土したのみで、時期を判断するには無理があるが、SD309 に類似する時期の可能性はある。

#### SD312(第 109 図)

Ⅲ - 3 区北半部で検出した SD309 の北岸から北へ分岐する浅い小溝である。

検出長 2.3m、幅約 0.95m、深さ約 0.1m を測る。断面は皿状を呈している。埋土は単層で暗灰黄色粘質土を呈する。埋土からは遺物は確認できなかった。

### 5. Ⅲ - 4 区

#### (1) 基本層位

Ⅲ - 4 区は、Ⅲ 区の北端に位置する。調査前の旧状は事業地であった。現地表面の標高は 9.4m 前後、地表下 0.7 ~ 0.8m は盛土層であった。盛土層下位で、層厚 0.1 ~ 0.2m の旧耕作土に至る。旧耕作土下には数層に分かれる旧耕作土と床土層の水平堆積が認められ、それらを除けば第 1 遺構面に至る。

第 1 遺構面の標高は調査区南端で 8.4m 前後、北端で 8.1m 前後を測り、緩やかに北へ傾斜する。第 1 遺構面のベースとなるのは褐灰色粘土層は層厚数 cm の薄い層で、調査区の西にやや厚く堆積する。褐灰色粘土層の下面が第 2 遺構面になる。

第 2 遺構面の標高は 8.1m 前後を測り、緩やかに北へ傾斜する。第 2 遺構面のベースになるのは黄色系粘土で、同層は、大東川下流域の平野部で一般的にみられる弥生時代以降のベース層の一つである。なお、調査区北半部では浅黄色粘質土(包含層)が褐灰色粘土層(第 1 遺構面ベース層)と黄色系粘土(地山)間に薄く堆積しており、部分的遺構面が 3 面になるところがある。

#### (2) 土坑

#### SK301(第 112 図)

Ⅲ - 4 区南西部で検出した土坑である。平面は不整形円形状を、断面は浅く不整形な形状を呈する。

径約 0.7m、深さ約 0.05m を測る。埋土は単層で黒色粘土を呈する。埋土から遺物は確認できなかった。

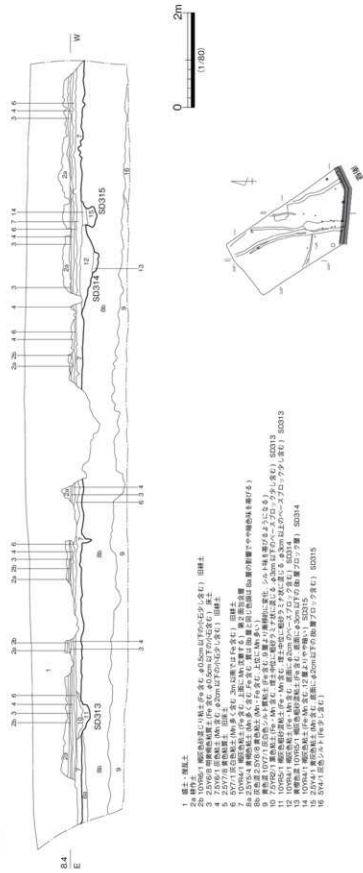
#### (3) 溝状遺構

#### SD313(第 112 図)

Ⅲ - 4 区南半部の第 1 遺構面で検出した。東壁際を、僅かに蛇行気味に北西方向へ延びる溝状遺構である。

検出長約 13.0m、幅 0.5 ~ 0.7m、深さ約 0.2m を測る。断面は浅い U 字状を呈し、埋土は上下 2 層に

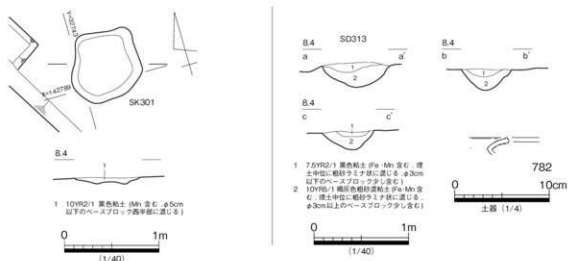
第110図



第110図 南壁土層断面図

- 1 壁土、埋込土
- 2 埋込土、埋込土
- 3 埋込土、埋込土
- 4 埋込土、埋込土
- 5 埋込土、埋込土
- 6 埋込土、埋込土
- 7 埋込土、埋込土
- 8 埋込土、埋込土
- 9 埋込土、埋込土
- 10 埋込土、埋込土
- 11 埋込土、埋込土
- 12 埋込土、埋込土
- 13 埋込土、埋込土
- 14 埋込土、埋込土
- 15 埋込土、埋込土





第112図 SK301・SD313平・断面、出土遺物

分かれ、上層が黒色粘土、下層が褐灰色粘土を呈する。埋土からは弥生時代後期頃の土器片が数点出土した。782は弥生時代後期後半頃の甕口縁部片である。出土遺物からこの溝跡は弥生時代後期後半頃の時期が考えられる。

#### SD314(第113図)

Ⅲ-4区南半部の第2遺構面で検出した。南壁から南北方向へ延びる溝状遺構で、西辺はSD315と重複しSD314はSD315に切り込まれており、この溝跡はSD315より先行することが分かる。また、SD314は北端部でSD318と重複する。

検出長約8.5m、幅1.3～2.0m、深さ約0.2～0.4m、主軸方位はN6.2°Wを測る。断面は浅い皿状ないし丸味をもったV字状を呈し、埋土は上層が灰黄褐色粘土、下層が褐灰色系の堆積層からなる。

埋土からは弥生時代後期後半頃の土器とサヌカイト製の石器が出土した。783・784は甕の上半部である。784の体部外面にはタタキを顕著に残す。785・786は高杯の杯部と脚部片である。出土遺物よりSD314は、弥生時代後期後半頃に埋没した溝跡と考えられる。

#### SD315(第113・114図)

Ⅲ-4区南半部の第2遺構面で検出した。南壁から北壁に至る区間で僅かに西に傾き気味に南北方向へ延びる溝状遺構である。SD315はSD314・316と重複し、この溝状遺構は両溝跡を切り込んでいる。そのため、SD314は先述した二つの溝跡より後出することが分かる。

検出長約23.7m、幅約0.7m、深さ約0.3mを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土は約3層に分かれるが、主体を占めるのは黒色粘土である。また、南半部を中心に改修の痕跡が認められる。

埋土からは弥生時代後期前半、終末期頃の土器とサヌカイト製の石器が出土した。788～792は甕の資料である。789・790の甕は口縁部を平坦に拡張し、端部に退化した凹線文を施している。793・794は高杯の資料である。793は杯部片で、794は脚部である。795は終末期頃の製塩土器脚部台である。787は後期前半の高杯の杯部である。この高杯はSD314とSD315の破片同士が接合しており、どちら

に属するか判断しにくい、他の出土遺物と遺構の切り合いからSD315に含まれるものと考えられ、SD314出土の破片は、SD314が埋没する過程で混入したものであろう。なお、同様に796・797の甕・鉢は、SD315とSD316の破片同士が接合する資料で、いずれの溝跡に属するか判断しにくい資料である。

807・808は打製の石庖丁である。807は横長状の剥片を素材にし、側縁部に僅かに調整を施し刃部を形成している。809は肉厚な剥片を素材にし、交互剥離状に剥片剥離を行っている石核である。また、残核の形状は尖頭状を呈している。出土遺物よりSD315は、弥生時代終末期に埋没した溝状遺構と考えられるが、開前期については弥生時代後期前半項の可能性がある。

#### SD316(第113図)

Ⅲ-4区南半部の第2遺構面で検出した。この溝跡はSD315と重複し同方向へ延びている溝状遺構で、SD315に切り込まれているため、SD315の前身流路と考えられる。

検出長約13.7m、幅約0.35m、深さ約0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は単層である。

埋土からは弥生時代後期前半項の土器が少量出土した。798は口径部を欠く壺の体部である。799～801は甕の資料である。口縁部は外上方に開き端部は平坦に仕上げている。802～805は鉢である。底部の形状には平底と丸底のものがある。806は高杯の杯部片である。出土遺物よりSD316は、弥生時代後期前半に埋没した溝状遺構と考えられる。

#### SD317(第115図)

Ⅲ-4区中央の第2遺構面で検出した。SD316から西へ分岐している東西方向の小規模な溝状遺構である。

検出長約7.3m、幅0.2～0.7m、深さ0.05～0.15m、主軸方向はN81.0°Wを測る。断面は浅いU字状や凹凸のある不整形な形状を呈し、埋土は褐灰色粘土と黒褐色粘土の2層に分かれる。埋土から遺物が出していないため、詳細な時期については不明である。

#### SD318(第115図)

Ⅲ-4区南半部の第2遺構面で検出した。SD314から北に向け東壁方向へ延びている細い溝跡である。SD314との切り合いは認められないため、SD314とSD318は一連の遺構と考えられる。

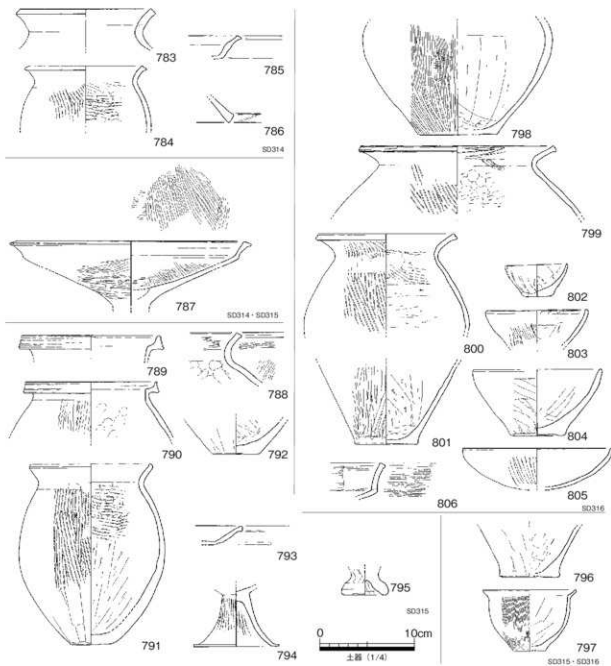
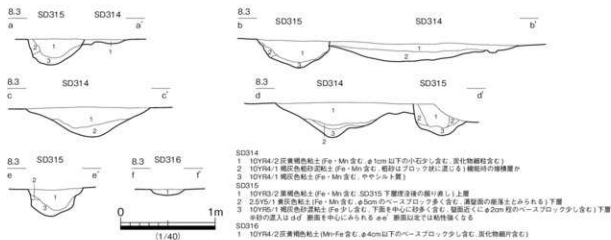
検出長約11.0m、幅約0.4m、深さ約0.1m、主軸方向はN1.0°Eを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土は褐灰色粘土の単層である。埋土からは数点の弥生土器とサヌカイト製石器が出土した。

#### SD319(第115図)

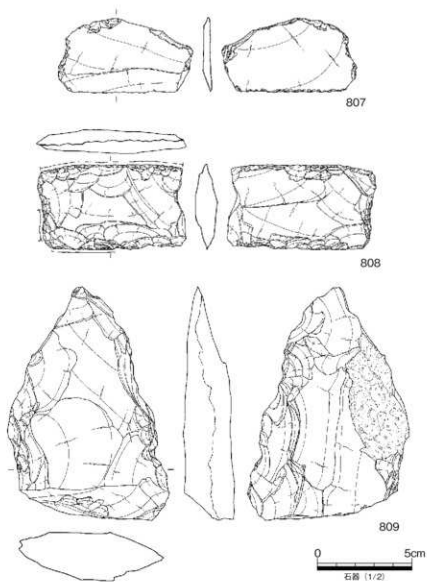
Ⅲ-4区中央東辺の第2遺構面で検出した。調査区中央から南北方向へ延びて東壁にあたる溝状遺構である。この溝跡はSX301と重複し、SD319はSX301を切り込んでいるため、SX301より後出することが解る。

検出長約5.6m、幅約0.3m、深さ約0.05m、主軸方位はN6.6°Wを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土は単層で灰黄褐色粘土を呈する。埋土からサヌカイト片1点出土したのみで、詳細な時期については不明である。

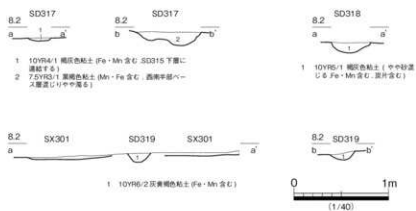




第 113 図 SD314～316 断面、出土遺物



第 114 図 SD315 出土遺物



第 115 図 SD317 ~ 319・SX301 断面図

(4) 不整形遺構

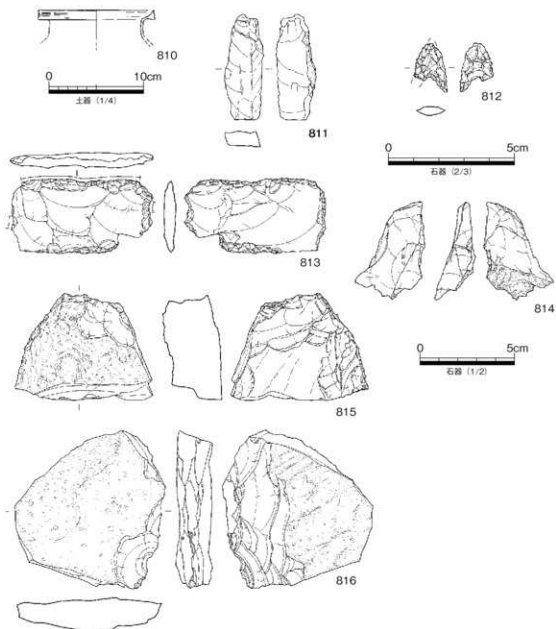
**SX301(第115図)**

Ⅲ-4区中央東辺の第2遺構面で検出した、不整形な浅い方形状の遺構である。SD319と重複し、SD319に切り込まれているため、SD319より先行することが分かる。

長径3.0m以上、短径3.0m、深さ約0.02mを測る。断面は浅いレンズ状を呈し、埋土は単層で灰黄褐色粘土からなる。埋土からは弥生土器と考えられる細片が出土しているが、詳細な時期については不明である。

(5) 包含層出土遺物(第116図)

Ⅲ区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次に包含層出土遺物を報告する。なお、包含層



第116図 包含層出土遺物

出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

810～816は包含層出土の遺物の中で代表的な遺物である。810は弥生時代後期初頭の複合口縁壺の口頸部である。口縁部は上下に拡張し凹線文を施している。811～816ササカイト製の石器類である。811は縦長剥片である。形状から推定して、板状の石核から剥出された縦長剥片と考えられる。812は凹基式の石鏃、813は石砲丁である。814は不整形な剥片である。815・816は石核である。815は肉厚な板状剥片を素材にして、外縁部から剥片剥離を施している。816は板状の礫の一辺に打面調整を施し、対面に剥片剥離を施している。

## 第6節 IV区の調査

### 1. はじめに

IV区はⅢ区の北端から北へ約25m離れた地点に位置する、南北方向の延長約70m程の調査区で、本遺跡の北端部に位置し、平成12年度調査のⅡ区にあたる調査区である。

IV区からは、弥生時代以降の遺構面下から、当初予想していなかった縄文時代の石器製作跡と考えられる4箇所の石器集中ブロックと、大型の剥片や石核を集積したササカイト集積遺構を検出した。また、遺構面上からは、弥生時代前期のピットや中期後半の土坑や溝状遺構を少数検出した。

石器集中ブロック等からは約1,600点のササカイト製の石器類が出土した。主体になるのは破片や剥片であるが、少数の石核・石鏃・削器等も含まれる。また、接合資料も数点抽出することができた。これらの石器製作跡の資料は県下では限られており、従来不明瞭であった縄文時代の石器製作技術を復元するうえで良資料になった。

### 2. 基本層位(第118図)

IV区は川津六反地遺跡の北端の調査区にあたる。調査前の旧状は、農協やガソリンスタンド等の事業地であった。現地表面の標高は9.0m前後、地表下0.7～0.8mは盛土層であった。盛土層下位で、層厚0.1～0.2mの旧耕作土に至る。旧耕作土下には数層に分かれる旧耕作土と床土層の水平堆積が認められ、それらを除けば第1遺構面に至る。

第1遺構面の標高は調査区南端で8.0m前後、北端で7.8m前後を測り、緩やかに北に傾斜する。第1遺構面のベースとなる褐灰色粘土層は層厚数cmの薄い層で、調査区のはほぼ全域で確認できる。同層からは、数点の遺物が出土した。同層下面が第2遺構面となる。

第2遺構面の標高は7.8m前後で緩やかに北に傾斜する。第2遺構面のベースとなる黄色系粘土の上位には、調査区南半部では4a層(明黄褐色粗砂混粘土)が堆積しており、同層から縄文時代と考えられる石器集中ブロックを検出した。黄色系粘土層の下位には、調査区の南北両端部で、砂礫層を確認したが、調査区中央では両端部より深いところで確認されることから、調査区中央は本来谷状の地形を呈していたものと考えられる。なお、先述した縄文時代の包含層は、この谷の南斜面部に堆積している包含層と考えられる。

### 3. 遺構・遺物

#### (1) 土坑

##### SK401(第119図)

Ⅳ区南端部西境際の第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状、断面は不整形なU字状を呈する。

長径約1.3m、短径約0.6m、深さ約0.3mを測る。埋土は単層で、黒褐色粘土にベースの小ブロックや小礫を含む。この埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。

##### SK402(第119図)

Ⅳ区北東部の第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状、断面は凹凸がある不整形な逆台形状を呈する。

長径約1.6m、短径約0.8m、深さ約0.5mを測る。埋土は上下2層に分かれ、サヌカイト製の剥片や石鏝が数点出土した。817は凹基式の石鏝である。

##### SK403(第119図)

Ⅳ区南半部東よりの第2遺構面で検出した土坑である。北半部はSK404と重複する。平面は長楕円形状、断面は不整形な逆台形状を呈する。

長径約1.4m以上、短径約0.7m、深さ約0.2mを測る。埋土はSK404同様の黒褐色粘土の単層で、切り合うSK404との相違は不明瞭であった。埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。

##### SK404(第119図)

Ⅳ区南半部東よりの第2遺構面で検出した土坑である。南半部はSK403と重複する。平面は不整形な楕円形状、断面は不整形な逆台形状を呈する。

長径約1.1m以上、短径約0.5m、深さ約0.25mを測る。埋土はSK404同様の黒褐色粘土の単層で、切り合うSK404との相違は不明瞭であった。埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。

##### SK405(第119図)

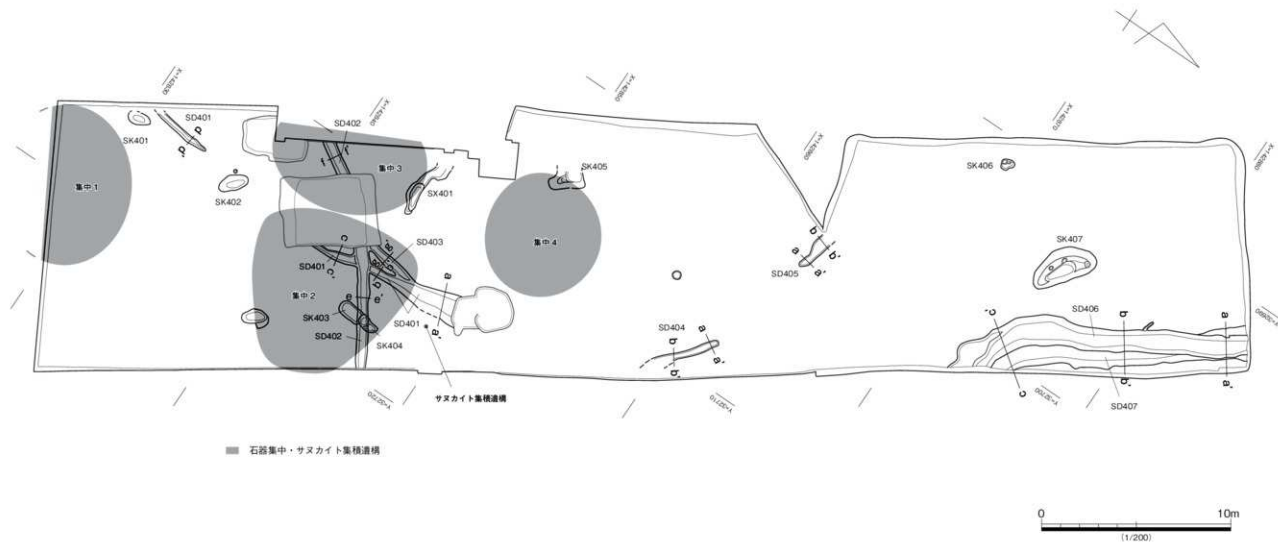
Ⅳ区中央の第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状、断面は凹凸のある不整形な逆台形状を呈する。

長径約1.9m、短径約1.3m、深さ約0.7mを測る。埋土は3層に分かれ、主体を占めるのは黒褐色粘土である。埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。

##### SK406(第119図)

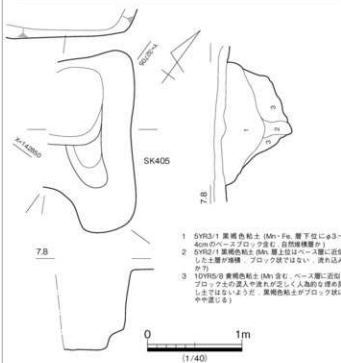
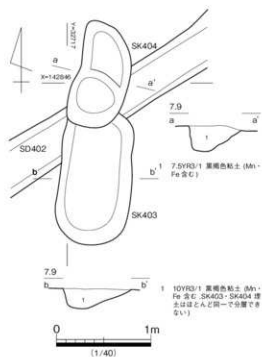
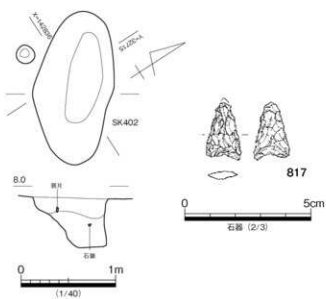
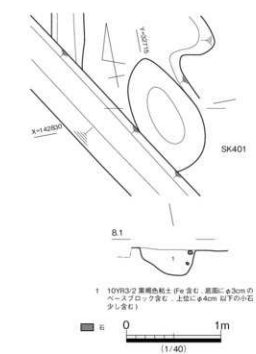
Ⅳ区北半部西よりの第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状、断面は残りが悪く、凹凸が顕著な不整形な形状を呈する。

長径約0.7m以上、短径約0.5m、深さ約0.15mを測る。埋土は黒褐色粘土からなり、埋土からは図化できる遺物は出土しなかった。



第 117 図 IV区遺構配置図





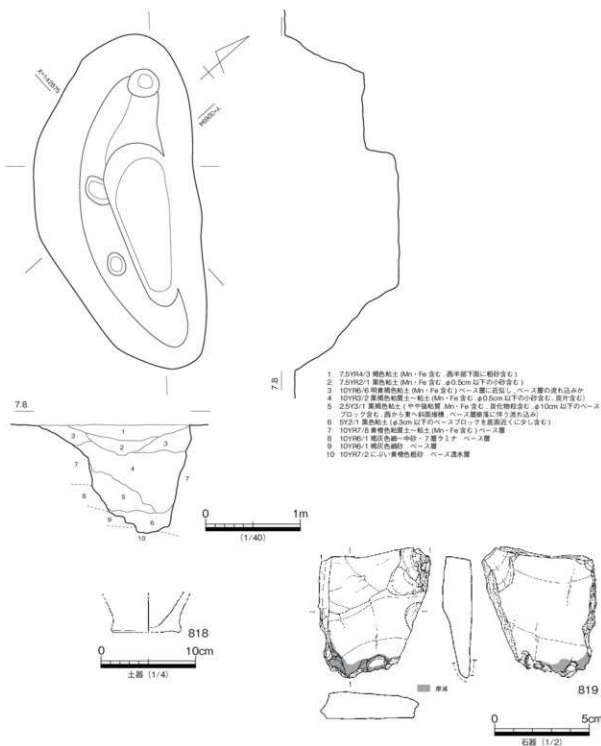
第 119 図 SK401 ~ 406 平・断面、出土遺物



SK407(第120図)

Ⅳ区北半部中央の第2遺構面で検出した土坑である。平面は不整形な長楕円形状を呈し、横断面は凹凸が顕著で不整形な逆台形状を、縦断面は南半部が下がる二重掘方を呈している。なお、底面には部分的に窪みが認められる。

長径約3.5m、短径約1.6m、深さ約1.1mを測る。埋土は数層に分かれ、褐色粘土や黒褐色粘土が主体を占める。



第120図 SK407 平・断面、出土遺物

埋土からは弥生土器、サヌカイト製の石器等が少量出土した。818は弥生時代中期前半頃の甕の底部であろう。819はサヌカイトの板状素材の小口面を打面にし、分割面を作業面とした石核である。出土遺物が少なく不明瞭な点もあるが、SK407は弥生時代中期頃の可能性がある。

## (2) 溝状遺構

### SD401(第121図)

IV区南半部西よりの第1遺構面で検出した。調査区南半部の西壁方面から南北方向へ延び、途中約8.0m程途絶えるが、調査区中央から新たに検出され東壁へ向けて延びる溝跡である。

溝跡の中間でSD402・403と重複するが、前後関係は不明である。

南半部は残りが悪く、検出長約18.0m、幅約0.25m、深さ0.05m、北半部は幅広い形状を呈し、幅約1.2m、深さ0.1mを測る。断面は浅い不整形な皿状を呈し、埋土はオリーブ黒色粘土を呈する。埋土からは弥生土器の細片が数点出土した。

### SD402(第121図)

IV区南半部の第1遺構面で検出した、東西方向へ延びる溝状遺構である。SD401やSD403と重複するが、その前後関係は不明である。検出長約12.5m、幅0.55m、深さ0.15mを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土はオリーブ黒色粘土からなる。埋土からは弥生土器の細片が数点出土した。

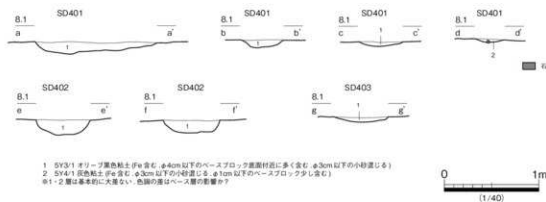
### SD403(第121図)

IV区南半部の第1遺構面で検出した、SD401・SD402等と重複し南北方向へ延びる溝状遺構である。SD401やSD402と重複するが、その前後関係は不明である。

検出長約3.0m、幅約0.5m、深さ0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土はオリーブ黒色粘土からなる。埋土からは弥生土器の細片が数点出土した。

### SD404(第122図)

IV区中央の東壁際で検出した北西方向へ延びる残りの悪い溝状遺構である。検出長約4.0m、幅約0.4m、深さ0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は黒色粘土からなる。埋土からは出土遺物を抽出できなかった。



第121図 SD401～403 断面図

### SD405( 第 122 図 )

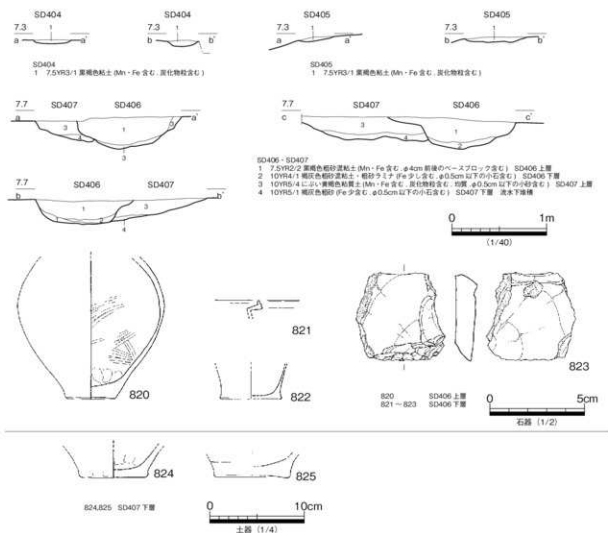
Ⅳ区中央で検出した東西方向へ延びる残りの悪い溝状遺構である。検出長約2.0m、幅約0.7m、深さ0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は黒褐色粘土を呈する。埋土からは出土遺物を抽出できなかった。

### SD406( 第 122 図 )

Ⅳ区北半部の東壁際を北西方向へ延びる溝状遺構である。SD407と重複し、SD406はSD407を切り込んでいる。

検出長約16.0m、幅1.0～1.4m、深さ約0.3mを測る。断面は上位が開く浅いU字状を呈し、埋土は黒褐色粘土が主体を占める。

埋土からは弥生時代中期の土器とサヌカイト製の石器が少量出土した。820は中期後半の口頸部を欠く壺の体部である。821は数条の凹線文を施した甕の口縁部である。形状から弥生時代中期末頃であろう。822は甕の底部片である。823はサヌカイトの板状剥片を素材にした搔器である。出土遺物からSD406は弥生時代中期に埋没した溝状遺構と考えられる。



第 122 図 SD404～407 断面、出土遺物

### SD407(第122図)

Ⅳ区北半部の東壁際を北西方向へ延びる溝状遺構である。SD407と重複し、SD406はSD407に切り込まれている。

片側辺がSD406に掘削されているため、本来の形状は不明であるが、検出長約16.0m、幅1.3m以上、深さ約0.2m以上を測る。

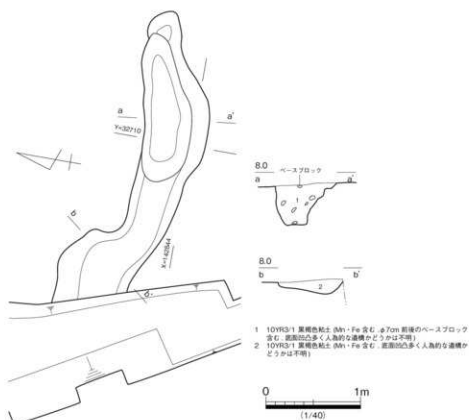
断面はおそらく浅いU字状を呈するものと考えられる。埋土は黄褐色粘質土や褐灰色粗砂が主体を占める。埋土からは弥生時代中期頃の土器片が数点出土した。824・825は弥生中期の壺と甕の底部片である。

### (3) 不整形遺構

### SX401(第123図)

Ⅳ区中央の西壁際に位置し、南に湾曲気味に延びる不整形な遺構である。

検出長約3.3m、幅0.4～0.7m、深さ0.15～0.7mを測る。東半部の断面は上位が開く逆台形状、西半部は浅い皿状を呈し、底面は凹凸が顕著である。埋土は黒褐色粘土の単層であるが、東半部には同層中にベースブロックを多量に含む。埋土からは出土遺物を抽出できなかった。なお、検出状況からSX401は人為的な遺構ではない可能性が高い。



第123図 SX401 平・断面図

#### (4) 石器製作跡

Ⅳ区南半部の弥生時代以降の遺構面のベースとなる東壁 4a 層からは、縄文時代の石器製作跡と考えられる、1,648 点の碎片・剥片・石核や石器類からなる 4 箇所の石器集中ブロックと、ササカイトの大型剥片や石核を集積した集積遺構を検出した。使用される石材は、数点の安山岩を除けば、99%をササカイトが占めている。なお、包含層中には土器を含まないため、石器集中ブロック等の時期判断には問題を残している。

石器集中ブロック等を含む包含層は、Ⅲ-4 区北部を最高所とする微高地北斜面に堆積した包含層で、標高 7.5～7.9m にかけて堆積し、緩やかに北へ傾斜する。検出状況から包含層の南北の分布範囲は 50m 以内と推測できる。調査区内の同層の広がりには約 340m<sup>2</sup>を測る。包含層の下位には黄色粘土層が厚く堆積し同層中には石器類は含まれないが、両層は酷似しており、近接した時期の堆積が推定される。なお、この黄色粘土層は、大東川下流域の平野部で一般的にみられる弥生時代以降のベース層の一つである。

Ⅳ区の石器集中ブロックの現地調査では、約 1,600 点の剥片や石器類の出土地点を記録する必要があった。そのため、調査区全体に 1.0m のグリッドを設定し、そのグリッド単位で石器類を検出した後に、光波測量機を用いてその出土地点の記録を行なった。また、当時の環境や年代を測るため、花粉分析・火山灰分析・C14 分析等を視野に入れ土壌を採集し、その一部を分析委託で外注した。詳細な点は第Ⅵ章の報告を参照していただくことにし、大まかではあるがその結果を先に報告しておく。

火山灰分析では石器集中ブロックの出土層位より下位の堆積層から、少量ではあるが「始良テフラ(AT)」(約 2.6～2.9 万年前)や「喜界アカホヤテフラ(K-Ah)」(約 7,300 年前)を確認することができた。いずれも純粋層ではなく堆積層中にダスト状に確認できるため、二次堆積によるものと考えられる。確認した 2 種類の火山灰のうち始良テフラは時期的な点で対象から外れるが、喜界アカホヤテフラは検出した石器集中ブロックの、少なくとも上限を推定する上で貴重な資料の一つになる。なお、この石器集中ブロックの下限を推測する資料としては、調査区南端部の石器包含層の上面で検出した柱穴 SP401 出土の弥生時代前期前葉の弥生土器 941 があり、この土器が下限期を示す資料になる。

整理作業に際しては、可能な限り石器類の特徴を掴むため、石材の細分、計測値による統計処理に耐えようよう属性分析に努めた。出土したササカイトは肉眼でみ限り、風化等の違いにより数種類に細分できる。数種類に分けられるササカイトは、微妙な材質の違いや原産地の違いが現れているものと考えられる。そのため、以下の基準で分類することにした(註1)。

白 A：器表面の風化が著しく白色化しているササカイト

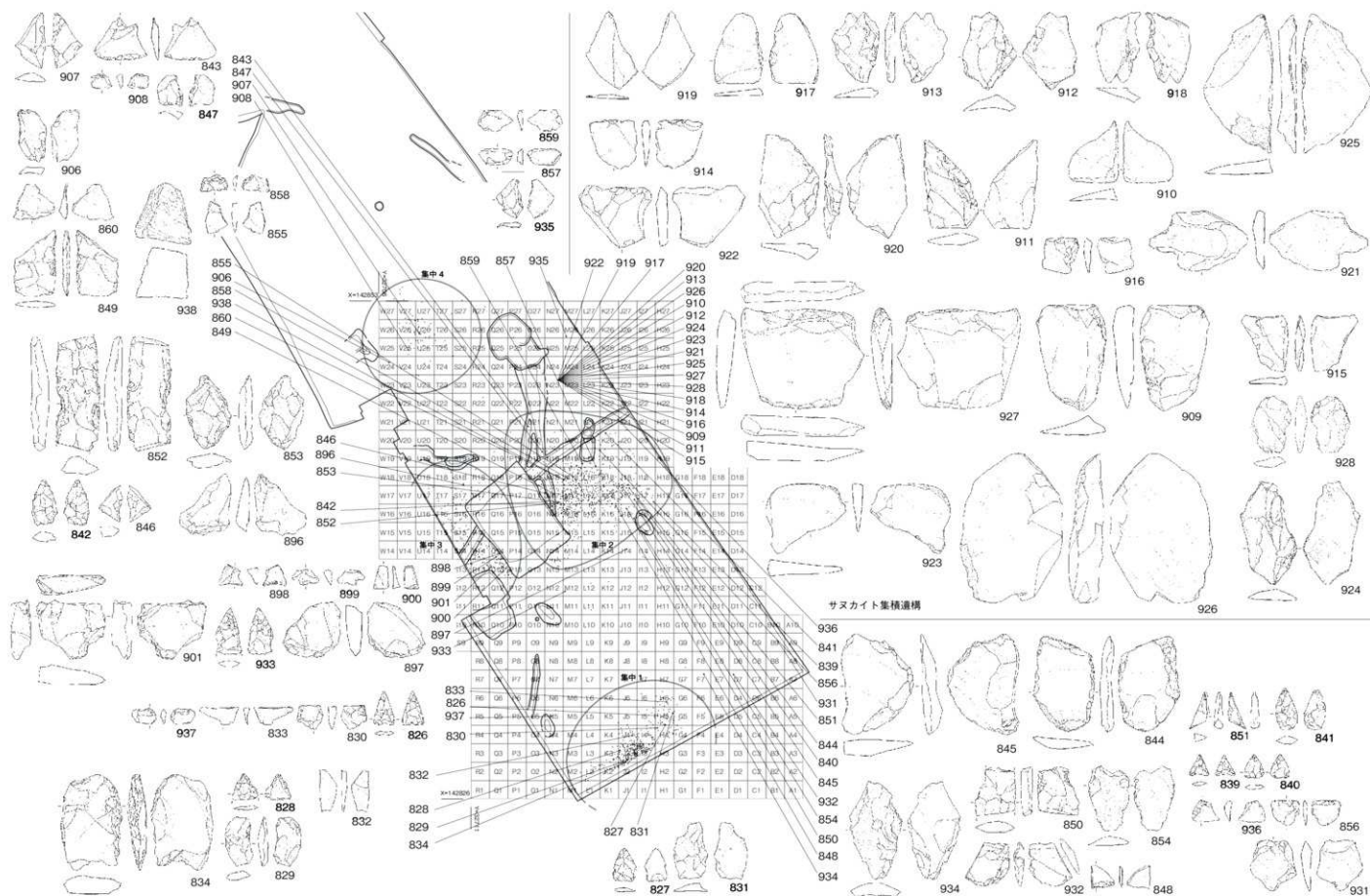
白 B：器表面の風化が著しく白色化し、器表面に小さな気泡状の凹が顕著に認められるササカイト

普通：一般的で通常の材質

良質：通常のササカイトに比べ材質が緻密で、通常よりガラス質に近いササカイト

ササカイトの原産地同定については、先の分類をもとに産地同定の分析を行なった。詳細な点は第Ⅵ章第 2 節を参照して頂くことにし、大まかではあるがその結果を先に報告しておく。

分析点数が少なく客観性に欠ける点もあるが、「白 A・白 B」に分類したササカイトの原産地としては、金山東南・金山南等金山産の可能性が考えられる。「普通」に分類したササカイトは 1 点金山産のデータ



第124図 集中1～4・サヌカイト集積遺構、遺物分布図

はあるが、国分寺・連光寺産の可能性が高い。「良質」に分類したサヌカイトは、城山・金山西・金山南等の県内原産地を示すデータと、広島県の冠地域の飯山・針山地区を示すデータがある。サヌカイトの原産地が近いこの遺跡から出土したサヌカイト中に、中国山地からサヌカイトが運ばれることは考え難い点もあるが、当時のサヌカイトの交易範囲の広さを考えた場合、否定できない結果と考えられる。冠地域の搬入石材については、比較資料が少なく今後の資料増加に期待したい。

サヌカイト製の砕片・剥片の分類については、石材・長幅・重量・打面の状況等の項目で一点毎に観察を行なった。また、ブロック出土の石器類については、比較的原位置を保っている事が想定されたため、製作技術の復元を図ることを目的として接合関係の検討を行なった。その結果、集中1で2点、集中2で14点、集中3で2点の接合関係を掴むことができた。

石器の器種分類については慎重に進めたが、明瞭な器種分類が難しい石器類があり、石器の未製品や石器の調整剥片は「二次加工ある剥片」に含めていることを断っておく。なお、検出したブロック1～4の呼称については、呼称の簡略化を前提にして、本文中では集中1～集中4と呼称する。

#### 集中1(第124～126・132図)

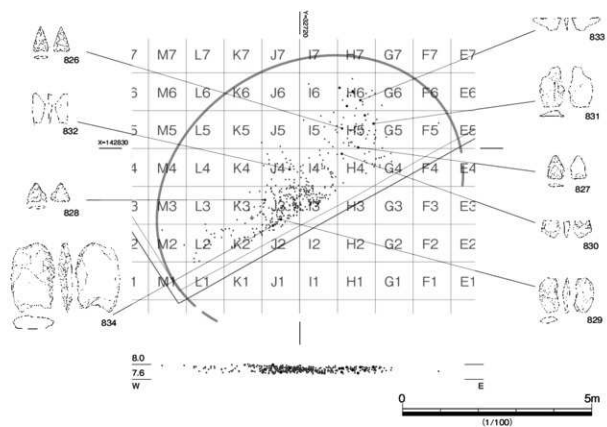
IV区南端で検出したブロックである。南壁際で検出したため南半部は調査区から外れ、北半部を検出した。出土状況としては半径4.0～6.0mの範囲で北に向かって半円状を呈する。遺物集中の密度としては、概ねJ3・I3辺りの集中と、H5辺りの集中とに分かれるが、特にJ3・I3辺りの密度は高い。集中1からはサヌカイト431点、安山岩8点の石器類を検出した。

石器類の組成としては第6表に記載した様に、石鏃3・二次加工ある剥片11・石核1・原生素材1・剥片285・砕片138等の遺物があげられる。また、2点の接合資料を確認した。集中1から出土した石器類の材質については白A・Bが20%、普通が74%、良質が5%を占める。集中1の特徴としては普通の比率が高い点があげられる。

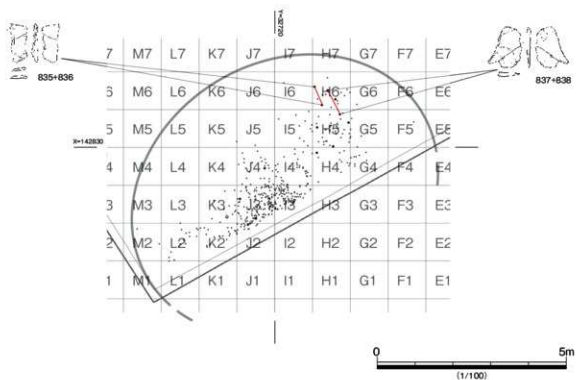
826～838は集中1から出土した石器・剥片類である。826～828は石鏃である。いずれも小型の石鏃で、長さ2.2～2.8cmを測る。827・828は素材面にあたる、ポジティブな剥離面を大きく残している。829・830は二次加工ある剥片である。いずれも端部を欠いており、石器製作時の欠損品と考えられる。831～833は不整形な横長状の剥片である。831は背面に多方向からの剥離痕が顕著に認められ、腹面は1面の剥離面からなり、打面は点状打面である。834は石核に分類した。肉厚な厚さ1.8cm程の比較的大型の横長剥片を素材に用い、側縁部からラフな交互剥離を行なっている。

835～838は接合資料である。いずれも、近位置から出土している。835+836は小さな横長剥片の打点辺りで折れたものが接合した資料である。背面にはネガティブな剥離痕を残し、腹面はポジティブな剥離面、打面は調整打面を呈している。形状から推定して剥離のミスにより折れた資料と考えられる。837+838は不整形な縦長状の剥片の、打点辺りの上半部と先端部が接合した資料である。背面はネガティブな剥離痕、腹面はポジティブな剥離面、打点辺りには明瞭なバルブスカーが認められ、側縁には僅かに稜面を残している。

2点の接合資料はいずれも近位置から出土していることから、このブロックの一括性を証明する資料ともいえる。

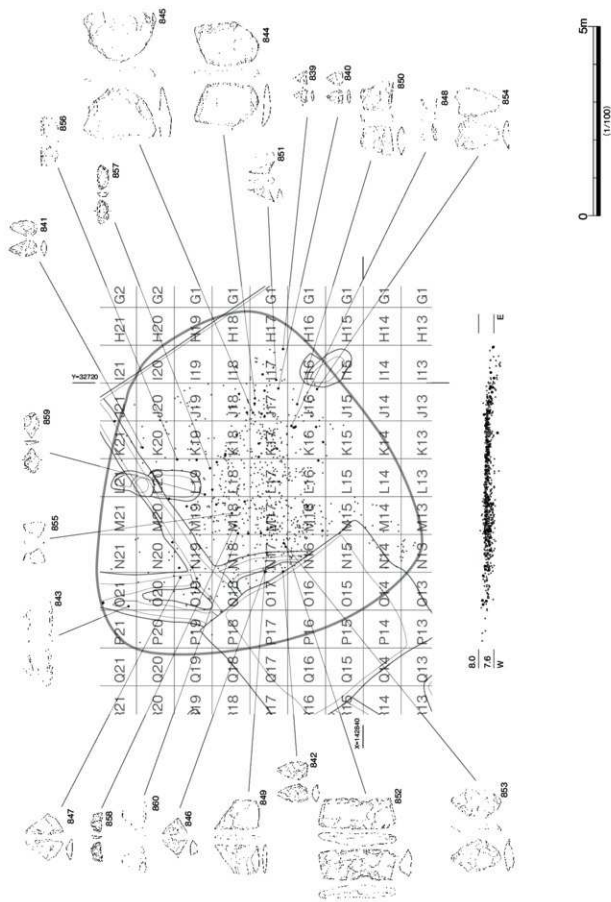


第 125 図 集中 1 出土遺物分布図

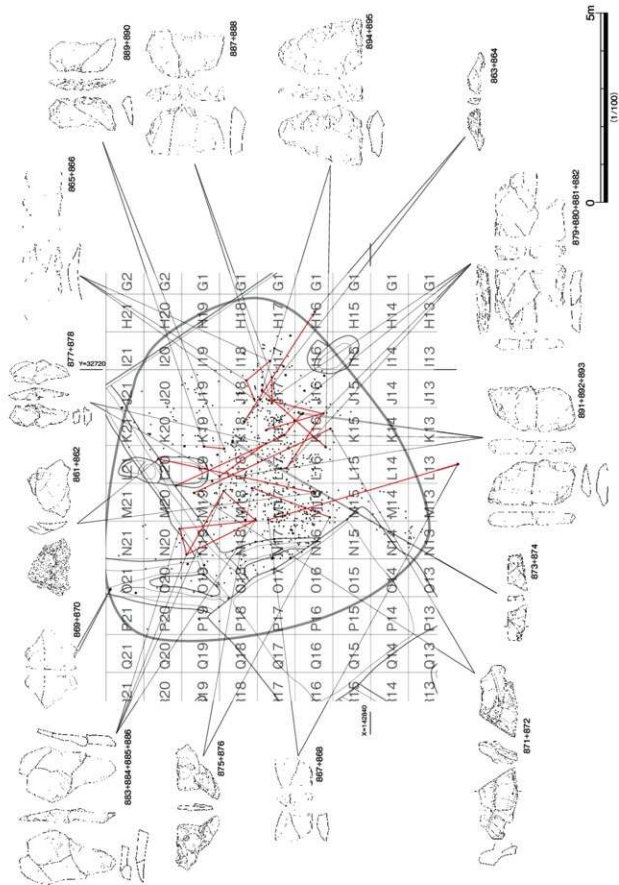


第 126 図 集中 1 接合関係分布図

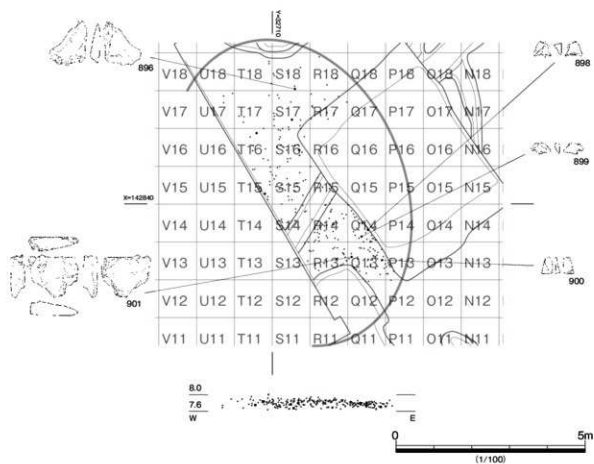




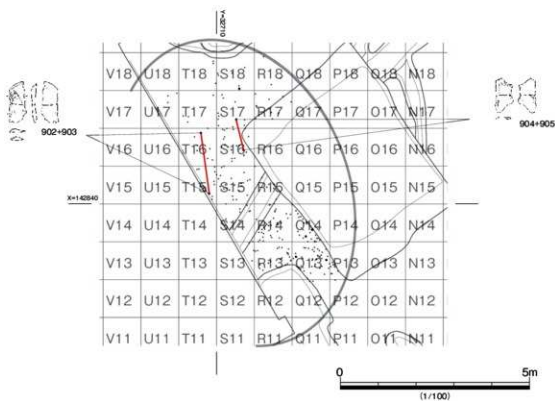
第 127 図 集中 2 出土遺物分布図



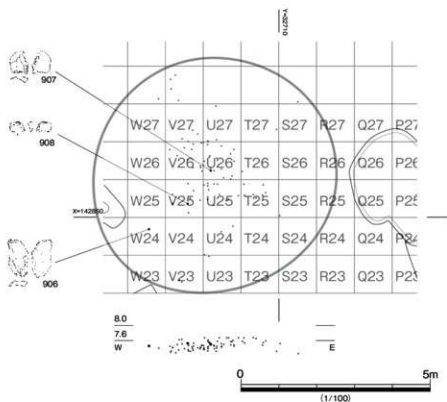
第 128 図 集中 2 接合関係分布図



第 129 図 集中 3 出土遺物分布図



第 130 図 集中 3 接合関係分布図



第131図 集中4出土物分布図

分析 番号	右記 番号	調査区	報告通 称名	デ ジ タ リ ゼ シ ョ ン	標高	図様	サヌカイト材質							法量				残存率		産地	備考		
							白A	白B	黄	黒	平肌	磨面	点	溝	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	存在			一部 欠	平均
1	907	S203	B区 集中地 区周辺	N5	7917	鏡片		1		1					1700	2600	600	265		1	金山東曲	扁状の石 器の片断	
2	833	S236	B区 集中1	H8	7926	鏡片	1								4200	1900	600	363			1	金山12号地点	
3	832	S221	B区 集中1	JH	7904	鏡片			1						4400	1800	500	478			1	城山、金山西、 金山南遺跡	行面欠
4	898	S700	B区 集中3	Q14	7761	鏡片			1						2300	2600	1000	426			1	横山	行面欠
5	899	S707	B区 集中3	Q14	7769	鏡片	1			1					1700	2000	800	231		1	金山東曲		
6	900	S253	B区 集中3	Q13	7714	鏡片			1						2500	1600	700	276			1	城山	行面欠
7	856	S806	B区 集中2	L19	7823	鏡片		1			1				2700	3100	600	451			1	金山東曲、 金山南	表面の気 泡上の 欠割跡
8	857	S809	B区 集中2	L19	7836	鏡片	1								1800	3700	600	527			1	城山、金山西、 金山南遺跡	行面欠
9	859	S810	B区 集中2	L19	7849	鏡片		1			1				2300	3800	600	415		1	国分寺・蓮光寺		
10	858	S808	B区 集中2	M18	7824	鏡片			1		1				1800	3000	700	274			1	横山	
11	835	S1102	B区 集中2	M18	7841	鏡片		1							3500	2400	600	453			1	横山の赤 土	
12	908	S2123	B区 集中4	V25	7233	鏡片			1		1				1600	2300	600	167			1	城山	行面欠
13	906	S1340	B区 集中地 区周辺	K23	7788	鏡片			1		1				2400	2900	1600	338			1	国分寺・蓮光寺	
							3	2	4	4	3	2	2										

白A : 風化が著しく白色化  
 白B : 風化が著しく白色化、表面に小さな気泡状の凹が顕著に認められる  
 黄 : 一般的で通常の材質  
 黒 : 磨面で、黄よりガラス質に近い

第5表 サヌカイト産地同定分析結果一覧

集申1

	石籬	瓶蓋	瓶形石器	二次加工石器	石核	原石素材	燧片	砕片	合計
白A	1	0	0	3	1	0	41	0	49
白B	0	0	0	1	0	0	10	0	11
普通	2	0	0	4	0	0	211	0	217
具	0	0	0	3	0	0	13	0	16
部分不可	0	0	0	0	0	0	0	138	138
安山岩	0	0	0	0	0	1	2	0	3
合計	3	0	0	11	1	1	285	138	439

集申2

	石籬	瓶蓋	瓶形石器	二次加工石器	石核	原石素材	燧片	砕片	合計
白A	3	1	1	8	1	0	136	4	174
白B	0	0	0	0	1	0	39	0	40
普通	0	0	0	8	0	0	263	5	276
具	1	2	0	5	2	0	105	2	117
部分不可	0	0	0	0	0	0	1	176	177
安山岩	0	0	0	0	0	0	4	0	4
合計	4	3	1	21	4	0	568	187	788

集申3

	石籬	瓶蓋	瓶形石器	二次加工石器	石核	原石素材	燧片	砕片	合計
白A	0	0	0	1	0	0	37	0	38
白B	0	0	0	0	0	0	11	0	11
普通	0	0	0	0	0	0	36	0	36
具	0	0	0	2	1	0	81	0	84
部分不可	0	0	0	0	0	0	0	66	66
安山岩	0	0	0	0	0	0	2	0	2
合計	0	0	0	3	1	0	187	66	257

集申4

	石籬	瓶蓋	瓶形石器	二次加工石器	石核	原石素材	燧片	砕片	合計
白A	0	0	0	0	0	0	3	0	3
白B	0	0	0	0	0	0	0	0	0
普通	0	0	0	0	0	0	36	0	36
具	0	0	0	0	0	0	10	0	10
部分不可	0	0	0	0	0	0	0	28	28
安山岩	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	0	0	0	0	0	0	50	28	78

中ノカイト集積遺構

	石籬	瓶蓋	瓶形石器	二次加工石器	石核	原石素材	燧片	砕片	合計
白A	0	0	0	1	0	0	6	0	7
白B	0	0	0	0	1	0	0	0	1
普通	0	0	0	0	1	0	13	0	14
具	0	0	0	0	0	0	1	0	1
部分不可	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安山岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	1	2	0	20	0	23

集中地区周辺

	石籬	瓶蓋	瓶形石器	二次加工石器	石核	原石素材	燧片	砕片	合計
白A	0	0	0	0	0	1	9	0	10
白B	0	0	0	1	0	0	1	0	2
普通	0	0	0	2	0	1	13	1	17
具	0	0	0	2	0	0	6	0	8
部分不可	0	0	0	0	0	0	0	22	22
安山岩	0	0	0	0	0	1	3	0	4
合計	0	0	0	5	0	3	32	23	63

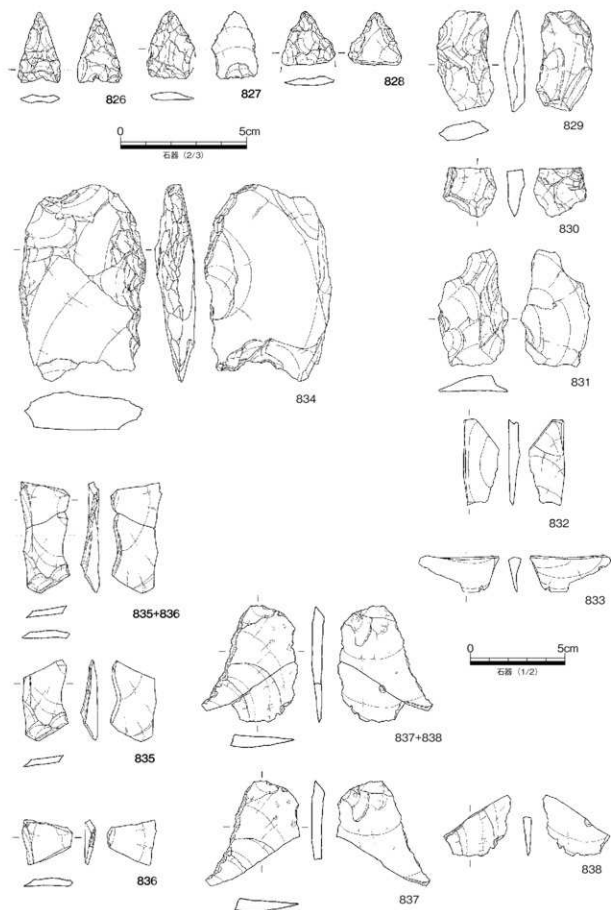
遺構別石器集計

	石籬	瓶蓋	瓶形石器	二次加工石器	石核	原石素材	燧片	砕片	合計
集申1	3	0	0	11	1	1	285	138	439
集申2	4	3	1	21	4	0	568	187	788
集申3	0	0	0	3	1	0	187	66	257
集申4	0	0	0	0	0	0	50	28	78
中ノカイト集積遺構	0	0	0	1	2	0	20	0	23
集中地区周辺	0	0	0	5	0	3	32	23	63
合計	7	3	1	40	8	4	1142	442	1648

遺構別・石材別重量集計 (g)

	白A	白B	普通	具	安山岩類	部分不可	合計
集申1	319.75	27.08	300.43	93.92	146.37	28.85	916.40
集申2	991.15	254.32	952.40	680.13	5.15	86.99	2970.14
集申3	176.65	63.20	9.19	286.60	116.65	21.58	671.27
集申4	1.75	0.00	35.48	20.32	0.57	4.86	63.30
中ノカイト集積遺構	1083.14	378.34	767.14	63.08	0.00	0.00	2291.70
集中地区周辺	80.54	12.90	430.29	100.28	158.76	11.59	794.42
合計	2602.96	733.90	2534.90	1203.90	427.30	153.89	7197.13

第6表 遺構・器種・石材別一覽



第132図 集中1出土遺物

## 集中2(第124・127・128・133～142回)

IV区南半部の集中1から北へ約10m離れた地点で検出したブロックである。分布範囲としては1辺9.0～10.0m程の隅丸三角形形状を呈する。集中の密度としては、中心部分のM16・17・18、L17・18、K17辺りが高い。なお、集中2は、4ブロック中最も範囲及び遺物密度も高いブロックで、サヌカイト784点、安山岩4点の石器類を検出した。

石器類の組成としては第6表に記載した様に、石鏃4・削器3・楔形石器の削片1・二次加工ある剥片21・石核4・剥片568・砕片187等の遺物があげられる。また、14点の接合資料を確認した。集中2の出土した石器類の材質については白A・Bが35%、普通が45%、良質が20%を占める。

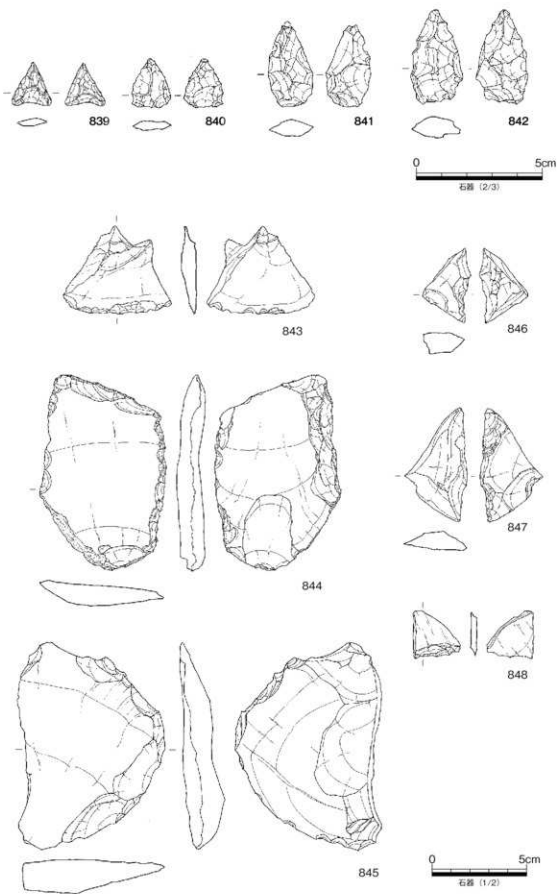
839～842は石鏃で、大きさに大小二つに分れる。839・840の石鏃は、長さ1.7～2.0cmを測り、841・842の石鏃は、長さ3.3～3.7cmを測る。843・844は小型の削器である。844は幅広い大型の剥片を素材にして、両側縁と先端部の3辺に刃部を設けている。843は剥片のエッジに刃部を設けている。845～851は二次加工ある剥片である。845は大型の剥片を素材としている。側縁は外湾状に僅かに突出し、その側縁に調整を加えている剥片で、何らかの未製品ないし石核であろう。846・847の端部は折面からなり、背面・腹面共に器面調整が及んでおり側縁にエッジが認められる。両面加工状の石器を製作する途上で発生した剥片であろう。849・850は先端や基部を欠く資料で不明瞭な点があるため、二次加工ある剥片に分類したが、器面の調整痕や全体の形状から両面加工を施した石器の未製品の可能性が高い。849は断面レンズ状を呈し、器面には押圧剥離痕が認められる。851は裁断面が認められるため楔形石器の削片に分類したが、846・847同様に両面加工の石器を製作する途上で発生した剥片の可能性が高い。なお、楔形石器の資料は851の1点だけである。

854～860は剥片である。出土した剥片には、端部に折面を残す資料が多数ある。また、打面を残す剥片も高比率で認められる。854・860は背面に礫面を大きく残し、素材が原石の表皮に近い部位を用いていることが分かる。また、856には調整打面を明瞭に残している。

852・853は石核に分類した。852は先端部と基部を欠く槍先状の石器の未製品の可能性も考えたが、石核に分類した。852は大型の横長状の剥片を素材に用い、その長軸に平行して両側縁から交互剥離を加えている。腹面には長軸に直交する方向に、素材のポジティブな主要剥離面を残していることから、素材が大型の横長状の剥片であることが推定できる。853は小型の尖頭器状の石核で剥離痕が全面に及び、形状から残核の最終形態を示しているものと考えられる。

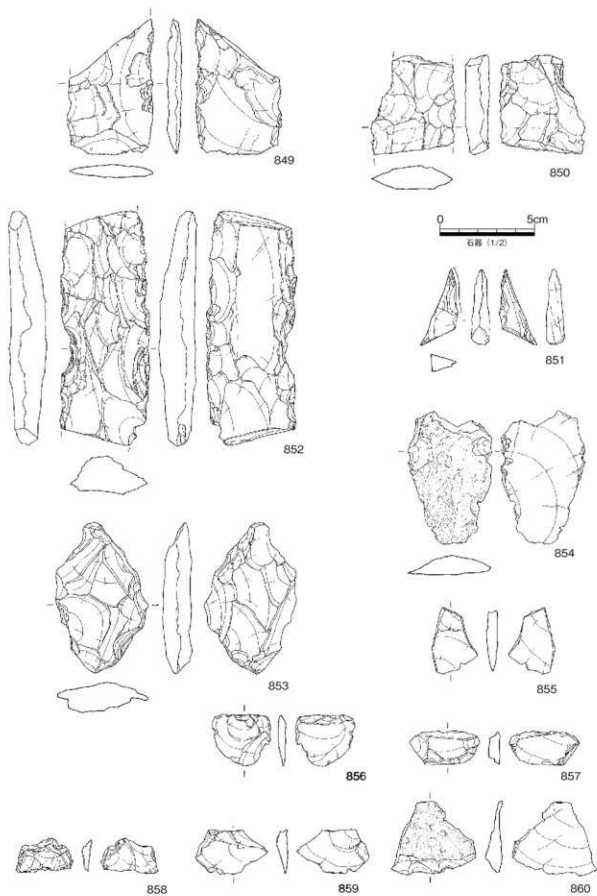
861～895は14点の接合資料である。861～886は剥片同士の接合資料で、861+862・863+864・865+866は2点の剥片の接合資料である。接合した剥片は、同一打面から連続して剥取っている2点の剥片で、横長状を呈し背面に礫面を残し、腹面はポジティブな剥離面である。形状から原石の表皮部分を剥取った剥片であることが推定される。867+868は小原石を分割した接合資料で、接合面は横折の分割面を呈している。869+870・871+872・873+874は板状の剥片を分割した接合資料で、接合面は横折の分割面を呈している。875+876・877+878・889+890は横長状の小剥片の接合資料である。875+876の打面は位置的にかなりズレがあり、875が剥取られた後に打面調整を更に進め、その後876を剥取ったことが解る資料である。877+878はもとの剥片の打点近くで折れていることから、剥離のミスにより分割された可能性が高い。

879+880+881+882は板状の剥片が4分割している接合資料である。素材剥片の側縁部には主要剥離面側からの調整により形状を整え、その素材剥片の分割面を加撃することで4点の剥片に分割してい

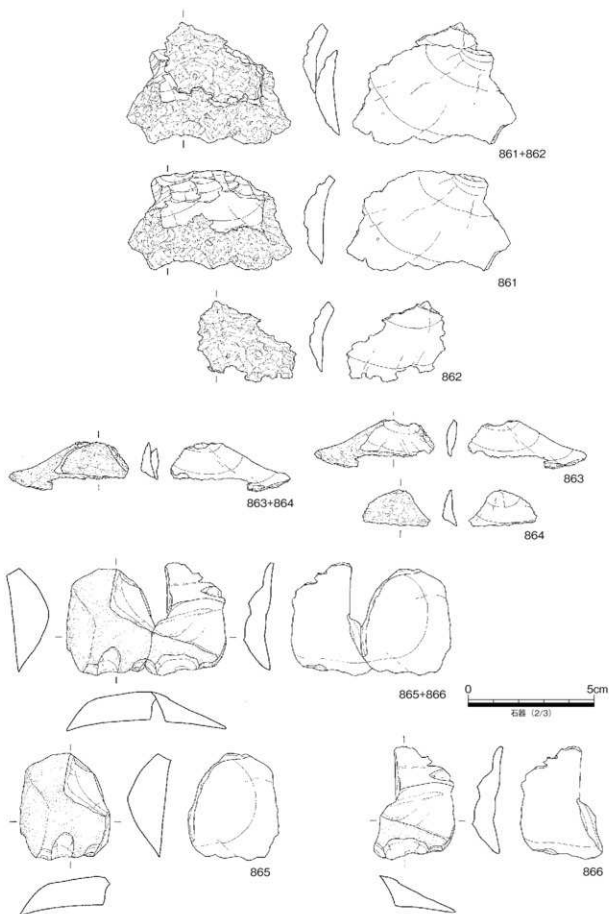


第 133 図 集中 2 出土遺物 (1)

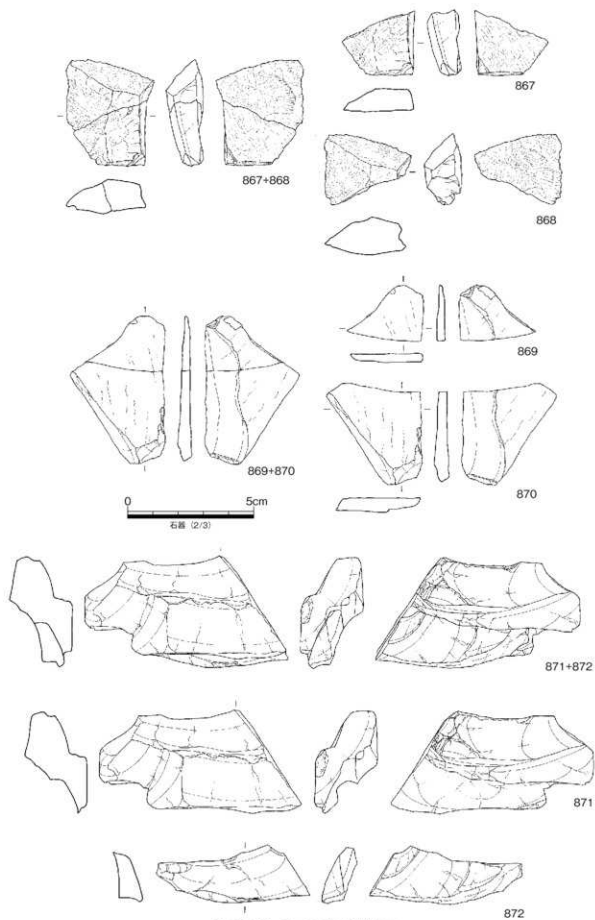




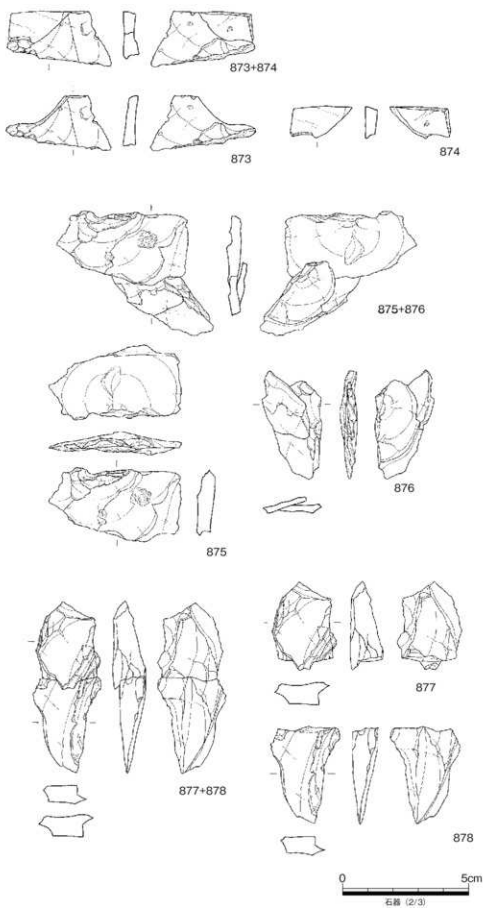
第134圖 集中2出土遺物(2)



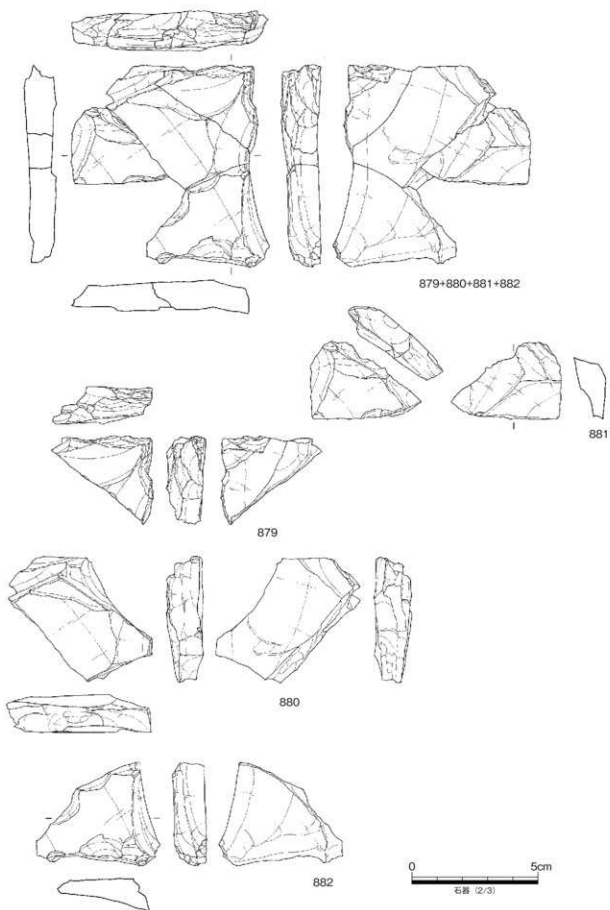
第 135 图 集中 2 出土遺物 (3)



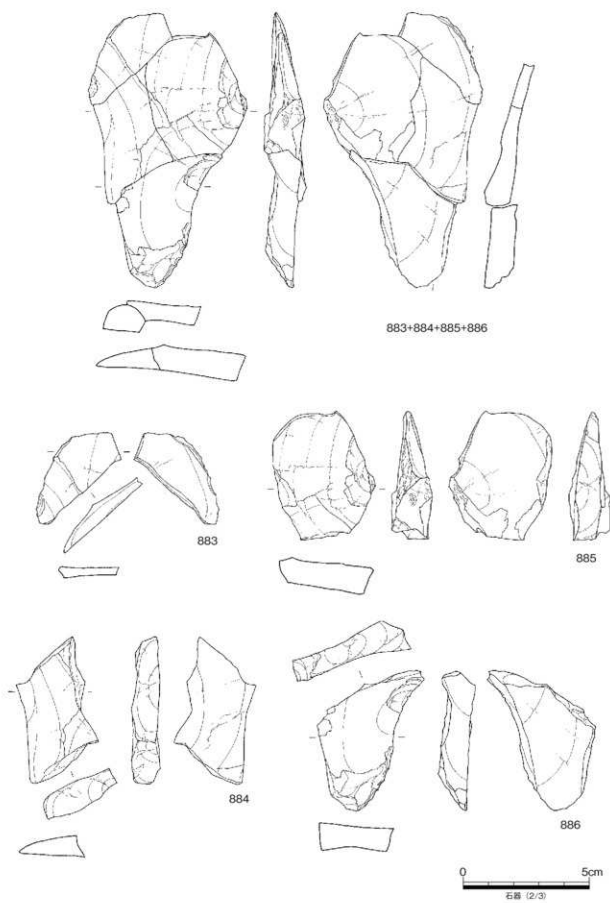
第136圖 集中2出土遺物(4)



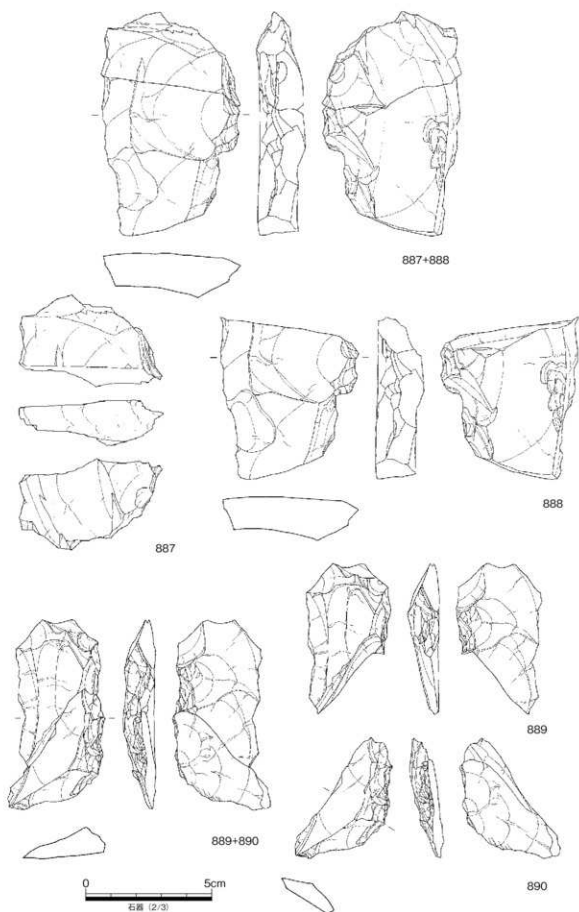
第137図 集中2出土遺物(5)



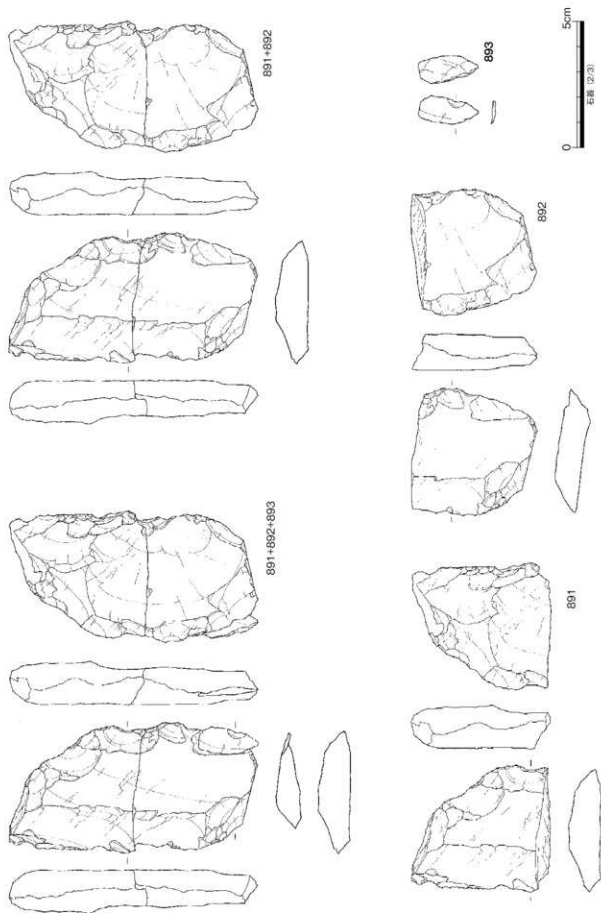
第 138 圖 集中 2 出土遺物 (6)



第 139 図 集中 2 出土遺物 (7)

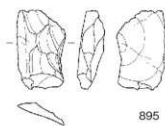
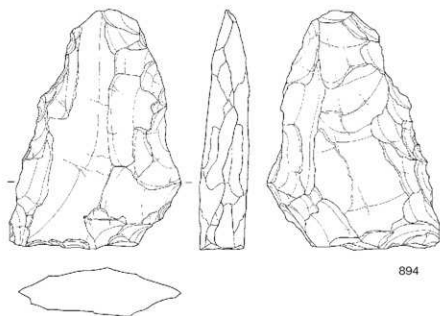
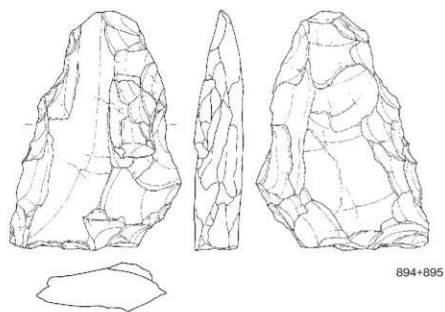


第140圖 集中2出土遺物(8)



第 141 图 集中 2 出土遺物 (9)





第 142 図 集中 2 出土遺物 (10)

る。なお、接合する剥片 881 には、分割後に施された調整剥離痕が認められることから、この剥片は小型石器の製作途上の剥片と考えられる。883+884+885+886 は横長剥片を 4 点の剥片に分割した接合資料である。背面は上・下 2 方向からの打撃による複数のネガティブな剥離痕、腹面は 1 面のポジティブな剥離面、打面は調整打面を呈し、打点部付近を山稜状に形成している。

887+888 は二次加工ある剥片で、打点辺りから左右 2 分割している接合資料である。接合した二次加工ある剥片は大型の横長剥片を素材にして、打面周辺に調整を施してエッジを形成し、そのエッジの上面に打撃を加え、素材剥片を 2 分割している。そのため、分割面は裁断面状の折面を呈している。891+892+893 は 3 点の接合資料で、接合後の形状から二次加工ある剥片に分類したが、未製品の可能性も考えられる。肉厚な剥片を素材とし、周囲の側縁部から剥片剥離を施している。接合関係としてはほぼ中央部で 891・892 が接合した。接合面は横折の分割面である。また、側縁部で小さな剥片 893 が接合した。

894 + 895 は石核と剥片の接合資料である。894 は不整形な尖頭器状の形状を呈する石核である。厚さ 2.0cm を測る肉厚な横長状の剥片を素材にして、側縁部から交互剥離を施している。接合する 895 は、側縁部から施す一連の剥片剥離作業で生じた小剥片である。

#### 集中 3 (第 124・129・130・143 図)

Ⅳ区南半部の集中 2 の西側で確認したブロックである。西壁際で検出したため、西半部は調査区から外れ、ブロックの東半部を検出した。分布範囲としては 1 辺 8.0m の半円状を呈する範囲内から 255 点のサヌカイト、2 点の安山岩製の石器類を検出した。

石器類の組成としては第 6 表に記載した様に、二次加工ある剥片 3・石核 1・剥片 187・砕片 66 等の遺物が挙げられる。また、2 点の接合資料を確認した。集中 3 の出土した石器類の材質については白 A・B が 37%、普通が 19%、良質が 44% を占める。集中 3 の特徴としては、他のブロックに比べ良質の比率が比較的高い点があげられる。

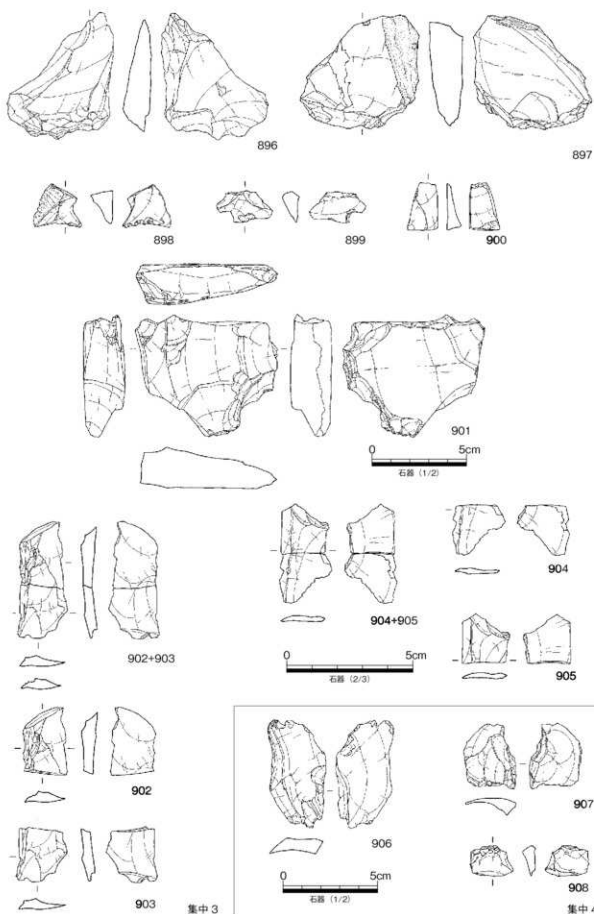
896・897・898 は二次加工ある剥片である。肉厚で不整形な剥片のエッジ部分に調整を加えている。899・900 は小型の剥片である。901 は厚さ 2.2cm を測る比較的大型の剥片を素材に用いた石核で、2 辺の側縁部には交互剥離により剥片剥離を行っており、他の 2 辺は切断面が認められる。902 + 903 は小剥片の接合資料である。横長状の剥片で、中央部ないし打点部付近から割れているところから、剥片剥離の際のミスによるものであろう。

#### 集中 4 (第 124・131・143 図)

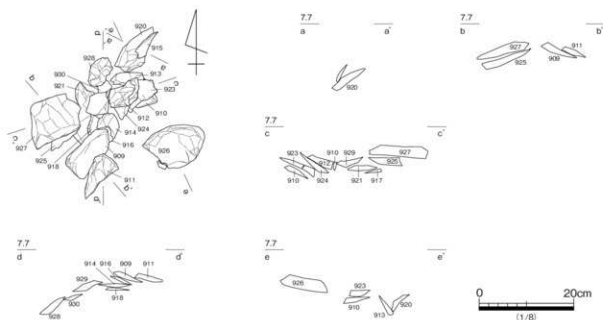
Ⅳ区南半部の集中 3 から北へ約 5.0m 離れた地点で検出したブロックである。分布範囲としては径 7.0m の楕円形状を呈する範囲内からサヌカイト 77 点、安山岩 1 点の石器類を検出した。

他の集中ブロックに比べ遺物が少なく、比較的短期間で形成された集中ブロックと考えられる。石器類の組成としては第 6 表に記載した様に、石器は確認できず、剥片 50・砕片 28 等を確認した。また、接合資料は確認することはできなかった。集中 4 の出土した石器類の材質については白 A・B が 6%、普通が 73%、良質が 20% を占める。集中 4 の特徴としては、集中 1 同様に普通の比率が比較的高い点があげられる。

906・907・908 は剥片である。906 は横長状の剥片である。背面にはネガティブな剥離痕と底面状の



第 143 圖 集中 3・4 出土遺物



第 144 図 サヌカイト集積遺構平・断面図

剥離面からなり、腹面はポジティブな剥離面からなる。打面は平坦打面である。907・908は小型の小剥片で、打面は調整打面を呈する。

#### サヌカイト集積遺構 (第 124・144～148 図)

IV区中央の西壁際で検出した。サヌカイト剥片・石核等を集積した遺構で、長径約 0.4m、短径約 0.3m、深さ約 0.1m の範囲以内に、23 点の剥片・石核等が折り重なるように出土した。掘方等のプランは確認できなかったが、本来は落込み状の遺構であろう。

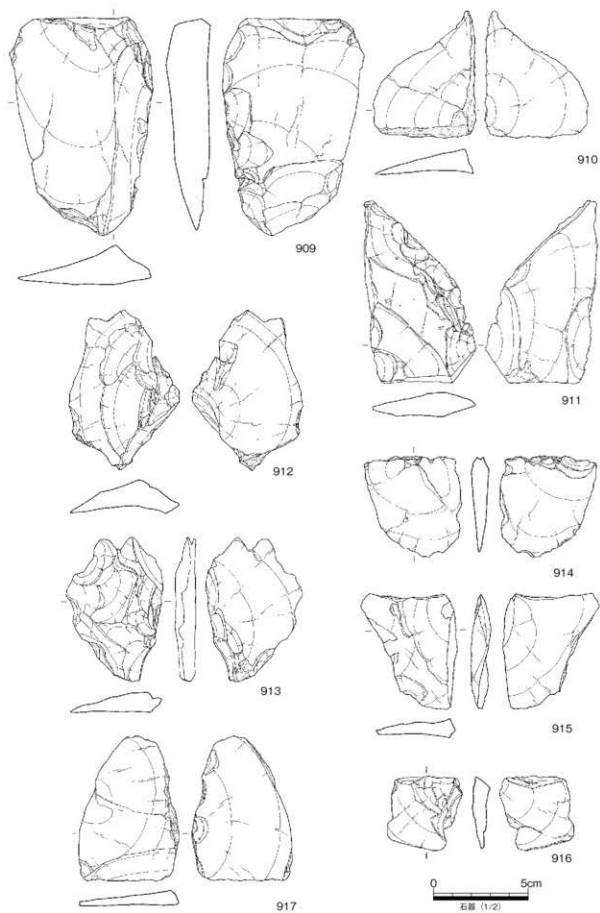
出土した剥片類の組成としては、二次加工ある剥片 1・剥片 20・石核 2 等を確認した。接合資料は剥片中に 1 点確認した。剥片中には石核の素材として用いられる様な、比較的大型の剥片が数点含まれる。サヌカイト集積遺構から出土した石器類の材質については白 A・B が 38%、普通が 58%、良質が 4% を占め、特徴としては普通の比率が比較的高い点があげられる。

909 は肉厚で不整形な縦長状の剥片を素材にし、その側縁部分に調整を加えている。形状から刮器とも考えたが、エッジに鋭さに乏しく、二次加工ある剥片に分類した。おそらく、何かの未製品であろう。

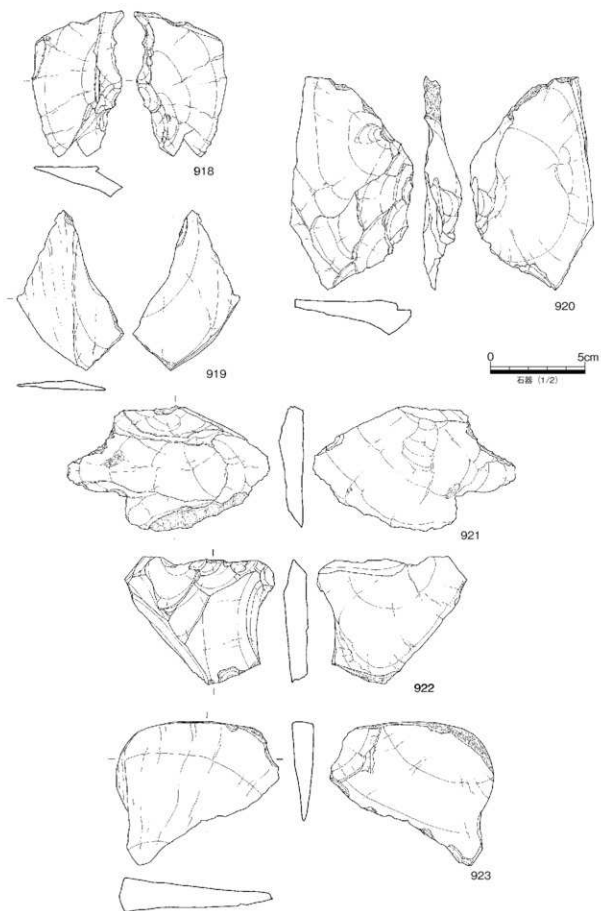
910～926 は剥片である。形状は不整形であるが、概ね横長状を呈するものが主体を占める。打面は調整・平坦・点状等に分かれ、明確な打面を形成しているものが多い。925・926 は石核素材と考えられる横長状の大型剥片である。

927・928 は石核に分類した。927 は厚さ 2.3cm を測る肉厚な大型剥片を素材にして、平面形状は方形を呈する。上・下側縁部には交互剥離の剥片剥離痕、短辺には長さ 4cm、幅 8cm 程の横長状剥片を剥取った剥離痕と、折面からなる。928 は小型で不整形な尖頭器状の石核で、剥片剥離痕が全面に及んでいる。形状から残核の最終形態を示しているものと考えられる。

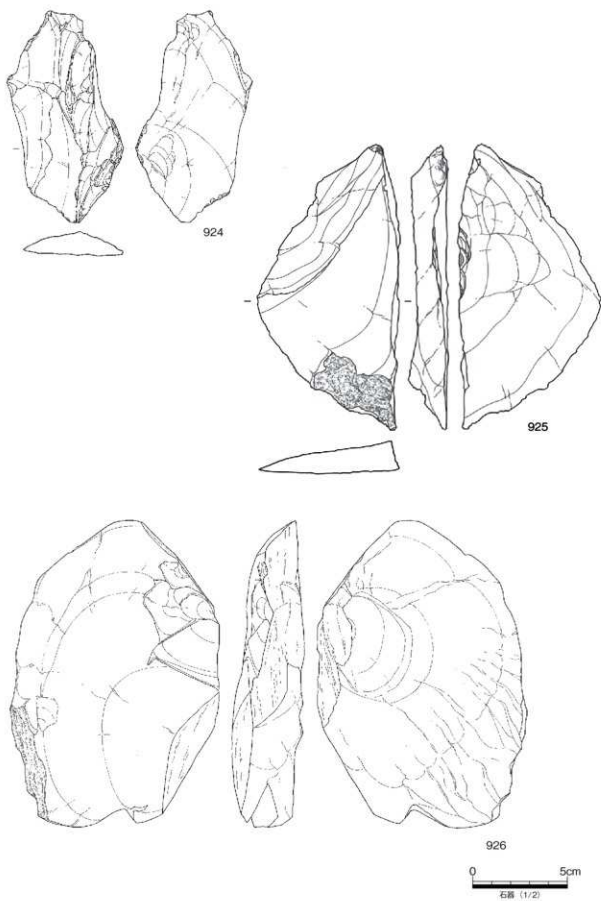
929 + 930 は剥片 2 点の接合資料である。不整形な形状をしており、同一打面から連続して剥取った一連の剥片同士の接合資料である。



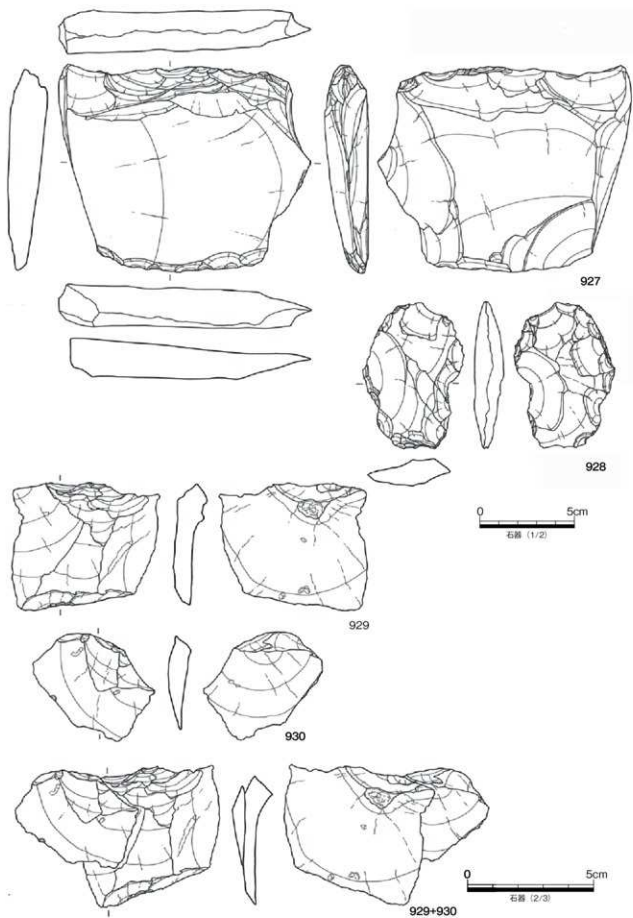
第 145 図 サヌカイト集積遺構出土遺物(1)



第146図 サヌカイト集積遺構出土遺物(2)

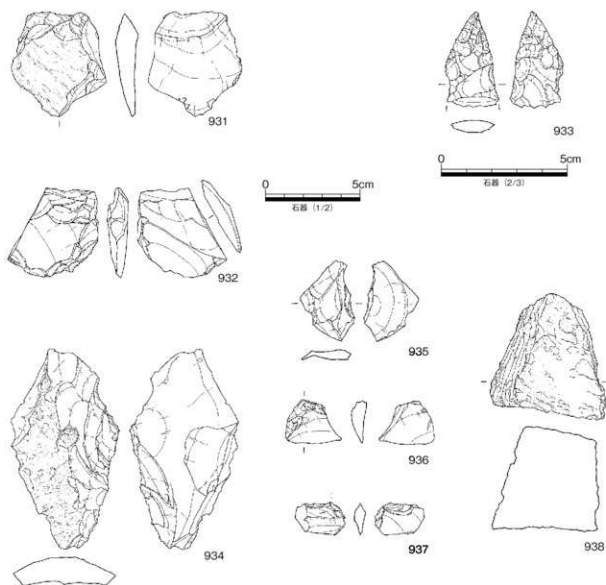


第 147 図 サヌカイト集積遺構出土遺物 (3)



第148図 サヌカイト集積遺構出土遺物(4)





第 149 図 集中地区周辺出土遺物

**石器集中ブロック周辺の石器類 (第 124・149 図)**

次に石器集中ブロック周辺から出土した石器類のうち代表的な遺物を報告する。931～933は二次加工ある剥片である。933は器面全面に調整が及び先端を尖らせている。形状から大型石鏃ないしポイント・フレイクの可能性ある。934～937は剥片である。934は背面に礫面を大きく残し、素材が原石の表皮に近い部位を用いていることが分かる。938は小型の原石素材である。直方体状の形状を呈し、朽木状の礫面を残す。

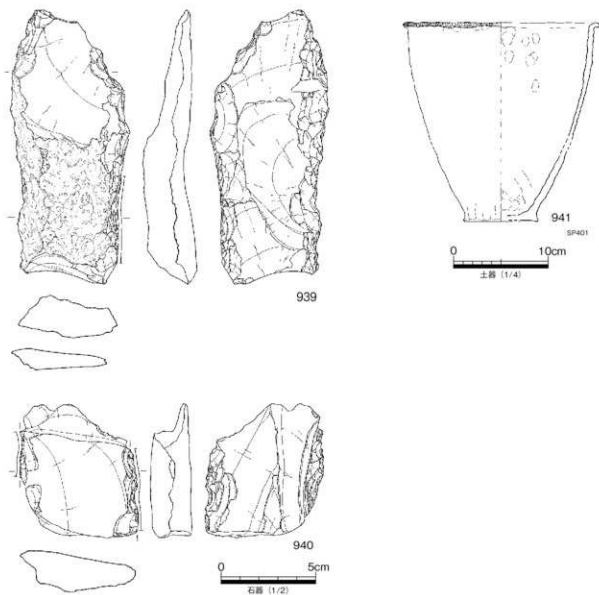
(5) 柱穴・包含層出土遺物 (第 150 図)

IV区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次に柱穴出土遺物及び包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分で

きない遺物までを含めている。

939・940は石核に分類したが、形状から楡先形石器の未製品の可能性も考えられる。939は背面には礫面を顕著に残し、素材が原石の表皮に近い部位を用いていることが解る。腹面には素材となる大型剥片の分割面を上半部に残し、下半部は側縁部からの剥片剥離や調整剥離が加えることにより、全体の形状を縦長状に形成している。

941はSP401から出土した弥生前期前葉の甕である。SP401は先述したように調査区南端部の石器包含層の上面で検出した遺構で、この土器が石器集中ブロックの下限期を示す唯一の資料であるが、石器集中ブロックの検出の途上で確認したため、残念ながら図面等の記録がなされていない。調査概報によればSP401は、平面略円形で径約0.2m、深さ約0.25mを測り、埋土は黒褐色粘土を呈する。埋土から土器片約30点が折り重なるように出土したようである(註2)。941は如意状口縁を有する甕で、折り返した後に口縁端部に刻み目を施す。体部は直線気味に底部へ続き底部はしっかりした平底を呈する。類似資料としては下川津遺跡SH01中に同様の土器を見出せる(註3)。



第150図 柱穴・包含層出土遺物

(補註)

(1) 石材の分類については、「西方遺跡」の分類を参考にした。

香川県教育委員会・本州四国連絡橋公団 1985 「西方遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財報告Ⅳ』

(2) 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(3) 森下英治・信里秀紀 1998 「讃岐地方における弥生土器の基準資料Ⅰ—下川津遺跡出土前期弥生土器を中心に—」『財団法人香川県埋蔵文化財センター 研究紀要Ⅳ』

(参考文献)

本州四国連絡橋公団・香川県教育委員会 1985 「西方遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財報告Ⅳ』

本州四国連絡橋公団・香川県教育委員会 1990 「下川津遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財報告Ⅴ』

中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』真隣社

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成10年度「川津六反地遺跡」『財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成11年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香芝市二上山博物館 2011 『平成23年度特別展 サマカイト—原始の鉄—』

香川県教育委員会 2012 『西米田遺跡Ⅲ』『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊』

## 第V章 川津昭和遺跡の調査

### 第1節 川津昭和遺跡の概要

川津昭和遺跡は、川津六反地遺跡Ⅳ区の北端から北約40mに位置する、弥生時代中期～後期・中世～近世以降の遺跡である。この遺跡の調査は国道438号の拡幅に伴う発掘調査で、平成12年度に川津六反地遺跡と共に実施した。

川津昭和遺跡の調査では、弥生時代後期の灌漑水路と考えられる溝状遺構や、古代末～中世の条里地割方向の溝状遺構、近世以降の井戸・土坑等を検出した。これらの遺構の中で弥生時代の灌漑水路は、この地域の土地開発初期の状況を示しており良資料になる。

なお、遺跡の内容や地理的要因を考慮して、川津六反地遺跡と川津昭和遺跡を比べた場合、川津昭和遺跡で検出した諸遺構は、川津六反地遺跡との係わりで評価すべき点が多く、両遺跡を比較した検討は、今後も必要とされる。

### 第2節 基本層位

川津昭和遺跡の旧状は、宅地及び駐車場等であった。現地表面の標高は8.5m前後、地表下0.6～1.0mは盛土層であった。盛土層下位で、層厚0.1～0.3mの旧耕作土に至る。旧耕作土下位には数層に分かれる旧耕作土と床土層の水平堆積が認められ、それらを除けば遺構面に至る。

遺構面の標高は調査区南端で7.5m前後、北端で7.3m前後を測り、緩やかに北に傾斜する。遺構面は黒褐色粘土層(東壁11層)の上面及び下面に広がるが、南端部では同層が削平され下位の黄色系粘土が露出する。黄褐色系粘土は川津六反地遺跡から続く、大東川下流域の平野部で一般的にみられる弥生時代以降のベース層の一つで、調査区周辺では層厚0.7m前後堆積している。黄色系粘土の下位には、灰色～褐色系の粘土・シルト層からなる数層を挟み砂礫層に至る。この砂礫層は調査区南端部では標高6.5m前後で確認できるが、北半部では標高5.1m前後を測り、北に向けて傾斜していることが解る。なお、黄色系粘土と砂礫層間の灰色～褐色系の粘土・シルト等の堆積層中には縄文時代の遺構・遺物が検出できる可能性もあったが、確認できなかった。

### 第3節 遺構・遺物

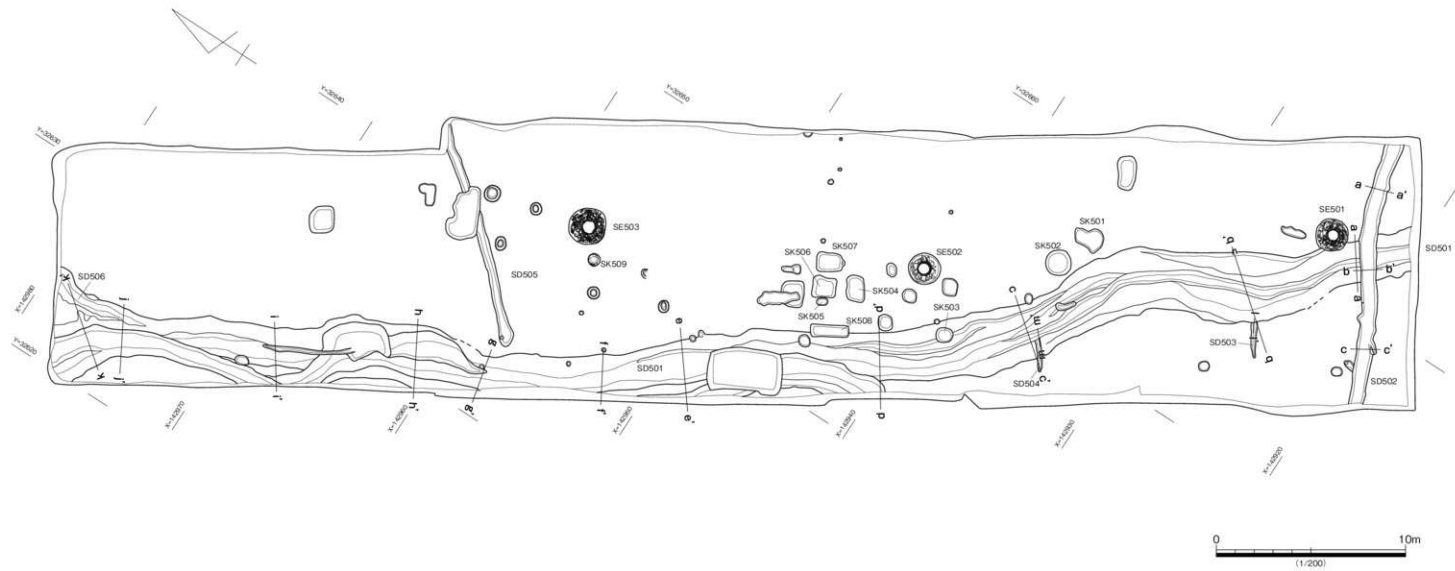
#### (1) 井戸跡

#### SE501・502・503(第153・154図)

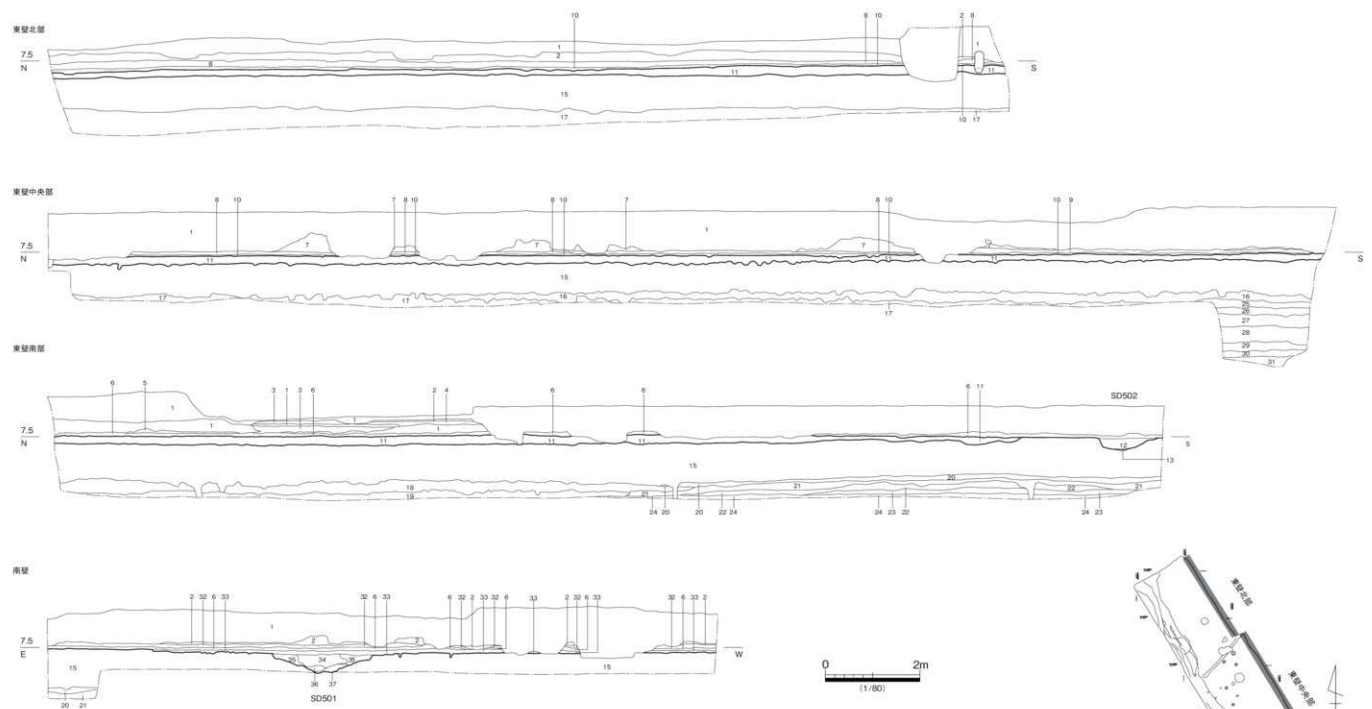
調査区の中軸線上に約18～20m間隔で3基の井戸を確認した。いずれも、平面は円形、断面は円筒状を呈する。掘方の径1.7～2.0m、深さ2.3～2.8mを測る。井筒部の径約0.7mを測る。

3基とも構造は類似しており、下半部は石組みで上半部は土師質の井筒を2～3段積み上げている状態で検出した。

埋土からは、近世以降の瓦や陶器、磁器と共に、多量の土師質の井筒片が出土した。出土遺物からこれらの井戸は近世末以降に構築されたと考えられる。

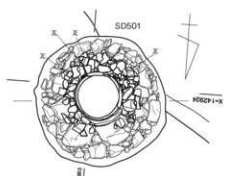


第 151 図 川津昭和遺跡遺構配置図

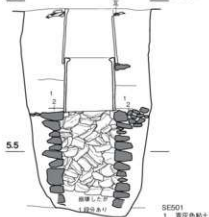


- |   |   |
|---|---|
| <p>1 粘土・腐植土</p> <p>2 団粒土</p> <p>3 砂質土・黄色粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 腐植土層</p> <p>4 砂質土層</p> <p>5 砂質土層</p> <p>6 黄色土層</p> <p>7 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>8 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>9 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>10 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>11 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>12 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>13 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>14 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>15 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>16 10M/6-1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>17 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>18 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> | <p>19 褐色土層 10V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>20 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>21 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>22 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>23 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>24 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>25 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>26 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>27 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>28 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>29 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>30 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>31 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>32 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>33 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>34 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>35 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>36 10V/6 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> <p>37 2.50V/1 団粒粘板状土 (Mn・Fe 含有) ▶ 団粒土層</p> |
|---|---|

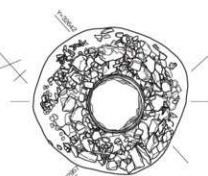
第152図 東壁・南壁土層断面図



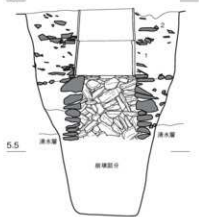
7.5 SE501



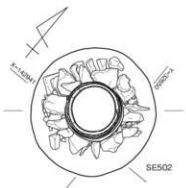
SE501  
1 黄灰色粘土  
2 灰色粘砂



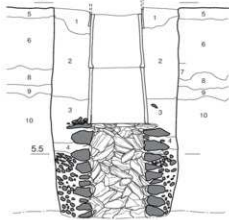
7.5 SE503



SE503  
1 泥炭土 (φ50cm 以下の小石含む、人為的埋戻し土)  
2 10YR6.5/1 ニューン黄褐色粘土 (Feを含む、φ100cm 以下のベースブロック多い、人為的埋戻し土)



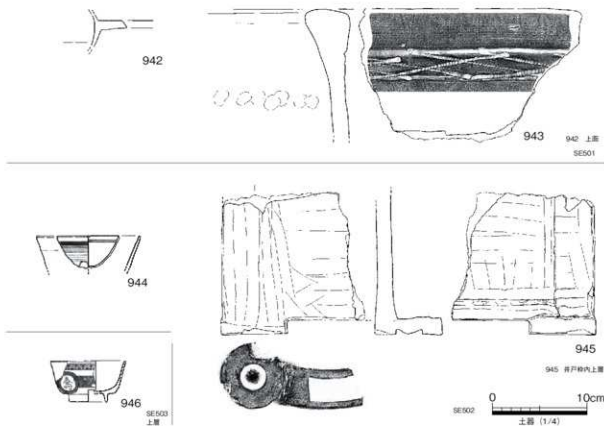
7.5 SE502



SE502  
1 2.5YR 6 黄褐色粘土 (Fe-Mn 含む、φ80cm 以下の 5~8 層ブロック土混入層、人為的埋戻し土、少量の鉄屑あり)  
2 2.5YR 4 深黄褐色粘土 (Fe-Mn 含む、φ100cm 以下の 5~9 層ブロック土混入層、人為的埋戻し土、少量の鉄屑あり、6~7 層の割合が多い)  
3 2.5Y7/1 灰白色シルト (Fe 含む、φ50cm 程の 7~9 層ブロック含む、ブロック土の混じりはそれほど多くない、人為的埋戻し土)  
4 灰色粘砂  
5 10YR4/1 褐色粘土 (Mn、Fe 含む、Mn 混入多い、層ごとの厚さ、ベース層)  
6 2.5YR 6 黄褐色粘土 (層ごとの厚さ、Fe-Mn 含む、層ごとの厚さ、ベース層)  
7 10YR5/3 に近い黄褐色シルト (ベース)  
8 灰白色 10YR6/5 の中等粘結粘土 (Fe 少量含む、セメント層、ベース)  
9 灰白色 10YR6/5 の中等粘結粘土 (Mn 含む、粘結層、ベース)  
10 灰白色 10YR6/5 の中等粘結粘土 (Mn 含む、層ごとの厚さ、ベース)  
11 深黄白~黄白色粘砂混層  
7~10 層の変化は漸移的



第 153 図 SE501 ~ 503 平・断面図



第154図 SE501～503出土遺物

942～946は井戸から出土した遺物である。内訳としては、942・943はSE501、944・945はSE502、946はSE503から出土した遺物である。944はSE502の掘方2層から出土した染付椀の上半部で、この遺物がSE502の掘削時期を示唆する遺物になる。945は井筒内から出土した軒平瓦片である。942はSE501の掘方から出土した瓦質の羽釜片である。943はSE501の井戸枠に使用された井筒片である。946はSE503の掘方上層から出土した染付椀である。

## (2) 土坑跡

### SK502(第155図)

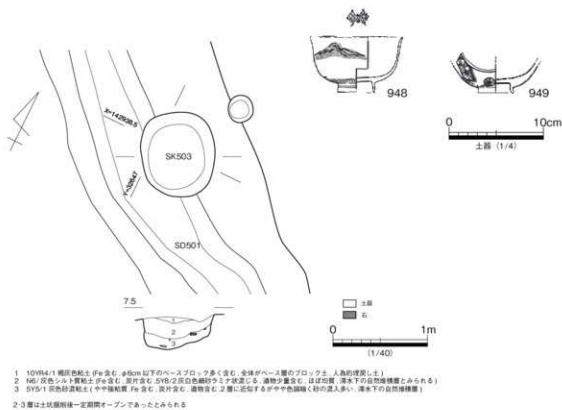
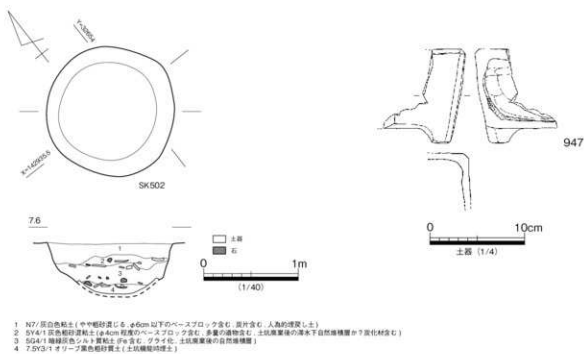
調査区中央南よりのSK501やSD501に隣接する土坑である。平面は円形状、断面は半円状を呈する。径約1.4m、深さ約0.6mを測る。埋土の上層は灰色系粘土で下層は黒色系の砂質土である。埋土からは近世以降の廃棄物が出土した。947は埋土から出土した陶器の火鉢片である。

### SK503(第155図)

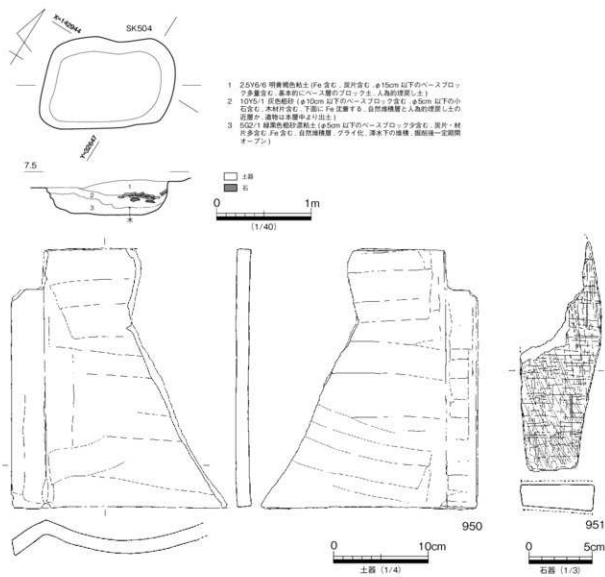
調査区中央から南西に位置し、SD501の上面で検出した土坑である。平面は楕円形状、断面は不整形なU字状を呈する。

長径約0.9m、短径約0.8m、深さ約0.35mを測る。埋土は灰色系の粘土ないしシルトからなる。埋土からは近世以降の土師器、陶器と、近代以降の廃棄物が出土した。出土遺物中には海軍旗を描いた染付

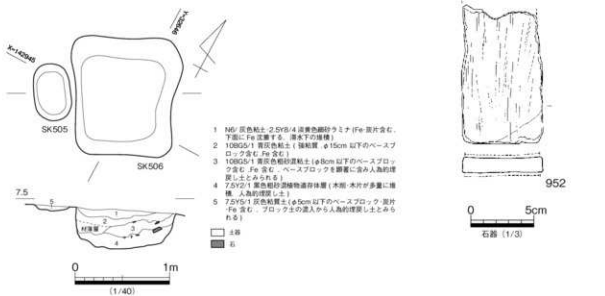




第155図 SK502・503平・断面、出土遺物

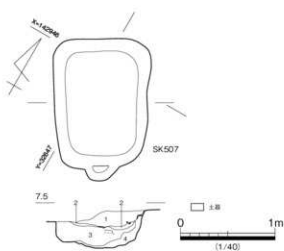


- 2.5m 6 明褐色粘土 (Fe 含む、炭片含む、 $\phi$ 15cm 以下のベースブロックを多数含む、基本的にはベース層のブロック主、人為的埋戻し主)
- 10cm 1 灰色粘砂 ( $\phi$ 15cm 以下のベースブロック含む、 $\phi$ 5cm 以下の石を含む、木材を含む、下部に Fe 点散する、自然埋戻しと人為的埋戻しの区別が、遺物は多量中より出上)
- 5cm 1 褐色粘砂状粘土 ( $\phi$ 5cm 以下のベースブロック含む、炭片・材片を含む、Fe 含む、自然埋戻し、フライヒ、渾水下の埋積、掘削後一定期間オープン)

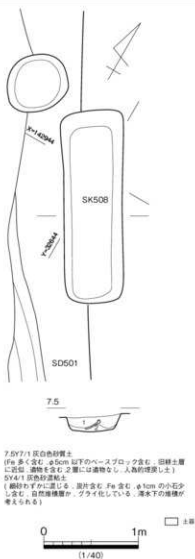
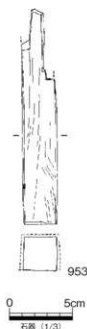


- MV 灰色粘土 2.5m 6 4 褐色粘砂クミナチFe 炭片含む、下部に Fe 点散する、渾水下の埋積)
- 10cm 5 0 1 灰色粘土、塊状埋、 $\phi$ 15cm 以下のベースブロック含む、Fe 含む)
- 10cm 5 0 1 褐色粘砂状粘土 ( $\phi$ 5cm 以下のベースブロック含む、Fe 含む、ベースブロックを調査に汲み人為的埋戻しとみられる)
- 7.5 2 1 褐色粘砂遺物埋積体層 (本層、木片が多数に埋積、人為的埋戻し)
- 7.5 0 1 1 灰色粘土 ( $\phi$ 5cm 以下のベースブロック、炭片 Fe 含む、ブロック主の遺人から人為的埋戻しとみられる)

第 156 図 SK504 ~ 506 平・断面、出土遺物



2. 5YR5 灰黄色粘土 (Fe 含む、ヘーメ層の人為的埋戻し土)
  - 2 黄褐色やや中粒砂質石灰土 (石灰分多量にみられる)
  - 5YR2 オリーブ灰色腐食土 (炭片・植物遺存体集積、φ5cm 以下の4層ブロック)
  - 5YR1 灰褐色土
- 【炭片・植物遺存体集積、ヤシシト質 3層とまじり分かれずラミナ状を呈する。深水下の堆積か、掘削後一定期間オープンであった可能性高い】



- 7.5Y7/1 灰白色砂質土 (Fe 多く含む、φ5cm 以下のヘースブロック含む、田跡土層に分布、遺物を含む土層にみられる、人為的埋戻し土)
  - 5Y4/1 灰黄色砂質土
- ① 編み物やかごに用いる、炭片を含む、Fe を含む、φ10cm の小石少し含む、自然堆積層か、ブライ化している、深水下の堆積か考えられる



- 7.5Y5/2 灰オリーブ色 (Fe 含む、φ10cm 以下の小石多量含む、炭片含む、人為的埋戻し土か、しまりない)
- 10Y5/1 灰褐色腐食土 (Fe 含む、φ30cm 以下のヘースブロック含む、炭片含む)

第 157 図 SK507～509 平・断面・出土遺物

椀などが見られることから、戦中以降に掘削された廃棄土坑と考えられる。948・949は埋土から出土した染付椀である。

#### SK504(第156図)

調査区中央のSK506・507の南に隣接する土坑である。平面は不整形な隅丸形状、断面は隅丸台形状を呈する。

長径約1.4m、短径約0.9m、深さ約0.4mを測る。埋土は明黄褐色粘土・灰色粗砂・緑黒色系の粘土ないし砂質土からなり、中間層から近世以降の多量の瓦や土師器、砥石等が出土した。検出状況からこの土坑は瓦の廃棄土坑と考えられる。950は埋土から出土した平瓦片、951は砥石片である。

#### SK506(第156図)

調査区中央のSK504・505・507に隣接する土坑である。平面は不整形な隅丸形状、断面は隅丸台形状を呈する。

長径約1.25m、短径約1.0m、深さ約0.4mを測る。埋土は4層に分かれ、灰色系の粘土が主体を占める。埋土からの出土遺物は近世以降の土師器・陶器、砥石及び昭和以降の廃棄物を含む。952は埋土から出土した板状の砥石である。

#### SK507(第157図)

調査区中央のSK504・506に隣接する土坑である。平面は不整形な隅丸長方形形状、断面は隅丸台形状を呈する。

長径約1.5m、短径約1.0m、深さ約0.4mを測る。埋土は上層が黄色系粘土、下層は黒色系腐食土である。埋土からは近世以降の土師器大甕、瓦、砥石などが出土した。953は埋土から出土した角柱状の砥石である。

#### SK508(第157図)

調査区中央のSK504・506の西隣に位置し、SD501を切り込んでいる土坑である。平面は不整形な長方形形状、断面は浅い逆台形状を呈する。

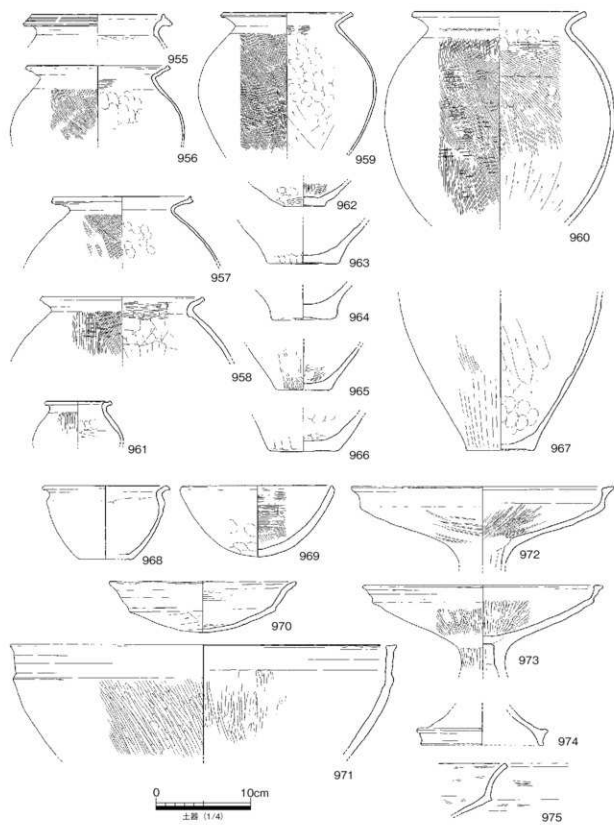
長径約2.0m、短径約0.6m、深さ約0.17mを測る。埋土は上下2層に分かれ上層は灰色砂質土、下層は灰色系粘土からなる。埋土からは近世以降の土師器・陶器・磁器などの日常雑器が出土した。

#### SK509(第157図)

調査区中央のSE503の西に隣接する土坑である。平面は円形、断面は二段掘方の隅丸逆台形状を呈する。

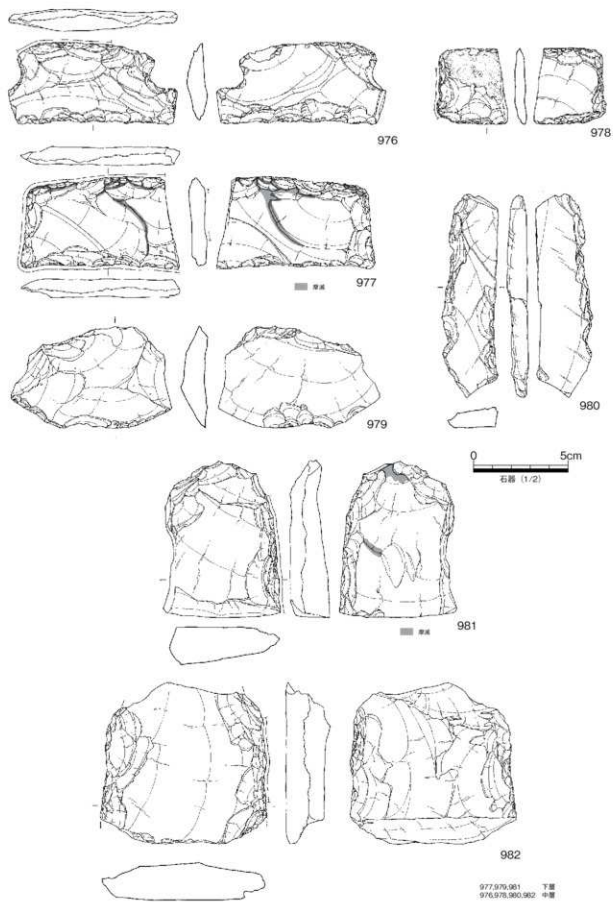
径約0.65m、深さ約0.35mを測る。掘方に土師器大型甕を検出しており、検出状況から近世以降の埋甕と考えられる。SK509からは、土師器大型甕と染付椀が出土した。954は甕内の埋土から出土した染付椀である。



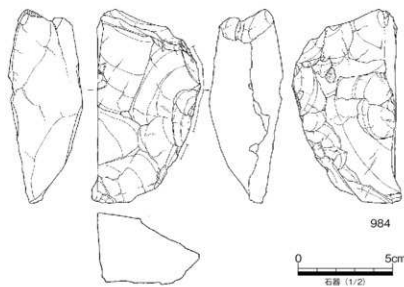
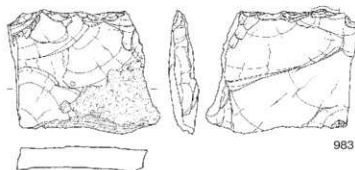


957, 960, 975 上層  
 962 ~ 964, 967, 969 中層  
 955, 956, 958, 963, 965, 971, 974 下層  
 965, 966, 970, 972, 973 表層

第159図 SD501 出土遺物(1)



第160図 SD501 出土遺物(2)

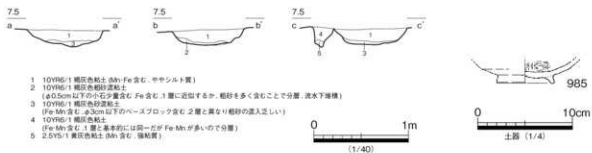


983.984 下層

0 5cm

石器 (1/2)

第 161 図 SD501 出土遺物 (3)



- 1 10YR6/1 褐色粘土 50% Fe 含む、中セシルト質)
- 2 10YR6/1 褐色粘砂質粘土  
( $\rho < 0.5\text{cm}$  以下の小石少量含む Fe 含む) 層に近接するか、粗砂を多く含むことで分層 (流水下堆積)
- 3 10YR6/1 褐色粘砂質粘土  
(Fe Mn 含む、 $\rho < 3\text{cm}$  以下のペースブロック含む) 層に隣り粗砂の混入が強い)
- 4 10YR6/1 褐色粘土  
(Fe Mn 含む、土層と基本的には同一だが Fe Mn が多いので分層)
- 5 2.5Y5/1 黄灰色粘土 50% Fe 含む、強粘質)

0 1m  
(1/40)

985  
0 10cm  
土路 (1/4)

第 162 図 SD502 断面、出土遺物

### (3) 溝状遺構

#### SD501(第 158 ~ 161 図)

調査区西辺を北西方向から南東方向に縦断する幹線水路である。北半部は直線気味ではあるが、南半部は僅かに蛇行する。また、SD503・504・505・506 がそれぞれ東西に分岐する。

検出長約 72.0m、幅 2.0 ~ 3.5m、深さ約 0.4 ~ 0.7m、主軸は N 31° W を向く。断面は浅い逆台形状を呈し、埋土は褐灰色系の粘土と黄灰色系粗砂がラミナ状に堆積する。底面のレベル差を比較して、南から北へ流下しているものと考えられる。



埋土からは弥生時代中期中頃、中期後半、後期前半～後半、終末期頃までの比較的時期幅をもつ土器と石器類が多数出土した。

955～967は甕である。955・963・964・966・967は弥生時代中期に属する土器である。955は中期後半末頃の甕口縁部である。口縁端部は上下に肥厚し、外面には凹線文が顕著に認められる。965・967は甕の下半部で、おそらく、後期初頭頃の甕であろう。956～960は弥生時代後期後半～終末期の甕上半部である。958・960等は体部が球体化しており終末期の様相を示している。968～971は弥生時代後期後半の鉢の資料である。971は大型鉢の上半部で、形状から後期前半ないしは後期中頃の鉢であろう。この土器は雲母を多量に含み、所謂下川津B類に類似する土器である。969・970は後期後半頃に属する鉢であろう。972～975は高杯である。972・973は弥生時代後期初頭頃の高杯の杯部である。口縁端部は左右に肥厚させ、端部外面には退化した凹線文を施している。974は後期初頭頃の高杯脚部片である。975は後期中頃の高杯杯部片である。

976～984はSD501から出土したサヌカイト製の石器類である。976～978は打製石庖丁である。977の表・裏面には仕様痕が確認できる。979・980は横長剥片のエッジに刃部を形成している刮器である。981・982は先端部や基部を欠く打製石斧片である。肉厚で大型の横長状の剥片を素材とし、側縁部から調整剥離を加えている。981の基部には仕様痕を確認できる。983は楔形石器に分類した。明瞭な断面が確認できないため、楔形石器の素材と考えられる。984は船底状の形状した石核である。両面加工石器を分割したような形状を呈することから、何らかの未製品の可能性もある。

SD501は出土遺物に比較的時期幅があることから、掘削期・改修期・埋没時期等の時期差が表れているものと考えられる。おそらく、弥生時代中期中頃～中期後半頃掘削され、その後数度改修した後、最終的には弥生時代終末期頃に埋没したものと考えられる。

#### SD502(第162図)

調査区南端部で検出した、糸里地割にはほぼ合致し、北東方向から南西方向に延びる溝状遺構である。中央部で南北に延びるSD501を切り込んでいる。

検出長約15.0m、幅約0.8～1.2m、深さ約0.2m、主軸はN66°Eを向く。断面は皿状で、埋土は褐灰色粘土を呈し、溝底部には粗砂の混入が若干認められる。

埋土からは土師器、黒色土器が少量出土した。985は11世紀後半の黒色土器の底部であり、この溝跡の埋没時期を示す遺物の可能性が高い。

#### (参考文献)

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「川津六反地遺跡」[渠道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報]
- (財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成10年度「川津六反地遺跡」[財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報]
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成11年度「川津六反地遺跡」[渠道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報]
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」[渠道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報]

## 第Ⅵ章 自然化学分析

### 第1節 平成12年度自然科学分析

#### 1. 香川県、川津六反地遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

##### 1. はじめに

四国地方に分布する第四系には、九州地方や中国地方さらには中部地方の火山などに由来するテフラ(tephra, 火山砕屑物、いわゆる火山灰)が認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代、地形や土壌の形成年代のみならず、遺構や遺物の年代などについても知るできるようになっている。

そこで、年代の不明な土層が認められた川津六反地遺跡においても、地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、採取された試料を対象にテフラ分析を行い、示標テフラとの層位関係の把握により土層の年代に関する資料を収集することを試みた。調査の対象となった地点は、Ⅳ区南部16m地点とⅣ区南部25m地点の2地点である。

##### 2. 土層層序

###### (1) Ⅳ区南部16m地点

Ⅳ区南部16m地点では、下位より灰色シルト質砂層(層厚22cm, 7層)、灰色砂層(層厚18cm, 6層)、砂混じり黄色粘質土(層厚45cm, 5層)、砂混じりで鉄分を比較的多く含む灰色土(層厚20cm, 4層)、砂混じりでわずかに灰色がかった白色土(層厚7cm, 3層)、砂混じりで若干白色がかった灰色土(層厚3cm, 2層)、砂混じり灰色土(層厚16cm, 1層)、盛土(層厚23cm)が認められる(図1)。発掘調査では、これらのうち5層から縄文時代後・晩期の遺物が検出されている。

###### (2) Ⅳ区南部25m地点

埋没谷部に位置するⅣ区南部25m地点では、下位より灰色砂層(層厚10cm以上, 6層)、砂混じり黄色粘質土(層厚42cm, 5層)、砂混じり灰色土(層厚26cm, 4.5層)、マンガンを比較的多く含む砂混じり暗灰色土(層厚17cm, 4.4層)、若干色調が暗い砂混じり灰色土(層厚7cm, 4.3層)、砂混じり灰色土(層厚6cm, 4.2層)、砂混じり暗灰色土(層厚6cm, 4.1層)、わずかに灰色がかった砂混じり白色土(層厚7cm, 3層)、砂混じり灰白色土(層厚8cm, 2層)、砂混じり灰色土(層厚6cm, 1層)が認められる(図2)。

##### 3. 火山ガラス比分析

###### (1) 分析方法

Ⅳ区南部16m地点とⅣ区南部25m地点の2地点において、基本的に厚さ5cmごとに採取された試料のうち、19点を対象に火山ガラス比分析を行うことにした。分析処理の手順は次の通りである。

- 1) 試料 10g を秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により 80°C で乾燥。
- 4) 分析篩により 1/4-1/8mm の粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で 250 粒子を検鏡し、火山ガラスの色調・形態別組成を求める。

## (2) 分析結果

IV区南部 16m 地点とIV区南部 25m 地点における火山ガラス比分析の結果を、ダイアグラムにして図 3 と図 4 に、その内訳を表 1 に示す。IV区南部 16m 地点では、試料 8 と試料 2 をのぞくいずれの試料からも火山ガラスをわずかずつ検出することができた。しかしながら、その降灰層準を示すような顕著な濃集層準は認められなかった。含まれる火山ガラスの多くは、平板状のいわゆるバブル型である。多くのバブル型ガラスの色調は、無色透明であるが、試料によっては淡褐色や褐色のガラスも認められる。試料 14 には、ほかに分厚い中間型ガラス(無色透明)もごく少量含まれている。

IV区南部 25m 地点についても同様で、顕著な火山ガラスの濃集層準は認められない。検出されたバブル型ガラスの多くの色調は無色透明で、わずかに褐色のガラスも認められる。

## 4. 屈折率測定

### (1) 測定試料と測定方法

遺物包含層に層位があり、わずかながら中間型ガラスが認められたIV区南部 16m 地点の試料 14 に含まれるテフラ粒子について、示標テフラとの同定を行うために、温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)により屈折率を測定した。

### (2) 測定結果

屈折率測定の結果を表 2 に示す。試料 14 に含まれるバブル型の火山ガラス(最大径 0.6mm)の屈折率(n)は、1.509-1.512 である。なお屈折率測定の際には、中間型ガラスは量が非常に少ないために検出されなかった。また重鉱物も認められなかった。

## 5. 考察

IV区 16m 地点の試料 14 に含まれる火山ガラスは、形態や色調さらに屈折率などから、約 6300 年前<sup>\*1</sup>に南九州地方の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 町田・新井, 1978)に由来すると考えられる。この試料に含まれる火山ガラスの量が少ないこと、また下位の試料にも同様の火山ガラスが含まれていることなどから、5 層に含まれる火山ガラスは二次的に混入しているものと思われる。

なお、ほかの試料に含まれる無色透明のバブル型ガラスの一部については、ごくわずかながら約 24 ~ 25 万年前<sup>\*1</sup>に始良カルデラから噴出した始良 Tn 火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 池田ほか, 1995)に由来するものも存在するかも知れない。

中間型ガラスについては、量が非常に少ないために詳細に検討することができなかったが、火山ガラスの形態や同じ土層中に含まれる遺物の考古学的な推定年代を考慮すると、約 2800 ~ 2900 年前<sup>\*1</sup>に伊豆半島天城火山から噴出し、西方にも広く降灰した天城カワゴ平テフラ(Kg, 葉室, 1978, 町田ほか,

1984)や、約3600年前<sup>\*1</sup>に三瓶火山から噴出した三瓶大平山テフラ(SOh, 松井・井上, 1971, 町田・新井, 1992)に由来している可能性も考えられる。従来、四国地方の縄文時代の示標テフラ層としては、K-Ahがよく知られているが、ほかにこれらのテフラや、さらに約9,300年前<sup>\*1</sup>に警陵火山から噴出した警陵隠岐テフラ(U-Oki, 町田ほか, 1981)も時空指標として有効なのかも知れない。

発掘調査などにおいて、テフラの保存状態の良い細粒の水成堆積物や泥炭層などが検出された際には、これらのテフラが挟在したり、含まれている可能性についても留意されておかれると良い。

## 6. まとめ

川津六反地遺跡において、火山ガラス比分析と屈折率測定を行った。その結果、鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 約6,300年前<sup>\*1</sup>)に由来する火山ガラスが検出された。その産出状況から、川津六反地遺跡の縄文時代の遺物包含層はK-Ahより上位にあると考えられる。

なお、香川県域の後期更新世以降地層からは、ほかに約9～9.5万年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界とずらはら葛原火山灰(K-Tz, Nagaoka, 1988, 町田ほか, 1983, Machida, 1999)、約8.4～8.9万年前に中九州地方の阿蘇火山から噴出した阿蘇4火山灰(Aso-4, 町田ほか, 1985, Machida, 1999)、約1.6万年頃に三瓶火山から噴出した三瓶浮布テフラ(SUP, 林・三浦, 1987, 三浦・林, 1991, 町田・新井, 1992)など多くのテフラが検出される可能性があり、産出状況によっては火山灰編年学による考古遺物などの詳細な編年研究が可能となっている。

### \*1 放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代

#### (文献)

- 新井房夫(1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフラクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.  
新井房夫(1993) 温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2—研究対象別分析法」, p.138-149.  
葉室和親(1978) 大京山火山群の地質。地質雑報, 84, p.433-444.  
林 正久・三浦 清(1987) 三瓶火山のテフラ層序とその分布。島根大山除地域研究(自然地理), 3, p.43-66.  
池田見子・奥野 光・中村俊夫・小林哲夫(1995) 南九州。始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器<sup>14</sup>C年代。第四紀研究, 34, p.377-379.  
Machida H.(1999) Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan: recent progress. Quat.Res, 38, p.194-201.  
町田 洋・新井房夫(1976) 広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339-347.  
町田 洋・新井房夫(1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—アカホヤ火山灰。第四紀研究, 17, p.143-163.  
町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.  
Machida M. and Arai, F.(1983) Extensive ash falls in and around the Sea of Japan from late Quaternary eruptions. Jour. Volcanol.Geochem.Res, 18, p.151-164.  
町田 洋・新井房夫・長岡信治(1983) 広域テフラによる南関東と南九州の後期更新世海成段丘の対比。日本第四紀学会講演要旨集, no.13, p.45-46.  
町田 洋・新井房夫・百瀬 賢(1985) 阿蘇4火山灰—一分布の広域性と後期更新世示標層としての意義—。火山, 第2集, 30, p.49-70.  
町田 洋・新井房夫・森脇 広(1981) 日本海を渡ってきたテフラ。科学, 51, p.562-569.  
町田 洋・新井房夫・小田勝夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.  
松井整河・井上多津男(1971) 三瓶火山の噴出物と層序。地球科学, 25, p.147-163.  
松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987) 始良 Tn 火山灰(AT)の<sup>14</sup>C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.  
三浦 清・林 正久(1991) 中国・四国地方の第四紀テフラ—広域テフラを中心として。第四紀研究, 30, p.339-351.  
Nagaoka, S.(1988) The late Quaternary tephra layers from the caldera volcanoes in and around Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. Geog. Rept., Tokyo Metropol. Univ., 23, p.49-122.

表1 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw(c)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
IV区 16m	2	0	0	0	0	0	0	250	250
	4	1	0	0	0	0	0	249	250
	5	2	1	0	0	0	0	247	250
	6	1	0	0	0	0	0	249	250
	8	0	0	0	0	0	0	250	250
	10	2	0	1	0	0	0	247	250
	12	1	0	0	0	0	0	249	250
	14	1	1	0	0	1	0	247	250
	16	1	0	0	0	0	0	249	250
	18	1	0	0	0	0	0	249	250
	20	1	0	0	0	0	0	249	250
	22	1	0	0	0	0	0	249	250
	24	1	0	0	0	0	0	249	250
	26	2	0	0	0	0	0	248	250
IV区 25m	1	1	0	0	0	0	0	249	250
	2	2	0	1	0	0	0	247	250
	3	1	0	0	0	0	0	249	250
	5	1	0	0	0	0	0	249	250
	9	0	0	0	0	0	0	250	250

数字は粒子数。bw：バブル型、md：中間型、pm：軽石型、cl：透明、pb：淡褐色、br：褐色、sp：スポンジ状、fb：繊維束状。

表2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス		重鉱物		
		最大径	屈折率 (n)	組成	斜方輝石 (γ)	角閃石 (α2)
IV区 16m	22	0.6mm	1.509-1.512	—	—	—

屈折率の測定は、温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1980）による。

図1 IV区南部 16m 地点の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

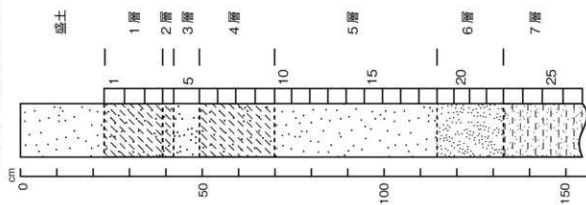


図2 IV区南部 25m 地点の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

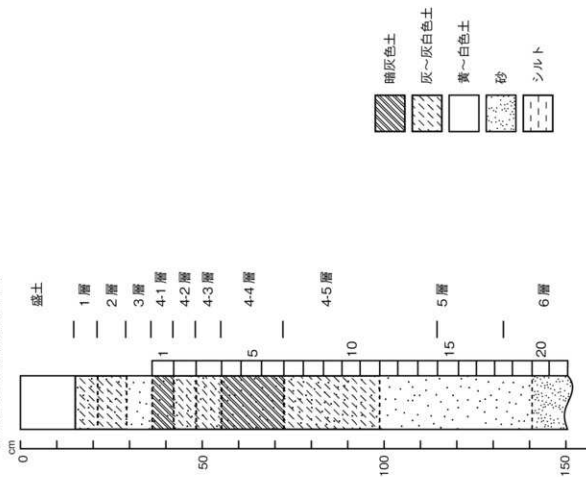


図3 IV区南部16m地点の  
火山ガラス比ダイヤグラム

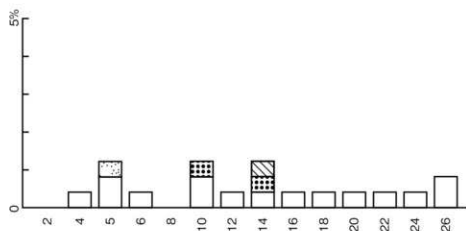
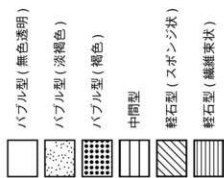
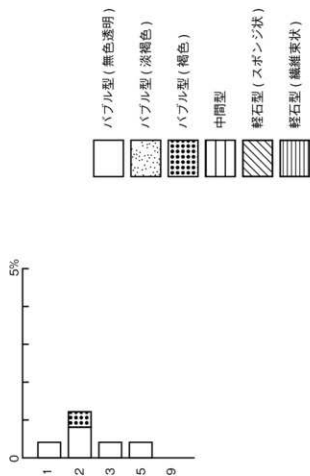


図4 IV区南部25m地点の  
火山ガラス比ダイヤグラム



## 2. 川津六反地遺跡出土試料の放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

### 1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	地表下 4.5m の泥炭層	木材	酸・丸削・酸洗浄・ベンゼン合成	$\beta$ 線計数法
No.2	地表下 4.5m の泥炭層	木材	酸・丸削・酸洗浄・ベンゼン合成 測定時間延長	$\beta$ 線計数法
No.3	地表下 4.5m の泥炭層	木材	酸・丸削・酸洗浄・ベンゼン合成 測定時間延長	$\beta$ 線計数法

### 2. 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年 BP)	暦年代 (西暦)	測定No. (Beta-)
No.1	10390 $\pm$ 70	-30.8	10300 $\pm$ 70	交点 : Cal BC 10320, : Cal BC 10300, : Cal BC 10160 1 $\sigma$ : Cal BC 10410 ~ 9950 2 $\sigma$ : Cal BC 10820 ~ 10800, : Cal BC 10700 ~ 10510, : Cal BC 10450 ~ 9900	153955
No.2	10840 $\pm$ 70	-28.2	10790 $\pm$ 70	交点 : Cal BC 10940 1 $\sigma$ : Cal BC 11030 ~ 10850, : Cal BC 10790 ~ 10700 2 $\sigma$ : Cal BC 11060 ~ 10840, : Cal BC 10890 ~ 10680	153956
No.3	10660 $\pm$ 60	-29.7	10580 $\pm$ 60	交点 : Cal BC 10840, : Cal BC 10790, : Cal BC 10700 1 $\sigma$ : Cal BC 10940 ~ 10660, : Cal BC 10540 ~ 10400 2 $\sigma$ : Cal BC 10960 ~ 10640, : Cal BC 10570 ~ 10380, : Cal BC 10260 ~ 10240	153957



#### 1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（1950年AD）から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は、国際慣例に従って5,568年を用いた。

#### 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)を表す。

#### 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

#### 4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には、年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベース（INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration<sup>+</sup> Stuiver et al. 1998, Radiocarbon 40(3)）により、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、較正 $^{14}\text{C}$ 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。 $1\sigma$ （68%確率）・ $2\sigma$ （95%確率）は、較正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の $1\sigma$ ・ $2\sigma$ 値が表記される場合もある。

### 3. 香川県、川津六反地遺跡におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

#### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山, 1984)。

#### 2. 試料

試料は、地表下 4.5 m に堆積する泥炭であり、遺跡の調査担当者により採取されたものである。

#### 3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約 1 g に直径約 40  $\mu\text{m}$  のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550°C・6 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10 分間) による分散
- 5) 沈底法による 20  $\mu\text{m}$  以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞 (葉身にのみ形成される) に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400 倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料 1 g 中のプラント・オパール個数 (試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める) に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10 - 5 g) を乗じて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。換算係数はヨシ属 (ヨシ) は 6.31、ススキ属 (ススキ) は 1.24、ネザザ属 (チマザザ属・チマキザザ属) は 0.75 である。

#### 4. 所見

検出されたプラント・オパールは、ヨシ属、ススキ属型 (おもにススキ属)、シバ属、タケ亜科 (ネザザ属型、クマザザ属型、その他) および未分類等である (表 1)。これらの中では、ヨシ属が比較的高い密度 (2200 個/g) であり卓越する。このことから、当該層の堆積時は調査地近辺は湿地的環境であり、そこにヨシが生育していたと考えられる。その他のススキ属型、シバ属、ネザザ属型、クマザザ

属型については、極めて低い検出密度であることから、調査地に生育していたのではなく、他所から混入したものである。

文献

杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機動細胞注酸体。富士竹類植物園報告, 第 31 号, p.70-83.

杉山真二 (2000) 植物注酸体 (プラント・オパール)。考古学と植物学。同成社, p.189-213.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (I) - 数種イネ科栽培植物の注酸体標本と定量分析法 -。考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) - プラント・オパール分析による水田址の探索 -。考古学と自然科学, 17, p.73-85.

表 1 香川県、川津六反地遺跡のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: × 100 個/g)		地表下 4.5 m
分類群 (和名・学名)	採取箇所	
イネ科	Gramineae (Grasses)	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	22
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	4
シノバ属	<i>Soyza</i>	4
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	
ネザサ属型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i> type	7
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i> ) type	4
その他	Others	7
未分類等	Unknown	219
プラント・オパール総数		267
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/ml・cm)		
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	1.41
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.05
ネザサ属型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i> type	0.04
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i> ) type	0.03

#### 4. 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の花粉分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

川津六反地遺跡・川津昭和遺跡は、大東川と城山川によって開析された段丘上に立地する、隣接した遺跡である。川津六反地遺跡からは弥生時代の溝や、縄文時代後期と思われる包含層などが検出されている。川津昭和遺跡からは弥生時代から古墳時代の溝や、平安時代後半の溝などが報告されている。また、本遺跡周辺には旧石器時代から中世にかけての遺跡が点在し、大東川流域に多くの集落が営まれていたことが確認されている。

今回は縄文時代・弥生時代における遺跡周辺の古植生復元、および栽培植物の特定を目的として花粉分析・イネ属同定を実施する。

##### 1. 試料

分析に用いた試料の詳細を表1に示す。川津六反地遺跡の試料は縄文時代から弥生時代後期の層準から採取されており、川津昭和遺跡の試料は弥生時代後半・古墳時代前半から平安時代後半にかけての層準から採取されている。分析点数は2遺跡合わせて7点である。

表1 分析試料一覧

遺跡名	試料番号	調査区名	採取層位	土質	鑑定年代
川津六反地遺跡	1	Ⅱ-4区	第2面 SD314 下層	黄褐色混濁灰色粗砂混粘土	弥生時代後期
	2	Ⅱ-4区	第2面 SD315 下層	黄灰色粘土	弥生時代後期
	3	Ⅲ区	第3面 包含層	灰色混黄色砂混粘土	縄文時代後期?
	4	Ⅲ区	ベース泥炭層	黒色粗砂混粘土	縄文時代
	5		第1面 SD501 上層	黄灰色粘土	弥生時代後期から古墳時代前期
川津昭和遺跡	6		第1面 SD501 中層	黄灰色粘土	弥生時代後期から古墳時代前期
	7		第1面 SD502	濁灰色粘土	平安時代後半

##### 2. 分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、簡別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理の順に物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類（Taxa）について同定・計数する。

結果は、木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。なお、総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。

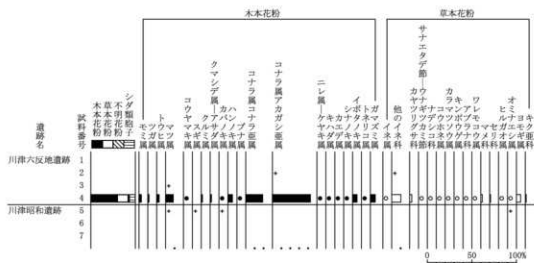
イネ属同定はノマルスキー微干涉装置を用い、検出されるイネ科花粉の表面微細構造・発芽孔の肥厚の状況・粒径などを考慮して、中村（1974）を参考にしてイネ属と他のイネ科に分類した。結果は花粉分析と合わせて図表に示す。

##### 3. 結果

結果を表2・図1に示す。花粉・胞子の保存状態は極めて悪く、定量解析を行うことができた試料は、

表2 花粉分析結果

種 類	上段 遺跡名				下段 試料番号		
	川津六反地遺跡				川津昭和遺跡		
	1	2	3	4	5	6	7
木本花粉							
モミ属	-	-	-	6	-	-	-
ツグ属	-	-	-	3	-	-	-
トネヒ属	-	-	-	6	-	-	-
マツ属(雄雄管束属)	-	-	1	5	1	-	-
マツ属(不明)	-	-	-	14	-	-	-
コウヤマキ属	-	-	-	1	-	-	-
スギ属	-	-	-	-	1	-	-
クルミ属	-	-	-	3	-	-	-
クマシラ属-アサダ属	-	-	-	3	-	-	-
サキノキ属	-	-	-	1	1	-	-
ハンノキ属	-	-	-	11	-	-	-
ゾナ属	-	-	-	2	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	-	-	-	42	-	-	-
コナラ属アガシ亜属	-	1	-	94	-	-	-
ニレ属-トネヒ属	-	-	-	2	-	-	-
カハダ属	-	-	-	1	-	-	-
カエデ属	-	-	-	1	-	-	-
シナノキ属	-	-	-	1	-	-	-
イボタノキ属	-	-	-	11	-	-	-
トネリコ属	-	-	-	1	-	-	-
アサスズメ属	-	-	-	12	-	-	-
草本花粉							
イネ属	-	-	-	1	-	-	-
他のイネ科	-	1	-	37	-	-	-
カヤツリグサ科	-	-	-	9	-	-	-
ササノコ科	-	-	-	1	-	-	-
コウホト属	-	-	-	3	-	-	-
カラマツソウ属	-	-	-	1	-	-	-
キンボウグ属	-	-	-	1	-	-	-
アブラナ科	-	-	-	3	-	-	-
ワレモコウ属	-	-	-	1	-	-	-
マメ科	-	-	-	6	-	-	-
セリ科	-	-	-	4	-	-	-
ヒメギョウ属	-	-	-	1	-	-	-
オニナシ属	-	-	-	1	1	-	-
ヨモギ属	-	-	-	17	-	-	-
キク亜科	-	-	-	4	-	-	-
不明花粉	-	-	-	9	-	-	-
シダ類孢子							
シダ類孢子	5	11	3	50	7	11	1
合 計							
木本花粉	0	1	2	220	3	0	0
草本花粉	0	1	0	91	1	0	0
不明花粉	0	0	0	9	0	0	0
シダ類孢子	5	11	3	50	7	11	1
総計(不明を除く)	5	13	5	361	11	11	1



出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉-シダ類孢子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●は1%未満、+は木本花粉100個未満の試料から産出した種類を示す。

図1 花粉化石群集の層位分布

川津六反地遺跡の試料番号4のみであった。花粉の産出状況は本本花粉の割合が高く、主にコナラ属アカガシ亜属を中心として、コナラ亜属・マツ属・ハンノキ属・イボタノキ属・ガズミ属などが認められている。草本類ではイネ科を中心に、ヨモギ属などが検出された。また、1個体だけではあるがイネ属も同定された。そのほかの試料からは、花粉・シダ類胞子化石ともほとんど検出されなかった。

#### 4. 考察

川津六反地遺跡では、縄文時代と推定されるIV区ベース泥炭層から花粉化石が多産した。その群集組成は本本類の割合が高く、アカガシ亜属が多産し、コナラ亜属・イボタノキ属・ガズミ属などを伴っている。多産するアカガシ亜属は暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）の主要構成要素である。また、イボタノキ属・ガズミ属などは、林縁部に多く見られる種類を含む分類群であり、クミ属・ハンノキ属・ニレ属・ケヤキ属などは、湿地林や河畔林を形成する種類を含む分類群である。これらのことから当時の遺跡周辺には、アカガシ亜属を中心とした、種類構成の豊富な暖温帯林が成立していたと考えられる。同様の結果は、丸亀平野の下川津遺跡や高松平野の林・坊城遺跡などでも報告されている（バリノ・サーヴェイ株式会社、1990,1993）。また、丸亀平野の西部に位置する普通寺市の永井遺跡でも、縄文時代の層から出土した種実遺体同定と木材の樹種同定結果から、アカガシ亜属の多産とともに、暖温帯の二次林性落葉広葉樹が多産することが報告されている（古市、1990；能代・鈴木、1990）。一方、産出した草本類では、イネ科が多産するとともにヨモギ属などを伴っている。また、栽培植物の特定を目的としてイネ属同定を行ったが、花粉全体の保存状態が悪く、イネ科花粉の外観が分解を受けているものが多く認められた。イネ属同定は花粉外観の表面構造が重要な根拠の1つとなっていることから、今回の試料については統計的な評価ができなかった。ただし、保存状態の良いイネ科には栽培種のイネ属が僅かであるが認められた。この結果から稲作が行われていた可能性を指摘することはできないが、このイネ属が本層堆積時に取り込まれたものだとすれば、縄文時代晩期には既にイネが存在したことになる。この点については、生物攪乱等による上位層からの落ち込みなど、堆積状況を含めて再評価する必要がある。

縄文時代晩期のイネに由来する化石の検出報告は、高松平野に位置する林・坊城遺跡の調査報告があるが、水田遺構など耕作を決定づける遺構は確認されておらず、堆積物の年代観も含め慎重な検討が必要であるとされている（バリノ・サーヴェイ株式会社、1993）。縄文時代における稲作の検証については、考古学的にも課題が多く、本遺跡のイネ属についても植物珪酸体分析や種実同定など他の分析も併用し、発掘調査成果との総合的な解析・検討を行っていくことが必要と考える。また、本層以外の試料からは花粉化石がほとんど検出されなかったが、これは後述するように堆積時・後の風化作用による分解・消失に起因する可能性が強く、風化に対する抵抗性の強い植物珪酸体による検証が必要である。

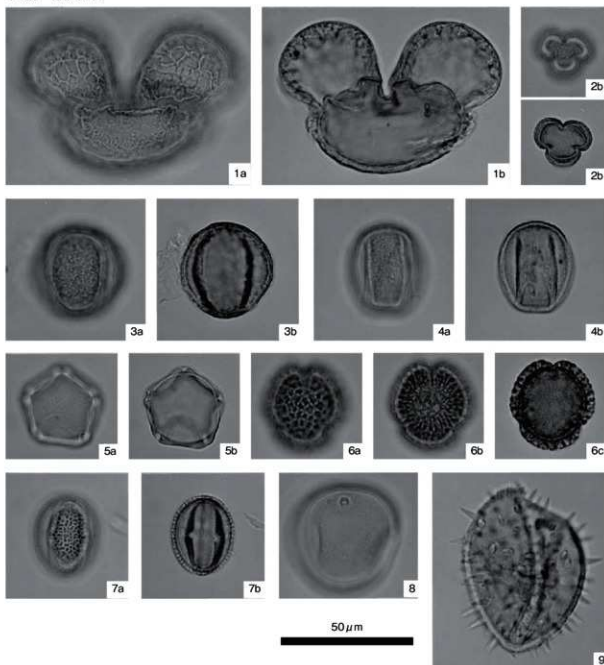
川津昭和遺跡においては、花粉化石・シダ類胞子化石がほとんど産出しなかった。弥生時代後期から古墳時代前期と考えられている第1面 SD501 上層より、マツ属・スギ属・カバノキ属が認められただけであった。一般的に花粉・シダ類胞子は、腐蝕に対する抵抗性が種類により異なり、落葉広葉樹に由来する花粉よりも、針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化状態に置かれている場所では、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている。今回、花粉化石がほとんど産出しなかったのは、各土層堆積時に取り込まれた花粉が、その後の経年変化により分解・消失したことに起因していると思

われる。

(引用文献)

- 古市光信 (1990) 善通寺市永井遺跡 (縄文時代) 産出の植物遺体 (種子) について。四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九冊「永井遺跡 (附編・観察表・写真図版編)」, p.814-818, (財) 香川県埋蔵文化財調査センター。
- 中村純 (1967) 「花粉分析」, 232p. 古今書院。
- 中村純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として。第四紀研究, 13, p.187-193。
- 能代修一・鈴木三男 (1990) 善通寺市永井遺跡の木化石群集。四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九冊「永井遺跡 (附編・観察表・写真図版編)」, p.823-864, (財) 香川県埋蔵文化財調査センター。
- パリオ・サーヴェイ株式会社 (1990) 下川津遺跡における花粉・珪藻分析委託報告。瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅵ「下川津遺跡 - 第2分冊 -」, p.479-518, 香川県境地区委員会・財団法人香川県埋蔵文化財センター・本州四国連絡橋公団。
- パリオ・サーヴェイ株式会社 (1993) 花粉分析とプラント・オーバー分析。高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊「林・坊城遺跡」, p.239-263, 香川県埋蔵文化財研究会。
- 徳永重元・山内輝子 (1971) 花粉・胞子。「化石の研究法」, p.50-73, 共立出版株式会社。
- 外山秀一 (1996) 日本列島の稲作の始まり。「季刊考古学」, 56, p. 39-43, 雄山閣出版。

図版 花粉化石



- 1 マツ属 (試料番号 4)  
 2 ヨモギ属 (試料番号 4)  
 3 コナラ属コナラ亜属 (試料番号 4)  
 4 コナラ属アカガシ亜属 (試料番号 4)  
 5 ハンノキ属 (試料番号 4)

- 6 イボタノキ属 (試料番号 4)  
 7 ガズミ属 (試料番号 4)  
 8 イネ科 (試料番号 4)  
 9 コウホネ属 (試料番号 4)



## 第2節 平成24年度自然科学分析

### 1. 川津昭和遺跡・川津六反地遺跡のテフラ分析

藤根 久 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

川津昭和遺跡・川津六反地遺跡は、香川県坂出市川津町、丸亀平野北東隅の南北3km、東西1.5kmほどの概状を呈する平野部のほぼ中央部に位置する遺跡である。ここでは、川津昭和遺跡・川津六反地遺跡の発掘調査で検出されたガラス質テフラについて、火山ガラスの形態分類と屈折率測定を行い、テフラを同定した。

#### 2. 試料と方法

分析試料は、川津昭和遺跡東壁から採取された2試料、川津六反地遺跡IV区南壁とS3群S17下層から採取された2試料の合計4点である(表1)。

表1 テフラ試料とその特徴

分析No.	遺跡	調査区	位置	層位	色調
1	川津昭和		東壁深層	14層	黄灰色(2.5Y6/1) 砂質粘土
2			東壁深層	15層	灰黄色(2.5Y7/2) 砂質粘土
3	川津六反地	IV区	南壁	6層	浅黄色(2.5Y8/3) ~ 白灰色(2.5Y7/1) 砂質粘土
4			S3群S17	下位層	浅黄色(2.5Y8/6) ~ 黄灰色(2.5Y6/1) 砂質粘土

各テフラ試料は、以下の方法で処理した。試料は、自然含水状態で13~20g程度を秤量し、1φ(0.5mm)、2φ(0.25mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.063mm)の4枚の篩を重ね、湿式篩分けを行った。各試料の4φ篩残渣について、各篩残渣を乾燥して秤量した後、4φ篩残渣の一部について重液(テトラブロモエタン、比重2.96)を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。

重液分離した軽鉱物は、簡易プレバートを作製し、石英や長石のほか、町田・新井(2003)の分類基準に従って火山ガラスの形態分類を行い同定・計数した。また、重鉱物は、封入剤カナダバルサムを用いてプレバートを作製し、単斜輝石(Cpx)、斜方輝石(Opx)、角閃石(Ho)、磁鉄鉱(Mag)を同定・計数した。

さらに、各4φ篩残渣中の火山ガラスは、横山ほか(1986)に従って温度変化型屈折率測定装置を用いて屈折率を測定した。

#### 3. 結果と考察

以下に、各遺跡試料について、湿式篩分け結果、軽鉱物および重鉱物組成の特徴、火山ガラスの屈折率について述べる。

表2 テフラ試料の湿式篩分け結果

分析No.	遺跡	試料No.	湿潤重量 (g)	砂粒分の粒度組成 (重量%)				含砂率 (%)	砂粒分の粒度組成 (4φ以上に対する重量%)			
				1φ	2φ	3φ	4φ		1φ	2φ	3φ	4φ
1	川津昭和	東郷深堀 14層	19.87	0.0458	1.6819	7.8758	3.5291	66.09	0.35	1.281	59.97	26.87
2		東郷深堀 15層	13.56	0.0017	0.0763	3.1692	3.2951	48.25	0.03	1.17	48.44	50.37
3	川津六反地	IV区南壁 6層	15.39	1.6675	1.1290	0.6469	0.4422	25.25	42.91	29.06	16.65	11.28
4		IV区S3群S17下層	19.85	0.0695	0.3038	0.8119	1.2437	12.24	2.86	12.51	33.43	51.20

表3 各試料の軽鉱物と鉱物組成

分析No.	遺跡	試料No.	軽鉱物 (粒数)											重鉱物 (粒数)								
			石英 (Qz)	長石 (Fs)	黒雲母 (Bt)	不明 (Op)	平板状 (Pl)	十字状 (Cr)	細板状 (M)	尖晶石 (Sp)	繊維状 (F)	合計	合計	単斜輝石 (Cpx)	斜方輝石 (Opx)	シムシム (Zn)	普通角閃石 (Hf)	磁鉄鉱 (Mag)	不明 (Op)	合計		
1	川津昭和	東郷深堀 14層	66	78	7	45		4						4	200	4	8	3	151	22	12	200
2		東郷深堀 15層	79	86	1	32			1	1				2	200	13	4	1	142	31	9	200
3	川津六反地	IV区南壁 6層	74	92	1	33		1		1				2	200	20	13	4	91	51	19	200
4		IV区S3群S17下層	81	71		47					1			1	200	19	11	12	83	33	22	200

図1 火山ガラスの屈折率測定結果

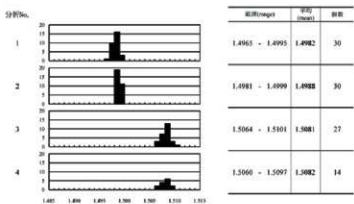
【川津昭和遺跡 (分析No.1, No.2)】

湿式篩分けを行った結果、分析No.1では4φ以上の含砂率 (%) が66.09%と高く、3φ残渣の占める割合が高い。一方、分析No.2では含砂率 (%) が13.56%と低く、3~4φの占める割合が高い (表2)。

軽鉱物では、分析No.1は、石英や長石が多く、火山ガラスは少なかった。火山ガラスは、バブル型Y字状ガラス (b2) が計数された。また、分析No.2では、同様に石英や長石が多く、火山ガラスは少なかった。火山ガラスは、軽石型繊維状ガラス (p1) やスポンジ状ガラス (p2) が計数された (表3)。

火山ガラスの屈折率測定では、分析No.1は、範囲 (range) が1.4965-1.4995の狭い範囲に集中し、平均値が1.4982であった。また、分析No.2は、範囲 (range) が1.4981-1.4999の狭い範囲に集中し、平均値が1.4988であった (図1)。

これらの火山ガラスは、火山ガラスの屈折率から、いずれも始良 Tn テフラ (AT) と同定された。ただし、いずれも火山ガラスが少なく、単純に降灰層を指標するとは限らない。



No.1: 川津昭和遺跡 No.2: 川津昭和遺跡 No.3 川津六反地遺跡 No.4 川津六反地遺跡

【川津六反地遺跡 (分析No.3, No.4)】

湿式篩分けを行った結果、分析No.3では4φ以上の含砂率 (%) が25.25%と低く、1~2φ残渣の占める割合が高い。一方、分析No.4では含砂率 (%) が12.24%とさらに低く、3~4φの占める割合が高い (表2)。

軽鉱物では、分析No.3は、石英や長石が多く、火山ガラスは少なかった。火山ガラスは、バブル型

Y字状ガラス (b2) と軽石型スポンジ状ガラス (p2) が計数された。また、分析 No.4 は、同様に石英や長石が多く、火山ガラスは少なかった。火山ガラスは、軽石型スポンジ状ガラス (p2) が計数された (表 3)。

火山ガラスの屈折率測定では、分析 No.3 は、範囲 (range) が 1.5064-1.5101 の範囲に集中し、平均値が 1.5081 であった。また、分析 No.4 は、範囲 (range) が 1.5060-1.5097 の範囲に集中し、平均値が 1.5082 であった (図 1)。

これらの火山ガラスは、火山ガラスの屈折率から、いずれも喜界アカホヤテフラ (K-Ah) と同定された。ただし、いずれも火山ガラスが少なく、単純に降灰層準を指標するとは限らない。

以下に、町田・新井 (2003) にまとめられている始良 Tn テフラ (AT) の特徴について記述する。

#### 【始良 Tn テフラ (AT)】

始良 Tn テフラ (AT) は、南九州始良カルデラを噴出源とし、約 2.6 ~ 2.9 万年前に噴出した降下軽石、巨大火砕流堆積物とその降下火山灰をさす。一連の噴火は、まず大規模なプリニアン噴火にはじまり、多量の大隅降下軽石をもたらした。つづいて水蒸気マグマ噴火による火砕流、妻屋火砕流堆積物が噴出し、わずかな時間間隙において破局的噴火により入戸火砕流堆積物と呼ばれる膨大なテフラが噴出した。始良 Tn 火山灰は、主にこの火砕流の上部を占めていた多量の火山灰が風に送られて広大な範囲に降下堆積したものである。

このテフラは、日本列島をすっぽりおおい、日本海全域、朝鮮半島、東シナ海、太平洋四国海盆を広くおっている。分布面積は  $4 \times 106 \text{ km}^2$  以上で、1,400km の遠方でも認められる。

また、このテフラは、輝石流紋岩質の火山ガラスに富むテフラで、部層にかかわらずきわめて均質である。火山ガラスは A-Os (大隅降下軽石) の場合、ほとんど軽石型であるが、他の部層はいずれも透明なパブル型が主体をなす。火山ガラスの屈折率は  $n=1.498-1.501$  (最頻値 1.499-1.500) で、きわめて狭い範囲を占め、均質な巨大マグマが一気に噴出したことを暗示する。

このテフラの噴出年代は、2.6 ~ 2.9 万年前とされている。

#### 【喜界アカホヤテフラ (K-Ah)】

喜界アカホヤテフラは、南九州喜界カルデラから約 7,300 年前に噴出した降下軽石、火砕流堆積物とその降下火山灰をさす。このテフラは、輝石デイサイト質のガラス質テフラで、部層により大差なくほぼ均質である。パブル型の多い火山ガラスは、始良 Tn テフラ (AT) のそれに比べると、薄手で淡褐色を帯びるものがあり、屈折率もかなり高く、広いレンジをもつ ( $n=1.508-1.516$ )。もともと、完全には水合していないガラスの継目などガラスの厚い部分の屈折率は低く、1,500 前後のまでもある。南九州では多数の遺跡で K-Ah の上下から縄文土器が発見され (新東, 1978)、また中九州の熊本県や大分県でも文化層との関係が観察されつつある。それによると、K-Ah の上位と下位の火山灰土から出土する土器は、型式を異にするようである。下位から出土する土器は壱の神、吉田、前平、石坂などの諸型式の土器で、上位から出土するもののうち、最も古い土器は轟式および曾畑式である。新東 (1978) は前者の土器群は縄文早期に入るもので、後者のそれは縄文前期に入るものとし、K-Ah を両期の境界にあると考えた。

#### 4. おわりに

テフラ分析を行った結果、川津昭和遺跡の試料（分析 No.1, No.2）は、いずれも始良 Tn テフラ（AT）と同定された。また、川津六反地遺跡の試料（分析 No.3, No.4）は、いずれも喜界アカホヤテフラ（K-Ah）と同定された。ただし、いずれも火山ガラスが少なく降灰層準を指標するとは限らないと考えられる。

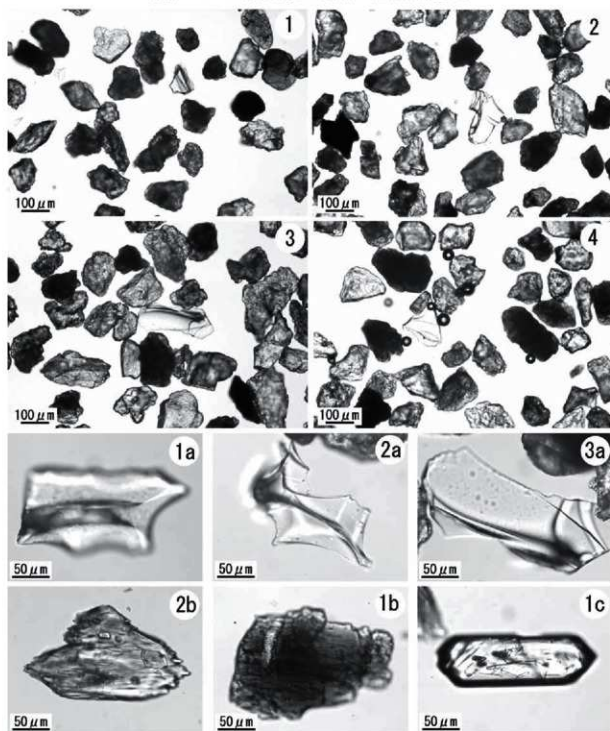
#### （引用文献）

町田 洋・新井 房夫（2003）新編 火山灰アトラス、336p. 東京大学出版会。

新東晃一（1978）南九州の火山灰と土器形式。どるめん、19、40-54。

横山卓雄・檀原 徹・山下 透（1986）温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定。第四紀研究、25、21-30。

図版1 テフラ分析を行った試料中の粒子顕微鏡写真



1. 分析 No.1(川津昭和遺跡)の軽鉱物 2. 分析 No.2(川津昭和遺跡)の軽鉱物  
 3. 分析 No.3(川津六反地遺跡)の軽鉱物 4. 分析 No.4(川津六反地遺跡)の軽鉱物  
 1a. バブル型 Y 字状ガラス (No.1) 2a. バブル型 Y 字状ガラス (No.2)  
 3a. バブル型 Y 字状ガラス (No.3) 2b. 単斜輝石 (No.2) 1b. 角閃石 (No.1) 1c. ジルコン (No.1)

## 2. 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭煇・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林絨一  
Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

### 1. はじめに

川津六反地遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

### 2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。

試料は、IV 区東壁深掘トレンチの 5g 層から採取された生の木材 3 点である (PLD-22663 ~ 22665)。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS:NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

表 1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-22663	調査区: IV 区 位置: 東壁深掘トレンチ 層位: 5g 層	種類: 木材 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-22664	調査区: IV 区 位置: 東壁深掘トレンチ 層位: 5g 層	種類: 木材 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-22665	調査区: IV 区 位置: 東壁深掘トレンチ 層位: 5g 層	種類: 木材 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)

### 3. 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年代に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代を、図 1 に暦年代較正結果をそれぞれ示す。暦年代較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年代較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年代較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年代較正の詳細は以下のとおりである。

暦年代較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期 5730  $\pm$  40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年代較正には OxCal4.1 (較正曲線データ: IntCal09) を使用した。なお、 $1\sigma$  暦年代範囲

は、OxCalの確率法を使用して算出された14C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は14C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年代校正曲線を示す。

表2 放射性炭素年代測定および暦年代校正の結果

測定番号	δ <sup>13</sup> C (‰)	暦年代正用年代 (yrBP ± 1σ)	<sup>14</sup> C年代 (yrBP ± 1σ)	<sup>14</sup> C年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-22663	-27.73 ± 0.13	10320 ± 32	10320 ± 30	10422BC( 3.8%) 10354BC( 0.9%) 10265BC( 7.4%) 10204BC(6.1%)	10431BC( 7.8%) 10386BC 10378BC(10.2%) 10275BC(7.4%)
PLD-22664	-27.61 ± 0.13	10747 ± 34	10745 ± 35	10729BC(68.2%)	10792BC(95.4%)
PLD-22665	-29.39 ± 0.17	11349 ± 35	11350 ± 35	11333BC(68.2%)	11375BC(95.4%)

#### 4. 考察

以下、小林(2008)、小林編(2008)、工藤(2012)などを参照し、年代測定結果と縄文土器編年との対応関係を整理する。

PLD-22663の材は、<sup>14</sup>C年代が10320 ± 30 <sup>14</sup>C BP、2σ暦年代範囲(確率95.4%)が10431 ~ 10044 cal BC (12380 ~ 11993 cal BP)で、おおむね縄文時代草創期の多縄文系土器群の時期に相当する。

PLD-22664の材は、<sup>14</sup>C年代が10745 ± 35 <sup>14</sup>C BP、2σ暦年代範囲が10792 ~ 10617 cal BC (12741 ~ 12566 cal BP)で、おおむね縄文時代草創期の爪形文系土器群から多縄文系土器群の時期に相当する。

PLD-22665の材は、<sup>14</sup>C年代が11350 ± 35 <sup>14</sup>C BP、2σ暦年代範囲が11375 ~ 11176 cal BC (13324 ~ 13125 cal BP)で、おおむね縄文時代草創期の爪形文系土器群から多縄文系土器群の時期に相当する。

#### (参考文献)

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代. 小杉康・谷口康清・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学2 歴史のものさし」: 257-269. 同成社.
- 小林達雄編 (2008) 総覧縄文土器. 132p. アム・プロモーション.
- 工藤雄一郎 (2012) 旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射性炭素年代測定と考古学—. 373p. 神楽社.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」: 3-20. 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, E.C., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.

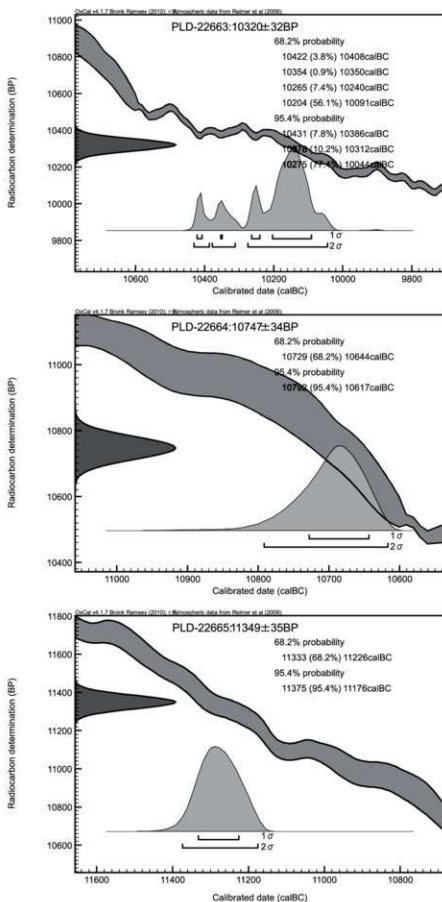


圖 1 曆年校正結果



### 3. 川津昭和遺跡・川津六反地遺跡の花粉分析、プラント・オパール分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

香川県丸亀平野北東隅、大東川下流右岸部では、川津昭和遺跡と川津六反地遺跡が隣接している。両遺跡では、平成12年度に花粉分析や放射性炭素年代測定等が行われており、縄文時代晩期にイネ属が産出するという結果や、堆積物の一部が縄文時代草創期の年代を示すという結果が得られている。今回は、平成12年度に行われた分析の結果を補強する目的で、新たに花粉分析とプラント・オパール分析を行った。以下では、花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、試料の堆積時期や遺跡周辺の古環境、イネについての検討を行った。

#### 2. 試料と方法

分析試料は、川津昭和遺跡から採取された2点と、川津六反地遺跡から採取された9点の、計11試料である。分析試料一覧を表1に示す。なお、川津六反地遺跡のIV区東壁の堆積時期については、放射性炭素年代測定の結果や、後述する花粉分析の結果から、縄文時代早期より前とした。

表1 分析試料一覧表

遺跡名	調査区	遺構	層位	時期	土質	花粉分析	プラント・オパール分析
川津昭和遺跡		SD301		弥生時代中期後半	灰黄褐色粗砂質土	○	○
		SD302	12層	11世紀後半	褐灰色粘土	○	○
川津六反地遺跡	IV区	SK407	6層	弥生時代中期後半?	黒色粘土	○	
			5g層		黄色混灰白色粘質土	○	○
			3d層		褐灰色粘土	○	○
			3h層		灰オリーブ色粘土	○	○
	IV区	東壁	3c層	縄文時代早期より前	明黄褐色粘土	○	○
			3f層		黒褐色粘土	○	○
			3g層		褐灰色粘土	○	○
			3i層		黒褐色粘土	○	○
			5o層		灰色粘土	○	

#### 2.1. 花粉分析

花粉分析に用いた試料は、11点である(表1)。これらの試料を用い、以下の手順にしたがって花粉分析を行った。

試料(湿重量約3~4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混液を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。各プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。プレパラート数枚を検鏡しても樹木花粉が200に満たなかった試料については、プレパラート1枚の全面を検鏡するととめた。また、保存状態の良い花粉化石を選んで単体標本(PLC.804~811)を作製し、写真を図版1に載せた。

## 2.2. プラント・オパール分析

プラント・オパール分析に用いた試料は、9点である(表1)。これらの試料を用い、以下の手順にしたがってプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトルビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで、写真を図版2に載せた。

## 3. 結果

### 3.1. 花粉分析

検鏡した結果、11試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉28、草本花粉16、形態分類を含むシダ植物胞子3の総計47である。これらの花粉・胞子の一覧表を表2に、分布図を図1に示した。図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。なお、川津六反地遺跡の東壁3d層と3h層については、数枚のプレパラートを検鏡しても、樹木花粉が200個に届かなかったものの、参考データとして、図には示した。さらに、川津昭和遺跡のSD501とSD502、川津六反地遺跡の東壁3e、3f、3g、3j、5o層については、試料に含まれる花粉量が非常に少ないため、図では産出した分類群を\*で表示するにとどめた。

十分な量の花粉化石が産出した試料は、川津六反地遺跡のSK407と東壁5g層で、川津昭和遺跡からは花粉化石がほとんど産出しなかった。川津六反地遺跡のSK407と東壁5g層では、ともにコナラ属コナラ亜属の産出が最も多く、SK407では51%、東壁5g層では68%の産出率を示す。その他では、ツガ属やマツ属複雑管東亜属、コナラ属アカガシ亜属などが両試料から各数%の割合で産出している。SK407では草本花粉の産出が少ない。東壁5g層ではヨモギ属が29%の産出率を示す。その他では、水生植物のコウホネ属(東壁5g層)やミズウラボシ属(東壁3d、3h、3e層)のわずかな産出が見られる。

### 3.2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め(表3)、それらの分布を図2に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、イネとネザサ節型、ササ属型、他のタケ亜科、ヨシ属、シバ属、キビ族、ウシクサ族の8種類の機動細胞珪酸体が確認できた。イネ機動細胞珪酸体は全ての試料で産出しており、900~19,000個である。ネザサ節型機動細胞珪酸体は、川津六反地遺跡の東壁5g層以外の全ての試料から産出しており、65,600~315,200個である。ササ属型機動細胞珪酸体は、川津昭和遺跡のSD501以外の全ての試料から産出しており、3,000~10,400個である。他のタケ亜科機動細胞珪酸体は、川津六反地遺跡の東壁5g層と3d層、3e層以外の試料から産出しており、900~2,000個である。ヨシ属機動細胞珪酸体は全ての試料から産出しており、900~21,700個である。シバ属機動細胞珪酸体は川津六反地遺跡の東壁5g層のみで産出が見られ、900個である。キビ族機動細胞珪酸体とウシクサ族機動細胞珪酸体

はすべての試料から産出しており、それぞれ31,200～106,100個、8,500～130,300個である。

表2 産出花粉一覧

学名	和名	川津湖相		川津六反地															
		IV区		V区東壁															
		SD501	SD502	SK407	5g層	3d層	3h層	3e層	3f層	3g層	3h層	5a層							
樹木																			
<i>Abies</i>	モミ属	-	-	1	2	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Tsuga</i>	ツガ属	-	-	14	6	62	55	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Picea</i>	トウヒ属	-	-	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	-	-	12	5	9	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	-	-	10	2	38	13	-	-	4	7	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	-	-	9	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tanacetaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科・イヌギヤク科・セノキ科	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Salix</i>	ヤナギ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Phloxaryia/Juglans</i>	サワグルミ属・クルミ属	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Carpinus/Ostrya</i>	クマシデ属・アサダ属	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Betula</i>	カバネキ属	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	-	-	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fagus</i>	ブナ属	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	1	-	105	136	24	14	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	-	-	12	9	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Castanea</i>	クリ属	-	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Castanopsis/Pasania</i>	シイノキ属・マナハシイ属	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ulmus-Zelkova</i>	エドヒゲナギ属	-	-	5	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Elaeagnus</i>	ニシキギ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Acer</i>	カエデ属	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aesculus</i>	トネリコ属	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Vitis</i>	ブドウ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Parthenocissus</i>	ツタ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Tilia</i>	シナノキ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Araliaceae	ウコギ科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ligustrum</i>	イボタノキ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Viburnum</i>	ザマズミ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本																			
Gramineae	イネ科	-	1	6	13	8	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Cyperaceae	カヤツリグサ科	-	-	5	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria/Echinocalyx</i>	オウゴンタデ属・ウナギツキタデ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nyctar</i>	コウホネ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ranunculaceae	キンポウゲ科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Brassicaceae	アブラナ科	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Sanguisorba</i>	ワレモコウ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Leguminosae	マメ科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Geranium</i>	フウロソウ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Apiaceae	セリ科	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Labiatae	シソ科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Patrinia</i>	オミナエシ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	-	-	10	98	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Tubuliflorae	キタネ科	-	-	6	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Liguliflorae	タンポポ草科	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シダ植物																			
<i>Ceratopteris</i>	ミズウラボシ属	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
monolate type spore	単条溝胞子	-	-	4	5	7	12	5	1	3	3	11	-	-	-	-	-	-	-
trilate type spore	三条溝胞子	-	-	11	1	12	13	-	-	9	6	-	-	-	-	-	-	-	-
Arboreal pollen	樹木花粉	1	-	207	200	143	102	-	-	11	9	-	-	-	-	-	-	-	-
Nonarboreal pollen	草本花粉	-	1	17	137	17	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Spores	シダ植物胞子	-	-	15	6	20	26	6	1	12	9	11	-	-	-	-	-	-	-
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	-	1	239	343	180	136	6	1	23	18	12	-	-	-	-	-	-	-
Unknown pollen	不明花粉	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表3 試料1g当りのプラント・オパール個数

	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のササ科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ属 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)
川津昭和遺跡	SD501	3800	66,300	0	1,900	1,900	0	31,200
	SD502	19,000	169,700	5,000	1,000	3,000	0	96,800
川津六反地遺跡	5g層	900	0	10,400	0	21,700	900	40,600
	3d層	8,900	65,600	8,000	0	2,000	0	62,600
	3b層	1,900	89,600	3,700	900	900	0	43,800
	3c層	6,600	137,100	4,700	0	5,700	0	80,300
	3e層	10,100	315,200	3,000	2,000	7,100	0	106,100
	3f層	6,100	184,300	4,100	1,000	3,000	0	57,700
	3g層	11,900	298,700	6,000	2,000	1,000	0	78,700

## 4. 試料の堆積時期について

川津六反地遺跡のIV区東壁5g層の花粉分析結果では、コナラ属コナラ亜属が優占する花粉組成であった(図1)。一方、川津六反地遺跡における平成12年度実施の花粉分析では、縄文時代と考えられているIV区ベース泥炭層でコナラ属アカガシ亜属が優占する結果が得られている。また、高松市の居石遺跡においても、縄文時代晩期～古墳時代前期と考えられる堆積物の下部にコナラ属コナラ亜属が優占する層準がわずかに見られるものの、縄文時代晩期～古代ではコナラ属アカガシ亜属が優占する時期が続いている(鈴木, 1995)。コナラ属アカガシ亜属が優占し始める時期は、香川県綾歌郡綾川町で採取されたボーリングコア(松居ほか, 2012)の分析結果によれば、10740-11180 cal BPの直前からであり、瀬戸内地域の頭島で採取されたボーリングコア(Fujiki et al.1998)ではアカホヤ火山灰降下あたりで、いずれも縄文時代早期である。また、両コアともコナラ属アカガシ亜属が優占する以前は、コナラ属コナラ亜属が優占している。これらの花粉分析結果に照らし合せると、今回の川津六反地遺跡のIV区東壁5g層の花粉組成は、コナラ属コナラ亜属が優占し、コナラ属アカガシ亜属の産出が少ないという点で、縄文時代早期よりも前の時期の植生を反映している可能性が考えられる。IV区東壁5g層で採取された自然木3点の放射性炭素年代測定の結果は、いずれも縄文時代草創期の時期を示しており(放射性炭素年代測定の項参照)、花粉分析結果と整合的である。

弥生時代中期後半?とされている川津六反地遺跡のIV区SK407の花粉組成も、IV区東壁5g層と同じくコナラ属コナラ亜属を主体としており(図1)、この試料についても、縄文時代早期より前の堆積物である可能性を考慮する必要があると思われる。

## 5. 遺跡周辺の古環境について

川津六反地遺跡では、プラント・オパール分析の結果を見ると、IV区東壁の下位層でネザサ節型機動細胞珪酸体の産出が目立っている(図2)。よって、縄文時代早期より前の一時期には、ネザサ節型のササ類が遺跡周辺に分布を広げていたと思われる。ネザサ節型のササ類は日の当たる明るい場所に生育するため、この時期には遺跡周辺に明るい場所が多かったと思われる。ネザサ節型機動細胞珪酸体は上位層に向かって減少傾向にあり、時期を経るに従って明るい開けた場所が減少し、遺跡周辺のネザサ節型のササ類は分布を狭めていったと考えられる。

ネザサ節型機動細胞珪酸体の産出傾向とやや同調している分類群に、ウシクサ族がある。ウシクサ族にはススキやチガヤなど乾燥の環境に生育する種と、オギなど湿地的環境に生育する種が含まれるが、明るい開けた場所に生育するネザサ節型機動細胞珪酸体と同じく上位層に向かって減少している点を考

慮すると、スキヤチガヤなどの乾燥的環境に生育する種が存在していた可能性がある。

また、川津六反地遺跡のⅣ区東壁では、キビ族機動細胞珪酸体の産出も多い。キビ族には栽培種と野生種が含まれるが、機動細胞珪酸体の形態で両者を区別するのは難しい。キビ族機動細胞珪酸体は今回分析した試料の全てから産出しているため、栽培種か野生種かは不明であるものの、縄文時代早期より前には、遺跡周辺にキビ族が生育していたと思われる。

さらに、Ⅳ区東壁では湿地的環境に生育するヨシ属の継続した産出が見られるため、遺跡周辺に湿地的環境が継続して存在していたと考えられる。花粉分析においても水生植物のコウホネ属（川津六反地遺跡Ⅳ区東壁 5g 層）やミズワラビ属（川津六反地遺跡Ⅳ区東壁 3d、3h、3e 層）が産出しており（図 1）、遺跡周辺における湿地的環境の存在を示唆している。特に、Ⅳ区東壁 5g 層ではヨシ属の産出が多くなるので、Ⅳ区東壁 5g 層の時期には、ネザサ節型のササ類が生育できるような明るい場所にかわって、湿地的環境の場所が遺跡周辺に分布を拡大していた可能性がある。

ここで、花粉化石の保存状態について検討してみたい。花粉は一般的に乾燥に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会が多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。前述したように、川津六反地遺跡では、ネザサ節型のササ類が生育できるような明るい場所が優勢な時期があったと考えられるため、試料中の花粉化石の保存状態が悪い原因としては、遺跡周辺が乾燥的環境であったために花粉化石が分解、消失してしまった可能性が考えられる。現に、花粉分析とプラント・オパール分析の産出傾向を見ると、ネザサ節型機動細胞珪酸体が減少するにつれて、花粉化石が産出するようになっており、ネザサ節型機動細胞珪酸体がほとんど産出しないⅣ区東壁 5g 層においては、十分量の花粉化石が産出している。このように、花粉化石の保存状態には堆積当時の環境が影響していると考えられる。

川津昭和遺跡では、プラント・オパール分析の結果、SD501 と SD502 の両方において、川津六反地遺跡とほぼ同様な結果を示している（図 2）。すなわち、ネザサ節型とキビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体の産出が目立つため、溝周辺にはこれらの分類群が分布を広げていたと思われる。また、ヨシ属の産出も見られ、溝周辺の一部には湿地的環境も存在していたであろう。しかしながら、ネザサ節型機動細胞珪酸体の産出が多く、遺跡周辺では乾燥的環境が優勢であったと推測され、花粉化石はほとんど産出していない。

## 6. イネについて

平成 12 年度に行われた川津六反地遺跡の花粉分析では、縄文時代晩期からイネ属花粉が検出されており、縄文時代における稲作の検証については各種分析も併用し、発掘調査成果との総合的な解析・検討が必要と述べられている。今回はイネをより詳細に区別できるプラント・オパール分析を行い、全ての試料からイネ機動細胞珪酸体を検出できた。ここで注目すべきは川津六反地遺跡のⅣ区東壁から産出したイネ機動細胞珪酸体である。前述のように、川津六反地遺跡のⅣ区東壁の堆積物は縄文時代早期より前に堆積した可能性があるため、イネ機動細胞珪酸体がⅣ区東壁堆積時に取り込まれたとすれば、縄文時代早期より前にイネが存在していたことになる。しかしながら、縄文時代におけるイネ機動細胞珪酸体の従来の産出例と比べ、期的にも非常にかけ離れているので、今回のイネ機動細胞珪酸体の産出については、攪乱や上層からの落ち込みなど、堆積状況の慎重な検討が必要であろう。

(引用文献)

Fujiki, T., Morita, Y. and Miyoshi, N. (1998) Vegetational history of the area around Kashira Island in the Inland Sea, Okayama Prefecture, western Japan. *Quarterly Journal of Geography*, 50, 189-200.

松居俊典・石塚正秀・北松昌彦 (2012) 香川県綾川町ボーリングの花粉分析による最終氷期以降の古植生。第四紀研究, 51, p35-43.

鈴木 茂 (1995) 居石遺跡の花粉化石。高松市教育委員会編「居石遺跡」: 173-191, 高松市教育委員会・建設省四国地方建設局。

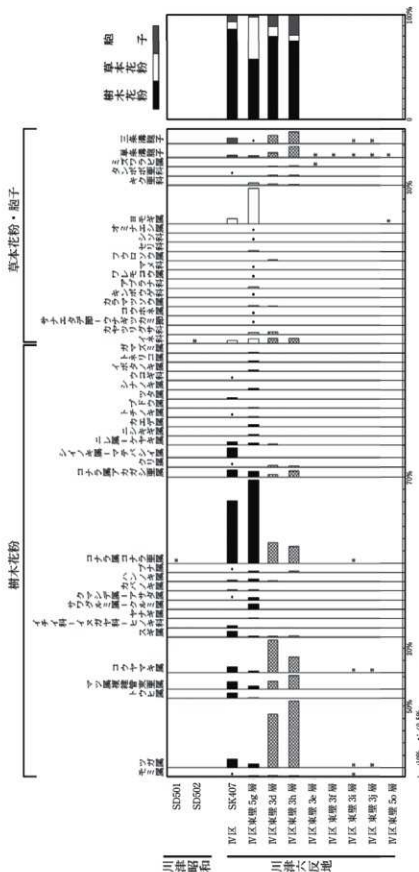


図1 川津昭和遺跡・川津六反地遺跡における花粉分布図

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は抽出花粉胞子総数を基盤として百分率で算出した。

\*は樹木花粉100個未満の試料について、抽出した分類群を示す。

■は樹木花粉100個以上、200個未満の試料について、抽出した分類群を示す。

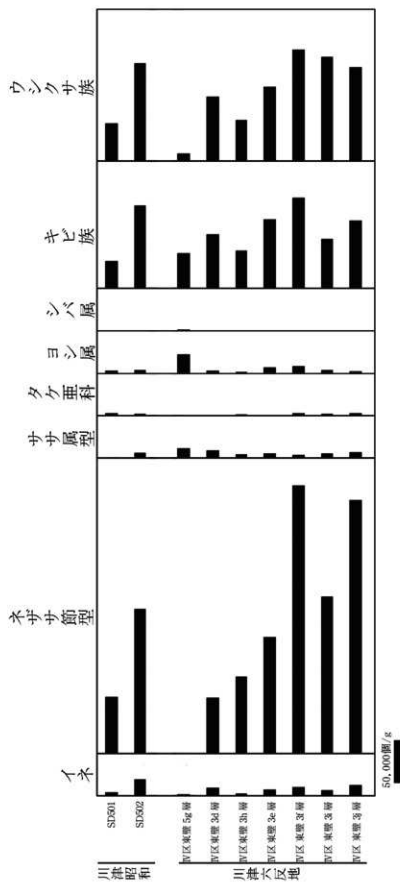
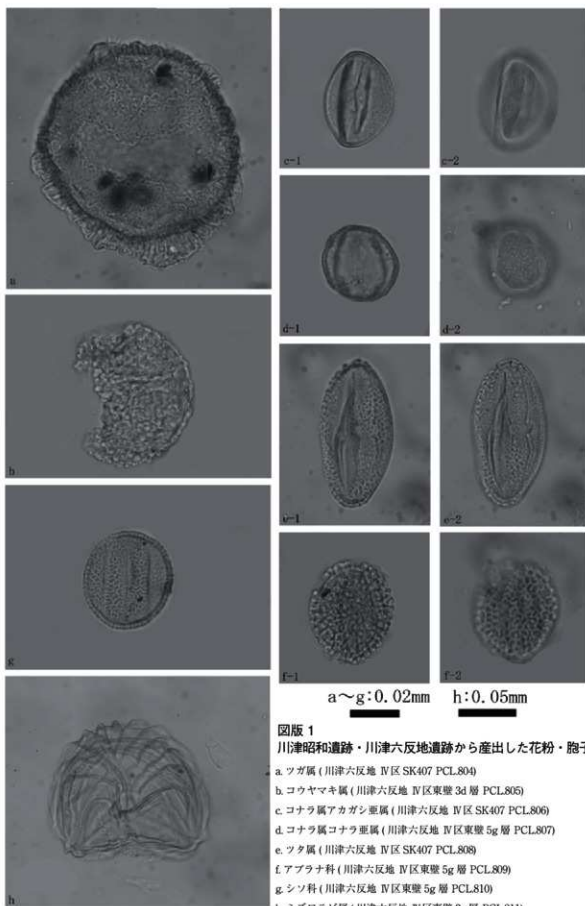
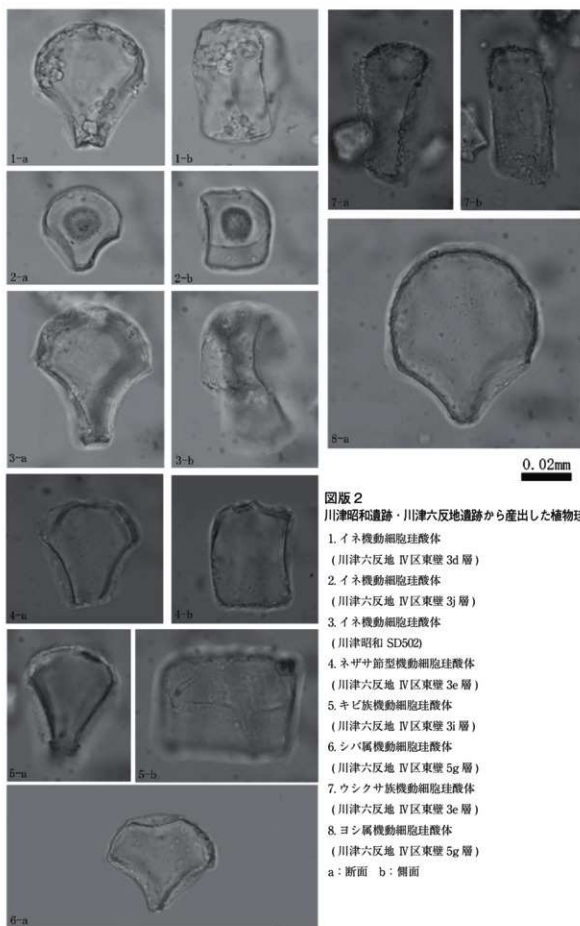


図2 川津昭和遺跡・川津六反地遺跡における植物珪酸体分布図







図版 2

川津昭和遺跡・川津六反地遺跡から産出した植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体  
(川津六反地 IV区東壁 3d層)
  2. イネ機動細胞珪酸体  
(川津六反地 IV区東壁 3f層)
  3. イネ機動細胞珪酸体  
(川津昭和 SD502)
  4. ネザサ節型機動細胞珪酸体  
(川津六反地 IV区東壁 3e層)
  5. キビ族機動細胞珪酸体  
(川津六反地 IV区東壁 3f層)
  6. シノ属機動細胞珪酸体  
(川津六反地 IV区東壁 5g層)
  7. ウシクサ族機動細胞珪酸体  
(川津六反地 IV区東壁 3e層)
  8. ヨシ属機動細胞珪酸体  
(川津六反地 IV区東壁 5g層)
- a: 断面 b: 側面

#### 4. 川津六反地遺跡出土サヌカイト製遺物の産地分析

有限会社 遺物材料研究所

##### 1. はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行なっている<sup>1, 2, 3)</sup>。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千キロメートルは一般的で、6キロメートルを推測する学者もでてきている。このような研究結果が出てきている現在、正確に産地を判定と言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成のサヌカイト・黒曜石など石器原材が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。ノーベル賞を受賞された益川敏英博士の言を借りれば、科学とは、仮説をたて正しいか否かあらゆる可能性を否定することにある。即ち十分条件の証明が非常に重要であると言ひ換えられる。「遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されているとはじめて言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される」。金山の金山東地区産サヌカイト石材の伝播は旧石器時代～弥生時代で、時代により異なるが、中・西国地方を中心に近畿、東海、北陸、九州地方に伝播している。金山は金山サヌカイトで埋め尽くされていると言っても過言ではなく。金山にはゴローと呼ばれる風化したサヌカイト割れ片の密集地区が見られ、崖錐堆積地区とか先史人の原石採取一次加工址など推測されてきた。現在までに金山東地点採取の原石で金山東群が、また金山西地点採取の原石で金山西群に成分組成によって分類できることを証明してきた。

研究目的は、金山の何処の地点のサヌカイトが西日本各地に伝播したのかを明らかにすることにある。金山の原石採取地点の各原石の元素組成の特徴を反映させる方法とし、一つの遺物を分析したとき、同時に何個の何処の原石・遺物群に同定されるか産地組み合わせを系統的に求めて、遺物と同じ組成の原石であれば、同じ組み合わせ結果を示す。この原石の産出地点が遺物の原石産地と判定する。この組み合わせによる遺物伝播出発地判定法は全く新しい考え方による方法である。

##### 2. 産地分析の方法

考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの入手が加わった調査素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。しかし、石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなど主観的要素が入った事象を十分条件の代用にする産地分析は中途半端なものとなり、結果とし

て遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、偶然（産地分析法が不完全なために）に一致した可能性も大きくB、C、D・・・の産地でないと証拠がないために、A産地だと言い切れない。そこで、考えられるのは、可能な限り地球上の全ての原産地（A、B、C、D・・・）の原石群と遺物を比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを証明すればそれが十分条件となり、石器がA産地の原石と判定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは各々の観察者で分類基準が異なるため混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なり、実際におこなってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかに左右され、比較した産地が少なければ信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分の元素組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量元素の元素組成には違いがあると考えられるため、微量元素を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点が異なる可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ元素組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析した遺物は香川県坂出市川津町六反地に位置する川津六反地遺跡出土のサヌカイト製遺物で産地分析の結果が得られたので報告する。

### 3. サヌカイト、ガラス質安山岩原石の分析

日本各地の調査した安山岩（サヌカイト、サヌキトイド）の産地同定を求める指標として、従来か使用しているK/Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Srの値を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、主に西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題にのぼる産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて50ヶ所の調査を終えている。図1にサヌカイトの原産地の地点を示す。これらの原石を良質の原石を産出する産地および原産地不明の遺物を元素組成で分類すると246個の原石群に分類でき、その結果を表1に示した。安山岩の原石産地の一部を簡単に記すると、香川県の坂出市、高松市に位置する金山・五色台地域では、多数の地点から良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる（図2）。丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材であり普通寺市の大麻山南からも産出している。香川県内の石器原材の産地である金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、金山南群、金山南露頭群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の10個の群に分かれ、これらの地域外の産地では城山群および双子山群に分かれた。これら金山・

五色台地区の原石群は相互に似たものが多く、これらを明確に区別するために、新たに、新元素比のCa/Si、Ca/K、Ti/K、Rb/Fe、Fe/Zr、Sr/Zr、Sr/Zr、Si/Feから区別しようとする原石群同士が最も明確に区別できる組み合わせを選んでホテリングのT2乗検定により弁別した。また、ガラス質安山岩は金山奥池、雄山、神谷町南山地区で採取され、さらに大麻山南産は大麻山南第一、二群の2群にそれぞれ分類されて区別が可能なことを明らかにした。また、金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にはほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される(表2)。さらに大阪府和泉・岸和田産地の礫層(表3)にも見られる。また和歌山県梅原産地礫層(表4)からもサヌカイト円礫が採取される。長い年月の間にこれらが金山・五色台地域から流れ着いたのではないと思われる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からもサヌカイト原石が採取される。一遺跡10個以上の遺物を分析し、表3のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、岩屋産地、和泉・岸和田産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。

#### 4. 結果と考察

遺跡から出土したサヌカイト製石器、石片は、風化のため表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方黒曜石製遺物は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析において水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、実際には影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比の値を除いて産地分析を行なった場合と除かず産地分析を行った場合で同定される原産地に差はない。他の元素比の値についても風化の影響を完全に否定することができるので、得られた確率の数値にはや、不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

分析した遺物の分析結果を表5に示した。遺物の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためK/Caの一変量だけを考え、分析番号119735番の遺物はTi/Caの値が0.228で、金山東群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 $0.227 \pm 0.006$ であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値( $\sigma$ )を基準にして考えると遺物は原石群から $0.16\sigma$ 離れている。ところで金山東群の産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.16\sigma$ のずれより大きいものが87ヶある。すなわち、この遺物が、金山群の原石から作られていたと仮定しても、 $0.16\sigma$ 以上離れる確率は87%であると言える。だから、金山東群の平均値から $0.16\sigma$ しか離れていないときには、この遺物が金山東群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を白峰群と比較すると、白峰群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 $0.262 \pm 0.005$ であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値( $\sigma$ )を基準にして考えると遺物は原石群から $7\sigma$ 離れている。これを確率の言葉で表現すると、白峰群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から $7\sigma$ 以上離れている確率は、約一千万分の一であると言える。このように、一千万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、白峰群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は金山東群に87%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから金山東産地の原石が使用されていると同定され、さらに白峰群に対しては0.00008%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから白峰産原石

でないと同定される。遺物が金山東群と一致したからと言っても、他の産地に一致しないとは言えない。また、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（金山東群）に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の246個すべての原石群について行ない、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて金山東産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はK/Caといった唯一ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群では、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、仮にA群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しづれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT<sup>2</sup>乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する4、5)。産地の同定結果は1個の遺物に対して、サスカイト製のものは246個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上「記入」を省略しているだけであり、実際には246個の群全てについて計算しているため、省略産地の可能性が非常に低いことを確認したという重要な意味を含んでいる。すなわち、金山東産原石と判定された遺物について、白峰産原石とか佐賀県多久産、香川県城山、北海道旭山の原石の可能性を考える必要がない結果で、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表6に記入した。原石群を作った原石試料は直径2cm以上で精度良く分析される。遺物は、大きさ、形がさまざままで、これらの影響により分析値が少しは変化していることを推測し、判定の信頼限界を0.1%に設定した。ここで大切なことは、遺物材料研究所で行った結果で、金山東群と判定された遺物を使って、先史時代の交流を遺物石材から考察するときには、表1に記入した246個の中の金山諸群以外の原石産地および金山東産原石を使用していない遺跡と交流がなかったと言うことを証明している点である。金山産地から近い位置の遺跡では先史人は金山産地に近い範囲のみでしか交流がなかったと仮定して、遺物と比較する産地を金山・五色台など主な産地だけで十分であると考え、遺物の原材産地を求め、金山産原石が使用されているとの結果は、先史時代の交易を一部の範囲に限定することである（広い地域の範囲の安山岩と比較していないから、広い範囲との交流は言えない、即ち日本の限定的地域にのみ有効で、石器の様式が共通する広い地域では通用しない結果である）。考古学者の主観的な石器の様式分類が狭い範囲に限定されていたとしても、分析された石器がもつ自然科学的結果が何処までの範囲に通用するかが、考古学の交易を考える上に非常に重要で、自分の主観的考察が満足できれば良いとの狭い見では真の考古学的研究とは言えない。他の広い交易範囲を考えている考古学者にも通用する産地分析結果が必要である。論外は、一致法と称して、金山産原石と遺物石材の組成が一致すれば他の産地の石材と一致しないと考えることで、一致しないと評価するには実際に比較し確認するしかない。比較して確認した判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するとき、低確率の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

本研究で調査した金山の遺物散布地点より採取した原石の元素組成の特徴を反映させる方法とし一つの遺物を分析したとき、同時に何箇所かの原石・遺物群に同定されるか産地組み合わせ系統的に求めて

遺物の特徴とし、各原石産出地点の中で、遺物と同じ組み合わせの結果を示す地点の原石が使用されていると判定する。組み合わせ産地として、以下に組み合わせに用いる原石群を示す。

- 1：金山東群は東麓の東1地点の転礫でつくる。東2地点の転礫と同じ組成で、金山東南群と共に同定されることが多い。
- 2：金山西群は西麓の転礫でつくる。
- 3：金山東南群は、金山南地区を代表する原石群として本研究で作った群で金山東、金山西群に低い確率で同定された原石で作る。従って同時に、金山東、金山西群などと同定される。
- 4：金山南群は金山南1地点の7層（基盤層）の非加工原石の中の金山露頭群・西群に低い確率で同定される原石で作る。同時に金山西群と同定される場合が多い。
- 5：金山南露頭（3図5）より採取した原石で金山露頭群を作った。金山西群と高確率で一致する原石が多い。
- 6：金山北群は金山北1地点2層の非加工原石の中で金山東、金山東南群に低い確率で同定される原石で作ったため、同時に金山東、金山東南群と同時に同定される場合が多い。
- 6：城山群は城山産原石から作った原石群で、金山西と酷似した組成を示す。
- 7：松ノ木遺物群は高知県・松ノ木遺跡で使用されているサスカイトで、同じ組成のサスカイトは島根県の遺跡で確認されている。

以上各地点を代表する原石群を作り、これら原石群が伝播した遺跡でどの様な組み合わせで同定されるかを定量的にホテリングのT2乗検定を行いその結果から、金山サスカイト産地の調査した何処の地点から採取した原石が分析した遺跡に伝播しているか推測し表6に示した。産地同定の結果、金山東1地点（3図東1）、金山東2地点（3図東2）金山東南地点（3図◎）、金山南1地点（3図南1）、金山西（3図■）で採取された原石が表6に示す川津六反地遺跡に伝播していたことが推測された。また、城山、国分寺、蓮光寺地域のサスカイトの使用も確認されている。分析番号119735番の遺物は風化が激しく、エアブラシで風化面が完全に除去されなかった可能性があり、一部の元素比値は、金山東に高確率で一致するが、相関を考慮した8元素比での同定では原石産地地点は特定できなかった。分析番号119728、119734番の遺物は中国山地の冠山地の飯山・針山地区産原石が使用されている。香川県の遺跡で飯山産原石使用ナイフ型石器が櫃島遺跡から出土している。今回の分析結果から、川津六反地遺跡が中国山地の生活情報を入手し、また川津六反地遺跡の生活情報が中国山地、飯山産地地域に伝播した可能性を推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

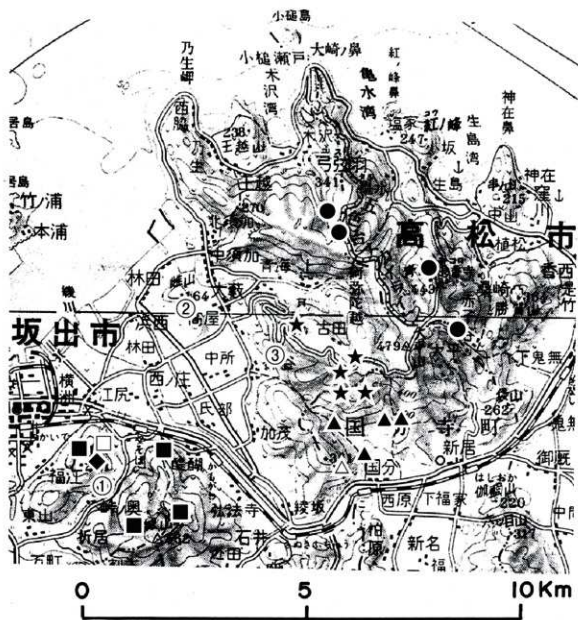
（参考文献）

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975)、蛍光X線分析法によるサスカイト石器の原産地推定(Ⅱ)、考古学と自然科学、861-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977)(1978)、蛍光X線分析法によるサスカイト石器の原産地推定(Ⅲ)、(Ⅳ)、考古学と自然科学、10,1153-81.33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983)、石器原材料の産地分析、考古学と自然科学、16.59-89
- 4) 東村武信(1976)、産地推定における統計的手法、考古学と自然科学、977-90
- 5) 東村武信(1980)、考古学と物理化学、学生社

図1 サヌカイトおよびサヌカイト様岩石の産産地

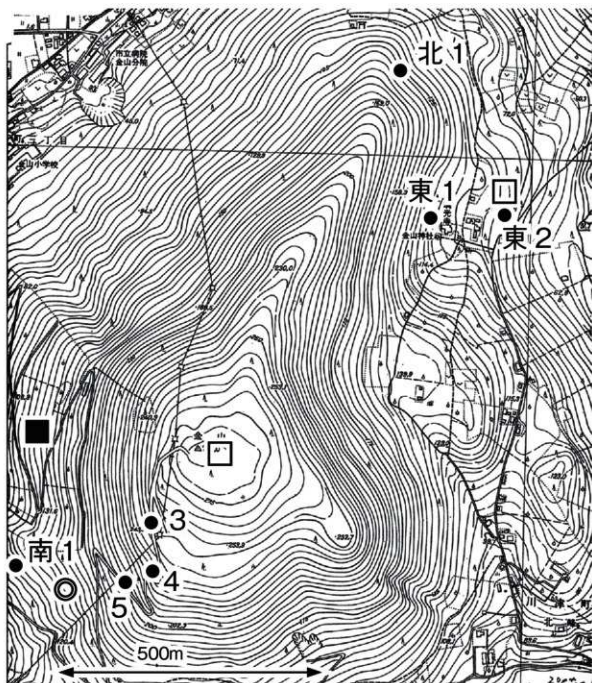






- ：法印谷群    ★：白峰群    ▲：国分寺群    ◆：金山東南群    黒曜石様ガラス質安山岩(①②③)
- △：蓮光寺群    ■：城山、金山西群    □：金山東群    ①：奥池群    ②：雄山    ③：南山群

図2 金山・五色台地域サマカイト、黒曜石様ガラス質安山岩の原産地



□：金山東群 ■：金山西群 ○：金山東南群

圖3 金山產地

表 1-1. 各サヌカイト(安山岩)の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原産地名	原産地名	分析番号	元素比																			
			K <sub>2</sub> O/SiO <sub>2</sub>	CaO/SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> /SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub> /SiO <sub>2</sub>	MnO/SiO <sub>2</sub>	FeO/SiO <sub>2</sub>	Y <sub>2</sub> O <sub>3</sub> /SiO <sub>2</sub>	ZrO <sub>2</sub> /SiO <sub>2</sub>	Nb <sub>2</sub> O <sub>5</sub> /SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> /CaO	SiO <sub>2</sub> /CaO									
北海道	無知山頂部	43	0.343	0.012	0.435	0.010	0.062	0.002	0.012	0.099	0.165	0.011	0.115	0.006	0.888	0.018	0.022	0.009	0.021	0.001	0.177	0.005
	無知山頂部	80	0.278	0.011	0.288	0.010	0.069	0.003	0.044	0.140	0.174	0.011	0.096	0.009	0.783	0.029	0.015	0.002	0.018	0.000	0.141	0.005
	台場A	48	0.371	0.010	0.323	0.009	0.086	0.009	0.049	0.441	0.433	0.023	0.095	0.010	0.788	0.032	0.012	0.006	0.018	0.002	0.149	0.005
	台場B	82	0.341	0.014	0.295	0.017	0.085	0.011	0.047	0.310	0.177	0.014	0.132	0.015	0.859	0.041	0.021	0.010	0.021	0.002	0.169	0.008
	台場C	50	0.238	0.016	0.333	0.008	0.116	0.012	0.040	0.333	0.160	0.016	0.135	0.015	0.856	0.056	0.018	0.012	0.018	0.002	0.150	0.009
	台場D	49	0.230	0.008	0.466	0.011	0.119	0.012	0.066	0.217	0.131	0.012	0.140	0.012	0.894	0.042	0.012	0.007	0.019	0.000	0.160	0.007
	新ノオノエアソ	43	0.194	0.020	0.309	0.028	0.129	0.014	0.205	0.154	0.080	0.014	0.085	0.014	0.438	0.062	0.009	0.010	0.017	0.000	0.140	0.005
	夏打沢	40	0.192	0.005	0.285	0.009	0.166	0.009	0.126	0.152	0.083	0.004	0.111	0.008	0.483	0.082	0.005	0.007	0.012	0.001	0.102	0.002
	東置山	42	0.137	0.010	0.424	0.006	0.065	0.002	0.049	0.127	0.091	0.004	0.044	0.003	0.533	0.008	0.013	0.006	0.016	0.000	0.110	0.000
	東置山	51	0.141	0.013	0.417	0.010	0.141	0.013	0.048	0.141	0.141	0.013	0.048	0.013	0.512	0.012	0.012	0.002	0.012	0.002	0.110	0.005
長野県	袋井峠	59	0.278	0.010	0.379	0.008	0.045	0.015	0.145	0.088	0.015	0.130	0.016	0.046	0.968	0.027	0.015	0.006	0.029	0.000	0.102	0.005
	法皇寺山	38	0.128	0.029	0.349	0.018	0.033	0.003	0.107	0.060	0.148	0.017	0.028	0.008	0.627	0.026	0.022	0.006	0.022	0.000	0.142	0.002
	橋山	70	0.183	0.007	0.340	0.017	0.153	0.017	0.108	0.286	0.118	0.011	0.157	0.013	0.721	0.030	0.019	0.009	0.012	0.001	0.113	0.005
	八風山	46	0.274	0.028	0.324	0.010	0.090	0.008	0.405	0.045	0.104	0.009	0.100	0.009	0.841	0.033	0.012	0.000	0.018	0.002	0.168	0.014
	下川	93	0.1576	0.055	0.227	0.011	0.038	0.004	0.766	0.025	0.277	0.020	0.033	0.013	0.394	0.024	0.035	0.000	0.052	0.003	0.069	0.003
	豊田	51	0.299	0.007	0.568	0.003	0.032	0.000	0.672	0.000	0.415	0.006	0.083	0.019	0.848	0.026	0.031	0.000	0.020	0.002	0.151	0.005
	三上山	24	0.293	0.005	0.324	0.007	0.093	0.000	0.643	0.026	0.141	0.009	0.107	0.011	0.866	0.037	0.038	0.009	0.021	0.002	0.157	0.006
	奈良峠	46	0.280	0.010	0.297	0.005	0.069	0.002	0.544	0.116	0.197	0.009	0.064	0.005	0.922	0.021	0.012	0.009	0.015	0.001	0.144	0.005
	六工・田尻	44	0.248	0.000	0.196	0.006	0.072	0.002	0.884	0.107	0.205	0.008	0.061	0.007	0.786	0.016	0.069	0.007	0.016	0.001	0.135	0.005
	和泉	26	0.194	0.023	0.325	0.025	0.056	0.004	0.400	0.148	0.296	0.021	0.065	0.010	0.576	0.025	0.038	0.010	0.023	0.001	0.194	0.009
長野県	岩屋・奥山麓部 2	44	0.295	0.003	0.230	0.004	0.045	0.002	0.036	0.084	0.045	0.002	0.078	0.006	0.623	0.009	0.016	0.000	0.016	0.001	0.128	0.002
	岩屋第 1 群	28	0.616	0.021	0.294	0.012	0.057	0.005	0.610	0.189	0.305	0.019	0.056	0.012	0.886	0.026	0.027	0.017	0.018	0.001	0.186	0.007
	岩屋第 2 群	24	0.535	0.020	0.283	0.005	0.053	0.005	0.438	0.103	0.340	0.015	0.042	0.012	0.669	0.030	0.026	0.014	0.017	0.001	0.173	0.008
	岩屋第 3 群	48	0.732	0.032	0.257	0.011	0.065	0.003	0.496	0.103	0.396	0.015	0.088	0.017	1.175	0.055	0.039	0.018	0.009	0.001	0.284	0.011
	中山	22	0.300	0.017	0.154	0.005	0.056	0.007	0.359	0.261	0.139	0.012	0.061	0.033	0.574	0.021	0.012	0.007	0.018	0.001	0.159	0.008
	同分令	44	0.357	0.011	0.251	0.007	0.033	0.003	0.374	0.122	0.311	0.019	0.043	0.006	0.970	0.033	0.038	0.015	0.015	0.001	0.149	0.009
	五	18	0.459	0.012	0.249	0.006	0.033	0.005	0.318	0.129	0.308	0.019	0.043	0.015	0.922	0.057	0.034	0.009	0.016	0.001	0.150	0.004
	色	31	0.334	0.013	0.282	0.005	0.035	0.005	0.376	0.108	0.349	0.014	0.049	0.016	1.071	0.051	0.032	0.011	0.017	0.000	0.172	0.004
	台	51	0.216	0.008	0.251	0.004	0.045	0.002	0.482	0.099	0.265	0.008	0.061	0.005	0.858	0.016	0.029	0.000	0.016	0.001	0.139	0.003
	岩屋第 2 群	25	0.207	0.000	0.239	0.004	0.069	0.005	0.419	0.127	0.277	0.013	0.050	0.010	1.145	0.029	0.031	0.013	0.015	0.001	0.130	0.004
香川県	金田峯	48	0.478	0.014	0.227	0.006	0.076	0.009	0.511	0.139	0.283	0.022	0.083	0.014	1.803	0.046	0.020	0.010	0.025	0.003	0.188	0.006
	金山南麓部	43	0.414	0.011	0.217	0.000	0.078	0.007	0.574	0.132	0.293	0.014	0.073	0.015	1.800	0.040	0.032	0.013	0.023	0.002	0.168	0.006
	金山南麓部	42	0.406	0.011	0.218	0.005	0.078	0.002	0.616	0.102	0.288	0.009	0.072	0.004	1.102	0.033	0.040	0.013	0.023	0.001	0.171	0.005
	金山北	44	0.492	0.013	0.225	0.005	0.075	0.002	0.576	0.072	0.266	0.011	0.079	0.007	1.124	0.023	0.023	0.010	0.022	0.004	0.165	0.002
	金山北	44	0.432	0.014	0.219	0.007	0.076	0.002	0.426	0.077	0.296	0.006	0.08	0.007	1.131	0.021	0.024	0.010	0.026	0.001	0.165	0.005
	城山	63	0.492	0.011	0.219	0.007	0.076	0.003	0.492	0.088	0.296	0.010	0.076	0.010	1.133	0.034	0.026	0.009	0.019	0.005	0.151	0.028
	反子山	54	0.300	0.007	0.233	0.005	0.074	0.006	0.471	0.138	0.289	0.014	0.068	0.016	1.065	0.026	0.021	0.014	0.013	0.001	0.161	0.005
	★高橋第 1 群	51	0.642	0.046	0.127	0.006	0.024	0.006	2.087	0.088	0.492	0.000	0.018	0.018	0.722	0.047	0.045	0.031	0.035	0.001	0.434	0.024
	★高橋第 2 群	50	0.681	0.052	0.133	0.007	0.033	0.007	2.471	0.135	0.391	0.028	0.021	0.017	0.984	0.067	0.038	0.011	0.029	0.003	0.333	0.011



表 1-3 各サヌカイト(安山岩)の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地名(原石群名)	元 素 比													
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca				
山頂部1群	59	0.698 ± 0.030	0.202 ± 0.011	0.667 ± 0.035	4.225 ± 0.181	0.220 ± 0.018	0.076 ± 0.010	0.834 ± 0.048	0.035 ± 0.012	0.012 ± 0.002	0.133 ± 0.008			
山頂部2群	42	0.557 ± 0.031	0.238 ± 0.008	0.073 ± 0.002	3.078 ± 0.182	0.198 ± 0.025	0.043 ± 0.005	0.751 ± 0.059	0.018 ± 0.013	0.023 ± 0.001	0.153 ± 0.011			
塩井部1群	46	0.634 ± 0.019	0.330 ± 0.007	0.087 ± 0.016	7.527 ± 0.256	1.174 ± 0.030	0.381 ± 0.042	1.096 ± 0.047	0.480 ± 0.070	0.023 ± 0.002	0.217 ± 0.007			
塩井部2群	47	0.509 ± 0.016	0.315 ± 0.007	0.078 ± 0.010	7.118 ± 0.234	0.909 ± 0.042	0.299 ± 0.046	0.947 ± 0.054	0.361 ± 0.055	0.020 ± 0.002	0.177 ± 0.007			
阿比努第1群	67	0.382 ± 0.028	0.252 ± 0.023	0.052 ± 0.006	4.106 ± 0.227	0.160 ± 0.018	0.057 ± 0.009	0.434 ± 0.039	0.056 ± 0.011	0.010 ± 0.001	0.107 ± 0.007			
阿比努第2群	56	0.500 ± 0.072	0.393 ± 0.020	0.077 ± 0.009	5.396 ± 0.448	0.330 ± 0.028	0.078 ± 0.015	0.675 ± 0.059	0.096 ± 0.017	0.024 ± 0.006	0.219 ± 0.011			
阿波島	42	0.635 ± 0.072	0.329 ± 0.009	0.071 ± 0.012	5.519 ± 0.425	0.330 ± 0.050	0.076 ± 0.025	0.690 ± 0.055	0.183 ± 0.030	0.025 ± 0.003	0.231 ± 0.025			
阿波島1群	39	1.999 ± 0.212	0.624 ± 0.061	0.067 ± 0.011	1.862 ± 0.268	0.476 ± 0.060	0.126 ± 0.023	1.647 ± 0.181	0.067 ± 0.014	0.067 ± 0.010	0.022 ± 0.006			
阿波島2群	43	1.035 ± 0.171	0.547 ± 0.064	0.056 ± 0.008	2.822 ± 0.410	0.312 ± 0.048	0.088 ± 0.015	1.398 ± 0.160	0.046 ± 0.013	0.036 ± 0.006	0.302 ± 0.038			
阿波島3群	52	0.678 ± 0.039	0.458 ± 0.019	0.069 ± 0.010	4.657 ± 0.194	0.672 ± 0.038	0.072 ± 0.010	0.728 ± 0.040	0.047 ± 0.009	0.039 ± 0.002	0.185 ± 0.013			
阿波島4群	50	0.613 ± 0.037	0.448 ± 0.020	0.043 ± 0.005	3.527 ± 0.109	0.107 ± 0.007	0.072 ± 0.010	0.623 ± 0.021	0.058 ± 0.008	0.039 ± 0.002	0.174 ± 0.011			
阿波島5群	56	1.327 ± 0.021	0.266 ± 0.006	0.038 ± 0.006	2.917 ± 0.074	0.176 ± 0.013	0.183 ± 0.024	0.792 ± 0.023	0.078 ± 0.014	0.036 ± 0.002	0.448 ± 0.011			

麻畑原産地は岡山理科大学白石純氏委員の原産地

平均値 ± 標準偏差値。 \* : 黒曜石縁ガラス質安山岩 (JG-1 granodiorite and JB-1 basalt; Geochemical Journal Vols 175-192. 0) : Ando, A., Kurosawa, H., Ohmori, T. & Takeda, F. (1974) compilation of data on the GS) geochemical reference samples

表 1-4 原石産地の異なるサヌカイト（安山岩）製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差

遺物名	分析項目	元素比											
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	133Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al <sup>3+</sup> /Ca	Si <sup>4+</sup> /Ca		
北海道	洞川遺物群	35	0.352 ± 0.029	0.291 ± 0.021	0.694 ± 0.022	5.776 ± 0.271	0.170 ± 0.013	0.103 ± 0.016	0.874 ± 0.010	0.018 ± 0.011	0.017 ± 0.021	0.156 ± 0.060	
	洞内 No.17 遺物群	48	0.294 ± 0.006	0.316 ± 0.008	0.113 ± 0.016	9.214 ± 0.461	0.138 ± 0.013	0.160 ± 0.013	0.687 ± 0.046	0.022 ± 0.012	0.030 ± 0.021	0.164 ± 0.064	
	北上 2-A. 遺物群	44	0.417 ± 0.011	0.217 ± 0.009	0.694 ± 0.010	6.576 ± 0.488	0.133 ± 0.018	0.188 ± 0.007	1.068 ± 0.255	0.017 ± 0.009	0.029 ± 0.001	0.234 ± 0.066	
	北上 2-B. 遺物群	45	0.245 ± 0.020	0.496 ± 0.014	0.077 ± 0.003	4.181 ± 0.027	0.148 ± 0.010	0.200 ± 0.025	0.637 ± 0.012	0.030 ± 0.010	0.021 ± 0.009	0.126 ± 0.049	
	北上 2-C. 遺物群	44	0.465 ± 0.005	0.472 ± 0.004	0.694 ± 0.002	8.171 ± 0.079	0.143 ± 0.008	0.092 ± 0.008	0.770 ± 0.021	0.015 ± 0.010	0.026 ± 0.001	0.231 ± 0.061	
	北上 2-D. 遺物群	44	0.333 ± 0.009	0.448 ± 0.003	0.683 ± 0.002	5.422 ± 0.063	0.134 ± 0.007	0.110 ± 0.006	0.878 ± 0.013	0.022 ± 0.009	0.018 ± 0.001	0.149 ± 0.065	
	北上 2-E. 遺物群	44	0.238 ± 0.009	0.307 ± 0.006	0.693 ± 0.002	6.133 ± 0.078	0.135 ± 0.006	0.094 ± 0.007	0.777 ± 0.012	0.033 ± 0.008	0.017 ± 0.001	0.135 ± 0.065	
	水上 1 遺物群	50	0.428 ± 0.014	0.288 ± 0.016	0.136 ± 0.003	8.756 ± 0.239	0.127 ± 0.007	0.137 ± 0.014	0.012 ± 0.009	0.014 ± 0.001	0.116 ± 0.022	0.162 ± 0.062	
	水上 2 遺物群	45	0.454 ± 0.012	0.438 ± 0.006	0.141 ± 0.006	9.907 ± 0.329	0.109 ± 0.027	0.089 ± 0.007	1.470 ± 0.049	0.118 ± 0.040	0.023 ± 0.001	0.359 ± 0.066	
	水上 3 遺物群	45	0.152 ± 0.004	0.241 ± 0.012	0.133 ± 0.002	9.252 ± 0.143	0.103 ± 0.006	0.167 ± 0.012	0.748 ± 0.029	0.021 ± 0.013	0.011 ± 0.001	0.101 ± 0.061	
新潟県	洞川 1 遺物群	46	0.710 ± 0.005	0.577 ± 0.010	0.100 ± 0.002	3.527 ± 0.060	0.122 ± 0.005	0.142 ± 0.008	1.100 ± 0.033	0.049 ± 0.013	0.024 ± 0.001	0.223 ± 0.030	
	洞川 2 遺物群	46	0.619 ± 0.019	0.674 ± 0.014	0.109 ± 0.004	4.039 ± 0.164	0.125 ± 0.005	0.148 ± 0.013	1.079 ± 0.039	0.052 ± 0.013	0.024 ± 0.001	0.224 ± 0.031	
	洞川 3 遺物群	45	1.846 ± 0.025	1.151 ± 0.022	0.046 ± 0.002	9.100 ± 0.100	0.498 ± 0.019	0.068 ± 0.012	1.175 ± 0.029	0.065 ± 0.013	0.042 ± 0.002	0.794 ± 0.022	
	洞川 No.271 遺物群	32	0.869 ± 0.040	0.307 ± 0.005	0.177 ± 0.013	13.143 ± 0.159	0.096 ± 0.006	0.116 ± 0.013	0.537 ± 0.006	0.024 ± 0.006	0.019 ± 0.002	0.162 ± 0.061	
	千歳 1 群	36	0.292 ± 0.012	0.352 ± 0.007	0.169 ± 0.010	7.904 ± 0.254	0.184 ± 0.011	0.135 ± 0.013	0.906 ± 0.035	0.016 ± 0.003	0.019 ± 0.002	0.161 ± 0.088	
	千歳 2 群	48	0.088 ± 0.002	0.396 ± 0.004	0.141 ± 0.012	8.952 ± 0.166	0.032 ± 0.008	0.098 ± 0.008	0.419 ± 0.019	0.011 ± 0.006	0.014 ± 0.001	0.120 ± 0.043	
	千歳 3 群	48	0.134 ± 0.002	0.259 ± 0.004	0.128 ± 0.012	9.617 ± 0.196	0.092 ± 0.009	0.088 ± 0.009	0.612 ± 0.023	0.017 ± 0.009	0.012 ± 0.001	0.093 ± 0.042	
	有井 No.13 群	48	0.134 ± 0.002	0.243 ± 0.004	0.114 ± 0.010	7.889 ± 0.163	0.091 ± 0.009	0.097 ± 0.009	0.566 ± 0.029	0.016 ± 0.009	0.015 ± 0.002	0.117 ± 0.043	
	有井 No.14 群	48	0.204 ± 0.002	0.310 ± 0.004	0.116 ± 0.009	8.780 ± 0.158	0.146 ± 0.009	0.106 ± 0.010	0.614 ± 0.026	0.015 ± 0.002	0.015 ± 0.002	0.130 ± 0.043	
	洞川 遺物群	42	0.447 ± 0.064	0.698 ± 0.017	0.089 ± 0.012	5.098 ± 0.781	0.133 ± 0.019	0.116 ± 0.014	1.258 ± 0.118	0.016 ± 0.012	0.024 ± 0.004	0.208 ± 0.027	
石川県	洞川 1 群	48	0.366 ± 0.011	0.341 ± 0.013	0.077 ± 0.008	4.116 ± 0.119	0.115 ± 0.012	0.087 ± 0.010	0.886 ± 0.059	0.012 ± 0.008	0.022 ± 0.002	0.204 ± 0.047	
	野野 No.261 地群	56	0.632 ± 0.032	0.393 ± 0.013	0.045 ± 0.005	2.234 ± 0.070	0.170 ± 0.009	0.046 ± 0.012	1.030 ± 0.041	0.029 ± 0.006	0.022 ± 0.002	0.213 ± 0.046	
	野野 No.262 地群	35	0.407 ± 0.010	0.304 ± 0.005	0.040 ± 0.005	1.882 ± 0.041	0.089 ± 0.005	0.033 ± 0.005	0.671 ± 0.009	0.023 ± 0.005	0.018 ± 0.002	0.177 ± 0.066	
	野野 No.282 地群	33	0.799 ± 0.009	0.512 ± 0.010	0.050 ± 0.005	2.540 ± 0.096	0.221 ± 0.014	0.077 ± 0.011	1.213 ± 0.039	0.034 ± 0.007	0.026 ± 0.002	0.240 ± 0.049	
	野野 No.289 地群	32	3.515 ± 0.134	1.068 ± 0.047	0.149 ± 0.023	6.620 ± 0.453	0.617 ± 0.094	0.210 ± 0.032	1.330 ± 0.067	0.138 ± 0.027	0.167 ± 0.015	2.525 ± 0.081	
	野野 No.292 群	40	0.384 ± 0.004	0.318 ± 0.006	0.057 ± 0.005	2.356 ± 0.068	0.102 ± 0.007	0.051 ± 0.007	0.651 ± 0.022	0.022 ± 0.005	0.017 ± 0.002	0.161 ± 0.064	
	野野 No.295 群	32	3.584 ± 0.178	1.077 ± 0.058	0.075 ± 0.010	3.775 ± 0.153	0.441 ± 0.029	0.197 ± 0.019	1.118 ± 0.053	0.150 ± 0.028	0.183 ± 0.019	2.989 ± 0.159	
	洞川 No.296 群	44	0.095 ± 0.007	0.239 ± 0.006	0.144 ± 0.004	8.775 ± 0.616	0.041 ± 0.009	0.084 ± 0.008	0.433 ± 0.012	0.010 ± 0.007	0.013 ± 0.001	0.123 ± 0.044	
	洞川 No.297 群	44	0.072 ± 0.009	0.247 ± 0.004	0.128 ± 0.004	8.515 ± 0.259	0.039 ± 0.005	0.082 ± 0.009	0.424 ± 0.009	0.010 ± 0.008	0.012 ± 0.001	0.081 ± 0.042	
	神奈川県	洞川 No.1 群	48	0.101 ± 0.002	0.292 ± 0.003	0.145 ± 0.012	13.011 ± 0.347	0.102 ± 0.009	0.112 ± 0.009	0.889 ± 0.028	0.011 ± 0.009	0.011 ± 0.001	0.088 ± 0.030
洞川 No.2 群		35	0.334 ± 0.004	0.292 ± 0.005	0.067 ± 0.009	3.855 ± 0.109	0.082 ± 0.005	0.044 ± 0.007	0.738 ± 0.044	0.027 ± 0.009	0.017 ± 0.002	0.147 ± 0.040	
洞川 No.3 群		48	0.318 ± 0.004	0.317 ± 0.004	0.109 ± 0.004	8.173 ± 0.109	0.102 ± 0.005	0.090 ± 0.005	1.255 ± 0.049	0.013 ± 0.006	0.019 ± 0.002	0.135 ± 0.044	
洞川 No.4 群		48	0.236 ± 0.012	0.199 ± 0.003	0.075 ± 0.005	4.966 ± 0.081	0.114 ± 0.010	0.083 ± 0.011	0.988 ± 0.019	0.010 ± 0.010	0.019 ± 0.001	0.127 ± 0.042	
洞川 No.5 群		48	0.310 ± 0.003	0.203 ± 0.003	0.052 ± 0.004	3.734 ± 0.074	0.228 ± 0.016	0.099 ± 0.010	0.620 ± 0.023	0.011 ± 0.012	0.017 ± 0.001	0.147 ± 0.042	
洞川 No.6 群		48	0.340 ± 0.003	0.226 ± 0.003	0.065 ± 0.005	4.305 ± 0.085	0.200 ± 0.016	0.089 ± 0.010	0.628 ± 0.015	0.010 ± 0.010	0.016 ± 0.001	0.136 ± 0.042	
洞川 No.7 群		48	0.268 ± 0.007	0.049 ± 0.000	0.025 ± 0.008	4.526 ± 0.105	0.243 ± 0.019	0.348 ± 0.027	1.425 ± 0.050	0.059 ± 0.019	0.027 ± 0.003	1.903 ± 0.055	
洞川 No.8 群		48	0.600 ± 0.001	0.297 ± 0.004	0.046 ± 0.004	3.077 ± 0.060	0.363 ± 0.014	0.038 ± 0.012	1.088 ± 0.022	0.022 ± 0.016	0.028 ± 0.002	0.256 ± 0.041	
洞川 No.10 群		48	0.331 ± 0.002	0.117 ± 0.002	0.095 ± 0.006	6.365 ± 0.096	0.101 ± 0.007	0.044 ± 0.010	0.328 ± 0.020	0.009 ± 0.009	0.011 ± 0.001	0.102 ± 0.042	
洞川 No.14 群		33	0.361 ± 0.004	0.253 ± 0.004	0.053 ± 0.007	3.105 ± 0.070	0.238 ± 0.106	0.063 ± 0.014	0.684 ± 0.021	0.027 ± 0.008	0.018 ± 0.001	0.170 ± 0.044	
東京都	洞川 No.17 群	33	0.472 ± 0.004	0.250 ± 0.004	0.049 ± 0.007	2.987 ± 0.060	0.241 ± 0.010	0.056 ± 0.009	0.675 ± 0.024	0.026 ± 0.008	0.018 ± 0.001	0.176 ± 0.045	
	栗田洞合 No.98 群	48	0.321 ± 0.009	0.227 ± 0.005	0.066 ± 0.009	4.359 ± 0.132	0.127 ± 0.015	0.067 ± 0.009	0.615 ± 0.021	0.035 ± 0.009	0.015 ± 0.002	0.162 ± 0.045	

表 1-5 原石産地不明の組成の似たサユカイタ（安山岩）製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物名	分類	遺物産地	元素比										
			K/CaO	TiO <sub>2</sub>	Mn/Fe	Fe/Sr	Y/Sr	Nb/Sr	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Si <sub>2</sub> O <sub>5</sub>			
長瀬町	製石	栗原尾谷 No.175 群	48	0.280 ± 0.002	1.288 ± 0.008	0.658 ± 0.007	4.106 ± 0.087	0.180 ± 0.010	0.559 ± 0.009	0.882 ± 0.027	0.622 ± 0.008	0.188 ± 0.002	0.123 ± 0.004
		山賀 No.138 群	45	0.297 ± 0.003	0.229 ± 0.003	0.046 ± 0.003	4.115 ± 0.127	0.219 ± 0.006	0.081 ± 0.008	0.659 ± 0.011	0.018 ± 0.010	0.015 ± 0.001	0.123 ± 0.002
		源島赤土里遺物群	46	0.469 ± 0.020	0.190 ± 0.003	0.052 ± 0.002	4.046 ± 0.044	0.239 ± 0.007	0.065 ± 0.008	0.581 ± 0.008	0.013 ± 0.010	0.012 ± 0.001	0.122 ± 0.002
		寺田 No.117 群	43	0.378 ± 0.005	0.226 ± 0.004	0.071 ± 0.007	4.992 ± 0.091	0.216 ± 0.009	0.063 ± 0.009	0.631 ± 0.024	0.022 ± 0.008	0.019 ± 0.002	0.124 ± 0.004
		柳ノ木 No.7 群	55	0.290 ± 0.004	0.180 ± 0.003	0.078 ± 0.007	4.603 ± 0.180	0.243 ± 0.015	0.065 ± 0.011	0.561 ± 0.027	0.015 ± 0.007	0.017 ± 0.002	0.141 ± 0.004
長瀬町	製石	柳ノ木 No.13 群	55	0.307 ± 0.003	0.185 ± 0.002	0.081 ± 0.009	4.805 ± 0.100	0.223 ± 0.016	0.065 ± 0.019	0.617 ± 0.059	0.017 ± 0.007	0.016 ± 0.001	0.127 ± 0.005
		柳ノ木 No.12 群	48	0.271 ± 0.013	0.196 ± 0.003	0.074 ± 0.009	4.601 ± 0.148	0.183 ± 0.008	0.066 ± 0.027	0.808 ± 0.027	0.014 ± 0.007	0.019 ± 0.002	0.145 ± 0.005
		柳ノ木 No.11 群	48	0.699 ± 0.008	0.139 ± 0.004	0.089 ± 0.003	2.790 ± 0.054	0.094 ± 0.018	0.045 ± 0.010	0.477 ± 0.050	0.022 ± 0.010	0.029 ± 0.003	0.283 ± 0.007
		西原尾谷 1106 遺物群	44	0.699 ± 0.008	0.133 ± 0.006	0.090 ± 0.001	1.466 ± 0.033	0.066 ± 0.009	0.045 ± 0.005	1.842 ± 0.091	0.104 ± 0.018	0.181 ± 0.012	2.109 ± 0.257
		柳ノ木 No.10 群	48	11.976 ± 0.956	1.298 ± 0.049	0.035 ± 0.011	3.745 ± 0.214	0.215 ± 0.054	0.222 ± 0.054	1.292 ± 0.054	0.130 ± 0.023	0.278 ± 0.032	4.503 ± 0.201
三巻町	製石	柳ノ木 No.9 群	48	0.290 ± 0.004	0.190 ± 0.003	0.074 ± 0.007	4.603 ± 0.180	0.243 ± 0.015	0.065 ± 0.011	0.561 ± 0.027	0.015 ± 0.007	0.017 ± 0.002	0.141 ± 0.004
		柳ノ木 No.8 群	48	1.634 ± 0.262	1.349 ± 0.064	0.026 ± 0.010	8.161 ± 0.350	0.655 ± 0.025	0.138 ± 0.027	1.414 ± 0.061	0.072 ± 0.016	0.042 ± 0.010	1.051 ± 0.049
		高丘 236 遺物群	45	3.494 ± 0.210	1.474 ± 0.088	0.074 ± 0.029	1.536 ± 0.042	0.170 ± 0.008	1.406 ± 0.042	0.161 ± 0.014	0.090 ± 0.006	0.129 ± 0.002	1.779 ± 0.069
		岩塚 2 No.2 群	48	4.691 ± 0.088	0.524 ± 0.009	0.040 ± 0.005	2.278 ± 0.047	0.068 ± 0.006	0.045 ± 0.007	0.666 ± 0.042	0.066 ± 0.006	0.028 ± 0.002	0.222 ± 0.006
		岩塚 2 No.1 群	48	0.324 ± 0.007	0.598 ± 0.007	0.048 ± 0.005	2.859 ± 0.079	0.068 ± 0.006	0.051 ± 0.006	0.622 ± 0.025	0.048 ± 0.008	0.021 ± 0.002	0.152 ± 0.006
豊秋町	製石	2 珠組 No.1	44	1.166 ± 0.209	1.411 ± 0.168	0.089 ± 0.009	10.653 ± 0.912	0.660 ± 0.051	0.077 ± 0.008	1.019 ± 0.069	0.073 ± 0.031	0.215 ± 0.012	3.864 ± 0.135
		太郎山道 S-97	44	2.981 ± 0.043	2.939 ± 0.040	0.088 ± 0.005	13.605 ± 0.956	0.814 ± 0.047	0.101 ± 0.010	1.341 ± 0.081	0.089 ± 0.042	0.116 ± 0.003	1.690 ± 0.042
		高尾原 A 遺物群	46	6.118 ± 0.148	6.494 ± 0.175	0.192 ± 0.023	35.435 ± 2.912	1.952 ± 0.074	0.202 ± 0.014	2.691 ± 0.121	0.284 ± 0.072	0.222 ± 0.072	2.237 ± 0.420
		高尾原 B 遺物群	45	0.331 ± 0.007	0.198 ± 0.004	0.020 ± 0.001	1.494 ± 0.009	0.027 ± 0.003	0.041 ± 0.001	0.308 ± 0.003	0.004 ± 0.001	0.013 ± 0.001	0.105 ± 0.001
		高尾原 C 遺物群	45	4.020 ± 0.061	3.862 ± 0.126	0.093 ± 0.008	13.788 ± 0.314	0.672 ± 0.062	0.078 ± 0.011	1.224 ± 0.148	0.090 ± 0.058	0.177 ± 0.025	2.490 ± 0.186
豊秋町	製石	金井分練 A 遺物群	46	1.61 ± 0.017	0.380 ± 0.018	0.019 ± 0.001	1.672 ± 0.026	0.030 ± 0.004	0.010 ± 0.004	0.384 ± 0.007	0.019 ± 0.006	0.014 ± 0.001	0.116 ± 0.003
		金井分練 B 遺物群	45	2.124 ± 0.059	1.841 ± 0.040	0.019 ± 0.008	24.690 ± 1.104	1.275 ± 0.052	0.151 ± 0.009	1.710 ± 0.066	0.170 ± 0.062	0.070 ± 0.001	0.710 ± 0.011
		東郷 3584 遺物群	45	3.547 ± 0.113	0.456 ± 0.019	0.044 ± 0.002	1.193 ± 0.044	0.854 ± 0.037	0.062 ± 0.005	0.924 ± 0.031	0.069 ± 0.017	0.082 ± 0.001	1.103 ± 0.052
		東郷 4 遺物群	45	0.468 ± 0.020	0.207 ± 0.006	0.074 ± 0.003	4.202 ± 0.141	0.298 ± 0.016	0.083 ± 0.005	1.172 ± 0.018	0.031 ± 0.009	0.023 ± 0.001	0.175 ± 0.005
		野ノ川尾化遺物群	45	0.379 ± 0.008	0.173 ± 0.002	0.013 ± 0.001	0.930 ± 0.036	0.034 ± 0.004	0.001 ± 0.001	0.178 ± 0.002	0.006 ± 0.003	0.015 ± 0.001	0.113 ± 0.002
豊秋町	製石	下田安原ノ木 A 遺物群	48	0.308 ± 0.011	0.510 ± 0.006	0.047 ± 0.001	2.919 ± 0.041	0.074 ± 0.005	0.049 ± 0.003	0.663 ± 0.007	0.041 ± 0.005	0.039 ± 0.001	0.150 ± 0.002
		下田安原ノ木 B 遺物群	45	0.182 ± 0.008	0.211 ± 0.003	0.026 ± 0.001	1.843 ± 0.033	0.027 ± 0.003	0.015 ± 0.003	0.407 ± 0.007	0.006 ± 0.001	0.016 ± 0.001	0.121 ± 0.002
		高尾原中尾遺物群	44	0.471 ± 0.013	0.197 ± 0.054	0.052 ± 0.004	3.123 ± 0.221	0.302 ± 0.012	0.102 ± 0.010	1.188 ± 0.030	0.023 ± 0.013	0.024 ± 0.002	0.171 ± 0.006
		柳ノ木 No.7 遺物群	46	0.176 ± 0.008	0.290 ± 0.003	0.103 ± 0.008	7.494 ± 0.108	0.076 ± 0.005	0.070 ± 0.007	0.522 ± 0.009	0.018 ± 0.008	0.013 ± 0.001	0.119 ± 0.001
		源島赤土里遺物群	46	0.259 ± 0.005	0.260 ± 0.002	0.052 ± 0.002	4.046 ± 0.044	0.216 ± 0.005	0.065 ± 0.005	0.552 ± 0.006	0.018 ± 0.008	0.013 ± 0.001	0.119 ± 0.001
豊秋町	製石	源島赤土里遺物群	44	3.461 ± 0.177	2.341 ± 0.134	0.158 ± 0.040	17.661 ± 1.079	1.899 ± 0.048	0.288 ± 0.006	2.124 ± 0.106	0.157 ± 0.005	0.116 ± 0.012	1.301 ± 0.085
		下田遺物群	60	0.900 ± 0.003	0.296 ± 0.005	0.090 ± 0.010	6.872 ± 0.311	0.088 ± 0.008	0.084 ± 0.008	0.536 ± 0.021	0.017 ± 0.008	0.014 ± 0.001	0.102 ± 0.002
		下田 No.5 遺物群	48	0.178 ± 0.002	0.284 ± 0.003	0.066 ± 0.007	2.148 ± 0.143	0.022 ± 0.007	0.040 ± 0.002	0.301 ± 0.023	0.013 ± 0.005	0.012 ± 0.001	0.067 ± 0.003
		下田 No.11 遺物群	48	0.161 ± 0.004	0.272 ± 0.004	0.090 ± 0.008	7.586 ± 0.282	0.076 ± 0.009	0.080 ± 0.008	0.468 ± 0.019	0.014 ± 0.005	0.012 ± 0.001	0.092 ± 0.003
		東郷 1 遺物群	48	4.547 ± 0.269	0.836 ± 0.030	0.168 ± 0.048	10.523 ± 1.762	2.447 ± 0.594	0.275 ± 0.120	14.278 ± 3.081	1.694 ± 0.249	0.144 ± 0.008	1.029 ± 0.047
豊秋町	製石	下田 No.2 遺物群	48	0.745 ± 0.021	0.216 ± 0.006	0.017 ± 0.002	0.685 ± 0.015	0.045 ± 0.005	0.045 ± 0.005	0.276 ± 0.025	0.019 ± 0.004	0.032 ± 0.004	0.311 ± 0.011
		柳ノ木 No.7 遺物群	48	8.728 ± 1.974	2.957 ± 0.557	0.242 ± 0.057	25.224 ± 3.676	2.332 ± 0.065	0.115 ± 0.045	1.833 ± 0.051	0.040 ± 0.012	0.142 ± 0.003	0.652 ± 0.188
		柳ノ木 No.11 群	48	0.030 ± 0.001	0.170 ± 0.011	0.019 ± 0.007	33.311 ± 1.670	0.031 ± 0.006	0.151 ± 0.017	0.515 ± 0.015	0.022 ± 0.011	0.007 ± 0.001	0.051 ± 0.002
		栗原尾谷 No.14 群	48	1.518 ± 0.195	0.929 ± 0.084	0.108 ± 0.044	7.721 ± 0.024	0.242 ± 0.006	0.101 ± 0.022	1.124 ± 0.046	0.036 ± 0.011	0.049 ± 0.007	0.864 ± 0.041
		平田製石所 群	48	0.805 ± 0.025	0.281 ± 0.018	0.052 ± 0.004	3.352 ± 0.083	0.461 ± 0.013	0.046 ± 0.006	0.189 ± 0.024	0.065 ± 0.002	0.023 ± 0.002	0.185 ± 0.004
豊秋町	製石	金ノ下 3 遺物群	45	3.474 ± 0.162	3.909 ± 0.510	0.137 ± 0.011	21.867 ± 1.158	0.644 ± 0.050	0.109 ± 0.015	1.380 ± 0.090	0.692 ± 0.059	0.218 ± 0.028	5.114 ± 0.051
		栗原 1 遺物群	52	0.204 ± 0.014	0.311 ± 0.045	0.068 ± 0.016	7.515 ± 0.230	0.682 ± 0.060	0.078 ± 0.016	0.330 ± 0.029	0.015 ± 0.001	0.017 ± 0.001	

表 1-6 原産地不明の組成似たナヌカイト(安山岩)製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群名	組成比										
	K/Ca	Ti/Ca	Al/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Co	Al/Co	Si/Co
原田2遺物群	46	1.527 ± 0.080	0.432 ± 0.000	0.432 ± 0.002	1.969 ± 0.055	0.366 ± 0.010	0.020 ± 0.002	0.248 ± 0.008	0.248 ± 0.010	0.034 ± 0.001	0.357 ± 0.009
原田 No.29 遺物群	47	2.210 ± 0.164	0.402 ± 0.024	0.031 ± 0.002	2.784 ± 0.022	0.875 ± 0.003	0.021 ± 0.000	0.602 ± 0.007	0.014 ± 0.003	0.008 ± 0.001	0.061 ± 0.001
原田 No.67 遺物群	47	0.213 ± 0.010	0.443 ± 0.024	0.077 ± 0.003	3.472 ± 0.096	1.812 ± 0.042	0.021 ± 0.000	0.835 ± 0.053	0.148 ± 0.027	0.130 ± 0.003	2.009 ± 0.072
原田 No.63 遺物群	47	0.213 ± 0.010	0.293 ± 0.003	0.031 ± 0.001	2.784 ± 0.031	0.930 ± 0.000	0.020 ± 0.000	0.618 ± 0.006	0.036 ± 0.004	0.009 ± 0.001	0.067 ± 0.001
原田 No.107 遺物群	47	0.214 ± 0.021	0.193 ± 0.005	0.055 ± 0.002	2.942 ± 0.074	0.930 ± 0.000	0.129 ± 0.007	0.643 ± 0.039	0.037 ± 0.004	0.010 ± 0.001	0.153 ± 0.002
五石田 No.H4 遺物群	44	3.888 ± 0.037	0.573 ± 0.011	0.073 ± 0.001	2.862 ± 0.181	0.328 ± 0.016	0.843 ± 0.006	1.961 ± 0.041	0.117 ± 0.020	0.122 ± 0.002	0.645 ± 0.021
天守 No.2 遺物群	43	0.200 ± 0.008	0.958 ± 0.009	0.142 ± 0.006	4.329 ± 0.281	0.448 ± 0.065	0.180 ± 0.009	3.550 ± 0.156	0.212 ± 0.040	0.166 ± 0.004	1.564 ± 0.071
天守 No.3 遺物群	43	0.210 ± 0.007	0.299 ± 0.006	0.049 ± 0.001	3.448 ± 0.065	0.674 ± 0.003	0.600 ± 0.006	0.557 ± 0.009	0.009 ± 0.007	0.012 ± 0.001	0.183 ± 0.001
天守 No.9 遺物群	43	0.210 ± 0.007	0.299 ± 0.006	0.049 ± 0.001	2.759 ± 0.022	0.604 ± 0.003	0.072 ± 0.001	0.557 ± 0.009	0.011 ± 0.007	0.018 ± 0.001	0.185 ± 0.001
天守 No.28 遺物群	44	0.156 ± 0.005	0.267 ± 0.003	0.103 ± 0.001	8.576 ± 0.092	0.606 ± 0.006	0.659 ± 0.007	0.466 ± 0.007	0.006 ± 0.006	0.012 ± 0.001	0.759 ± 0.029
天守 No.30 遺物群	44	0.847 ± 0.051	0.150 ± 0.009	0.095 ± 0.003	3.075 ± 0.065	0.118 ± 0.003	0.033 ± 0.000	0.388 ± 0.006	0.011 ± 0.003	0.008 ± 0.002	0.099 ± 0.004
天守 No.31 遺物群	44	0.998 ± 0.014	0.131 ± 0.003	0.104 ± 0.004	2.890 ± 0.051	0.404 ± 0.003	0.043 ± 0.004	3.722 ± 0.008	0.015 ± 0.004	1.172 ± 0.006	8.557 ± 0.373
天守 No.33 遺物群	44	0.432 ± 0.012	0.126 ± 0.001	0.126 ± 0.004	3.373 ± 0.053	0.089 ± 0.002	0.028 ± 0.000	0.394 ± 0.000	0.007 ± 0.003	0.664 ± 0.008	4.098 ± 0.056
天守 No.27 遺物群	44	0.584 ± 0.012	0.142 ± 0.002	0.061 ± 0.002	14.559 ± 0.497	0.236 ± 0.008	0.078 ± 0.009	0.578 ± 0.008	0.153 ± 0.007	0.763 ± 0.009	3.167 ± 0.039
天守 No.32 遺物群	44	0.209 ± 0.009	0.169 ± 0.007	0.051 ± 0.002	2.298 ± 0.029	0.030 ± 0.002	0.014 ± 0.002	0.319 ± 0.003	0.002 ± 0.002	0.029 ± 0.001	0.031 ± 0.001
天守 No.34 遺物群	44	2.295 ± 0.050	2.409 ± 0.032	0.061 ± 0.006	11.630 ± 0.357	0.836 ± 0.027	0.162 ± 0.006	1.527 ± 0.076	0.138 ± 0.002	0.070 ± 0.001	0.945 ± 0.020
上ノ庄16 遺物群	45	0.261 ± 0.005	0.292 ± 0.004	0.077 ± 0.002	5.481 ± 0.073	0.276 ± 0.011	0.076 ± 0.013	0.861 ± 0.020	0.016 ± 0.013	0.020 ± 0.001	0.127 ± 0.001
長谷分7 遺物群	45	0.268 ± 0.013	0.252 ± 0.006	0.044 ± 0.001	0.611 ± 0.003	0.095 ± 0.003	0.009 ± 0.001	0.350 ± 0.003	0.016 ± 0.004	0.026 ± 0.001	0.307 ± 0.002
長谷分6 遺物群	45	2.210 ± 0.118	0.620 ± 0.024	0.044 ± 0.006	7.952 ± 0.047	3.615 ± 0.155	0.348 ± 0.019	1.979 ± 0.126	0.194 ± 0.061	0.103 ± 0.002	1.846 ± 0.052
城ノ内遺物群	45	6.200 ± 0.362	1.830 ± 0.195	0.110 ± 0.000	9.834 ± 0.379	1.308 ± 0.060	0.197 ± 0.014	1.819 ± 0.089	0.118 ± 0.058	0.333 ± 0.002	11.411 ± 1.629
城ノ内2遺物群	50	31.290 ± 0.880	1.851 ± 0.049	0.165 ± 0.026	17.480 ± 0.603	1.600 ± 0.046	0.235 ± 0.052	2.177 ± 0.082	0.115 ± 0.038	0.144 ± 0.012	14.45 ± 0.651
六ノ川遺物群	30	0.570 ± 0.004	0.258 ± 0.005	0.067 ± 0.002	4.736 ± 0.096	0.235 ± 0.010	0.058 ± 0.014	0.840 ± 0.022	0.030 ± 0.013	0.016 ± 0.002	0.133 ± 0.004
竜ノ尾遺物群	60	0.694 ± 0.012	0.248 ± 0.000	0.066 ± 0.012	4.139 ± 0.128	0.429 ± 0.019	0.077 ± 0.022	1.178 ± 0.040	0.058 ± 0.013	0.025 ± 0.002	0.262 ± 0.007
松ノ木遺物群	40	0.588 ± 0.046	0.225 ± 0.004	0.080 ± 0.004	4.582 ± 0.060	0.326 ± 0.012	0.644 ± 0.005	1.139 ± 0.024	0.036 ± 0.008	0.025 ± 0.001	0.197 ± 0.004
上ノ村遺物群	44	0.816 ± 0.013	0.454 ± 0.008	0.031 ± 0.002	4.481 ± 0.089	0.385 ± 0.010	0.655 ± 0.004	0.975 ± 0.021	0.035 ± 0.012	0.038 ± 0.001	0.374 ± 0.010
大宮1 遺物群	45	0.727 ± 0.030	0.430 ± 0.016	0.034 ± 0.002	5.000 ± 0.121	0.438 ± 0.012	0.609 ± 0.004	0.949 ± 0.027	0.048 ± 0.012	0.034 ± 0.001	0.351 ± 0.012
大宮 2,3 遺物群	44	1.934 ± 0.035	1.351 ± 0.138	0.103 ± 0.004	9.722 ± 0.491	0.676 ± 0.025	0.108 ± 0.009	1.263 ± 0.094	0.077 ± 0.022	0.086 ± 0.007	0.704 ± 0.037
大宮 4,5 遺物群	48	2.665 ± 0.425	1.949 ± 0.045	0.119 ± 0.024	14.530 ± 2.265	0.867 ± 0.048	0.128 ± 0.010	1.539 ± 0.282	0.092 ± 0.025	0.117 ± 0.006	0.800 ± 0.068
大宮 No.6 遺物群	48	0.283 ± 0.007	0.237 ± 0.003	0.050 ± 0.006	3.976 ± 0.127	0.164 ± 0.010	0.461 ± 0.010	0.538 ± 0.026	0.024 ± 0.008	0.017 ± 0.002	0.127 ± 0.007
米沢 No.208 遺物群	45	0.449 ± 0.085	2.109 ± 0.242	0.026 ± 0.005	0.971 ± 0.069	0.102 ± 0.002	0.057 ± 0.003	0.913 ± 0.047	0.050 ± 0.008	0.339 ± 0.017	4.867 ± 0.543
米沢 No.208 遺物群	45	0.289 ± 0.006	0.195 ± 0.003	0.065 ± 0.002	5.106 ± 0.092	0.174 ± 0.000	0.063 ± 0.007	0.628 ± 0.014	0.033 ± 0.010	0.010 ± 0.001	0.097 ± 0.001
大宮 23 遺物群	50	1.017 ± 0.013	0.270 ± 0.000	0.057 ± 0.002	3.108 ± 0.082	0.308 ± 0.016	0.114 ± 0.007	1.194 ± 0.000	0.021 ± 0.013	0.037 ± 0.001	0.386 ± 0.015
久野川16 遺物群	34	0.597 ± 0.006	0.297 ± 0.007	0.071 ± 0.009	31.225 ± 0.759	0.181 ± 0.011	0.048 ± 0.012	0.927 ± 0.029	0.071 ± 0.010	0.021 ± 0.002	0.189 ± 0.010
久野川 17 遺物群	34	0.247 ± 0.009	0.406 ± 0.003	0.046 ± 0.003	13.132 ± 0.348	0.033 ± 0.009	0.033 ± 0.009	0.968 ± 0.017	0.033 ± 0.003	0.033 ± 0.003	0.558 ± 0.014
久野川 18 遺物群	45	2.749 ± 0.102	0.299 ± 0.012	0.049 ± 0.001	14.979 ± 0.312	0.173 ± 0.018	0.036 ± 0.004	1.562 ± 0.227	0.050 ± 0.020	0.029 ± 0.002	10.825 ± 0.630
久野川 19 遺物群	48	20.236 ± 1.562	2.566 ± 0.014	0.046 ± 0.015	5.413 ± 0.177	3.549 ± 0.073	0.396 ± 0.064	0.968 ± 0.064	0.029 ± 0.006	0.033 ± 0.006	8.449 ± 0.640
久野川 44 遺物群	45	0.266 ± 0.067	0.513 ± 0.020	0.009 ± 0.009	2.430 ± 0.163	0.448 ± 0.024	0.079 ± 0.003	0.739 ± 0.083	0.069 ± 0.006	0.069 ± 0.006	4.625 ± 0.200
久野川 45 遺物群	48	1.076 ± 0.070	1.243 ± 0.056	0.022 ± 0.009	1.545 ± 0.083	0.132 ± 0.013	0.080 ± 0.015	0.403 ± 0.039	0.030 ± 0.012	0.160 ± 0.003	7.566 ± 0.327
小田元1 遺物群	48	3.016 ± 0.070	0.776 ± 0.023	0.072 ± 0.013	8.625 ± 0.210	1.422 ± 0.043	0.327 ± 0.076	2.907 ± 0.123	0.128 ± 0.032	0.055 ± 0.001	1.075 ± 0.033
小田元2 遺物群	48	6.003 ± 0.590	6.530 ± 0.483	0.653 ± 0.019	26.271 ± 1.498	0.922 ± 0.046	0.423 ± 0.046	2.266 ± 0.179	0.114 ± 0.041	0.095 ± 0.008	10.729 ± 0.570
小田元 16 遺物群	48	10.762 ± 1.565	6.922 ± 0.400	0.039 ± 0.011	7.900 ± 0.181	0.941 ± 0.035	0.132 ± 0.048	2.189 ± 0.088	0.103 ± 0.027	0.449 ± 0.040	3.550 ± 0.188
小田元 17 遺物群	48	2.394 ± 0.483	3.276 ± 0.388	0.087 ± 0.020	16.004 ± 0.727	1.026 ± 0.046	0.239 ± 0.053	2.194 ± 0.088	0.094 ± 0.042	0.059 ± 0.039	3.562 ± 0.269



表 1-7 原産地不明の似たサヌカイト（安山岩）製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物名	元素比												
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca			
小田丸18遺物群	48	1.235 ± 0.061	1.195 ± 0.063	0.866 ± 0.029	1.396 ± 0.168	0.779 ± 0.069	0.948 ± 0.074	2.609 ± 0.190	0.139 ± 0.063	0.100 ± 0.013	3.405 ± 0.216		
小田丸20遺物群	48	1.131 ± 0.104	0.877 ± 0.032	0.699 ± 0.018	5.517 ± 0.182	1.853 ± 0.058	0.515 ± 0.061	3.306 ± 0.112	0.197 ± 0.011	0.129 ± 0.011	1.394 ± 0.045		
小田丸21遺物群	48	0.132 ± 0.015	0.188 ± 0.022	0.023 ± 0.010	2.606 ± 0.215	0.123 ± 0.020	0.227 ± 0.026	0.621 ± 0.086	0.033 ± 0.019	0.026 ± 0.005	1.251 ± 0.131		
小田丸22遺物群	48	2.988 ± 0.185	1.712 ± 0.113	0.883 ± 0.018	12.064 ± 0.318	0.965 ± 0.031	0.214 ± 0.009	2.217 ± 0.088	0.114 ± 0.033	0.099 ± 0.009	0.901 ± 0.048		
小田丸23遺物群	48	0.751 ± 0.027	0.731 ± 0.028	0.075 ± 0.012	37.726 ± 0.392	0.008 ± 0.000	0.147 ± 0.040	1.690 ± 0.066	0.093 ± 0.025	0.043 ± 0.004	0.377 ± 0.010		
大塚野24遺物群	48	1.073 ± 0.013	0.525 ± 0.008	0.041 ± 0.000	2.415 ± 0.071	0.302 ± 0.010	0.091 ± 0.016	1.131 ± 0.034	0.025 ± 0.001	0.033 ± 0.003	0.324 ± 0.000		
大塚野25遺物群	48	7.505 ± 0.290	3.161 ± 0.125	0.005 ± 0.019	16.100 ± 1.244	1.072 ± 0.042	0.154 ± 0.049	1.722 ± 0.067	0.102 ± 0.032	0.190 ± 0.020	1.418 ± 0.080		
大塚野26遺物群	48	7.403 ± 0.961	2.017 ± 0.279	0.096 ± 0.019	0.621 ± 0.025	1.259 ± 0.068	0.800 ± 0.059	1.995 ± 0.192	0.118 ± 0.062	0.236 ± 0.036	16.632 ± 2.120		
大塚野34遺物群	48	0.694 ± 0.010	0.337 ± 0.003	0.079 ± 0.001	62.778 ± 0.206	0.592 ± 0.023	0.081 ± 0.031	1.672 ± 0.034	0.190 ± 0.032	0.043 ± 0.004	0.258 ± 0.008		
大塚野35遺物群	48	0.524 ± 0.008	0.212 ± 0.004	0.072 ± 0.001	69.494 ± 0.419	0.714 ± 0.019	0.073 ± 0.011	1.717 ± 0.017	0.030 ± 0.013	0.025 ± 0.001	0.135 ± 0.003		
大塚野39遺物群	44	0.604 ± 0.010	0.272 ± 0.004	0.072 ± 0.001	59.279 ± 0.336	0.500 ± 0.013	0.079 ± 0.011	1.724 ± 0.019	0.041 ± 0.013	0.024 ± 0.001	0.117 ± 0.004		
安原風化19遺物群	44	0.746 ± 0.013	0.361 ± 0.007	0.050 ± 0.003	4.531 ± 0.161	0.481 ± 0.012	0.062 ± 0.004	0.934 ± 0.022	0.187 ± 0.013	0.030 ± 0.001	0.254 ± 0.005		
安原風化22遺物群	44	0.629 ± 0.008	0.323 ± 0.006	0.072 ± 0.004	5.564 ± 0.158	0.538 ± 0.018	0.086 ± 0.006	0.828 ± 0.025	0.200 ± 0.015	0.029 ± 0.001	0.236 ± 0.003		
安原風化23遺物群	44	0.705 ± 0.017	0.320 ± 0.005	0.068 ± 0.002	5.276 ± 0.117	0.581 ± 0.017	0.088 ± 0.007	0.823 ± 0.020	0.183 ± 0.016	0.029 ± 0.001	0.227 ± 0.007		
安原風化24遺物群	44	0.648 ± 0.014	0.325 ± 0.000	0.064 ± 0.002	5.527 ± 0.162	0.528 ± 0.013	0.076 ± 0.006	0.676 ± 0.006	0.180 ± 0.013	0.028 ± 0.001	0.246 ± 0.003		
安原風化25遺物群	44	3.376 ± 0.082	2.410 ± 0.030	0.175 ± 0.008	13.240 ± 0.411	1.200 ± 0.056	0.126 ± 0.006	3.533 ± 0.037	0.153 ± 0.033	0.102 ± 0.002	1.106 ± 0.035		
安原風化26遺物群	44	0.708 ± 0.021	0.339 ± 0.010	0.072 ± 0.003	5.933 ± 0.138	0.578 ± 0.016	0.078 ± 0.005	0.891 ± 0.022	0.182 ± 0.013	0.030 ± 0.001	0.254 ± 0.005		
安原風化27遺物群	44	0.717 ± 0.043	0.338 ± 0.011	0.069 ± 0.004	5.612 ± 0.231	0.575 ± 0.012	0.075 ± 0.006	0.883 ± 0.027	0.183 ± 0.014	0.030 ± 0.001	0.249 ± 0.013		
安原風化28遺物群	44	0.719 ± 0.048	0.336 ± 0.012	0.068 ± 0.003	5.559 ± 0.266	0.571 ± 0.014	0.074 ± 0.006	0.885 ± 0.029	0.188 ± 0.017	0.030 ± 0.001	0.252 ± 0.013		
安原風化A遺物群	48	0.692 ± 0.045	0.331 ± 0.012	0.066 ± 0.005	5.633 ± 0.296	0.569 ± 0.022	0.076 ± 0.006	0.880 ± 0.027	0.182 ± 0.017	0.029 ± 0.001	0.244 ± 0.014		

注:日向遺跡群、下山No.5No.11群、中ノ庄遺跡群、松ノ水遺跡群、東北山遺跡群、野井山遺跡群、若尾山遺跡群、岩倉洞谷遺跡群、水辺2遺跡群、世田屋遺跡群、川平1遺跡群、家の成遺跡群、柳井野村遺跡群、川井野村遺跡群、長谷遺跡群、7778959、  
 聖田遺跡群、No.82/28遺跡群、東方遺跡群、小田丸第2遺跡群、大聖野遺跡群、浦下遺跡群、山内遺跡群、朝日遺跡群、聖田遺跡群、聖田遺跡群No.30、No.67、No.69、No.107、文庫遺跡群1、若山山遺跡群、五明洞遺跡群、上野山遺跡群、北野山遺跡群、長谷遺跡群、7778959、  
 大塚野遺跡群、13、9、188-20、高松長尾遺跡群、北谷山遺跡群、北谷山遺跡群No.1遺跡群（長谷山平谷谷遺跡群）、大塚山（A1a、A1A.27、A31）遺跡群（大塚遺跡群）、芝原風化C9～28遺跡群、  
 上ノ村遺跡群（上ノ村遺跡群）、同田内河内風化群（同田内河内遺跡群）、北上2998、270、297、279の各遺跡群（北上2遺跡群）、大塚1遺跡群（大塚・岩崎遺跡群）の分析場所は定まって分析した同  
 数をあらわす。下山遺跡群No.4No.1No.10、平田遺跡群No.12No.13、能の倉遺跡群、野井山遺跡群、東谷遺跡群、千葉2、3、4遺跡群群、嵐ノ内遺跡群（No.13No.22）、朝日遺跡群123、高松長尾遺跡群（西洋古墳  
 遺跡群）、大塚山遺跡群（大塚山遺跡群）、安原風化A遺跡群、北上2遺跡群、大塚23、43遺跡群群（北上2遺跡群）、北上23A遺跡群群（北上2遺跡群）、大塚23、43遺跡群群（北上2遺跡群）の分析場所は定まって分析した同数  
 以上ノ遺跡群の分析場所を定めて分析した同数をあらわす。

表2 岩屋原産地からのサヌカイト原石6個の分類結果

原石群名	個数	百分率 (%)	他原産地および他原石群との関係
岩屋第1群	20	30	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第2群	22	22	白峰群に一致
	6	9	法印谷群に一致
	5	8	因分寺群に一致
	4	6	蓬光寺群に一致
	3	5	金山東群に一致
	2	3	和泉群に一致
	4	6	不明 (どこの原石群にも属さない)

表3 和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果

原石群名	個数	百分率 (%)	他原産地および他原石群との関係
岩屋第1群	12	17	淡路島、岸和田、和歌山に出現
和泉群	9	13	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第2群	6	8	白峰群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	39	54	不明 (どこの原石群にも属さない)

表4 和歌山氏梅原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果

原石群名	個数	百分率 (%)	他原産地および他原石群との関係
和泉群	10	48	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第1群	1	5	淡路島、岸和田、和歌山に出現
	10	48	不明 (どこの原石群にも属さない)

表5 川津六反地遺跡出土サヌカイト製遺物の元素比結果

分析番号	元素比										
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
119725	0.443	0.211	0.073	4.338	0.300	0.069	1.124	0.018	0.013	0.121	
119726	0.447	0.217	0.082	4.502	0.292	0.079	1.183	0.015	0.023	0.177	
119727	0.412	0.219	0.076	4.673	0.293	0.062	1.062	0.013	0.012	0.113	
119728	1.042	0.478	0.034	1.984	0.264	0.027	0.516	0.238	0.034	0.364	
119729	0.432	0.216	0.076	4.256	0.295	0.092	1.161	0.034	0.022	0.164	
119730	0.407	0.218	0.077	4.811	0.285	0.069	1.077	0.024	0.012	0.109	
119731	0.426	0.224	0.070	4.418	0.282	0.084	1.127	0.030	0.022	0.164	
119732	0.413	0.223	0.077	4.782	0.303	0.071	1.107	0.032	0.013	0.116	
119733	0.429	0.260	0.060	3.663	0.300	0.052	1.020	0.051	0.019	0.170	
119734	1.109	0.501	0.032	1.905	0.259	0.027	0.502	0.228	0.035	0.381	
119735	0.440	0.228	0.069	3.981	0.291	0.069	1.176	0.033	0.022	0.160	
119736	0.401	0.223	0.081	4.848	0.314	0.065	1.065	0.014	0.012	0.113	
119737	0.416	0.251	0.056	3.540	0.298	0.051	1.010	0.052	0.019	0.164	
JG-1	1.265	0.284	0.052	2.736	0.737	0.171	0.854	0.045	0.036	0.410	

JG-1: 標準試料 - Ando, A. Kurosawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

表6 川津六反地遺跡出土サヌカイト製造物の産地分析結果

番号	石器番号	調査区	グリフト	器種	分析番号	ホテリングのT <sup>2</sup> 乗検定(確率)	新元忠比によるホテリングのT <sup>2</sup> 乗検定(確率)	組み合わせ暫定結果
1	S203	IV区 第3面	N5	剥片	119725	城山(35%), 金山東南(29%), 金山南(3%), 金山東(2%), 金山南露頭(0.1%), 金山北(0.1%)	金山東南(70%), 金山南(23%)	金山東南
2	S236	IV区 第3面	H6	剥片	119726	金山東(79%), 金山東南(30%), 金山南(2%), 城山(2%), 金山北(1%)	金山東(86%), 金山東南(33%)	金山東1, 2地点採取
3	S321	IV区 第3面	J4	剥片	119727	城山(93%), 金山南露頭(14%), 金山西(35%), 金山東南(11%), 金山南(0.4%)	城山(96%), 金山西(73%), 金山南露頭(6%)	城山・金山西・金山南露頭
4	S700	IV区 第3面	Q14	調整ある剥片	119728	飯山(22%)		飯山
5	S707	IV区 第3面	Q14	剥片	119729	金山東南(7%), 城山(3%), 金山南(0.2%), 金山東(0.2%)	金山東南(42%), 金山南(3%), 金山西(0.2%)	金山東南
6	S753	IV区 第3面	Q13	剥片	119730	城山(96%), 金山南露頭(46%), 金山西(8%), 金山東南(1%)	城山(64%), 金山西(3%)	城山
7	S806	IV区 第3面	L19	剥片	119731	金山東南(31%), 城山(25%), 金山南(24%), 金山南露頭(4%), 金山西(0.9%), 金山東(0.1%)	金山東南(43%), 金山南(5%), 金山西(0.8%), 金山南露頭(0.3%)	金山東南・金山南
8	S809	IV区 第3面	L19	剥片	119732	城山(57%), 金山南露頭(21%), 金山西(9%), 金山東南(9%), 金山南(0.1%)	城山(83%), 金山西(37%), 金山南露頭(5%)	城山・金山西・金山南露頭
9	S810	IV区 第3面	L19	剥片	119733	国分寺(79%), 蓮光寺(72%), 岩屋第2群(0.1%)	国分寺(40%), 蓮光寺(27%)	国分寺・蓮光寺
10	S838	IV区 第3面	M18	剥片	119734	飯山(25%)		飯山
11	SI102	IV区 第3面	M18	剥片	119735		金山東南(0.2%)	金山系?
12	SI215	IV区 第3面	V25	剥片	119736	城山(77%), 金山西(0.8%), 金山南露頭(0.8%), 金山東南(0.3%)	城山(47%), 金山西(1%), 金山南露頭(0.1%)	城山
13	SI340	IV区 第3面	K21	剥片	119737	蓮光寺(85%), 国分寺(25%)	蓮光寺(36%), 国分寺(33%)	国分寺・蓮光寺

## 第Ⅶ章 まとめ

### 第1節 川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の歴史の変遷

#### 1. はじめに

前章までに川津六反地遺跡と川津昭和遺跡の遺構・遺物の報告をしたが、記述した諸遺構の事実関係を整理し、遺跡の概要を時代順に簡単にまとめたい。報告した遺構・遺物を時代順で分ければ、①旧石器時代、②縄文時代 ③弥生時代 ④古代 ⑤中世 ⑥近世以降の6区分に分けられる。次に川津六反地遺跡から時代順にまとめる。

#### 2. 川津六反地遺跡の変遷(第163・164図)

##### (1) 旧石器時代

旧石器と考えられる石器類は比較的多数出土している。確認した石器類は、主にⅠ・Ⅱ区の自然河川、中近世の遺構や包含層から出土した遊離遺物である。主な遺物としては、ナイフ形石器(65・66・67)・翼状剥片石核(653)・横長剥片石核(257・331)・縦長剥片(72～74・76・428・430・608・660・811)・縦長剥片石核調整剥片(75・77・78・169・431・608・659・660)等の資料があげられる。他にも横長剥片・横長剥片石核等が出土しているが、これらの石器類については、縄文時代以降にも類似する石器があるため、明瞭に分けきれない点を断っておく。

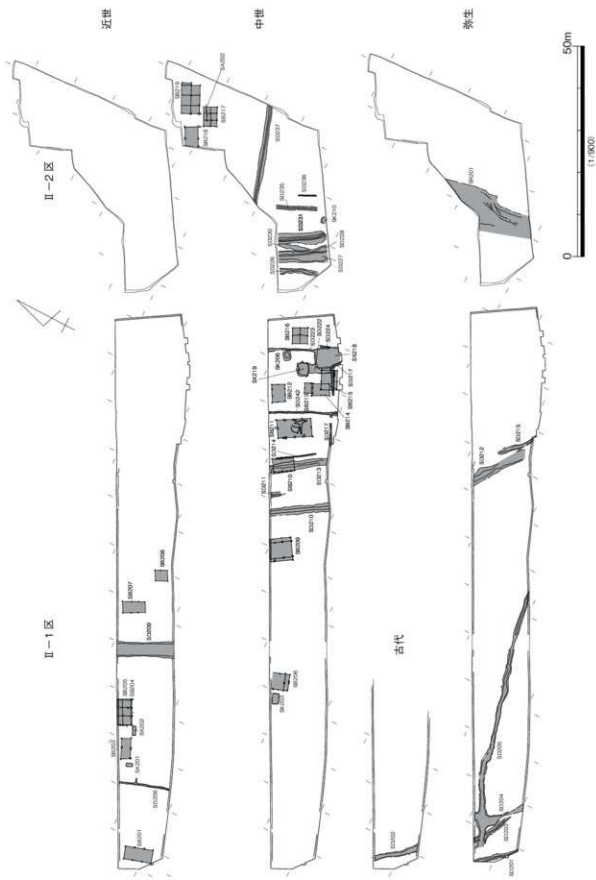
旧石器に限らないが、本遺跡出土の石器類は弥生時代以降の自然河川・中世遺構・包含層等に遊離遺物として含まれる遺物が多い。これらの石器類の出土量は他の一般集落に比べてかなり多く、本遺跡の特徴と言える。ただ、遺構に伴わない石器類を時代で区分するのは困難である。そのため、これらの石器類は間接資料としてしか使えないのが現状である。

川津六反地遺跡の東方にはサヌカイト原産地にあたる国分台・金山・城山等が位置し、サヌカイトを採集し石器生産を行なう適地といえる。特に、この遺跡から出土したサヌカイト石器類には、大型の石核・剥片などの石器生産の初期に発生する資料が多い。そのため、調査地周辺にサヌカイト原産地から採集した原素材をもとに、石器生産を営む集落が存在する可能性が高い。なお、後述する縄文時代ではⅣ区で石器製作跡を確認している。これらのことから、推定される集落の中心地が、隣接地に所在することは間違いないであろう。

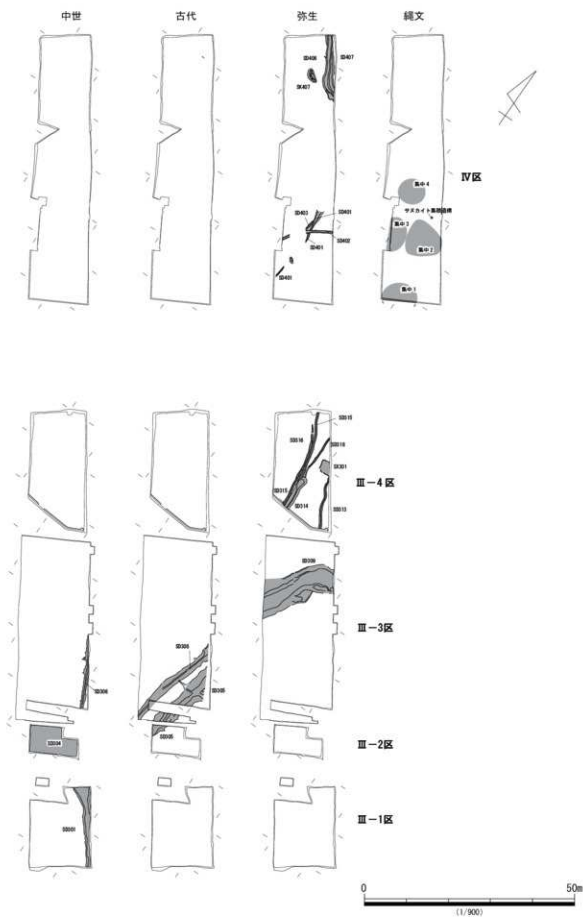
##### (2) 縄文時代

縄文時代の遺構・遺物については、Ⅱ-1区の有舌尖頭器(429)、Ⅱ-2区SR202出土の浅鉢(656)、Ⅳ区の石器集中ブロック及びサヌカイト集積遺構等の遺構・遺物があげられる。

Ⅳ区の石器集中ブロック及びサヌカイト集積遺構は、弥生時代以降の遺構面下から検出した。石器集中ブロック等からは約1,600点のサヌカイトと安山岩の石器・剥片類が出土した。主体となるのはサヌカイト製の砕片・剥片であるが、少数の石鏃・削器・石核等も含まれる。また、接合資料も18点抽出することができた。これらの資料は県下では限られており、従来不明瞭であった県下の縄文時代の石器製作技術を復元するうえで良資料になる。ただ、出土した包含層中から土器が出土していないため、詳細な時期決定に問題を残している。



第 163 図 川津六反地遺跡遺構変遷図 II 区



第 164 图 川津六反地遺跡遺構変遷図Ⅲ・Ⅳ区

時期を検討する資料として、石器集中ブロックの上面で検出したSP401がある。この遺構からは弥生時代前期前葉の甕(941)が出土しており、この土器が下限期を示している。また、上限期については、火山灰分析により、石器集中ブロックの包含層より下位の堆積層中から少量ではあるが「喜界アカホヤテフラ(K-Ah)(約7,300年前)」を抽出することができた。そのため、この火山灰は石器集中ブロックの上限期を推定する一資料となる。

また、地理学的な研究においては、瀬戸内海沿岸の平野部の扇状地や三角州では、縄文後期から晩期にかけて黄色系シルトや砂の堆積が想定されている。石器集中ブロックの包含層やその下位で確認した黄褐色粘土層が、先の見所の堆積層に対応するものと考えれば、石器集中ブロック等は、縄文時代後期以降に形成された可能性も指摘できる。

### (3) 弥生時代

弥生時代の遺構はⅡ・Ⅲ・Ⅳ区までの範囲内で溝状遺構等の遺構を検出した。確認した遺構は弥生時代前期から終末期までの時期幅がある。前期～中期の遺構は遺構・遺物伴に少ないが、後期の段階になると遺構・遺物伴に増加する。検出した遺構に住居等が確認できないため、弥生時代の調査地周辺は、主に集落の生産域として土地活用がなされていたものと考えられる。

弥生時代前期～中期の遺構は、Ⅳ区のSP401、SD406・407、SK407等があげられ、川津六反地遺跡の北辺に数遺構が希薄に分布する傾向が窺える。SP401は先述したように、Ⅳ区南端部の石器集中ブロックの上面で検出した遺構で、前期前葉の甕(941)が出土しており、Ⅳ区周辺に同時期の集落が所在している可能性がある。なお、Ⅱ区のSD203からは弥生時代中期初頭頃の遺物が数点出土しているが、この時期に含まれるかどうかは問題を残す。

弥生時代後期の遺構はⅡ・Ⅲ区で確認した。Ⅱ-1区ではSD204・205・212・215等が、Ⅲ区ではSD309・313・314・315・316等の溝状遺構があげられる。また、Ⅱ-2区では後期後半のSR201を検出した。これらの溝跡のうちⅢ区のSD309は比較的大型の灌漑水路と考えられ、弥生時代後期前半～終末期頃の土器を比較的多量に出土しており、同時期の集落の中心がⅢ区周辺に所在することは確実であろう。

なお、Ⅳ区のSK402・408、SD401・402・403からは弥生土器の小片が少数出土しており、これらの遺構も弥生時代に含まれる可能性がある。

### (4) 古代

古代の遺構はⅡ・Ⅲ区で3条の溝跡を確認した。Ⅱ区の溝跡は西端に位置する7世紀前半のSD202である。Ⅲ区の溝跡は7世紀前半と後半の時期が考えられるSD305・308である。この2条の溝跡は真北に近い方向を向くのが特徴である。SD305は比較的大型の幹線水路で、この地域の新たな新田開発を意図した大型水路と考えられる。丸亀平野では7世紀末以降に条里地割の施行が開始される。この地割は真北から約30°西に向く方位を基準にしているが、川津六反地遺跡では7世紀代の類似資料は見当たらない。そのため、当地周辺では8世紀以降の施行を想定すべきであろう。

なお、Ⅱ・Ⅲ区からは古代の瓦と考えられる資料が多数出土した。そのため、周辺に瓦葺きの建物が所在していた可能性があるが、当時の瓦葺き建物は官衛ないし寺院等の極限られた施設で使用しているため、そのような公的施設がⅡ・Ⅲ区周辺に存在する可能性が高く、周辺部の今後の調査では注意を要する。

(5) 中世

川津六反地遺跡で集落の居住域が確認できるのは中世以降である。Ⅱ・Ⅲ区からは掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構等を多数確認した。中世に属する建物跡はⅡ区で合計12棟を確認した。分布の傾向として、Ⅱ-1区西半部にSB206・209等の箱付建物が単体で分布する他は、Ⅱ-1区の東半部とⅡ-2区北半部に集中する傾向がある。

Ⅱ-1区東半部ではSB206・209・210・211・212・213・214・215等の建物があげられる。時間的には12世紀後半～13世紀末までの時期幅があり、概ね中世前半の建物群であろう。建物主軸は北から22～34°西に振る角度までの幅はあるが、概ね条里地割の方向を意識して揃えている。これらの建物中で同一グループとして捉えられるのは、桁行を揃えたSB211・212・214のグループである。なお、時期が不明瞭なSB212・213・214・216等も、規模や主軸方位などから中世の建物と考えられる。

Ⅱ-2区北半部では、SB218・219・217等の建物があげられ、時間的には13世紀後半頃が考えられる。建物主軸は北から27～30°西に振り、条里地割の方位に揃えていることが解る。3棟の建物の中でSB218・219は桁行を揃えており、同一グループの建物であろう。なお、SB217はSB218・219と近接しており、時期差が考えられる。Ⅱ区の中世建物群の分布状況を概観すれば、2～3棟の建物が一群をなし、Ⅱ-1区からⅡ-2区の中で変遷していることが推測される。

中世の溝状遺構はⅡ・Ⅲ区で確認している。Ⅱ区からは多数の中世の溝跡を確認した。主なものでは、SD210・213・217・222・223・242・227・228・231・235・237等の溝跡があげられる。時間的には12世紀後半～13世紀後半までの時期幅があり、溝状遺構を時期で分ければ、12～13世紀頃の中世前半の溝跡は、SD210・213・227・228・231・235・237等があたり、14世紀以降の中世後半の溝跡はSD217・222・223・242等の溝跡に分けられる。主軸方位は条里地割の方位に揃えており、同方位に影響を受けている。なお、SD210・213周辺は条里地割の南北方向の坪塚線近くに位置しており、坪塚溝の可能性もある。

Ⅱ区の溝状遺構では居住域を画した区画溝と考えられる溝跡が数条確認できる。Ⅱ-1区のSD210・213とⅡ-2区のSD227・228・231からは居住域から廃棄された多量の土器類が出土している。特にSD227・228からは、小皿・杯・碗の食器類が多量に出土しており注目される。西のSD210・213と東のSD227・231の、東西50～60mの区間内には、SB211・212・214等の建物群が分布することから、これらの溝跡はⅡ-1区東半部の建物群から構成される居住域の、西辺と東辺を画する溝跡の可能性が高い。また、Ⅱ区の中世後半期の溝状遺構、SD222・223・242等の直線溝も区画溝の可能性が高い。SD222・223には水溜状の遺構と考えられるSX218・219等の大型で方形の落ち込みが付設されている。このような溝状遺構は県下の中世後半の集落では、屋敷地の外郭溝などで数例みられることから、SD222・223等は中世後半の区画溝と考えられる。

Ⅲ区ではSD301・302・304・306等が中世の溝跡にあたる。これらの溝跡は条里地割の坪塚線に合致している。Ⅲ区の東辺は条里地割の南北の坪塚線が隣接しており、同方向に概ね合致するのがSD301・302・306等の南北溝である。また、東西方向の坪塚線に合致するのがSD304である。

Ⅱ・Ⅲ区の条里地割に係わる溝跡は12世紀～13世紀頃に埋没した溝跡が主で、川津六反地遺跡周辺の条里地割の上限期を指す一資料ではあるが、条里地割の施行が古代まで遡る可能性が高いため、周辺地域の今後の資料増加に期待したい。

I区自然河川SR101は城山川の埋没河川であるが、中世から埋没を開始し、ある程度埋没した段



階の中世後半に多量の土器を廃棄している。特に足釜の個体数が多く、良資料になった。また、時期的に不明瞭な点もあるが、Ⅱ区からは鍛冶炉の炉壁や羽口等の資料が出土しており、集落内で野鍛冶が行われていた可能性が高い。

#### (6) 近世

近世の遺構は、Ⅱ区から比較的多数確認した。主要なものでは、SB201・203・204・205・207・208、SK201・202、SD209等の諸遺構が考えられ、概ねⅡ区西半部に集中する傾向が窺える。中世の住居等の中心はⅡ区東半部に集中することに對し、近世段階では大東川により近い西半部に集落域が移動したものと考えられる。西端部のⅠ区SR101の状況をみる限り、その背景には、大東川や城山川の氾濫源が安定し、農地開発が河川の隣接地にまで及んだことが考えられる。

### 3. 川津昭和遺跡の変遷

#### (1) 弥生時代

弥生時代の遺構としては、北西方向の直線溝SD501があげられる。この溝跡は調査区西際を南北に縦断する幹線水路である。時期的には弥生時代中期後半前後に掘削され、数度の改修を経過した後、最終的には終末期頃に埋没した溝状遺構である。

#### (2) 古代末～中世

古代末～中世の遺構として11世紀後半のSD502があげられる。この溝跡は周辺地域の条里型地割の坪界線に隣接し、方位も概ね合致することから、川津昭和遺跡周辺の条里地割の施行時期の上限を指す溝跡ではあるが、狭い範囲の調査であるため、周辺地域の資料増加に期待するところが多い。

#### (3) 近世以降

川津昭和遺跡からは、近世以降の遺構が多く、SE501・502・503、SK502・503・504・505・506・507・508・509等の遺構が確認できる。検出した土坑の多くは、廃棄物と考えられる遺物を多量に出土する事例が多く、宅地の建て替えに伴う廃棄土坑と考えられる。近世以降比較的長期にわたり宅地化していたものが、数度の建て替え等により形成されものがこれらの遺構であろう。

### 4. おわりに

川津六反地遺跡・川津昭和遺跡の歴史の変遷について簡単にまとめてみた。書き漏らした点は多々あるが、それらの諸問題については今後の課題としたい。

#### (参考文献)

- 広瀬 和雄 1986「中世の胎動」『岩波講座日本考古学6—変化と画期—』岩波書店  
大久保 徹也 1990「下川津遺跡といわゆる条里地割について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—下川津遺跡—』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団  
高橋 学 1995「臨海平野における地形環境の変遷と土地開発」『古代の環境と考古学』古今書院  
高橋 学 1995「古代の地形環境と土地開発・土地利用」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第7集』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「川津六反地遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999 平成10年度「川津六反地遺跡」〔財団法人 香川県埋蔵文化財センター年報〕  
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000 平成11年度「川津六反地遺跡」〔県道・河川関係埋蔵文化財発掘  
調査概報〕  
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2001 平成12年度「川津六反地遺跡、川津昭和遺跡」〔県道・河川関係  
埋蔵文化財発掘調査概報〕

## 第2節 川津六反地遺跡の剥片生産技術

### 1. はじめに

川津六反地遺跡のⅣ区で確認した、縄文時代の石器集中ブロック・サヌカイト集積遺構の整理作業に際しては、当時の石器生産技術の復元を目的にして整理作業を行なった。まず、石器類の特徴を掴むため属性分析に努めた。具体的には①石材の内訳による材質分類 ②サヌカイトの産地同定 ③剥片類の計測値等の統計処理 ④接合関係の検討等である。それらの分析・資料操作結果をふまえ、石器集中ブロック・サヌカイト集積遺構から出土した石器類のうち、剥片・石核・接合資料等に検討を加えることにより、川津六反地遺跡の石器生産技術の特徴を抽出したい。

### 2. サヌカイトの分類と産地同定

#### (1) サヌカイトの分類

出土したサヌカイトの肉眼観察では、風化等の違いにより数種類に細分できる。数種類のサヌカイトの微妙な違いは、原産地の相違が表れているものと推定される。その違いを探ることを目的として、サヌカイトを「白A・白B・普通・良質」の4種類に細分して検討することにした。

各遺構出土の石器類における石材別の内訳は第6表にまとめた。遺構別の傾向としては、集中1・4では普通が70%以上、集中3では良質が40%以上、集中2とサヌカイト集積遺構では白ABと普通を合わせた数値が80%以上を占めている。

#### (2) サヌカイトの産地同定

サヌカイトの原産地同定については、前章第2節で報告したように産地同定の分析を行なった。詳細な点は前章の分析結果を参照して頂くこととして、大まかな結果としては、「白A・白B」に分類したサヌカイトの原産地は、金山東南・金山南等金山産の可能性が考えられる。「普通」としたサヌカイトは1点金山産のデータはあるが、国分寺・連光寺産の可能性が高い。「良質」としたサヌカイトは、城山・金山西・金山南等の県内原産地を示すデータと、広島県の冠地域の飯山・針山地区を示すデータがある。サヌカイトの原産地が近いこの遺跡に、中国山地からサヌカイトが運ばれることは考え難いが、当時のサヌカイトの交易範囲の広さを考えた場合、否定できない結果である。つまり、一部を除き出土したサヌカイトの大多数は、川津六反地遺跡の東方に位置する、金山、国分寺・連光寺、城山等の近隣から採集されたものと考えられる。

第7表 遺構別 剥片の石材・打面等一覧

遺構別	サヌカイト材質 (%)			打面 (%)			
	白A B	普通	良質	平坦	調整	点	礫
集中1	20	74	5	39	16	43	2
集中2	33	45	20	42	19	36	3
集中3	37	19	44	39	24	34	3
集中4	6	73	20	31	31	33	5
サヌカイト 集積遺構	38	58	4	56	25	6	13

### 3. 剥片の属性

#### (1) 長・幅値の比較

剥片の計測値のうち長・幅について、集中ブロック別にグラフ化した。その結果、集中1・2・4は、長/1.0～1.4cm、幅/1.5～1.9cmにピークがあり、横長状を呈する剥片が主体を占める傾向が読みとれる。集中3は長/1.5～1.9cm、幅/1.5～1.9cmにピークがあり、長・幅値が同寸法の剥片が多いことが解る。次に長・調値と点数の関係では、集中1・2・4は長/2.5cm、幅/3.0～3.5cmを超えると点数が極端に減少し、5.0cmを超える剥片は数点しかない。また、集中3は長/2.5cm、幅/3.5cmを超えると点数が極端に減少し、集中1・2・4同様に5.0cmを超える剥片は数点である。つまり、全体的な傾向としては長・幅3.0～5.0cm以上の剥片は極端に少ないことが指摘できる。

石器集中ブロックから出土している石器類には10cmを超える遺物もあることから、出土した剥片類は石器製作に伴う調整過程で発生した剥片が主体を占めるものと考えられ、長・幅3.0～5.0cm以上の大多数の剥片は、目的剥片あるいは石器として集中ブロック外に持ち出されたものと考えられる。また、小剥片が主体を占めるのは、一つには剥片の残存状況がある。出土した剥片には何れかの箇所が折れにより欠損している剥片が多く、完形の剥片は極端に少ない。全体の計測値を押し下げている要因の一つにあげられる。おそらく、剥離作業の過程で発生する偶発的な剥離ミスによるものが数多く含まれていると考えられる。

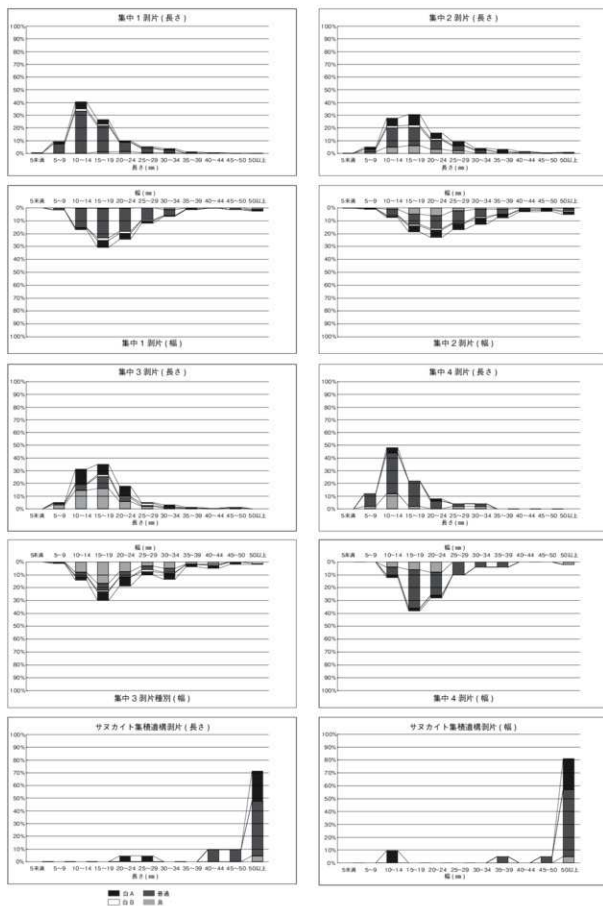
サヌカイト集積遺構から出土している石器類は、小型のものが20%、残りの80%は長・幅5.0cm以上の数値を示し、長/11.0cm、幅/16.0cmを測る大型の剥片もある。サヌカイト集積遺構は石器集中ブロックとは対照的で、多数の剥片が目的剥片ないし石核素材の条件を満たしており、石器生産を開始する前の、素材を集積している遺構であることが容易に推測される。ただ、出土した石器類については、当地で作製したのか、他地点で作製しこの場所に集積したのか、作製地点の問題がある。

#### (2) 打面の形状

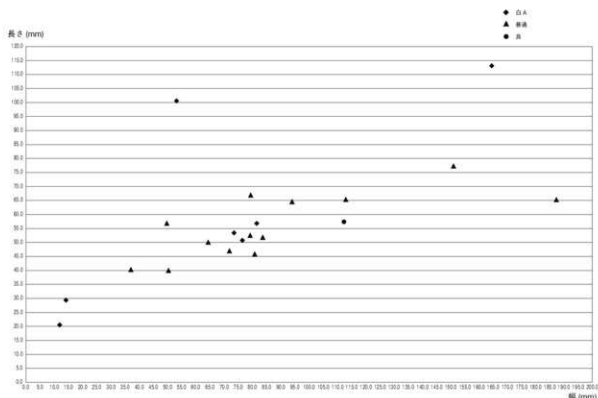
出土した剥片の打面の状況では、平坦打面と調整打面を合わせた数値が半数近い比率を示しており、ある程度打面を準備したうえで作業を行なっていることが解る。また、礫打面は極端に少なく、現地での作業が分割礫や大型の剥片素材の状態から開始されている傾向が窺える。

### 4. 接合資料について

集中1で2点、集中2で14点、集中3で2点の接合関係を掴むことができた。接合関係を整理すれば、剥片同士で接合する事例が16例、石核と剥片の接合例が2例を数える。剥片同士の接合例では折面同士が接合するパターンが多く、連続する剥片剥離による剥片同士が接合する事例は少ない。接合のパターンを細分すれば、以下の①～⑥のパターンに分けられる。



第 165 図 遺構別 出土割片の長・幅値比較



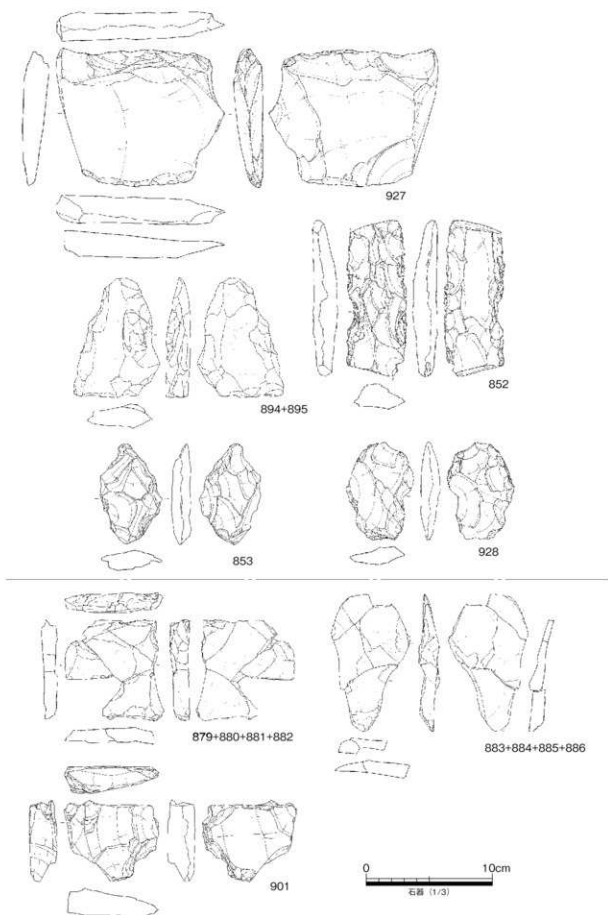
第 166 図 ササカイト集積遺構出土剥片の長・幅値

- ① 折面同士が接合する小剥片の接合資料 / 835+836・837+838・865+866・869+870・871+872・873+874・877+878・902+903・904+905
- ② 大型剥片の分割面上を加撃し、複数の剥片に分割している接合資料 / 884+884+885+886・879+880+881+882
- ③ 平坦打面から連続して剥片剥離を行なっている剥片同士の接合資料 / 861+862・863+864
- ④ 調整打面から連続して剥片剥離を行なっている剥片同士の接合資料 / 875+876・889+890
- ⑤ 石核と剥片の接合資料 / 891+892+893・894+895

以上の接合関係を総合すれば、①は小剥片が主で、先述した剥片の特徴と同様、剥離のミスによるものが主であろう。②の接合後の形状は、比較的大型の剥片である。前章でも触れたが、剥片の中には分割後に調整剥離している 881 等の接合資料もあることから、これらの接合資料は意図的な切断によるものと考えられる。③④は点数が少ないが、石器集中ブロック中で、打面を形成した後に連続する剥片剥離作業を行なっている確実な実例として重要な資料である。

#### 5. 石器集中ブロック・ササカイト集積遺構相互の関係

集中 1～4 については、石器組成及び出土した剥片類の状況等大きな相違はみられない。そのため、大きな時期差はないものと考えられる。ただ、集中 3 は出土した石材のうち良質が 4 割を占めている点と、剥片の長・幅値が他の集中ブロックの数値と僅かな相違を見出せる。数値の違いは使用する石材の差によるものと考えられるが、これらの違いが時期的な違いか、技術的な違いが表れているのか判断は難しい。



第 167 図 石器集中ブロック・サヌカイト集積出土石核

サヌカイト集積遺構は先述したように、約8割の遺物が目的剥片ないし石核素材の条件を満たしており、石器生産を開始する前の素材を集積している遺構であることは間違いなからう。また、検出状況から、石器集中ブロックとの明瞭な時期差は示す根拠は見出されない。先述したように、サヌカイト集積遺構の石器類については当地で作製したのか、他地点から当地に集積したのか、作製地点の問題を残しているが、石器集中ブロックとの接合関係が認められないため、他地点から当地に集積された可能性が高い。なお、遊離遺物のため問題があるが、Ⅱ・Ⅲ区等では石核素材を剥出できる 82・147・613・626等の大型石核が数点出土している。これらの状況を考慮すれば、他地点で行なわれたとしても、隣接地の可能性が高い。

## 6. 石核、接合資料の検討

石器集中ブロック・サヌカイト集積遺構が同時期のもつと仮定して、出土した資料に検討を加え、川津六反地遺跡の石器生産技術の特徴を抽出したい。出土した石器類の中で、石器生産技術の特徴を明確に残しているのは、石核、接合資料等の資料である。

出土した石核は集中1～集中3で6点、サヌカイト集積遺構で2点と数は少ない。これらの石核の素材は、厚さ2.0cm程度の厚みのある大型の剥片を素材としている点で共通する。石核を大別すると2種類に、細分すれば4種類に分類することができる。次に石核の分類について触れるが、括弧内の記載は出土した遺構名を記入していることを断っておく。

**石核Ⅰa類:**厚さ2.0cm前後の大型剥片を素材とし、素材の側縁部を作業面にあて、交互剥離の手法により剥片剥離を行なう。形状は不整形な板状を呈する。

834(集中1)・927(集積遺構)等があげられる。927は初期段階の石核と考えられ、大型の剥片を素材に用いていることが良く解る資料である。上下両側縁の2辺と、1短辺の3辺から剥片剥離を行ない、両側縁部では交互剥離の手法で剥片剥離を行なっている。

**石核Ⅰb類:**厚さ2.0cm前後の剥片を素材とし、主に左右両側縁部を作業面にあて、交互剥離の手法により剥片剥離を行なっている。器面は剥片剥離作業により両面加工状を呈し、形状は扁平で不整形な楕円形～尖頭器状の形態を呈する。

852(集中2)・894(集中2)等があげられる。894は剥片との接合資料で、側縁部の作業面上で横長状の小剥片895が接合する。

**石核Ⅰc類:**厚さ1.5～2.0cm前後の剥片を素材とし、器面は剥片剥離作業により両面加工状を呈する小型の石核である。主に側縁部から交互剥離の手法より剥片剥離を行なっている。形状は扁平で不整形な楕円形状を呈する。

853(集中2)・928(集積遺構)等があげられる。両者とも小型の石核であるが、厚さ1.5cm前後を測ることから、厚みのある大型剥片を素材としていることが解る。

**石核Ⅱ類:**厚さ2.0cm弱の大型剥片を素材とし、平坦な表裏面上からの加撃による切断手法により、複数の素材剥片を作製する。形状は平坦な板状を呈する。

接合資料 879+880+881+882(集中2)・883+884+885+886(集中2)・901(集中3)等があげられる。接合資料 879+880+881+882 では、作業面調整ないしは打面調整と考えられる、石核調整痕を側縁部に施している。

## 7. 剥片生産技術の検討

### (1) 石核Ⅰa～c類

石核Ⅰa～c類は、各々形状は大きく異なるが、素材に厚さ2.0cm前後の大型の剥片を用いることや、主には側縁部を作業面にあて、剥片剥離の際には交互剥離の手法を多用する共通点があり、剥片剥離作業の進捗状況の差が、石核Ⅰa～c類の残核形態の相違として表れている可能性が高い。

具体的には石核Ⅰa類が初期段階の石核と考えられ、この段階では素材面を大きく残している。次に、石核側縁部からの剥片剥離を順次進めれば、石核の幅は狭まり、形状は不整形な楕円形～尖頭器状の石核Ⅰb類の形状になる。また、石核Ⅰb類の剥片剥離作業を更に進めれば、小型で不整形な尖頭器状を呈する石核Ⅰc類に至り、この形状が最終の残核形態を表しているものと考えられる。

石核Ⅰa～c類から発生する目的剥片を、作業面に残る剥離痕から推定する。剥離の初期段階にあたる石核Ⅰa類では約5.0～8.0cm程度の剥片が主で、剥離作業が進行した石核Ⅰc類の段階では、3.0～5.0cm程度の小型の剥片が推定される。つまり、石核Ⅰa～c類から剥離される剥片は3.0～8.0cmまでの剥片が推定される訳である。比較例として、石器集中ブロックから出土している石鏃は、長さ1.7～3.5cm×幅1.6～2.1cmまでの数値を示し、石核Ⅰa～c類から発生する剥片の計測値の範囲内に納まり、同石核から剥離した剥片は、石鏃を作製する条件を備えた剥片の可能性が高いことになる。

計測値の比較から推定して、石核Ⅰa～c類の剥片生産の主目的は、石鏃等の小型石器の素材を得ることを目的としたものと考えられる。石核Ⅰa類～石核Ⅰc類に至る一連の手法と作業工程が、川津六反地遺跡の石器生産の主体となる技法の一つと考えられ、この剥片生産技術を仮に「川津六反地技法Ⅰ」と呼ぶことにする。

### (2) 石核Ⅱ類

石核Ⅱ類は、接合資料を基に復元した石核形態である。石核の中には、作業面調整ないしは打面調整と考えられる石核調整を側縁部に施している事例もあり、石核調整で形状を整えた後に剥片を取得する場合もある。得られた剥片は3.5～5.5cmの小型のものが多く、先述した技法Ⅰ同様、石鏃等の小型石器の素材として用いられた剥片であろう。なお、石核Ⅱ類に含まれる接合資料の剥片881には、分割後の側縁部に調整剥離痕が認められ、881は小型石器の製作途上の剥片と考えられる。これらの事例からも、石核Ⅱ類が小型石器の製作を主目的とした石核であることは間違いなさそう。

石核Ⅱ類の切断手法は他の石核と異なり、石核Ⅱ類の普遍的な手法とは考えられるが、出土した剥片・石核類には折面を残す資料が多く、意図的な切断によるものと、剥離ミスによるものを区別するのは困難である。そのため、この手法がどの程度多用されたかは更に検討する必要がある。なお、この剥片生産技術を仮に「川津六反地技法Ⅱ」と呼ぶ。

### (3) 二つの技法の比較

川津六反地技法Ⅰ・Ⅱを比較した場合、技法Ⅰの石核内に技法Ⅱの特徴である、切断手法による切断



面の可能性がある折面が認められる石核が数例ある。例えば、石核Ⅰa類の927は3辺の側縁部を作業面にしているが、残り1辺には折面が認められる。石核Ⅱ類の901は、2辺の切断面と1辺の交互剥離痕とが混在している。また、他の石核にも切断面の可能性がある折面が確認できる。全ての折面が意図的なものか判断があるが、二つの技法の係わりを示す可能性は高い。これらの事例から川津六反地遺跡の剥片生産技術は、二つの技法を包括した一連の石器生産システムが推定されるのであるが、具体案は今後の課題にしたい。

川津六反地遺跡の剥片生産技術と、他地域の技術との比較も今後の課題だが、一視点として中四国の縄文時代後期以降の遺跡で確認されている「洗谷型剥片剥離技術」(註1)との比較が有効であろう。洗谷型剥片剥離技術は板状石材を素材とし、石核素材を取得した後に幾つかの技法に分かれて石器生産を行なう技法で、素材の分割方法・交互剥離手法など、川津六反地遺跡の技法と幾つかの共通点が指摘できる。

## 8. おわりに

以上、簡単であるが、川津六反地遺跡の石器集中ブロック・サマサイト集積遺構から出土した縄文時代の石器生産について想いつくまに触れてみたが、出土した石核資料が少なく根拠の乏しい点は否めない。また、川津六反地技法Ⅰ・Ⅱの剥片生産工程内での具体的な係わりや、他地域の剥片剥離技術との比較については、別の機会に触れることにする。

最後に、整理作業の際には石器の分類方法や、接合資料の資料操作等で、森下英治・多田 仁・小野秀幸らの適切で有益な教示を受けた。記して感謝したい。

(補註)

(1) 竹広文明 1988「中国地方縄文時代の剥片石器—その組成・剥片剥離技術—」『考古学研究』第35巻第1号

(参考文献)

- 竹広文明 2011「香川産サマサイトの流通と石器製作—旧石器・縄文時代—」『平成23年度特別展「サマサイト—元始の鉄—」香  
芝市二上山博物館
- 山下平重 1999「第5章まとめ 第2節サマサイト集積遺構出土剥片について」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査  
報告 第34冊 国分寺六ツ目遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路  
公団
- 中四国縄文研究会 2009「中四国縄文研究会20周年記念大会 第2回西日本縄文文化研究会合同大会・環瀬戸内地域の打製石器  
石材利用」
- 香芝市二上山博物館 2011「平成23年度特別展「サマサイト—元始の鉄—」

# 觀察表



































第10頁 川津六反地溝築中1~4等出土石器觀察表(2)

器名	器番号	遺跡区分	埋藏層別	形式	測定		重量	寸法		器種	備考	
					長さ	幅		長さ	幅			
751	5287	10-1	埋藏層別	片石	26.0	9.5	0.51		1	1	1	片石、分形不明(厚さ1)
875	5291	10-1	埋藏層別	片石	27.5	9.5	0.51		1	1	1	片石、分形不明(厚さ2)
855	5285	10-1	埋藏層別	片石	23.0	8.0	0.43		1	1	1	片石、分形不明(厚さ)
857	5289	10-1	埋藏層別	片石	18.0	5.5	0.27		1	1	1	片石、分形不明(厚さ)
829	5283	10-1	埋藏層別	片石	22.0	8.0	0.43		1	1	1	片石、分形不明(厚さ)
860	5285	10-1	埋藏層別	片石	20.0	6.5	0.30	11.66	1	1	1	埋藏層別、525に類似
861	5211	10-1	埋藏層別	片石	30.0	9.0	0.43		1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
862	5293	10-1	埋藏層別	片石	19.0	4.0	0.26		1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
864	3889	10-1	埋藏層別	片石	14.0	27.0	5.5	1.29	1	1	1	片石、埋藏層別、埋藏層別
866	3478	10-1	埋藏層別	片石	42.0	20.0	17.0	21.43	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
867	5581	10-1	埋藏層別	片石	28.0	29.0	14.0	9.4	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
868	5589	10-1	埋藏層別	片石	20.0	25.0	12.0	11.65	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
869	5130	10-1	埋藏層別	片石	23.0	31.0	6.0	13.38	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
870	5628	10-1	埋藏層別	片石	16.0	13.0	6.0	7.22	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
871	5635	10-1	埋藏層別	片石	18.0	6.0	2.50	14.02	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
872	5524	10-1	埋藏層別	片石	20.0	14.0	10.0	6.22	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
873	5538	10-1	埋藏層別	片石	21.0	5.0	1.0	7.2	1	1	1	埋藏層別、525に類似
874	5539	10-1	埋藏層別	片石	31.0	30.0	10.0	10.27	1	1	1	埋藏層別、525に類似
875	51423	10-1	埋藏層別	片石	43.0	24.0	7.8	12.7	1	1	1	埋藏層別、525に類似
876	5319	10-1	埋藏層別	片石	38.0	28.0	12.0	12.5	1	1	1	埋藏層別、525に類似
878	5381	10-1	埋藏層別	片石	35.0	40.0	15.0	15.6	1	1	1	埋藏層別、527に類似
879	5382	10-1	埋藏層別	片石	30.0	30.0	13.0	20.9	1	1	1	片石、分形不明、529
881	5423	10-1	埋藏層別	片石	44.0	43.0	14.79		1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
882	5555	10-1	埋藏層別	片石	41.0	49.0	14.0	22.0	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
883	3882	10-1	埋藏層別	片石	23.0	24.0	7.0	5.6	1	1	1	埋藏層別、494に類似
884	51298	10-1	埋藏層別	片石	30.0	33.0	12.0	17.66	1	1	1	埋藏層別、502と503に類似
886	3852	10-1	埋藏層別	片石	11.0	41.0	16.0	11.66	1	1	1	片石、分形不明、503
887	5458	10-1	埋藏層別	片石	27.0	27.0	10.0	11.15	1	1	1	埋藏層別、502と504に類似
888	5586	10-1	埋藏層別	片石	40.0	34.0	13.0	15.6	1	1	1	埋藏層別、504に類似
890	5654	10-1	埋藏層別	片石	40.0	30.0	13.0	16.51	1	1	1	埋藏層別、509に類似
891	5417	10-1	埋藏層別	片石	24.0	31.0	17.0	20.52	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
892	51228	10-1	埋藏層別	片石	20.0	11.0	1.0	16.7	1	1	1	埋藏層別、502に類似、埋藏層別
894	6452	10-1	埋藏層別	片石	95.0	69.0	25.0	117.28	1	1	1	埋藏層別、494に類似
895	5051	10-1	埋藏層別	片石	20.0	19.0	11.0	24.0	1	1	1	埋藏層別、494に類似
896	524	10-1	埋藏層別	片石	48.0	61.0	17.0	26.4	1	1	1	片石、524
898	5759	10-1	埋藏層別	片石	23.0	26.0	10.0	4.25	1	1	1	片石、分形不明(厚さ4)
899	5557	10-1	埋藏層別	片石	11.0	29.0	6.0	2.31	1	1	1	埋藏層別(厚さ)
901	5271	10-1	埋藏層別	片石	46.0	35.0	22.0	18.26	1	1	1	埋藏層別、509に類似
902	51384	10-1	埋藏層別	片石	31.0	30.0	6.0	24.0	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
903	5143	10-1	埋藏層別	片石	22.0	12.0	5.0	1.86	1	1	1	片石、分形不明、埋藏層別
904	51584	10-1	埋藏層別	片石	18.0	19.0	2.0	1.2	1	1	1	埋藏層別、504に類似

第 10 表 川津六反地層跡集中 1 ~ 4 等出土石器観察表 (3)

番号 番号	土器番号	調査区	調査地点名	層位	種類	出土状況		目録		目録		目録		備考	
						目録	写真	目録	写真	目録	写真	目録	写真		
906	S320	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	3700	3170	800	1302	1	打痕
907	S1250	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	1500	2800	900	352	1	打痕
908	S1250	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	1600	2500	600	102	1	打痕
909	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	6700	1400	130	2069	1	打痕
910	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	6700	1400	130	2069	1	打痕
911	S219	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	9600	2900	1200	67.4	1	打痕
912	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	2500	1800	100	52.9	1	打痕
913	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	2500	1800	100	52.9	1	打痕
914	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	1300	1120	100	26.2	1	打痕
915	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	6100	1400	1100	2569	1	打痕
916	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	2900	6500	900	12.6	1	打痕
917	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	7900	4000	1600	80.21	1	打痕
918	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	7700	4000	1600	80.21	1	打痕
919	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	8600	3600	300	165.4	1	打痕
920	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	11000	6000	1500	103.6	1	打痕
921	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	11000	6000	1500	103.6	1	打痕
922	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	6700	7900	1200	67.67	1	打痕
923	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	7600	8600	1100	81.15	1	打痕
924	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	15000	11000	200	142.6	1	打痕
925	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	15000	11000	200	142.6	1	打痕
926	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	16000	11100	300	123.62	1	打痕
927	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	11000	13400	2500	275.24	1	打痕
928	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	11000	13400	2500	275.24	1	打痕
929	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	3100	3900	620	26.12	1	打痕
930	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	4300	6000	800	131.62	1	打痕
931	S267	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	5300	3000	1400	30.12	1	打痕
932	S267	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	5300	3000	1400	30.12	1	打痕
933	S267	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	3600	2100	500	4.1	1	打痕
934	S267	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	10000	5600	1600	85.52	1	打痕
935	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	4300	2900	1300	15.77	1	打痕
936	S319	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	4300	2900	1300	15.77	1	打痕
937	S267	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	1700	2600	600	2.66	1	打痕
938	S3131	北沢	東中4	層位	石	1	1	1	1	6700	6100	5600	258.63	1	打痕
計															
						26	4	85	23	22	14	11	4	4	69682

第 11 表 川津六反地層跡集中 1 割片・破片等石器観察表 (1)

番号 番号	土器番号	調査区	調査地点名	層位	種類	出土状況		目録		目録		目録		備考
						目録	写真	目録	写真	目録	写真	目録	写真	
S1	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	2000	1000	800	5.25	1	打痕
S2	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	2300	2000	700	3.27	1	打痕
S3	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	1700	1370	900	11.6	1	打痕
S4	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	1600	1900	240	14.67	1	打痕
S5	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	1300	2300	1370	10.6	1	打痕
S6	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	2100	2000	1400	1.25	1	打痕
S7	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	800	1180	300	1.68	1	打痕
S8	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	2100	660	680	5.52	1	打痕
S9	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	1100	2000	100	1.61	1	打痕
S10	北沢	東中1	層位	石	1	1	1	1	1400	1600	130	1.24	1	打痕

第 11 頁 川津六反地層集中 1 剝片・碎片等石器觀察表 (2)

石器番号	原産地	集積地	種別	用途	中央部 / 片厚		打面	重量 (g)		長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	状態	備考
					長さ	幅		長さ	幅					
S009	石沢	W15	S2	7.66	0.15	1	21.20	15.55	1.28	1.88	1	1	打面欠	
S022	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	19.60	23.20	1.39	1.94	1	1		
S023	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	14.50	21.38	2.20	1.05	1	1		
S025	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	20.00	15.05	2.25	0.87	1	1	打面欠	
S026	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	20.50	21.75	2.75	1.84	1	1	打面欠	
S027	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	15.00	19.45	2.75	1.08	1	1	打面欠	
S028	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	18.50	26.45	2.25	1.46	1	1	打面欠	
S029	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	6.75	10.85	2.20	0.19	1	1	打面欠	
S030	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	13.70	26.20	1.60	0.22	1	1	打面欠	
S031	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	12.30	17.00	2.28	0.41	1	1	打面欠	
S034	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	27.20	12.80	2.50	1.60	1	1		
S035	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	14.00	15.35	2.40	0.28	1	1		
S036	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	12.20	12.35	2.50	0.57	1	1		
S038	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	24.80	13.75	2.80	1.59	1	1		
S039	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	23.50	15.38	4.20	4.12	1	1		
S041	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	22.75	41.75	1.60	1.05	1	1		
S042	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	19.00	33.20	3.75	1.86	1	1	打面欠	
S043	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	11.20	14.20	2.20	0.45	1	1	打面欠	
S044	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	11.20	14.20	2.20	0.45	1	1	打面欠	
S045	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	13.20	17.00	1.25	0.58	1	1	打面欠	
S047	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	13.20	17.00	1.85	0.33	1	1		
S048	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	12.20	17.00	1.25	0.41	1	1		
S049	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	14.80	23.20	4.10	2.80	1	1	打面欠	
S051	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	12.10	24.00	1.50	0.58	1	1		
S052	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1					1	1		
S054	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	11.60	16.00	2.80	1.15	1	1		
S055	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	16.20	20.75	2.25	0.72	1	1		
S056	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	16.20	7.20	2.20	0.42	1	1		
S057	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	25.50	13.40	4.00	1.24	1	1		
S058	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	11.60	17.75	1.90	1.38	1	1		
S059	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	20.00	16.30	3.40	1.77	1	1	打面欠	
S061	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	12.50	19.00	1.90	1.15	1	1	打面欠	
S062	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	23.90	23.20	4.00	4.12	1	1		
S063	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	26.00	25.50	7.40	4.45	1	1		
S065	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	11.50	11.60	1.25	0.28	1	1		
S067	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	19.00	17.00	2.50	1.32	1	1	打面欠	
S068	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	18.20	24.60	2.20	1.78	1	1	打面欠	
S071	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	13.50	21.50	1.05	1.18	1	1	打面欠	
S072	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1	12.00	14.00	1.90	0.15	1	1		
S074	石沢	W10-1	S2	7.66	0.15	1					1.06	1.06	1	

第 11 表 川津六区地層跡集中 剥片・碎片等石器觀察表 (3)

石器番号	調査方法	層位	出土位置	出土層位	出土時期	出土状況	出土状況		形状	長さ	幅	厚さ	重量	材質	備考
							長さ	幅							
S0075	剥片	第0-1	33	7-273	剥片	1			18.30	29.75	3.10	0.74	1	1	1
S0076	剥片	第0-1	33	7-269	剥片	1			18.40	23.75	3.00	0.74	1		1
S0077	剥片	第0-1	33	7-281	剥片	1			12.75	14.75	1.50	0.11	1		1
S0078	剥片	第0-1	33	7-270	剥片	1									1
S0079	剥片	第0-1	33	7-251	剥片	1			20.60	26.90	8.20	3.17	1		1
S0080	剥片	第0-1	33	7-266	剥片	1			11.30	18.30	2.00	0.42	1		1
S0081	剥片	第0-1	33	7-267	剥片	1			11.30	18.30	2.00	0.42	1		1
S0082	剥片	第0-1	33	7-262	剥片	1			12.50	23.20	2.00	0.30	1		1
S0083	剥片	第0-1	33	7-262	剥片	1			10.20	17.60	4.10	0.54	1		1
S0084	剥片	第0-1	33	7-244	剥片	1			10.00	16.00	1.00	0.11	1		1
S0085	剥片	第0-1	33	7-259	剥片	1			12.60	17.70	1.75	0.30	1		1
S0086	剥片	第0-1	33	7-252	剥片	1			15.60	17.60	2.00	0.40	1		1
S0087	剥片	第0-1	33	7-271	剥片	1			13.30	23.20	2.40	1.13	1		1
S0088	剥片	第0-1	33	7-271	剥片	1			11.20	23.20	3.60	0.67	1		1
S0089	剥片	第0-1	33	7-255	剥片	1			11.20	12.30	1.20	0.11	1		1
S0090	剥片	第0-1	33	7-269	剥片	1			18.60	26.30	4.20	1.99	1		1
S0091	剥片	第0-1	33	7-268	剥片	1			7.50	15.70	1.20	0.25	1		1
S0092	剥片	第0-1	33	7-265	剥片	1			21.00	24.70	3.40	3.25	1		1
S0093	剥片	第0-1	33	7-264	剥片	1			6.00	14.60	2.20	0.20	1		1
S0094	剥片	第0-1	33	7-264	剥片	1			8.20	19.20	4.20	0.59	1		1
S0095	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0096	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0097	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0098	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0099	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0100	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0101	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0102	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0103	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0104	剥片	第0-1	33	7-264	剥片	1			21.00	18.80	7.20	1.72	1		1
S0105	剥片	第0-1	33	7-272	剥片	1			18.80	23.20	4.80	1.22	1		1
S0106	剥片	第0-1	33	7-264	剥片	1			21.50	19.20	6.00	1.28	1		1
S0107	剥片	第0-1	33	7-264	剥片	1			21.50	19.20	6.00	1.28	1		1
S0108	剥片	第0-1	33	7-268	剥片	1									1
S0109	剥片	第0-1	33	7-265	剥片	1			14.80	4.75	1.20	0.16	1		1
S0110	剥片	第0-1	33	7-265	剥片	1			10.30	25.00	2.20	0.13	1		1
S0111	剥片	第0-1	33	7-266	剥片	1									1
S0112	剥片	第0-1	33	7-266	剥片	1			6.20	13.80	1.80	0.17	1		1
S0113	剥片	第0-1	33	7-247	剥片	1			8.20	14.60	2.00	0.24	1		1
S0114	剥片	第0-1	33	7-266	剥片	1									1
S0115	剥片	第0-1	33	7-266	剥片	1									1
S0116	剥片	第0-1	33	7-267	剥片	1			14.70	20.00	4.00	1.40	1		1
S0117	剥片	第0-1	33	7-267	剥片	1									1
S0118	剥片	第0-1	33	7-262	剥片	1									1
S0119	剥片	第0-1	33	7-266	剥片	1									1
S0120	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1			13.20	25.70	2.80	0.58	1		1
S0121	剥片	第0-1	33	7-269	剥片	1			10.70	13.20	1.40	0.13	1		1
S0122	剥片	第0-1	33	7-260	剥片	1									1
S0123	剥片	第0-1	33	7-263	剥片	1			16.60	26.20	3.00	1.30	1		1
S0124	剥片	第0-1	33	7-265	剥片	1			14.80	29.00	4.70	1.17	1		1
S0125	剥片	第0-1	33	7-265	剥片	1			15.00	29.00	4.70	1.17	1		1
S0126	剥片	第0-1	33	7-262	剥片	1			15.00	14.20	2.70	0.26	1		1
S0127	剥片	第0-1	33	7-242	剥片	1			15.00	14.20	2.70	0.26	1		1
S0128	剥片	第0-1	33	7-253	剥片	1			14.20	19.00	3.10	0.29	1		1
S0129	剥片	第0-1	33	7-256	剥片	1			14.20	19.00	3.10	0.29	1		1

第 11 表 川津六反地層集中 1 剥片・碎片等石器觀察表 (4)

石器番号	原産地	単片/片数	種類	用途	中央部/片数			打面	重量 (g)			備考
					打込	打割	打片		長さ	幅	厚さ	
S129	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	12.20	14.10	2.84	1
S130	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	11.20	12.20	2.16	1
S131	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	11.20	12.20	2.16	1
S132	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	13.70	17.20	7.00	1
S133	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	13.70	17.20	7.00	1
S134	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	13.70	17.20	7.00	1
S135	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	13.70	17.20	7.00	1
S136	W15	W11	33	7,607	W11	1	1	1	13.70	17.20	7.00	1
S137	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	9.60	20.60	2.28	1
S138	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	10.60	20.20	2.01	1
S139	W15	W11	33	7,606	W11	1	1	1	10.60	20.20	2.01	1
S140	W15	W11	33	7,605	W11	1	1	1	13.60	27.60	4.20	1
S141	W15	W11	33	7,605	W11	1	1	1	13.60	27.60	4.20	1
S142	W15	W11	34	7,602	W11	1	1	1	13.60	27.60	4.20	1
S143	W15	W11	34	7,602	W11	1	1	1	13.60	27.60	4.20	1
S144	W15	W11	34	7,602	W11	1	1	1	13.60	27.60	4.20	1
S145	W15	W11	34	7,605	W11	1	1	1	15.70	25.50	3.00	1
S146	W15	W11	34	7,602	W11	1	1	1	13.20	24.00	3.10	1
S147	W15	W11	34	7,602	W11	1	1	1	11.80	22.70	2.20	1
S148	W15	W11	34	7,602	W11	1	1	1	11.80	22.70	2.20	1
S149	W15	W11	34	7,600	W11	1	1	1	21.00	65.60	11.70	1
S150	W15	W11	34	7,611	→(S13, L.A. 011)	1	1	1	20.70	65.00	11.60	1
S151	W15	W11	34	7,605	W11	1	1	1	10.00	15.00	2.00	1
S152	W15	W11	34	7,605	W11	1	1	1	10.00	15.00	2.00	1
S153	W15	W11	34	7,605	W11	1	1	1	10.00	15.00	2.00	1
S154	W15	W11	34	7,609	W11	1	1	1	26.00	17.10	2.20	1
S155	W15	W11	34	7,624	W11	1	1	1	17.70	33.00	7.00	1
S156	W15	W11	34	7,624	W11	1	1	1	17.70	33.00	7.00	1
S157	W15	W11	34	7,700	W11	1	1	1	14.10	24.10	2.20	1
S158	W15	W11	34	7,697	W11	1	1	1	11.70	20.10	1.17	1
S159	W15	W11	34	7,697	W11	1	1	1	11.70	20.10	1.17	1
S160	W15	W11	34	7,774	W11	1	1	1	17.20	23.50	2.90	1
S161	W15	W11	34	7,616	W11	1	1	1	21.10	20.90	4.00	1
S162	W15	W11	34	7,696	W11	1	1	1	11.80	16.00	1.80	1
S163	W15	W11	34	7,696	W11	1	1	1	11.80	16.00	1.80	1
S164	W15	W11	34	7,626	W11	1	1	1	14.50	16.40	2.20	1
S165	W15	W11	34	7,626	W11	1	1	1	14.50	16.40	2.20	1
S166	W15	W11	34	7,636	W11	1	1	1	11.00	17.20	2.30	1
S167	W15	W11	34	7,636	W11	1	1	1	11.00	17.20	2.30	1
S168	W15	W11	35	7,608	W11	1	1	1	26.20	36.10	6.20	1
S169	W15	W11	35	7,605	W11	1	1	1	36.00	23.20	3.00	1
S170	W15	W11	35	7,600	W11	1	1	1	35.20	15.70	2.30	1
S171	W15	W11	35	7,625	W11	1	1	1	12.00	17.50	2.10	1
S172	W15	W11	35	7,625	W11	1	1	1	12.00	17.50	2.10	1
S173	W15	W11	35	7,640	W11	1	1	1	21.70	14.70	2.40	1
S174	W15	W11	35	7,640	W11	1	1	1	21.70	14.70	2.40	1
S175	W15	W11	35	7,695	W11	1	1	1	17.20	24.20	3.20	1
S176	W15	W11	35	7,695	W11	1	1	1	17.20	24.20	3.20	1
S177	W15	W11	35	7,693	W11	1	1	1	26.00	34.10	6.60	1
S178	W15	W11	35	7,693	W11	1	1	1	26.00	34.10	6.60	1
S179	W15	W11	35	7,614	W11	1	1	1	18.40	28.50	4.00	1
S180	W15	W11	35	7,614	W11	1	1	1	18.20	28.10	3.90	1
S181	W15	W11	35	7,706	W11	1	1	1	19.80	23.80	3.20	1
S182	W15	W11	35	7,695	W11	1	1	1	12.40	21.70	2.50	1
S183	W15	W11	35	7,695	W11	1	1	1	12.40	21.70	2.50	1
S184	W15	W11	35	7,695	W11	1	1	1	14.70	17.20	2.30	1
S185	W15	W11	35	7,695	W11	1	1	1	14.70	17.20	2.30	1
S186	W15	W11	35	7,609	W11	1	1	1	10.90	14.90	1.60	1
S187	W15	W11	35	7,609	W11	1	1	1	10.90	14.90	1.60	1
S188	W15	W11	35	7,609	W11	1	1	1	10.90	14.90	1.60	1

第 11 表 川津六区地層跡集中 剥片・碎片等石器觀察表 (5)

石器番号	調査方法	器種名	材料	標本号	石の大きさ (mm)			重量 (g)	長さ (mm)	幅 (mm)		厚さ (mm)	重量 (g)	観察法		備考	
					長さ	幅	幅			観察法	観察法						
S1327	剥片	破片	105	7809	011	1	1	1	10.00	12.00	1.75	1.36	1	1	1	1	
S1389	剥片	破片	105	7809	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S1390	剥片	破片	105	7809	011	1	1	1	15.70	25.75	2.90	1.66	1	1	1	1	
S1391	剥片	破片	105	7809	011	1	1	1	17.80	23.10	3.40	2.07	1	1	1	1	
S1392	剥片	破片	105	7811	011	1	1	1	12.30	13.50	1.60	0.27	1	1	1	1	1
S1393	剥片	破片	105	7800	011	1	1	1	14.50	15.50	1.60	1.15	1	1	1	1	
S1394	剥片	破片	105	7802	011	1	1	1	14.40	22.80	3.40	1.80	1	1	1	1	
S1395	剥片	破片	105	7807	011	1	1	1	16.50	23.90	3.20	1.13	1	1	1	1	
S1396	剥片	破片	105	7809	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S1397	剥片	破片	105	7822	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S1398	剥片	破片	105	7828	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S2071	剥片	破片	105	7826	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S2072	剥片	破片	101	7804	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S2073	剥片	破片	101	7828	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S2074	剥片	破片	101	7808	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S2075	剥片	破片	101	7804	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S2076	剥片	破片	101	7804	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S2077	剥片	破片	101	7802	011	1	1	1	23.20	28.10	3.10	1.82	1	1	1	1	
S2078	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	17.90	21.90	3.00	1.68	1	1	1	1	
S2079	剥片	破片	101	7805	011	1	1	1	15.70	25.75	2.90	1.66	1	1	1	1	
S2080	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	16.00	24.60	2.90	1.56	1	1	1	1	
S2081	剥片	破片	101	7808	011	1	1	1	16.00	24.60	2.90	1.56	1	1	1	1	
S2082	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	26.10	33.60	34.80	82.24	1	1	1	1	
S2083	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	26.10	33.60	34.80	82.24	1	1	1	1	
S2084	剥片	破片	101	7828	011	1	1	1	41.20	45.10	5.10	5.24	1	1	1	1	
S2085	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	10.00	20.00	4.00	1.55	1	1	1	1	
S2086	剥片	破片	101	7806	011	1	1	1	4.00	14.00	2.50	1.40	1	1	1	1	
S2087	剥片	破片	101	7806	011	1	1	1	4.00	14.00	2.50	1.40	1	1	1	1	
S2088	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	9.60	19.20	2.70	1.02	1	1	1	1	
S2089	剥片	破片	101	7816	二酸化ケイ素製成	1	1	1	20.40	26.20	4.00	1.13	1	1	1	1	
S2090	剥片	破片	101	7816	二酸化ケイ素製成	1	1	1	20.40	26.20	4.00	1.13	1	1	1	1	
S2091	剥片	破片	101	7804	011	1	1	1	19.10	27.40	1.60	0.77	1	1	1	1	
S2092	剥片	破片	101	7804	011	1	1	1	19.10	27.40	1.60	0.77	1	1	1	1	
S2093	剥片	破片	101	7804	011	1	1	1	19.10	27.40	1.60	0.77	1	1	1	1	
S2094	剥片	破片	101	7802	011	1	1	1	12.40	16.00	2.30	0.43	1	1	1	1	
S2095	剥片	破片	101	7806	011	1	1	1	23.00	26.00	4.80	2.07	1	1	1	1	
S2096	剥片	破片	101	7806	011	1	1	1	23.00	26.00	4.80	2.07	1	1	1	1	
S2097	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	18.20	22.10	2.90	1.60	1	1	1	1	
S2098	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	22.60	25.80	4.80	1.76	1	1	1	1	
S2099	剥片	破片	101	7811	二酸化ケイ素製成	1	1	1	11.20	15.20	1.60	0.31	1	1	1	1	
S2100	剥片	破片	101	7811	二酸化ケイ素製成	1	1	1	11.20	15.20	1.60	0.31	1	1	1	1	
S2101	剥片	破片	101	7811	二酸化ケイ素製成	1	1	1	41.30	46.60	4.80	5.76	1	1	1	1	
S2102	剥片	破片	105	7823	011	1	1	1	23.40	27.50	30.50	60.62	1	1	1	1	
S2103	剥片	破片	105	7817	011	1	1	1	15.10	18.00	4.70	0.65	1	1	1	1	
S2104	剥片	破片	105	7806	011	1	1	1	18.80	24.70	4.70	1.75	1	1	1	1	
S2105	剥片	破片	105	7806	011	1	1	1	18.80	24.70	4.70	1.75	1	1	1	1	
S2106	剥片	破片	105	7806	011	1	1	1	18.80	24.70	4.70	1.75	1	1	1	1	
S2107	剥片	破片	101	7811	011	1	1	1	10.40	18.40	2.50	0.66	1	1	1	1	
S2108	剥片	破片	101	7810	二酸化ケイ素製成	1	1	1	20.00	46.20	12.60	21.12	1	1	1	1	
S2109	剥片	破片	101	7810	二酸化ケイ素製成	1	1	1	20.00	46.20	12.60	21.12	1	1	1	1	
S2110	剥片	破片	101	7804	011	1	1	1	11.20	15.20	1.60	0.31	1	1	1	1	
S2111	剥片	破片	101	7804	011	1	1	1	11.20	15.20	1.60	0.31	1	1	1	1	
S2112	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	12.20	24.80	2.90	1.12	1	1	1	1	
S2113	剥片	破片	101	7809	011	1	1	1	11.20	16.20	2.00	0.43	1	1	1	1	







第 11 页 川津六反地縄縄集中 1. 剥片・碎片等石器観察表 (8)

旧石器層	遺跡名		層位	種別	目録番号	中央大学付属考古学研究所蔵		打田			直島 10000 跡			成瀬半島		備考
	遺跡コード	層位				種別	数量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	
S1002	W1C	W1C1	23	7652	W1C1	1	1	1	1	1	11.00	31.10	4.60	0.107	1	
S1004	W1C	W1C1	23	7662	W1C1	1	1	1	1	1	9.20	25.50	2.50	0.106	1	1 打田%
S1006	W1C	W1C1	13	7699	W1C1	1	1	1	1	1	12.20	13.90	1.20	0.124	1	1 打田%
S1008	W1C	W1C1	23	7682	W1C1	1	1	1	1	1	13.20	28.80	3.30	0.161	1	
S796	W1C	W1C1	23	7667	W1C1	1	1	1	1	1	13.90	39.90	2.40	0.114	1	
S1400	W1C	W1C1	23	7671	W1C1	1	1	1	1	1	13.30	28.80	2.30	0.110	1	
S1402	W1C	W1C1	23	7668	W1C1	1	1	1	1	1	11.60	14.70	1.20	0.122	1	1 打田%
S1404	W1C	W1C1	23	7675	W1C1	1	1	1	1	1	13.60	25.50	2.30	0.110	1	
S1406	W1C	W1C1	23	7664	W1C1	1	1	1	1	1	11.00	12.10	1.20	0.122	1	
S1408	W1C	W1C1	23	7674	W1C1	1	1	1	1	1	11.90	12.10	1.40	0.20	1	1 打田%
S1410	W1C	W1C1	23	7685	W1C1	1	1	1	1	1	12.00	15.00	1.70	0.28	1	
S1412	W1C	W1C1	23	7689	W1C1	1	1	1	1	1				0.105		
S1414	W1C	W1C1	23	7694	W1C1	1	1	1	1	1	10.90	12.20	2.20	0.22	1	
S1416	W1C	W1C1	23	7666	W1C1	1	1	1	1	1	13.60	14.80	4.10	0.180	1	1 打田%
S1418	W1C	W1C1	23	7709	W1C1	1	1	1	1	1	9.70	16.20	2.10	0.118	1	
S1420	W1C	W1C1	23	7684	W1C1	1	1	1	1	1				0.118		
S1422	W1C	W1C1	23	7696	W1C1	1	1	1	1	1	27.10	20.20	4.30	1.44	1	
S1424	W1C	W1C1	23	7692	W1C1	1	1	1	1	1	6.50	13.70	4.10	0.25	1	1 打田%
S1426	W1C	W1C1	23	7688	W1C1	1	1	1	1	1	14.60	12.60	2.60	0.222	1	1 打田%
S1428	W1C	W1C1	23	7652	W1C1	1	1	1	1	1	10.90	17.20	3.00	0.65	1	1 打田%
S1430	W1C	W1C1	23	7683	W1C1	1	1	1	1	1	10.90	17.20	3.00	0.69	1	1 打田%
S1432	W1C	W1C1	23	7682	W1C1	1	1	1	1	1				0.108		
S1434	W1C	W1C1	23	7682	W1C1	1	1	1	1	1	12.90	23.50	3.00	0.157	1	1 打田%
S1436	W1C	W1C1	23	7679	W1C1	1	1	1	1	1	14.50	14.60	2.20	0.136	1	
S1438	W1C	W1C1	23	7684	W1C1	1	1	1	1	1	14.60	12.60	2.60	0.222	1	1 打田%
S1440	W1C	W1C1	23	7684	W1C1	1	1	1	1	1	12.90	18.90	3.30	0.180	1	
S1442	W1C	W1C1	23	7686	W1C1	1	1	1	1	1				0.127		
S1444	W1C	W1C1	23	7686	W1C1	1	1	1	1	1	20.70	27.60	3.30	0.28	1	
S1446	W1C	W1C1	23	7682	W1C1	1	1	1	1	1	18.80	24.60	2.50	1.26	1	
S1448	W1C	W1C1	23	7685	W1C1	1	1	1	1	1	13.90	31.70	3.30	1.61	1	
S1450	W1C	W1C1	23	7684	W1C1	1	1	1	1	1	18.00	35.20	3.60	1.01	1	1
S1452	W1C	W1C1	23	7661	W1C1	1	1	1	1	1	12.20	14.50	1.30	0.119	1	
S1454	W1C	W1C1	23	7689	W1C1	1	1	1	1	1	27.10	20.20	2.60	0.23	1	
S1456	W1C	W1C1	23	7727	W1C1	1	1	1	1	1				0.100		
S1458	W1C	W1C1	23	7728	W1C1	1	1	1	1	1	14.20	24.20	2.90	0.29	1	
S1460	W1C	W1C1	23	7745	W1C1	1	1	1	1	1	11.10	13.10	1.01	0.26	1	
S1462	W1C	W1C1	23	7598	W1C1	1	1	1	1	1				0.106		
S1464	W1C	W1C1	23	7605	W1C1	1	1	1	1	1	29.20	13.80	2.40	2.71	1	2 打田%
S1466	W1C	W1C1	23	7689	W1C1	1	1	1	1	1				0.135		
S1468	W1C	W1C1	23	7682	W1C1	1	1	1	1	1	19.20	26.70	4.60	2.14	1	
S1470	W1C	W1C1	23	7683	W1C1	1	1	1	1	1				0.110		



第 12 表 川津六反地溝集集中之剥片・碎片等石器觀察表 (2)

石器番号	原産地	器名	形状	打込	中央部ノ打痕			打面	重量 (g)			備考	
					長さ	幅	厚		長さ	幅	厚		
S222	石原	剥片	2500	1	1	1	1	21.70	15.50	2.8	1.01	1	打痕欠
S223	石原	剥片	2617	011	1	1	1	18.20	24.20	2.20	2.26	1	打痕欠
S224	石原	剥片	2706	015	1	1	1	17.40	23.10	3.00	1.00	1	打痕欠
S430	石原	剥片	2720	011	1	1	1	15.50	25.20	2.20	1.00	1	打痕欠
S431	石原	剥片	2726	011	1	1	1	13.00	24.40	2.30	1.20	1	打痕欠
S431	石原	剥片	2726	011	1	1	1	13.00	23.70	2.30	1.00	1	打痕欠
S432	石原	剥片	2720	011	1	1	1	19.50	34.00	2.20	2.24	1	打痕欠
S433	石原	剥片	2720	011	1	1	1	13.50	17.20	2.20	1.00	1	打痕欠
S434	石原	剥片	2720	011	1	1	1	20.00	31.50	2.00	1.50	1	打痕欠
S435	石原	剥片	2720	011	1	1	1	14.20	27.60	1.80	1.11	1	打痕欠
S436	石原	剥片	2720	011	1	1	1	19.60	12.90	2.00	1.00	1	打痕欠
S437	石原	剥片	2720	011	1	1	1	23.20	26.20	3.10	3.20	1	打痕欠
S438	石原	剥片	2720	011	1	1	1	13.10	14.40	2.50	1.20	1	打痕欠
S439	石原	剥片	2720	011	1	1	1	17.20	24.80	1.60	1.10	1	打痕欠
S440	石原	剥片	2720	011	1	1	1	20.60	27.40	3.00	2.00	1	打痕欠
S441	石原	剥片	2720	011	1	1	1	18.80	24.60	1.10	1.20	1	打痕欠
S442	石原	剥片	2720	011	1	1	1	16.20	17.20	1.50	1.00	1	打痕欠
S443	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.60	19.80	2.50	2.00	1	打痕欠
S444	石原	剥片	2700	011	1	1	1	13.20	15.20	2.00	1.20	1	打痕欠
S445	石原	剥片	2700	011	1	1	1	16.70	26.50	3.20	1.80	1	打痕欠
S446	石原	剥片	2700	011	1	1	1	21.30	43.20	3.20	2.50	1	打痕欠
S447	石原	剥片	2700	011	1	1	1	25.20	27.20	2.10	1.00	1	打痕欠
S448	石原	剥片	2700	011	1	1	1	20.20	28.50	1.30	1.60	1	打痕欠
S449	石原	剥片	2700	011	1	1	1	6.00	14.80	2.40	1.24	1	打痕欠
S450	石原	剥片	2700	011	1	1	1	20.10	25.00	1.60	1.20	1	打痕欠
S451	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.40	27.50	4.20	3.00	1	打痕欠
S452	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.90	18.20	2.70	1.01	1	打痕欠
S453	石原	剥片	2700	011	1	1	1	18.20	25.20	2.00	1.20	1	打痕欠
S454	石原	剥片	2700	011	1	1	1	13.20	24.20	1.60	1.40	1	打痕欠
S455	石原	剥片	2700	011	1	1	1	22.20	20.70	2.40	4.04	1	打痕欠
S456	石原	剥片	2700	011	1	1	1	25.60	22.20	2.20	1.20	1	打痕欠
S457	石原	剥片	2700	011	1	1	1	16.20	17.20	1.50	1.00	1	打痕欠
S458	石原	剥片	2700	011	1	1	1	20.20	24.20	1.60	1.20	1	打痕欠
S459	石原	剥片	2700	011	1	1	1	13.20	24.20	1.60	1.40	1	打痕欠
S460	石原	剥片	2700	011	1	1	1	22.20	20.70	2.40	4.04	1	打痕欠
S461	石原	剥片	2700	011	1	1	1	16.20	17.20	1.50	1.00	1	打痕欠
S462	石原	剥片	2700	011	1	1	1	13.20	24.20	1.60	1.40	1	打痕欠
S463	石原	剥片	2700	011	1	1	1	22.20	20.70	2.40	4.04	1	打痕欠
S464	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S465	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S466	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S467	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S468	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S469	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S470	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S471	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S472	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S473	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S474	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S475	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S476	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S477	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S478	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S479	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S480	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S481	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S482	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S483	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S484	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S485	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S486	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S487	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S488	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S489	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S490	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S491	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S492	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S493	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S494	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S495	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S496	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S497	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S498	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠
S499	石原	剥片	2700	011	1	1	1	24.20	13.20	2.40	2.40	1	打痕欠
S500	石原	剥片	2700	011	1	1	1	14.20	15.20	1.20	1.20	1	打痕欠



第 12 表 川津六反地遺跡集之 2 期片・碎片等石器調査表 (4)

品目番号	器種名	形状	重量 (g)	器種	中央部ノ修理			打面	質量 (mm)		備考		
					打込	打直	打直		長さ	幅			
S528	石片	片状	3.38	0.01	1	1	1	12.00	25.20	2.48	0.66	1	片断状、2 期片 (1)
S529	石片	片状	6.37	2.720	0.01	1	1	13.00	24.50	4.25	0.79	1	片断状
S530	石片	片状	3.36	1.730	0.01	1	1	20.00	14.00	1.30	1.46	1	片断状
S531	石片	片状	7.80	2.830	0.01	1	1	14.00	24.00	1.50	1.48	1	片断状
S532	石片	片状	6.57	2.927	0.01	1	1	14.00	23.00	3.25	1.48	1	片断状
S533	石片	片状	6.57	2.762	0.01	1	1	12.20	22.50	2.60	1.00	1	片断状
S534	石片	片状	5.17	1.792	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S535	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S536	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S537	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S538	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S539	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S540	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S541	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S542	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S543	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S544	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S545	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S546	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S547	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S548	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S549	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S550	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S551	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S552	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S553	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S554	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S555	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S556	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S557	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S558	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S559	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S560	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S561	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S562	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S563	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S564	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S565	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S566	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S567	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S568	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S569	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S570	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S571	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S572	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S573	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S574	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S575	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S576	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S577	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S578	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S579	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S580	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S581	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S582	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S583	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S584	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状
S585	石片	片状	6.57	2.926	0.01	1	1	13.20	13.00	1.60	0.76	1	片断状

第 12 表 川津六区地層跡集中之割片・破片等石器觀察表 (5)

石器番号	調査方法	割片番号	割片位置	層名	出土位置	出土層	出土位置	出土層	割片		破片		片状		片状		破片		備考		
									長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅			
S203	RF	割片-2	1.18	7.90	RF1	1	1	1	12.30	28.80	2.26	1.04	1								
S204	RF	割片-2	1.18	7.90	RF1	1	1	1	13.50	29.20	3.30	2.20	1								
S205	RF	割片-2	1.18	7.90	RF1	1	1	1	20.00	40.50	3.08	1.17	1							1	
S206	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	18.40	27.60	1.83	1.35	1							1	
S207	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1													
S208	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	12.70	28.90	3.28	1.78	1							1	
S209	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	24.80	20.60	5.50	2.27	1							1	
S210	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	14.90	17.90	6.00	1.10	1							1	
S211	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	9.00	19.80	1.89	1.13	1							1	
S212	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	10.10	20.70	1.20	1.05	1							1	
S213	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	22.00	30.00	6.20	1.11	1								
S214	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	22.00	41.30	5.60	3.59	1								
S215	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	13.80	33.30	4.85	1.86	1							1	
S216	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	20.20	18.80	3.90	1.05	1							1	
S217	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	15.50	23.80	3.30	1.18	1								
S218	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	20.10	33.20	6.00	4.86	1								
S219	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	20.70	23.00	4.80	2.10	1							1	
S220	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	13.20	26.80	4.60	1.25	1								
S221	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	20.60	15.60	6.30	2.54	1								
S222	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	11.80	25.20	5.50	1.62	1								
S223	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	17.60	20.50	6.60	1.92	1							1	
S224	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	28.10	12.70	3.80	1.66	1							1	
S225	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	20.00	40.30	4.80	1.33	1								
S226	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	8.30	18.80	3.30	1.61	1							1	
S227	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1													
S228	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	10.00	27.80	4.70	1.38	1								
S229	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	27.80	20.10	11.00	4.85	1							1	
S230	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	28.00	35.00	5.20	3.20	1							1	
S231	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	28.00	38.20	2.28	3.27	1								
S232	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	11.20	20.50	3.20	1.54	1							1	
S233	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1													
S234	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	14.30	21.10	3.30	1.58	1							1	
S235	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	10.80	30.00	10.00	1.30	1							1	
S236	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	13.80	20.00	2.68	1.54	1							1	
S237	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	10.80	30.00	10.00	1.30	1							1	
S238	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	14.40	30.70	3.60	1.83	1							1	
S239	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	28.20	20.70	4.80	3.20	1							1	
S240	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	10.70	20.80	3.80	1.62	1							1	
S241	RF	割片-2	3.28	7.75	RF1	1	1	1	18.20	30.20	8.30	2.94	1								





第 12 表 川津六区地溝跡集中 2 割片・破片等石器調査表 (7)

石器番号	調査方法	出土層位	割片・破片	種類	出土位置	出土層位	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	測定値		備考
												長さ	幅	
S038	1F 1C	溝口 2	S17	7.80	011	1	1	16.20	17.70	3.30	0.08	1	1	1F 掘出
S039	1F 1C	溝口 2	S18	7.92	011	1	1	19.10	26.40	3.00	1.32	1	1	1F 掘出
S040	1F 1C	溝口 2	S19	7.80	011	1	1	10.80	20.20	2.30	1.10	1	1	1F 掘出
S041	1F 1C	溝口 2	S20	7.80	011	1	1	12.20	26.40	3.60	1.33	1	1	1F 掘出
S042	1F 1C	溝口 2	S19	7.84	011	1	1	14.20	22.40	4.50	0.96	1	1	1F 掘出
S043	1F 1C	溝口 2	S18	7.86	011	1	1	12.00	14.20	2.40	0.55	1	1	1F 掘出
S044	1F 1C	溝口 2	S19	7.74	011	1	1	11.20	13.00	1.40	0.36	1	1	1F 掘出
S045	1F 1C	溝口 2	S18	7.74	011	1	1	33.60	73.60	8.20	18.60	1	1	1F 掘出
S046	1F 1C	溝口 2	S18	7.82	011	1	1	19.10	13.50	2.70	0.58	1	1	1F 掘出
S047	1F 1C	溝口 2	S19	7.82	011	1	1	14.80	24.20	3.20	0.99	1	1	1F 掘出
S048	1F 1C	溝口 2	S17	7.81	011	1	1	19.80	14.20	3.00	3.17	1	1	1F 掘出
S049	1F 1C	溝口 2	S17	7.82	011	1	1	14.20	15.10	2.00	0.45	1	1	1F 掘出
S050	1F 1C	溝口 2	S17	7.82	011	1	1	16.00	20.10	1.10	1.65	1	1	1F 掘出
S051	1F 1C	溝口 2	S17	7.74	011	1	1	20.20	39.20	4.50	4.75	1	1	1F 掘出
S052	1F 1C	溝口 2	S18	7.78	011	1	1	24.00	35.20	4.00	7.71	1	1	1F 掘出
S053	1F 1C	溝口 2	S19	7.76	011	1	1	46.10	55.00	13.20	22.98	1	1	1F 掘出
S040	1F 1C	溝口 2	S18	7.90	011	1	1	16.20	19.00	2.60	1.11	1	1	1F 掘出
S041	1F 1C	溝口 2	S18	7.88	011	1	1	13.20	15.20	4.00	1.54	1	1	1F 掘出
S042	1F 1C	溝口 2	S18	7.81	011	1	1	20.00	40.00	2.70	11.79	1	1	1F 掘出
S043	1F 1C	溝口 2	S18	7.82	011	1	1	21.10	22.20	2.20	2.19	1	1	1F 掘出
S044	1F 1C	溝口 2	S18	7.82	011	1	1	12.10	19.10	2.00	0.55	1	1	1F 掘出
S045	1F 1C	溝口 2	S18	7.82	011	1	1	12.50	15.10	1.60	0.55	1	1	1F 掘出
S046	1F 1C	溝口 2	S18	7.84	011	1	1	25.00	26.20	4.80	3.25	1	1	1F 掘出
S047	1F 1C	溝口 2	S18	7.817	011	1	1	27.20	14.20	4.70	2.00	1	1	1F 掘出
S048	1F 1C	溝口 2	S18	7.818	011	1	1	16.20	19.10	2.10	0.90	1	1	1F 掘出
S049	1F 1C	溝口 2	S18	7.819	011	1	1	15.20	16.10	1.20	2.00	1	1	1F 掘出
S050	1F 1C	溝口 2	S18	7.86	011	1	1	17.20	17.20	2.40	1.95	1	1	1F 掘出
S051	1F 1C	溝口 2	S19	7.825	011	1	1	17.20	17.20	2.40	1.95	1	1	1F 掘出
S052	1F 1C	溝口 2	S19	7.825	011	1	1	13.20	13.20	2.00	0.55	1	1	1F 掘出
S053	1F 1C	溝口 2	S19	7.825	011	1	1	13.80	14.00	1.12	1	1	1	1F 掘出
S054	1F 1C	溝口 2	S19	7.825	011	1	1	18.80	38.80	4.70	2.80	1	1	1F 掘出
S055	1F 1C	溝口 2	S19	7.840	011	1	1	18.20	36.80	4.80	2.67	1	1	1F 掘出
S056	1F 1C	溝口 2	S19	7.820	011	1	1	13.20	13.20	2.00	0.55	1	1	1F 掘出
S057	1F 1C	溝口 2	S19	7.820	011	1	1	20.20	20.20	3.00	3.32	1	1	1F 掘出
S058	1F 1C	溝口 2	S19	7.820	011	1	1	20.20	20.20	4.10	4.48	1	1	1F 掘出
S059	1F 1C	溝口 2	S19	7.811	011	1	1	13.20	13.20	2.00	0.55	1	1	1F 掘出
S060	1F 1C	溝口 2	S19	7.820	011	1	1	14.20	14.00	1.90	1.50	1	1	1F 掘出
S061	1F 1C	溝口 2	S19	7.820	011	1	1	13.80	20.90	4.60	0.60	1	1	1F 掘出
S062	1F 1C	溝口 2	S19	7.820	011	1	1	15.10	22.50	2.30	1.38	1	1	1F 掘出
S063	1F 1C	溝口 2	S19	7.844	011	1	1	15.20	23.10	4.00	1.40	1	1	1F 掘出
S064	1F 1C	溝口 2	S19	7.840	011	1	1	15.00	21.00	3.30	2.11	1	1	1F 掘出
S065	1F 1C	溝口 2	S19	7.840	011	1	1	20.20	32.20	4.50	6.51	1	1	1F 掘出
S066	1F 1C	溝口 2	S19	7.790	011	1	1	15.00	20.70	4.20	2.20	1	1	1F 掘出
S067	1F 1C	溝口 2	S19	7.840	011	1	1	15.00	27.50	3.30	2.11	1	1	1F 掘出
S068	1F 1C	溝口 2	S19	7.840	011	1	1	15.00	27.50	3.30	2.11	1	1	1F 掘出
S069	1F 1C	溝口 2	S19	7.840	011	1	1	17.20	20.20	4.00	1.22	1	1	1F 掘出(欠損)
S070	1F 1C	溝口 2	S20	7.772	011	1	1	11.20	12.70	1.80	0.27	1	1	1F 掘出(欠損)
S071	1F 1C	溝口 2	S21	7.600	011	1	1	11.20	12.70	1.80	0.27	1	1	1F 掘出(欠損)

第 12 表 川津六反地層集中之剥片・碎片等石器觀察表 (8)

石器番号	原産地	層位	種別	中央部ノ位置		右ノ位置		打面	重量 (g)		破損部	備考
				打込	打込ノ位置	打込	打込ノ位置		長さ	幅		
S0525	W15	W12-2	519	7253	4401	1	1	18.50	26.20	3.06	1.87	
S0526	W15	W12-2	520	7253	4401	1	1					
S0527	W15	W12-2	521	7252	4015	1	1	18.50	25.69	4.12	2.32	1 打痕欠
S0528	W15	W12-2	522	7252	4015	1	1	23.20	14.85	1.09	1.28	1 打痕欠
S0529	W15	W12-2	523	7252	4015	1	1	16.00	14.20	1.00	1.38	1 打痕欠
S0530	W15	W12-2	524	7252	4015	1	1	16.00	14.20	1.00	1.38	1 打痕欠
S0531	W15	W12-2	525	7252	4015	1	1	18.50	23.55	2.29	2.40	1 打痕欠
S0532	W15	W12-2	526	7252	4015	1	1	21.00	24.15	1.40	2.05	1 打痕欠
S0533	W15	W12-2	527	7252	4015	1	1	15.50	17.10	1.25	0.97	1 打痕欠
S0534	W15	W12-2	528	7254	4015	1	1	15.50	16.60	2.00	0.84	1 打痕欠
S0535	W15	W12-2	529	7252	4015	1	1				0.54	
S0536	W15	W12-2	530	7252	4015	1	1	14.00	14.80	3.38	1.54	1 打痕欠
S0537	W15	W12-2	531	7252	4015	1	1	27.20	47.20	9.20	13.20	1 打痕欠
S0538	W15	W12-2	532	7252	4015	1	1	24.00	40.40	3.20	3.98	1 打痕欠
S0539	W15	W12-2	533	7252	4015	1	1	13.20	21.80	1.75	0.69	1 打痕欠
S0540	W15	W12-2	534	7250	4015	1	1	13.20	20.60	2.40	1.00	1 打痕欠
S0541	W15	W12-2	535	7252	4015	1	1	14.00	14.20	1.20	1.12	1 打痕欠
S0542	W15	W12-2	536	7252	4015	1	1	11.20	23.60	3.00	1.00	1 打痕欠
S0543	W15	W12-2	537	7252	4015	1	1	14.10	19.10	1.50	1.40	1 打痕欠
S0544	W15	W12-2	538	7252	4015	1	1	14.50	14.10	1.46		1 打痕欠
S0545	W15	W12-2	539	7250	4015	1	1	21.00	24.20	2.90	1.45	1 打痕欠
S0546	W15	W12-2	540	7250	4015	1	1	10.80	14.20	1.80	2.14	1 打痕欠
S0547	W15	W12-2	541	7250	4015	1	1	26.10	24.60	2.40	3.04	1 打痕欠
S0548	W15	W12-2	542	7250	4015	1	1	10.00	13.40	1.50	2.95	1 打痕欠
S0549	W15	W12-2	543	7250	4015	1	1	27.00	21.10	3.00	4.62	1 打痕欠
S0550	W15	W12-2	544	7250	4015	1	1	17.00	20.20	1.60	1.18	1 打痕欠
S0551	W15	W12-2	545	7250	4015	1	1	18.50	23.10	3.20	2.07	1 打痕欠
S0552	W15	W12-2	546	7250	4015	1	1	20.70	27.20	1.20	1.28	1 打痕欠
S0553	W15	W12-2	547	7250	4015	1	1	26.40	25.20	1.40	1.40	1 打痕欠
S0554	W15	W12-2	548	7250	4015	1	1	20.40	16.00	1.00	1.41	1 打痕欠
S0555	W15	W12-2	549	7250	4015	1	1	14.20	15.20	2.10	0.69	1 打痕欠
S0556	W15	W12-2	550	7250	4015	1	1	17.40	18.80	1.70	0.75	1 打痕欠
S0557	W15	W12-2	551	7252	4015	1	1	20.40	26.10	1.50	4.00	1 打痕欠
S0558	W15	W12-2	552	7219	4015	1	1	12.10	21.80	2.00	1.16	1 打痕欠
S0559	W15	W12-2	553	7250	4015	1	1	17.00	23.20	2.40	1.40	1 打痕欠
S0560	W15	W12-2	554	7250	4015	1	1	20.00	14.10	1.20	0.75	1 打痕欠
S0561	W15	W12-2	555	7250	4015	1	1	26.70	16.20	4.10	2.98	1 打痕欠

第 12 表 川津六区地层群中之剥片・碎片等石器观察表 (9)

石器番号	调查层位	层位名称	层位	出土位置	出土数量	出土层位	石质		重量		形状		备注
							种类	数量	最大径	最小径	最大径	最小径	
S002	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				11.00	23.20	7.00	8.00	
S006	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				21.00	22.20	1.00	1.20	
S025	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				20.10	20.30	1.00	1.00	
S039	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				20.10	30.30	3.20	3.00	
S040	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				13.60	23.20	1.20	1.20	
S041	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				12.80	20.00	1.00	1.00	
S042	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				14.00	20.00	1.00	1.00	
S044	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				13.00	22.00	1.00	1.00	
S045	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				13.00	22.00	1.00	1.00	
S049	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				19.00	13.20	1.00	1.00	
S052	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				23.20	33.00	1.00	1.10	
S053	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				19.00	13.20	1.00	1.00	
S055	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				23.20	33.00	1.00	1.10	
S056	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				19.00	27.40	4.00	3.10	
S057	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				19.00	27.40	4.00	3.10	
S058	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				20.70	30.00	1.00	1.00	
S059	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				12.80	15.00	1.00	1.04	
S060	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				11.80	14.00	1.00	1.08	
S062	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				12.20	17.20	1.00	1.10	
S065	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				13.00	19.00	1.00	1.10	
S067	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				13.00	19.00	1.00	1.10	
S068	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				13.00	19.00	1.00	1.10	
S070	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				15.00	22.00	1.00	1.14	
S072	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				18.00	20.00	1.00	1.00	
S073	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				11.00	25.20	2.80	1.00	
S075	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				19.00	20.00	1.00	1.10	
S076	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				25.20	35.00	3.00	3.10	
S078	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				21.20	13.20	1.00	1.10	
S081	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				7.00	26.20	3.00	1.00	
S082	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				22.00	11.00	2.40	1.01	
S083	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				20.00	20.00	1.00	1.00	
S085	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				13.20	20.20	1.00	1.00	
S087	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				13.20	20.20	1.00	1.00	
S088	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				22.00	25.20	1.00	1.00	
S092	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				17.10	21.00	1.00	1.00	
S093	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				15.20	24.20	1.00	1.01	
S094	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				13.20	14.20	1.00	1.00	
S095	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				10.20	17.20	2.10	1.00	
S096	W1C	第 10 层	W1C	剥片	1				14.20	24.20	1.00	1.00	

第 12 表 川津六反地層集集中之剥片・碎片等石器觀察表 (10)

石器番号	原産地	層位	種別	個数	中央部ノ位置		打面		重量 (g)		備考		
					長さ	幅	面積	厚さ	重量	厚さ			
S1000	W15	W12	015	1	1	1	1	13.10	25.20	2.96	0.17	1	打面欠
S1001	W15	W12	015	1	1	1	1	17.20	21.10	4.08	2.10	1	打面欠
S1002	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1003	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1004	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1005	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1006	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1007	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1008	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1009	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1010	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1011	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1012	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1013	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1014	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1015	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1016	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1017	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1018	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1019	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1020	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1021	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1022	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1023	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1024	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1025	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1026	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1027	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1028	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1029	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1030	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1031	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1032	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1033	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1034	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1035	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1036	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1037	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1038	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1039	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1040	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1041	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1042	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1043	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1044	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1045	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1046	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1047	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1048	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1049	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1050	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1051	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠
S1052	W15	W12	015	1	1	1	1	19.50	16.20	3.10	1.15	1	打面欠

第 12 表 川津六区地溝跡集中之割片・碎片等石器觀察表 (11)

石器番号	調査方法	石器種類	層位	測定方法		測定結果		自重	重量	長さ	幅	厚さ	断面形状	備考
				長さ	幅	長さ	幅							
S1064	RF	割片	602-2	117	7.62	117	7.64	RF1	1	11.80	13.83	2.00	0.07	1
S1065	RF	割片	602-2	117	7.64	117	7.66	RF1	1				0.08	
S1066	RF	割片	602-2	117	7.66	117	7.68	RF1	1				0.11	
S1067	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.14	
S1068	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1069	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1070	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1071	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1072	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1073	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1074	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1075	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1076	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1077	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1078	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1079	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1080	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1081	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1082	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1083	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1084	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1085	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1086	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1087	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1088	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1089	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1090	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1091	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1092	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1093	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1094	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1095	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1096	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1097	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1098	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1099	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1100	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1101	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1102	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1103	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1104	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1105	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1106	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1107	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1108	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1109	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1110	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1111	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1112	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1113	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	
S1114	RF	割片	602-2	117	7.68	117	7.70	RF1	1				0.07	

第 12 表 川津六反地層集中心剥片・碎片等石器觀察表 (12)

石器番号	原層名	層位	層名	種別	形状	重量 (g)	寸法 (mm)		打面	重量 (mm)		使用面	備考	
							長さ	幅		厚さ	重量			
53110	W15	W0-2	M17	2,536	011	1	1	1	1	17.70	26.70	6.20	2.55	1
53111	W15	W0-2	M17	2,536	011	1	1	1	1	17.70	26.70	6.20	2.55	1
53112	W15	W0-2	M18	2,622	015	1	1	1	1	17.60	26.70	5.90	3.22	1
53113	W15	W0-2	M18	2,619	011	1	1	1	1	20.10	29.70	6.30	5.72	1
53114	W15	W0-2	M18	2,619	011	1	1	1	1	20.10	29.70	6.30	5.72	1
53120	W15	W0-2	M19	2,706	011	1	1	1	1	18.60	26.60	5.20	2.71	1
53121	W15	W0-2	M17	2,651	011	1	1	1	1	29.20	14.50	5.30	1.80	1
53122	W15	W0-2	M17	2,784	011	1	1	1	1	29.20	21.10	1.30	1.70	1
53123	W15	W0-2	M17	2,822	011	1	1	1	1	22.20	46.60	3.60	6.42	1
53125	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	12.20	18.60	3.60	1.67	1
53126	W15	W0-2	M17	2,701	011	1	1	1	1	19.90	22.10	2.90	1.68	1
53128	W15	W0-2	M17	2,784	011	1	1	1	1	11.60	25.10	2.20	1.62	1
53129	W15	W0-2	M17	2,659	011	1	1	1	1	23.60	13.60	3.60	1.90	1
53130	W15	W0-2	M17	2,709	011	1	1	1	1	12.20	24.50	4.60	2.16	1
53131	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	12.20	24.50	4.60	2.16	1
53132	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	22.70	25.60	7.60	1.86	1
53133	W15	W0-2	M17	2,694	011	1	1	1	1	20.10	13.30	2.60	1.18	1
53134	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	20.10	13.30	2.60	1.18	1
53135	W15	W0-2	M17	2,699	011	1	1	1	1	12.70	32.70	2.20	1.22	1
53137	W15	W0-2	M17	2,700	011	1	1	1	1	15.90	14.20	2.50	1.22	1
53138	W15	W0-2	M17	2,702	011	1	1	1	1	10.20	13.10	1.50	1.22	1
53139	W15	W0-2	M17	2,709	011	1	1	1	1	12.80	13.30	2.20	1.17	1
53140	W15	W0-2	M17	2,842	011	1	1	1	1	28.20	26.60	5.40	1.68	1
53141	W15	W0-2	M17	2,842	011	1	1	1	1	28.20	26.60	5.40	1.68	1
53142	W15	W0-2	M17	2,842	011	1	1	1	1	14.20	22.20	1.60	1.44	1
53143	W15	W0-2	M17	2,842	011	1	1	1	1	14.20	22.20	1.60	1.45	1
53144	W15	W0-2	M17	2,842	011	1	1	1	1	23.10	17.70	1.45	1.45	1
53145	W15	W0-2	M17	2,805	011	1	1	1	1	23.10	17.70	1.45	1.45	1
53146	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	23.10	17.70	1.45	1.45	1
53147	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	23.10	17.70	1.45	1.45	1
53148	W15	W0-2	M17	2,690	011	1	1	1	1	19.70	19.80	4.20	1.80	1
53149	W15	W0-2	M17	2,690	011	1	1	1	1	19.70	19.80	4.20	1.80	1
53150	W15	W0-2	M17	2,690	011	1	1	1	1	19.70	19.80	4.20	1.80	1
53151	W15	W0-2	M17	2,690	011	1	1	1	1	19.70	19.80	4.20	1.80	1
53152	W15	W0-2	M17	2,690	011	1	1	1	1	19.70	19.80	4.20	1.80	1
53153	W15	W0-2	M17	2,700	011	1	1	1	1	6.90	22.60	1.70	1.96	1
53154	W15	W0-2	M17	2,700	011	1	1	1	1	6.90	22.60	1.70	1.96	1
53155	W15	W0-2	M17	2,690	011	1	1	1	1	21.00	29.10	3.00	1.95	1
53156	W15	W0-2	M17	2,700	011	1	1	1	1	24.20	34.20	6.20	3.61	1
53157	W15	W0-2	M17	2,700	011	1	1	1	1	13.30	21.10	5.30	1.93	1
53158	W15	W0-2	M17	2,700	011	1	1	1	1	22.20	30.90	4.20	1.74	1
53159	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	23.70	17.70	3.40	1.14	1
53160	W15	W0-2	M17	2,690	011	1	1	1	1	14.40	25.90	4.00	1.93	1
53161	W15	W0-2	M17	2,704	011	1	1	1	1	14.40	25.90	4.00	1.93	1
53162	W15	W0-2	M17	2,690	011	1	1	1	1	11.60	15.70	1.80	1.25	1
53163	W15	W0-2	M17	2,690	011	1	1	1	1	11.60	15.70	1.80	1.25	1
53164	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	14.60	22.50	5.00	1.29	1
53165	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	14.60	22.50	5.00	1.29	1
53166	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	20.20	32.50	1.60	2.01	1
53167	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	20.20	32.50	1.60	2.01	1
53168	W15	W0-2	M17	2,706	011	1	1	1	1	22.20	42.90	4.20	3.20	1
53169	W15	W0-2	M17	2,677	011	1	1	1	1	17.10	36.30	6.20	2.42	1

第 12 表 川津六区地溝跡集中之割片・破片等石器觀察表 (13)

石器番号	調査区名	層位	割片・破片名	種別	破片・割片の寸法				自重	重量 (g)				備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	面積 (mm <sup>2</sup> )		長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	
S1109	W1-F	W1-2	L18	7255	011	1	1	1	12.20	25.50	3.30	13.09	1	
S1110	W1-F	W1-2	L18	7255	011	1	1	1	27.60	31.10	3.80	35.2	1	自重欠
S1111	W1-F	W1-2	S38	7260	011	1	1	1	7.60	2.90	2.00	1.20	1	自重欠
S1112	W1-F	W1-2	S32	7256	011	1	1	1	16.00	33.20	4.70	31.87	1	
S1113	W1-F	W1-2	S17	7262	011	1	1	1	17.20	27.50	2.90	31.27	1	
S1114	W1-F	W1-2	S37	7261	011	1	1	1	24.30	32.30	4.10	31.8	1	
S1115	W1-F	W1-2	S37	7261	011	1	1	1	24.70	43.70	6.70	60.8	1	
S1116	W1-F	W1-2	S17	7264	011	1	1	1	10.10	13.30	2.00	12.8	1	
S1117	W1-F	W1-2	S37	7260	011	1	1	1	14.70	22.70	3.50	23.1	1	
S1118	W1-F	W1-2	S37	7270	011	1	1	1	28.20	16.80	4.10	14.0	1	
S1119	W1-F	W1-2	S17	7266	011	1	1	1	13.50	17.40	2.70	13.8	1	
S1120	W1-F	W1-2	S17	7266	011	1	1	1	16.00	22.90	3.40	13.5	1	
S1121	W1-F	W1-2	S37	7261	011	1	1	1	16.60	30.70	3.70	33.1	1	自重欠
S1122	W1-F	W1-2	S37	7269	011	1	1	1	20.50	24.40	4.20	22.1	1	自重欠
S1123	W1-F	W1-2	S17	7260	011	1	1	1	30.00	16.20	3.80	19.0	1	
S1124	W1-F	W1-2	S17	7262	011	1	1	1	12.90	14.80	2.00	10.6	1	
S1125	W1-F	W1-2	S17	7274	011	1	1	1	11.50	13.70	2.00	11.9	1	
S1126	W1-F	W1-2	S17	7274	011	1	1	1	11.40	14.60	1.90	11.9	1	
S1127	W1-F	W1-2	S17	7262	011	1	1	1	6.00	18.40	1.60	10.8	1	
S1128	W1-F	W1-2	S17	7294	011	1	1	1	30.00	13.20	3.20	15.5	1	
S1129	W1-F	W1-2	S17	7270	011	1	1	1	16.70	19.70	2.90	16.7	1	
S1130	W1-F	W1-2	S17	7270	011	1	1	1	15.50	21.10	2.10	17.2	1	
S1131	W1-F	W1-2	S17	7244	011	1	1	1	27.10	33.00	4.60	34.5	1	
S1132	W1-F	W1-2	S17	7230	011	1	1	1	19.10	30.30	3.90	27.4	1	
S1133	W1-F	W1-2	S17	7230	011	1	1	1	14.00	26.20	2.90	13.9	1	自重欠
S1134	W1-F	W1-2	S17	7272	011	1	1	1	27.20	20.10	4.20	13.4	1	
S1135	W1-F	W1-2	S17	7265	011	1	1	1	20.50	31.00	3.90	23.0	1	
S1136	W1-F	W1-2	S17	7265	011	1	1	1	13.50	30.10	2.00	14.8	1	
S1137	W1-F	W1-2	S17	7266	011	1	1	1	10.10	27.50	2.00	14.5	1	
S1138	W1-F	W1-2	S17	7266	011	1	1	1	14.60	20.00	4.00	14.2	1	自重欠
S1139	W1-F	W1-2	S17	7265	011	1	1	1	22.20	27.10	4.00	28.0	1	
S1140	W1-F	W1-2	S17	7263	011	1	1	1	24.10	27.10	4.70	23.2	1	
S1141	W1-F	W1-2	S17	7266	011	1	1	1	19.00	19.00	3.00	13.0	1	
S1142	W1-F	W1-2	S18	7268	011	1	1	1	20.20	14.60	4.80	20.8	1	
S1143	W1-F	W1-2	S18	7268	011	1	1	1	32.50	32.10	8.70	50.80	1	
S1144	W1-F	W1-2	S18	7266	011	1	1	1	23.20	45.00	6.00	33.5	1	
S1145	W1-F	W1-2	S18	7264	011	1	1	1	25.30	41.20	5.00	36.5	1	
S1146	W1-F	W1-2	S18	7264	011	1	1	1	25.50	11.20	3.00	11.0	1	
S1147	W1-F	W1-2	S18	7276	011	1	1	1	28.90	14.80	3.00	26.0	1	
S1148	W1-F	W1-2	S18	7276	011	1	1	1	15.00	18.30	3.40	17.5	1	

第 12 表 川津六反地層集中心割片・碎片等石器觀察表 (14)

石割片番号	割片番号	面割片番号	片長 (mm)	片幅 (mm)	中央部ノ位置 (mm)		打面	重量 (mm)		観察年		備考
					長さ	幅		長さ	幅	昭和	平成	
51432	W15	W15	117	7.60	0.91	1	1	29.50	12.50	0.13	1	
51433	W15	W15	145	7.60	0.91	1	1				1	
51434	W15	W15-2	81.7	7.17	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51435	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51436	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51437	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51438	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51439	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51440	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51441	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51442	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51443	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51444	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51445	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51446	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51447	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51448	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51449	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51450	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51451	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51452	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51453	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51454	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51455	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51456	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51457	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51458	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51459	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51460	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51461	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51462	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51463	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51464	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51465	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51466	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51467	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51468	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51469	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1
51470	W15	W15-2	81.7	7.60	0.91	1	1	12.20	22.40	1.38	0.96	1



第 12 表 川津六区地層跡集中 2 割片・碎片等石器観察表 (15)

石部番号	調査方法			形状			大きさ			目録			重量 (g)			備考		
	調査方法	層位	割片	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	点	面	点	重量	備考	長さ	幅	厚さ	備考
S1472	打片	層位 2	S149	7.624									12.69	9.75	3.39	0.42		1 打片欠
S1473	打片	層位 2	S149	7.691									10.10	22.99	3.69	0.58		1 打片欠
S1474	打片	層位 2	S149	7.696									25.40	32.19	1.40	0.28		1 打片欠
S1475	打片	層位 2	S149	7.691									25.69	33.19	1.40	0.28		1 打片欠
S1476	打片	層位 2	S149	7.691									18.39	21.59	2.99	0.58		1 打片欠
S1477	打片	層位 2	S149	7.722									19.49	21.59	2.99	0.58		1 打片欠
S1478	打片	層位 2	S149	7.722									19.49	21.59	2.99	0.58		1 打片欠
S1479	打片	層位 2	S149	7.672									10.89	15.99	3.19	0.69		1 打片欠
S1480	打片	層位 2	S149	7.749									17.49	19.99	3.69	1.11		1 打片欠
S1481	打片	層位 2	S149	7.749									19.39	19.99	3.69	1.29		1 打片欠
S1482	打片	層位 2	S149	7.749									19.39	19.99	3.69	1.29		1 打片欠
S1483	打片	層位 2	S149	7.749									19.39	19.99	3.69	1.29		1 打片欠
S1484	打片	層位 2	S149	7.749									21.49	14.69	2.59	0.75		1 打片欠
S1485	打片	層位 2	S149	7.522									9.75	15.69	1.79	0.29		1 打片欠
S1486	打片	層位 2	S149	7.522									9.75	15.69	1.79	0.29		1 打片欠
S1487	打片	層位 2	S149	7.642									18.79	22.69	3.79	2.06		1 打片欠
S4	打片	層位 2		7.839									13.79	20.79	3.69	0.11		1 打片欠
			計										124.91	228	47	2.88		

第 13 表 川津六区地層跡集中 3 割片・碎片等石器観察表 (1)

石部番号	調査方法			形状			大きさ			目録			重量 (g)			備考		
	調査方法	層位	割片	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	点	面	点	重量	備考	長さ	幅	厚さ	備考
S6652	打片	層位 2	S14	7.896									9.75	23.79	2.79	0.62		1 打片欠
S6653	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6654	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6655	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6656	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6657	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6658	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6659	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6660	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6661	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6662	打片	層位 2	S14	7.896									14.99	27.79	2.59	0.39		1 打片欠
S6663	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.99	3.59	1.49		1 打片欠
S6664	打片	層位 2	S14	7.779									18.69	24.49	3.09	1.11		1 打片欠
S6665	打片	層位 2	S14	7.779									20.19	13.29	3.69	0.39		1 打片欠
S6666	打片	層位 2	S14	7.779									15.79	12.19	2.99	0.03		1 打片欠
S6667	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6668	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6669	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6670	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6671	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6672	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6673	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6674	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6675	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6676	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6677	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6678	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6679	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠
S6680	打片	層位 2	S14	7.779									13.79	22.29	3.59	0.96		1 打片欠

第 13 表 川津六反地層集巻 3 剥片・碎片等石器調査表 (2)

石器番号	器名	種別	図式	中央部ノ位置		打面	重量		容積		備考
				打込	打出		長さ	幅	容積	容積	
5043	石片	石片	5043	1	1		11.20	20.80	1.26	0.09	
5045	石片	石片	5045	1	1		13.50	15.00	2.48	0.17	1 打痕あり
5048	石片	石片	5048	1	1		16.50	7.00	4.00	0.52	1
5049	石片	石片	5049	1	1		10.20	13.50	2.25	0.38	1 打痕あり
5050	石片	石片	5050	1	1		11.50	20.00	2.20	0.28	1
5051	石片	石片	5051	1	1		16.00	22.80	3.80	1.17	1
5052	石片	石片	5052	1	1		21.00	43.00	3.00	3.79	1
5053	石片	石片	5053	1	1		10.00	15.50	0.90	0.45	1
5054	石片	石片	5054	1	1		10.00	15.50	1.00	0.65	1
5055	石片	石片	5055	1	1		10.00	17.00	2.20	0.97	1
5056	石片	石片	5056	1	1		10.00	17.00	2.70	1.76	1
5057	石片	石片	5057	1	1		20.70	20.40	4.30	5.30	1 打痕あり
5058	石片	石片	5058	1	1		15.50	13.70	3.00	1.53	1
5059	石片	石片	5059	1	1		13.70	16.80	2.20	0.52	1 打痕あり
5060	石片	石片	5060	1	1		12.00	17.00	4.00	0.84	1
5061	石片	石片	5061	1	1		24.50	23.00	4.00	1.18	1
5062	石片	石片	5062	1	1					1.19	
5063	石片	石片	5063	1	1		17.50	14.80	2.20	0.29	
5064	石片	石片	5064	1	1					0.29	
5065	石片	石片	5065	1	1		12.50	15.20	2.25	0.96	
5066	石片	石片	5066	1	1		13.00	15.00	4.10	0.65	1
5067	石片	石片	5067	1	1		12.00	20.40	3.30	1.18	1
5068	石片	石片	5068	1	1		20.00	20.00	4.00	4.44	1
5069	石片	石片	5069	1	1		11.50	16.00	2.70	0.75	1
5070	石片	石片	5070	1	1		13.00	16.50	1.30	0.62	1 打痕あり
5071	石片	石片	5071	1	1		17.00	20.00	4.20	1.63	1
5072	石片	石片	5072	1	1		22.00	25.50	2.70	0.97	1
5073	石片	石片	5073	1	1					0.15	
5074	石片	石片	5074	1	1		13.20	35.50	3.00	1.26	1 打痕あり
5075	石片	石片	5075	1	1		18.00	16.70	2.00	1.62	1
5076	石片	石片	5076	1	1		10.50	13.00	2.40	0.26	1 打痕あり
5077	石片	石片	5077	1	1		16.70	12.40	2.30	0.38	1 打痕あり
5078	石片	石片	5078	1	1		20.70	8.60	2.40	0.54	1 打痕あり
5079	石片	石片	5079	1	1					0.14	
5080	石片	石片	5080	1	1					0.12	

第 13 表 川津六区地层群中 3 割片・破片等石器观察表 (3)

石器番号	調査区	層位	出土位置	種別	重量	最大長さ	最大幅	厚さ	底面	片取	刃部	備考		図	説明	片取				備考				
												表	裏			長さ	幅	厚さ	破片		破片	破片	破片	
52798	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.72									1									
52799	丸石	第 6 区 2	G21	2 割片	2.72	6.91									1		10.80	18.88	2.76	0.26			1	片取
52800	丸石	第 6 区 2	G21	2 割片	0.73	2.70									1		13.70	13.75	2.03	0.41			1	片取
52801	丸石	第 6 区 3	G23	2 割片	0.13	0.80									1					0.12				
52802	丸石	第 6 区 3	G23	破片	6.69	9.91									1					0.26				
52803	丸石	第 6 区 2	G21	2 割片	2.69	9.91									1		22.30	14.20	4.05	1.14			1	片取
52804	丸石	第 6 区 3	G23	破片	0.13	0.80									1		12.10	10.00	2.20	1.18			1	片取
52805	丸石	第 6 区 2	G21	破片	0.13	0.80									1		16.70	11.70	2.60	0.61			1	片取
52806	丸石	第 6 区 2	G21	2 割片	2.60	9.91									1		13.80	18.63	12.90	1.56			1	片取
52807	丸石	第 6 区 2	G21	破片	0.13	0.80									1		18.20	13.13	3.10	2.75			1	片取
52808	丸石	第 6 区 2	G21	破片	0.13	0.80									1		12.50	17.50	1.60	0.85			1	片取
52809	丸石	第 6 区 2	G21	2 割片	2.50	9.91									1		18.40	22.35	2.60	1.25			1	片取
52810	丸石	第 6 区 2	G21	破片	0.13	0.80									1		11.90	12.10	1.20	0.19			1	片取
52811	丸石	第 6 区 3	F13	2 割片	9.91	9.91									1		20.70	10.86	7.20	11.27			1	片取
52812	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1		12.50	19.30	2.20	0.55			1	片取
52813	丸石	第 6 区 3	F13	2 割片	7.70	9.91									1		13.10	22.40	2.20	1.65			1	片取
52814	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1		18.30	27.00	1.40	0.86			1	片取
52815	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1		23.20	43.00	3.20	4.55			1	片取
52816	丸石	第 6 区 3	G22	2 割片	2.90	9.91									1		10.50	17.50	3.00	0.55			1	片取
52817	丸石	第 6 区 3	G22	破片	0.13	0.80									1									
52818	丸石	第 6 区 3	G22	破片	0.13	0.80									1		23.40	30.00	4.00	2.20			1	片取
52819	丸石	第 6 区 3	G24	2 割片	2.72	9.91									1		7.50	9.20	2.20	0.16			1	片取
52820	丸石	第 6 区 3	G24	破片	0.13	0.80									1		14.00	12.30	3.40	1.21			1	片取
52821	丸石	第 6 区 3	G24	2 割片	2.60	9.91									1		18.80	26.00	3.10	1.62			1	片取
52822	丸石	第 6 区 3	G24	破片	0.13	0.80									1		49.90	42.70	12.70	20.60			1	片取
52823	丸石	第 6 区 3	F13	2 割片	2.60	9.91									1		11.20	24.80	3.00	0.27			1	片取
52824	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1									
52825	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1		15.70	22.10	3.20	1.80			1	片取
52826	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1		10.10	26.20	3.60	1.68			1	片取
52827	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1									
52828	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1		17.50	11.60	1.80	0.45			1	片取
52829	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1		20.30	20.03	3.60	1.97			1	片取
52830	丸石	第 6 区 3	F13	破片	0.13	0.80									1		15.50	11.80	1.50	0.87			1	片取
52831	丸石	第 6 区 3	G25	2 割片	2.60	9.91									1					2.77				
52832	丸石	第 6 区 3	G25	破片	0.13	0.80									1		22.10	10.40	2.20	0.30			1	片取
52833	丸石	第 6 区 3	G25	破片	0.13	0.80									1		16.20	15.03	2.20	1.30			1	片取
52834	丸石	第 6 区 3	G25	破片	0.13	0.80									1		10.70	13.70	1.50	1.46			1	片取
52835	丸石	第 6 区 3	G25	破片	0.13	0.80									1		12.80	17.60	2.10	0.76			1	片取
52836	丸石	第 6 区 3	G25	破片	0.13	0.80									1		18.00	13.70	1.80	0.38			1	片取
52837	丸石	第 6 区 3	G25	破片	0.13	0.80									1		19.70	20.33	2.50	1.97			1	片取
52838	丸石	第 6 区 3	G25	破片	0.13	0.80									1		17.60	23.33	3.00	1.10			1	片取



第 13 表 川津六区地層跡集中 3 割片・破片等石器觀察表 (5)

石器番号	調査区	層位	割片・破片	種類	用途	長さ (mm)		幅 (mm)		厚さ (mm)		重量 (g)		備考			
						最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小				
S1300	W1F	W1P-3	317	2,260	011	1	1	11.20	17.60	1.28	0.88	1	1	1	1	1	1
S1400	W1F	W1P-3	317	2,260	011	1	1	10.60	22.20	1.80	1.67	1	1	1	1	1	1
S1410	W1F	W1P-3	318	2,260	011	1	1	17.00	43.20	1.10	1.04	1	1	1	1	1	1
S1420	W1F	W1P-3	318	2,260	011	1	1	11.20	21.60	1.40	1.36	1	1	1	1	1	1
S1500	W1F	W1P-2	423	1,700	011	1	1	11.50	21.60	0.50	0.36	1	1	1	1	1	1
S2000	W1F	W1P-2	423	2,711	011	1	1	8.60	13.70	2.00	0.30	1	1	1	1	1	1
S1504	W1F	W1P-2	423	1,714	011	1	1	11.80	13.90	1.20	0.98	1	1	1	1	1	1
S1505	W1F	W1P-2	423	1,714	011	1	1	11.80	13.90	1.20	0.98	1	1	1	1	1	1
S1506	W1F	W1P-2	413	2,700	011	1	1	11.80	15.60	1.50	0.47	1	1	1	1	1	1
S2006	W1F	W1P-2	421	2,700	011	1	1	20.20	12.60	1.80	1.16	1	1	1	1	1	1
S2007	W1F	W1P-2	421	2,700	011	1	1	13.80	17.20	2.20	1.04	1	1	1	1	1	1
S2170	W1F	W1P-3	314	7,700	011	1	1	16.20	22.20	1.70	0.99	1	1	1	1	1	1
S2171	W1F	W1P-3	314	2,700	011	1	1	16.20	22.20	1.70	0.99	1	1	1	1	1	1
S2172	W1F	W1P-3	315	7,700	011	1	1	15.80	21.80	1.50	0.84	1	1	1	1	1	1
S2173	W1F	W1P-3	315	2,700	011	1	1	15.80	21.80	1.50	0.84	1	1	1	1	1	1
S2174	W1F	W1P-3	315	7,620	011	1	1	23.80	18.80	0.30	0.20	1	1	1	1	1	1
S2175	W1F	W1P-3	315	2,700	011	1	1	20.60	18.80	0.30	0.20	1	1	1	1	1	1
S2176	W1F	W1P-3	315	7,620	011	1	1	15.70	19.20	1.40	0.82	1	1	1	1	1	1
S2177	W1F	W1P-3	315	2,700	011	1	1	15.70	19.20	1.40	0.82	1	1	1	1	1	1
S2178	W1F	W1P-3	315	7,615	011	1	1	22.60	21.60	1.90	1.20	1	1	1	1	1	1
S2179	W1F	W1P-3	315	2,716	011	1	1	17.20	20.80	1.10	0.91	1	1	1	1	1	1
S2200	W1F	W1P-3	316	7,620	011	1	1	12.00	21.80	1.60	0.91	1	1	1	1	1	1
S2201	W1F	W1P-3	316	2,700	011	1	1	12.00	21.80	1.60	0.91	1	1	1	1	1	1
S2202	W1F	W1P-3	316	7,600	011	1	1	15.70	21.60	0.50	0.22	1	1	1	1	1	1
S2203	W1F	W1P-3	316	2,724	011	1	1	10.90	21.60	0.50	0.21	1	1	1	1	1	1
S2204	W1F	W1P-3	316	7,700	011	1	1	20.10	19.80	1.00	0.50	1	1	1	1	1	1
S2205	W1F	W1P-3	316	2,722	011	1	1	10.90	19.80	1.00	0.50	1	1	1	1	1	1
S2206	W1F	W1P-3	317	7,770	011	1	1	21.80	20.20	0.40	0.20	1	1	1	1	1	1
S2207	W1F	W1P-3	317	2,700	011	1	1	11.80	20.60	1.90	1.30	1	1	1	1	1	1
S2208	W1F	W1P-3	317	7,600	011	1	1	11.80	20.60	1.90	1.30	1	1	1	1	1	1
S2209	W1F	W1P-3	317	2,700	011	1	1	11.80	20.60	1.90	1.30	1	1	1	1	1	1
S2210	W1F	W1P-3	318	7,620	011	1	1	22.50	14.00	0.50	0.20	1	1	1	1	1	1
S2211	W1F	W1P-3	318	2,600	011	1	1	15.70	21.60	1.00	0.40	1	1	1	1	1	1
S2212	W1F	W1P-3	318	7,605	011	1	1	10.90	24.80	2.30	1.74	1	1	1	1	1	1
S2213	W1F	W1P-3	318	2,700	011	1	1	10.90	24.80	2.30	1.74	1	1	1	1	1	1
S2214	W1F	W1P-3	318	7,700	011	1	1	18.10	22.20	1.50	1.26	1	1	1	1	1	1
S2215	W1F	W1P-3	318	2,700	011	1	1	20.60	15.90	2.80	0.97	1	1	1	1	1	1
S2216	W1F	W1P-3	317	7,700	011	1	1	11.80	16.70	2.90	1.50	1	1	1	1	1	1
S2217	W1F	W1P-3	317	2,700	011	1	1	11.80	16.70	2.90	1.50	1	1	1	1	1	1
S2218	W1F	W1P-3	318	7,500	011	1	1	10.10	22.20	1.60	0.92	1	1	1	1	1	1
S2219	W1F	W1P-3	318	2,500	011	1	1	10.10	22.20	1.60	0.92	1	1	1	1	1	1
S3000	W1F	W1P-3	315	2,700	011	1	1	11.20	18.60	1.60	0.92	1	1	1	1	1	1
S3001	W1F	W1P-3	315	1,714	011	1	1	12.20	18.00	1.80	1.00	1	1	1	1	1	1
S3002	W1F	W1P-3	315	1,714	011	1	1	12.20	18.00	1.80	1.00	1	1	1	1	1	1
S3003	W1F	W1P-3	315	2,712	011	1	1	11.20	18.60	1.60	0.92	1	1	1	1	1	1
S3004	W1F	W1P-3	315	1,712	011	1	1	11.20	18.60	1.60	0.92	1	1	1	1	1	1
S3005	W1F	W1P-3	315	2,742	011	1	1	15.80	12.20	1.90	1.00	1	1	1	1	1	1
S3006	W1F	W1P-3	317	7,600	011	1	1	14.80	19.20	1.80	0.97	1	1	1	1	1	1
S3007	W1F	W1P-3	317	2,600	011	1	1	14.80	19.20	1.80	0.97	1	1	1	1	1	1
S3008	W1F	W1P-3	317	7,600	011	1	1	14.80	19.20	1.80	0.97	1	1	1	1	1	1
S3009	W1F	W1P-3	317	2,600	011	1	1	14.80	19.20	1.80	0.97	1	1	1	1	1	1
S3010	W1F	W1P-3	315	2,600	011	1	1	14.80	12.20	1.60	0.85	1	1	1	1	1	1
S3011	W1F	W1P-3	315	2,712	011	1	1	14.80	12.20	1.60	0.85	1	1	1	1	1	1
S3012	W1F	W1P-3	315	2,712	011	1	1	14.80	12.20	1.60	0.85	1	1	1	1	1	1
S3013	W1F	W1P-3	314	2,602	011	1	1	25.20	14.80	0.50	0.20	1	1	1	1	1	1
S3014	W1F	W1P-3	315	2,602	011	1	1	14.80	12.20	1.60	0.85	1	1	1	1	1	1
S3015	W1F	W1P-3	314	2,602	011	1	1	14.80	12.20	1.60	0.85	1	1	1	1	1	1
S3016	W1F	W1P-3	315	2,600	011	1	1	25.20	14.80	0.50	0.20	1	1	1	1	1	1
S3017	W1F	W1P-3	314	2,602	011	1	1	25.20	14.80	0.50	0.20	1	1	1	1	1	1
S3018	W1F	W1P-3	314	1,714	011	1	1	14.80	12.20	1.60	0.85	1	1	1	1	1	1
S3019	W1F	W1P-3	314	2,602	011	1	1	14.80	12.20	1.60	0.85	1	1	1	1	1	1
S3020	W1F	W1P-3	315	2,600	011	1	1	25.20	14.80	0.50	0.20	1	1	1	1	1	1
S3021	W1F	W1P-3	314	1,714	011	1	1	14.80	12.20	1.60	0.85	1	1	1	1	1	1
S3022	W1F	W1P-3	314	2,602	011	1	1	14.80	12.20	1.60	0.85	1	1	1	1	1	1

第 13 表 川津六反地層遺集中 3 剥片・碎片等石器觀察表 (6)

目録番号	調査区	剥片番号	層位	測定値 (mm)					質量 (g)			形状			備考	
				長さ	幅	厚	重量	長さ	幅	厚	全長	全幅	全厚	形状		用途
S1026	剥片	剥片-3	1057	7.50	0.81	0.39	1.13	11.50	25.50	3.26	0.65	1		1	打痕	
S1027	剥片	剥片-2	517	7.66	0.71	0.21	1.10	11.50	25.50	3.26	0.65	1		1	打痕	
S1028	剥片	剥片-3	118	7.64	0.75	0.25	0.93	29.50	25.49	4.19	2.25	1		1	打痕	
S1029	剥片	剥片-3	317	7.62	0.71	0.21	1.10	11.50	25.50	3.26	0.65	1		1	打痕	
S1030	剥片	剥片-3	384	7.60	0.71	0.21	1.10	11.50	25.50	3.26	0.65	1		1	打痕	
合計			30	11	31	29	2	12	33	41	4	466.46	62	20	09	

第 14 表 川津六反地層遺集中 4 剥片・碎片等石器觀察表 (1)

目録番号	調査区	剥片番号	層位	測定値 (mm)					質量 (g)			形状			備考	
				長さ	幅	厚	重量	長さ	幅	厚	全長	全幅	全厚	形状		用途
S1036	剥片	剥片-4	526	7.63	0.91	0.31	1.10	18.20	28.00	3.00	1.17	1		1	打痕	
S1037	剥片	剥片-4	725	7.69	0.91	0.31	1.10	18.20	28.00	3.00	1.17	1		1	打痕	
S1038	剥片	剥片-4	726	7.90	0.91	0.31	1.10	18.20	28.00	3.00	1.17	1		1	打痕	
S1039	剥片	剥片-4	727	7.89	0.91	0.31	1.10	18.20	28.00	3.00	1.17	1		1	打痕	
S1040	剥片	剥片-4	728	7.89	0.91	0.31	1.10	18.20	28.00	3.00	1.17	1		1	打痕	
S1041	剥片	剥片-4	729	7.63	0.91	0.31	1.10	20.40	20.09	4.20	1.68	1		1	打痕	
S1042	剥片	剥片-4	352	7.38	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1043	剥片	剥片-4	519	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1044	剥片	剥片-4	520	7.62	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1045	剥片	剥片-4	521	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1046	剥片	剥片-4	522	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1047	剥片	剥片-4	523	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1048	剥片	剥片-4	524	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1049	剥片	剥片-4	525	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1050	剥片	剥片-4	526	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1051	剥片	剥片-4	527	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1052	剥片	剥片-4	528	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1053	剥片	剥片-4	529	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1054	剥片	剥片-4	530	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1055	剥片	剥片-4	531	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1056	剥片	剥片-4	532	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1057	剥片	剥片-4	533	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1058	剥片	剥片-4	534	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1059	剥片	剥片-4	535	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1060	剥片	剥片-4	536	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1061	剥片	剥片-4	537	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1062	剥片	剥片-4	538	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1063	剥片	剥片-4	539	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1064	剥片	剥片-4	540	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1065	剥片	剥片-4	541	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1066	剥片	剥片-4	542	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1067	剥片	剥片-4	543	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1068	剥片	剥片-4	544	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1069	剥片	剥片-4	545	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1070	剥片	剥片-4	546	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1071	剥片	剥片-4	547	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1072	剥片	剥片-4	548	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1073	剥片	剥片-4	549	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1074	剥片	剥片-4	550	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1075	剥片	剥片-4	551	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1076	剥片	剥片-4	552	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1077	剥片	剥片-4	553	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1078	剥片	剥片-4	554	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1079	剥片	剥片-4	555	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1080	剥片	剥片-4	556	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1081	剥片	剥片-4	557	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1082	剥片	剥片-4	558	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1083	剥片	剥片-4	559	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1084	剥片	剥片-4	560	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1085	剥片	剥片-4	561	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1086	剥片	剥片-4	562	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1087	剥片	剥片-4	563	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1088	剥片	剥片-4	564	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1089	剥片	剥片-4	565	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1090	剥片	剥片-4	566	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1091	剥片	剥片-4	567	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1092	剥片	剥片-4	568	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1093	剥片	剥片-4	569	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1094	剥片	剥片-4	570	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1095	剥片	剥片-4	571	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1096	剥片	剥片-4	572	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1097	剥片	剥片-4	573	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1098	剥片	剥片-4	574	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1099	剥片	剥片-4	575	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1100	剥片	剥片-4	576	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1101	剥片	剥片-4	577	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1102	剥片	剥片-4	578	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90	14.70	1.70	1.30	1		1	打痕	
S1103	剥片	剥片-4	579	7.63	0.91	0.31	1.10	13.90								

第 14 表 川津六反地縄跡集中 4 割片・碎片等石器観察表 (2)

石器番号	調査区	層位	割片 / 碎片	種類	二重穴式土器		臼			石				備考	
					石 A 区	石 B 区	石 C 区	石 D 区	石 E 区	石 F 区	石 G 区	石 H 区	石 I 区		石 J 区
S1262	R1F	割片・4	S127	2.53	0.11	1	1	1	13.70	23.29	1.86	1.84	1		
S1263	R1F	割片・4	S26	7.60	0.11	1	1	1	13.00	19.45	1.38	1.09	1		
S1264	R1F	割片・4	S28	7.80	0.11	1	1	1	14.80	24.37	1.83	1.83	1		
S1265	R1F	割片・4	S27	7.96	0.11	1	1	1	12.20	16.20	1.28	1.42	1		
S1267	R1F	割片・4	S27	2.29	0.11	1	1	1	14.00	21.00	2.00	1.00	1		
S1268	R1F	割片・4	S28	7.43	0.11	1	1	1	13.80	20.30	1.69	1.89	1		
S1269	R1F	割片・4	S27	7.21	0.11	1	1	1	12.50	19.20	1.55	1.55	1		
S1271	R1F	割片・4	S26	7.67	0.11	1	1	1	13.20	19.20	1.75	1.78	1		
S1272	R1F	割片・4	S28	7.20	0.11	1	1	1	13.30	22.50	1.69	1.72	1		
S1273	R1F	割片・4	S26	7.00	0.11	1	1	1	18.30	27.90	2.01	1.12	1		
S1274	R1F	割片・4	S26	7.68	0.11	1	1	1	16.90	22.60	1.59	1.67	1		
S1275	R1F	割片・4	S27	2.80	0.11	1	1	1	16.10	18.90	2.06	1.52	1		
S1276	R1F	割片・4	S27	2.10	0.11	1	1	1	13.90	22.20	1.91	1.83	1		
S1278	R1F	割片・4	S27	2.92	0.11	1	1	1	12.90	22.80	1.50	1.61	1		
S1279	R1F	割片・4	S27	2.79	0.11	1	1	1	12.90	22.80	1.47	1.47	1		
S1280	R1F	割片・4	S27	2.50	0.11	1	1	1	13.20	24.20	1.69	1.47	1		
S1281	R1F	割片・4	S26	7.60	0.11	1	1	1	13.10	17.00	1.37	1.27	1		
S1282	R1F	割片・4	S26	7.59	0.11	1	1	1	14.20	21.30	1.61	1.61	1		
S1283	R1F	割片・4	S26	7.29	0.11	1	1	1	14.8	24.50	1.66	1.69	1		
S1287	R1F	割片・4	S26	7.90	0.11	1	1	1	9.50	19.70	1.20	1.00	1		
S1288	R1F	割片・4	S26	7.99	0.11	1	1	1	21.20	29.20	2.01	1.43	1		
S1289	R1F	割片・4	S26	7.10	0.11	1	1	1	9.10	19.00	1.10	1.00	1		
S1290	R1F	割片・4	S26	7.62	0.11	1	1	1	1	17.10	23.20	1.67	1		
S1295	R1F	割片・4	S26	7.27	0.11	1	1	1	14.10	21.20	1.91	1.91	1		
S1296	R1F	割片・4	S26	7.38	0.11	1	1	1	1	19.90	27.40	1.68	1		
S1297	R1F	割片・4	S26	7.98	0.11	1	1	1	1	19.90	27.40	1.68	1		
S1298	R1F	割片・4	S26	7.89	0.11	1	1	1	1	20.10	30.20	1.91	1.91	1	
S1425	R1F	割片・4	S25	7.40	0.11	1	1	1	20.10	30.20	1.91	1.91	1		
S1501	R1F	割片・4	S25	7.40	0.11	1	1	1	21.10	32.10	2.11	2.11	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		

第 15 表 川津六反地縄跡ヲサカイ集積割片・碎片等石器観察表

石器番号	調査区	層位	割片 / 碎片	種類	二重穴式土器			臼			石				備考
					石 A 区	石 B 区	石 C 区	石 D 区	石 E 区	石 F 区	石 G 区	石 H 区	石 I 区	石 J 区	
S1292	R1F	二重穴式土器	S25	7.39	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		
						1	1	1	1	1	1	1	1		

第 16 表 川津六反地縄跡集中地区周辺割片・碎片等石器観察表 (1)

石器番号	調査区	層位	割片 / 碎片	種類	二重穴式土器			臼			石				備考
					石 A 区	石 B 区	石 C 区	石 D 区	石 E 区	石 F 区	石 G 区	石 H 区	石 I 区	石 J 区	
S1347	R1F	割片・4	S25	7.60	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1348	R1F	割片・4	S25	7.70	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1349	R1F	割片・4	S25	7.80	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1350	R1F	割片・4	S25	7.90	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1351	R1F	割片・4	S25	8.00	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1352	R1F	割片・4	S25	8.10	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1353	R1F	割片・4	S25	8.20	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1354	R1F	割片・4	S25	8.30	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1355	R1F	割片・4	S25	8.40	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1356	R1F	割片・4	S25	8.50	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1357	R1F	割片・4	S25	8.60	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1358	R1F	割片・4	S25	8.70	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1359	R1F	割片・4	S25	8.80	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1360	R1F	割片・4	S25	8.90	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1361	R1F	割片・4	S25	9.00	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1362	R1F	割片・4	S25	9.10	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1363	R1F	割片・4	S25	9.20	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1364	R1F	割片・4	S25	9.30	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1365	R1F	割片・4	S25	9.40	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1366	R1F	割片・4	S25	9.50	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1367	R1F	割片・4	S25	9.60	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1368	R1F	割片・4	S25	9.70	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1369	R1F	割片・4	S25	9.80	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1370	R1F	割片・4	S25	9.90	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1371	R1F	割片・4	S25	10.00	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1372	R1F	割片・4	S25	10.10	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1373	R1F	割片・4	S25	10.20	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1374	R1F	割片・4	S25	10.30	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1375	R1F	割片・4	S25	10.40	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1376	R1F	割片・4	S25	10.50	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1377	R1F	割片・4	S25	10.60	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1378	R1F	割片・4	S25	10.70	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1379	R1F	割片・4	S25	10.80	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		
S1380	R1F	割片・4	S25	10.90	0.11	1	1	1	1	1	1	1	1		









第 22 表 検出時・報告時滞漏名 新旧対照表

川津六反地遺跡

Table with columns for site ID, name, location, and other details. It lists various archaeological sites with their corresponding old and new names and locations.

川津昭と遺跡

Table with columns for site ID, name, location, and other details. It lists various archaeological sites with their corresponding old and new names and locations.

# 写真図版

図版 1 川津六反地遺跡



I区 調査区全景西から



II-1区 西端部全景西から



II-1区 西半部全景西から



II-1区 西半部全景北・東から



II-2区 西半部全景南から



II-2区 北端部全景東から



II-2区 北端部全景北から



III-1区 全景南から

図版 2 川津六反地遺跡



Ⅲ-2区 全景東から



Ⅲ-3区 南半部全景北から



Ⅲ-4区 南半部全景北西から



Ⅲ-4区 北半部全景北西から



Ⅳ区 南半部全景南東から



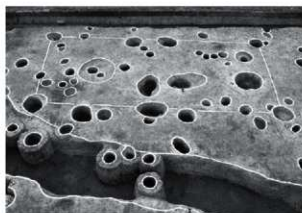
Ⅰ区 第2トレンチ全景東から



Ⅰ区 第2トレンチ土器溜まり検出状況西から



Ⅰ区 第2トレンチ土器溜まり検出状況東から



Ⅱ-1区 SB203 全景南から



Ⅱ-1区 SB204・205 全景南から



Ⅱ-1区 SB211 全景北東から



Ⅱ-1区 SB215 全景北西から



Ⅱ-1区 SK201 全景西から



Ⅱ-1区 SK202 全景南東から



Ⅱ-1区 SK206 土層断面南東から



Ⅱ-1区 SD201 全景南から

図版 4 川津六反地遺跡



Ⅱ-1区 SD202 全景南東から



Ⅱ-1区 SD203・204 全景



Ⅱ-1区 SD205 西半部全景東から



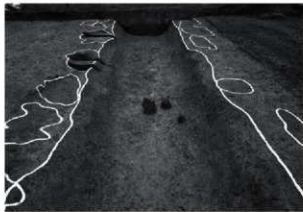
Ⅱ-1区 SD204・205 合流部北西から



Ⅱ-1区 SD204・SD205 合流部 東から



Ⅱ-1区 SD209 全景南東から



Ⅱ-1区 SD210 全景南西から



Ⅱ-1区 SD210 北半部全景南東から





Ⅱ-1区 SD210 土層断面北から



Ⅱ-1区 SD212・213 全景東から



Ⅱ-1区 SD212・213・214 全景北西から



Ⅱ-1区 SD212・213・214 全景南東から



Ⅱ-1区 SD213 全景南東から



Ⅱ-1区 SD213 土層断面南東から



Ⅱ-1区 SD215 土層断面南東から



Ⅱ-1区 SD217・221 全景北東から

図版 6 川津六反地遺跡



II-1区 SD223 全景南東から



II-1区 SX218 土層断面北東から



II-1区 SX219 土層断面北西から



II-2区 SK210 遺物出土状況北から



II-2区 SK210 遺物出土状況アップ北東から



II-2区 SD237 全景西から



II-2区 SD227 遺物出土状況北から



II-2区 SD227 遺物出土状況南東から



Ⅱ-2区 SD227 遺物出土状況アップ南東から(1)



Ⅱ-2区 SD227 遺物出土状況アップ南東から(2)



Ⅱ-2区 SD230・232・234 全景北から



Ⅱ-2区 SD231 全景南東から



Ⅱ-2区 SD233・234 全景北から



Ⅱ-2区 SR202 全景南から



Ⅲ-1区 SD301 全景北面から



Ⅲ-1区 SD301・302 土層断面南から

図版 8 川津六反地遺跡



Ⅲ-2区 SD304 土層断面東から



Ⅲ-3区 SD305 全景北から



Ⅲ-3区 SD305 土層断面北から



Ⅲ-3区 SD306 全景南から



Ⅲ-3区 SD306 土層断面南から



Ⅲ-3区 SD307・308 全景北から



Ⅲ-3区 SD309 全景南西から



Ⅲ-3区 SD309 遺物出土状況北から



Ⅲ-3区 SD309 遺物出土状況アップ北から (1)



Ⅲ-3区 SD309 遺物出土状況アップ北から (2)



Ⅲ-4区 東壁土層断面南から



Ⅲ-4区 SD313 全景南から



Ⅲ-4区 SD314・315・318 全景北から



Ⅲ-4区 SD315・316 全景北から



Ⅲ-4区 SD319・SX301 全景南から



Ⅳ区 SD401・403 全景北から

図版 10 川津六反地遺跡



IV区 SD406・407 全景北西から



IV区 集中1～4 全景



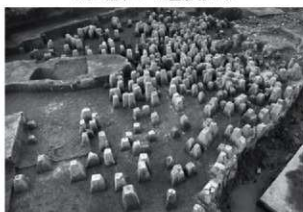
IV区 集中1～4 全景南東から



IV区 集中1・2 全景北から



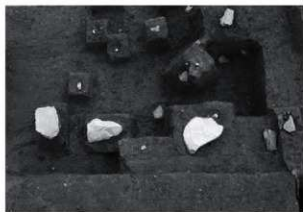
IV区 集中1 遺物出土状況北東から



IV区 集中2 遺物出土状況北西から



IV区 集中2 遺物出土状況



IV区 集中2 遺物出土状況



IV区 サヌカイト集積遺構東から



IV区 サヌカイト集積遺構北西から



IV区 石鏃出土状況



IV区 ポイントフレイク出土状況



川津昭和遺跡 南半部全景北西から



川津昭和遺跡 北半部全景北西から

図版 12 川津昭和遺跡



東壁土層断面南から



東壁土壌サンプル採集地点



SE501 検出状況南から



SE502 土層断面①南東から



SE502 土層断面②南東から



SK508 遺物出土状況南東から



SD505 全景北から



SD506 北端全景北から



図版 13 川津六反地遺跡



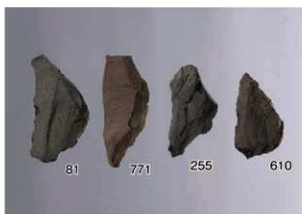
図版 14 川津六反地遺跡



圖版 15 川津六反地遺跡



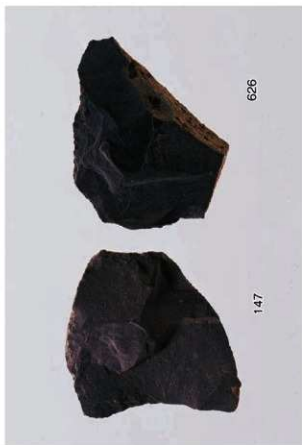
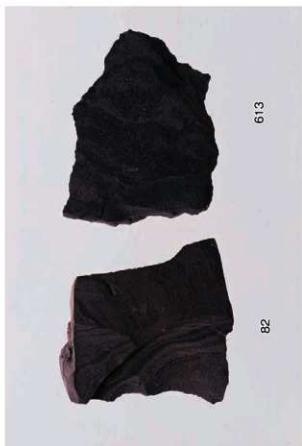
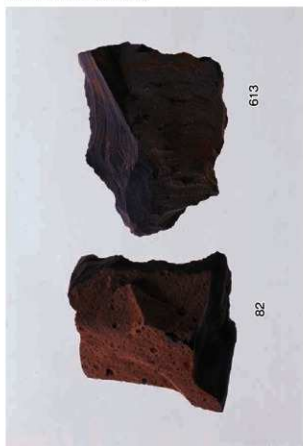
図版 16 川津六反地遺跡



圖版 17 川津六反地遺跡



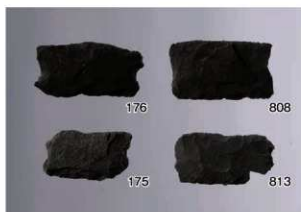
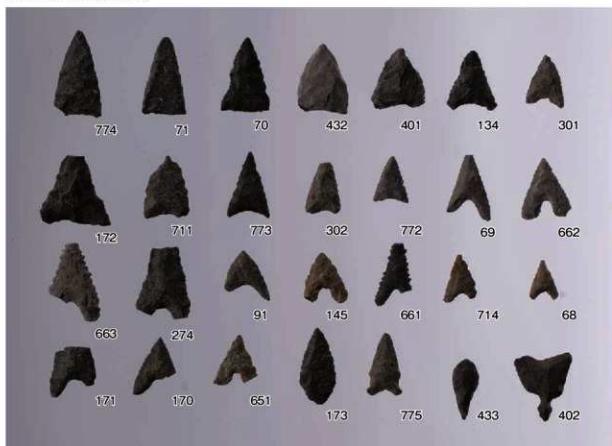
図版 18 川津六反地遺跡



圖版 19 川津六反地遺跡



図版 20 川津六反地遺跡

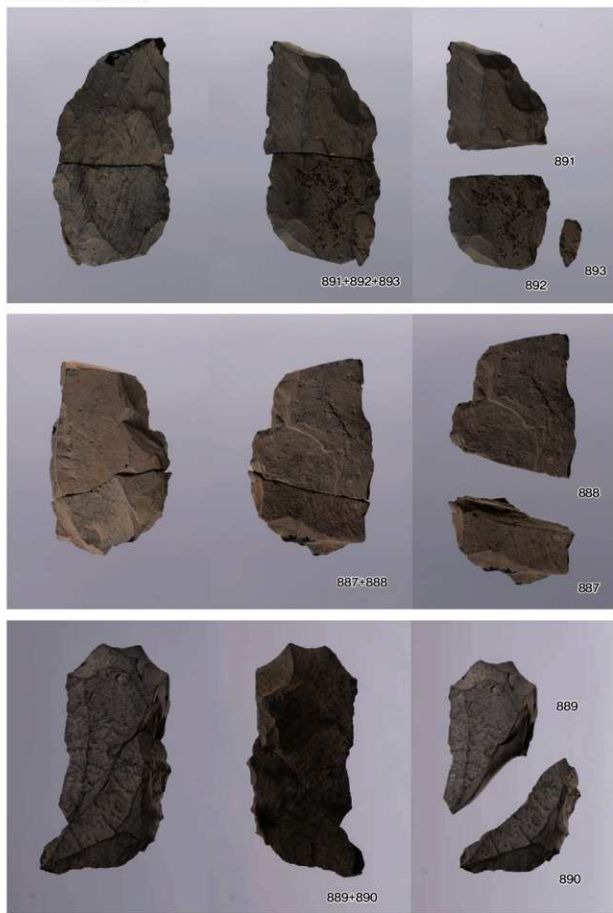




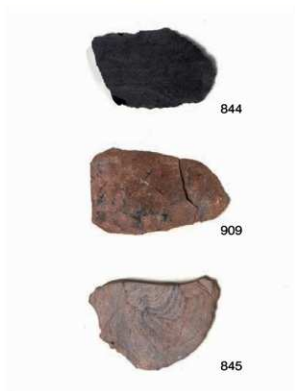
圖版 21 川津六反地遺跡



図版 22 川津六反地遺跡



圖版 23 川津六反地遺跡



図版 24 川津昭和遺跡



## 報告書抄録

ふりがな	かわつろくたんちいせき	かわつしょうわいせき					
書名	川津六反地遺跡	川津昭和遺跡					
副書名	国道438号道路改良工事・県道富熊宇多津線道路改良工事・城山川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	西村尋文						
編集機関	香川県埋蔵文化財センター						
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249						
発行機関名	香川県教育委員会						
発行年月日	西暦2014年3月19日						
総頁数	目次等	本文	観察表	図版	挿図枚数	写真枚数	付図枚数
354頁	22頁	254頁	50頁	28頁	167頁	192頁	1枚
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町					
川津六反地遺跡 川津昭和遺跡	香川県坂出市 川津町	37203	34° 17' 20"	133° 51' 21"	1997. 10. 1～ 2001. 1. 31	8,375㎡	国道438号道路改良・県道富熊宇多津線道路改良・城山川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
川津六反地遺跡 川津昭和遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 古代 中世 近世	石器製作跡・ 掘立柱建物・土坑・ 溝・自然河川	弥生土器・土師器・須恵器・ 瓦器・陶磁器・石器	県下では稀な、縄文時代の石器集中ブロックとサヌカイト集積遺構を確認した。		
要約	川津六反地遺跡・川津昭和遺跡は、大東川下流域の河岸段丘上に位置する、縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の遺跡である。縄文時代の川津六反地遺跡では、約1,600点のサヌカイトを主石材とした石器類からなる、石器集中ブロックとサヌカイト集積遺構を検出した。接合資料も確認できることから、縄文時代の石器生産技術を復元するうえで貴重な資料となった。当地で集落が確認できるのは中世以降である。川津六反地遺跡の南半部では、条里地割に向きを揃えた掘立柱建物や溝状遺構を確認した。掘立柱建物は2～3棟単位で数グループに分かれて分布している。また、溝状遺構の中には集落内の区画溝と考えられる溝跡も数条確認できる。						

国道438号道路改良工事・県道富熊宇多津線道路改良工事・  
城山川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

川津六反地遺跡

川津昭和遺跡

2014年3月19日

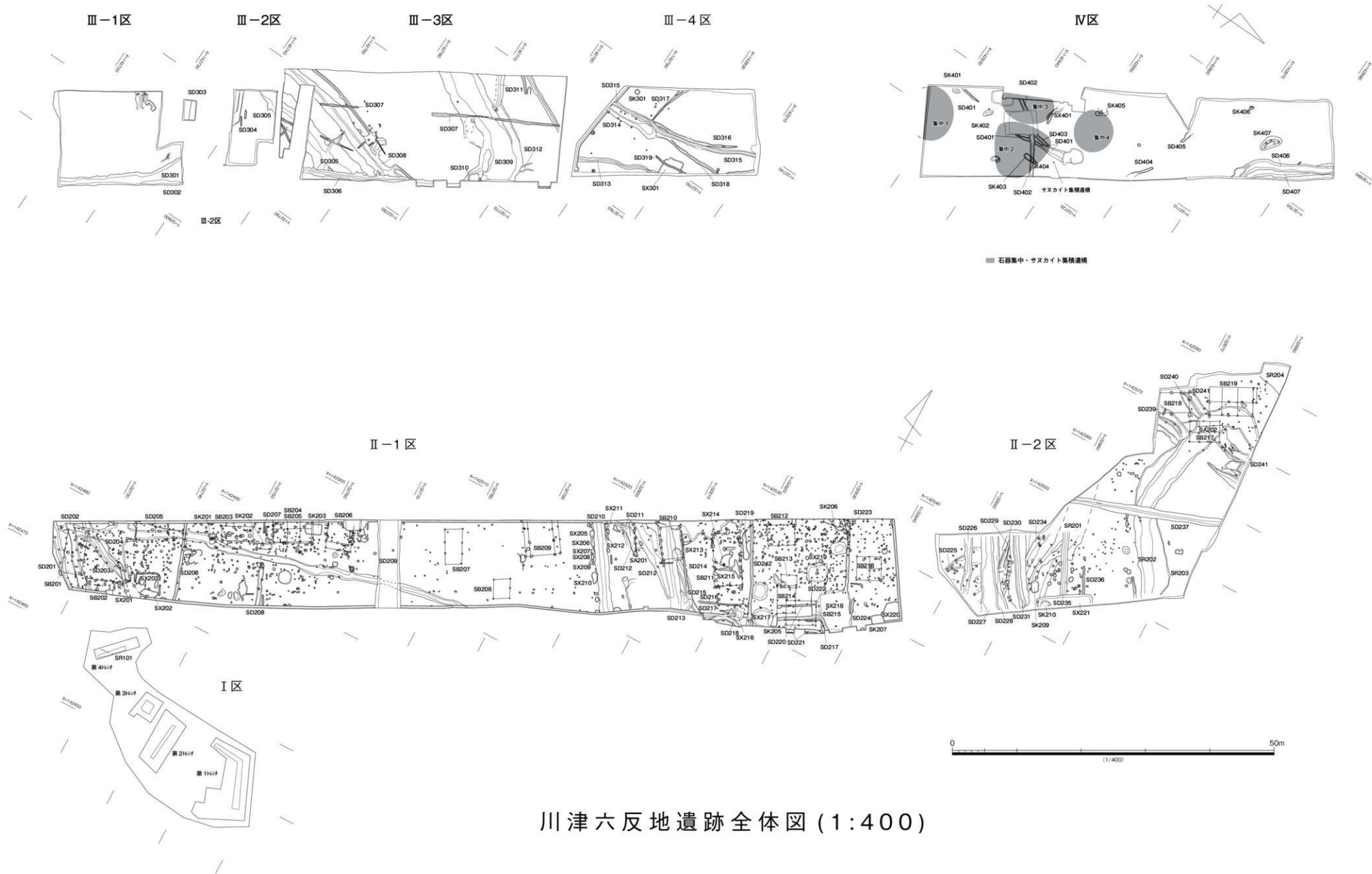
編集 香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会

印刷 株式会社成光社



川津六反地遺跡全体図 (1:400)